

心理学文献講読 1 (A)

Reading in Psychology 1

金子 彩子／中島 実穂 (KANEKO AYAKO/ NAKAJIMA MIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM109
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1-1
- 3回：1-2
- 4回：1-3
- 5回：1-4
- 6回：1-5
- 7回：1-6
- 8回：2-1
- 9回：2-2
- 10回：2-3
- 11回：2-4
- 12回：2-5
- 13回：2-6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

- ・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 1 (B)

Reading in Psychology 1

石黒 格／金子 彩子 (ISHIGURO ITARU/ KANEKO AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM110
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1－1
- 3回：1－2
- 4回：1－3
- 5回：1－4
- 6回：1－5
- 7回：1－6
- 8回：2－1
- 9回：2－2
- 10回：2－3
- 11回：2－4
- 12回：2－5
- 13回：2－6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 1 (C)

Reading in Psychology 1

温 文／石黒 格 (WEN WEN/ ISHIGURO ITARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM111
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1-1
- 3回：1-2
- 4回：1-3
- 5回：1-4
- 6回：1-5
- 7回：1-6
- 8回：2-1
- 9回：2-2
- 10回：2-3
- 11回：2-4
- 12回：2-5
- 13回：2-6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 1 (D)

Reading in Psychology 1

中島 実穂/温 文 (NAKAJIMA MIHO/ WEN WEN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM112
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1－1
- 3回：1－2
- 4回：1－3
- 5回：1－4
- 6回：1－5
- 7回：1－6
- 8回：2－1
- 9回：2－2
- 10回：2－3
- 11回：2－4
- 12回：2－5
- 13回：2－6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

- ・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 2 (A)

Reading in Psychology 2

温 文／石黒 格 (WEN WEN/ ISHIGURO ITARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM115
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1-1
- 3回：1-2
- 4回：1-3
- 5回：1-4
- 6回：1-5
- 7回：1-6
- 8回：2-1
- 9回：2-2
- 10回：2-3
- 11回：2-4
- 12回：2-5
- 13回：2-6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

- ・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 2 (B)

Reading in Psychology 2

中島 実穂/温 文 (NAKAJIMA MIHO/ WEN WEN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM116
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1－1
- 3回：1－2
- 4回：1－3
- 5回：1－4
- 6回：1－5
- 7回：1－6
- 8回：2－1
- 9回：2－2
- 10回：2－3
- 11回：2－4
- 12回：2－5
- 13回：2－6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 2 (C)

Reading in Psychology 2

金子 彩子／中島 実穂 (KANEKO AYAKO/ NAKAJIMA MIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM117
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1-1
- 3回：1-2
- 4回：1-3
- 5回：1-4
- 6回：1-5
- 7回：1-6
- 8回：2-1
- 9回：2-2
- 10回：2-3
- 11回：2-4
- 12回：2-5
- 13回：2-6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

- ・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学文献講読 2 (D)

Reading in Psychology 2

石黒 格／金子 彩子 (ISHIGURO ITARU/ KANEKO AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM118
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2910
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

英語で記述されたテキストを講読し、心理学の代表的な研究法や理論・概念・用語・研究事例等について学ぶ。

Reading texts written in English and learning study methods, as well as theories, concepts, terminology, study cases typical to psychology.

授業の内容 / Course Contents

心理学科の導入期科目である「心理学概論 1・2」と「心理学統計法 1・2」の学修・内容理解を前提としながら、研究論文（縮刷版）の実際にあたる。そして形成期・完成期科目である「心理学研究法」および「心理学演習」への円滑な接続をはかるため、研究計画について学び、英語文献を読み込む技術を高める。また、自由科目に設定される「英語文献講読演習」の履修をはじめとした、英語論文を読んでいく上での基盤とする。講読では、社会・知覚・記憶や臨床領域など幅広い分野に触れる。

Students will learn practical know-how for research papers (compact editions) with the prerequisite that students took and mastered the introductory disciplines of the Department of Psychology, "Introduction to Psychology 1 & 2" and "Psychological Statistics 1 & 2". In order to provide smooth transition to "Research Methods in

Psychology" and "Seminar on Psychology", which are disciplines in development and completion phases, students learn about research plan and improve their skills of reading English-language literature. Also, reading academic papers in English is the basis of the free elective subject "Seminar on English Reading in Psychology". The contents of psychological research during reading class will be from a wide range of field including social, perception, memory, and clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：1-1
- 3回：1-2
- 4回：1-3
- 5回：1-4
- 6回：1-5
- 7回：1-6
- 8回：2-1
- 9回：2-2
- 10回：2-3
- 11回：2-4
- 12回：2-5
- 13回：2-6
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進め方は教員ごとに異なるので、各回の担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:30% 積極的な授業参加:40% 小テスト:30%

テキスト / Textbooks

Banyard, P., & Grayson, A. Introducing Psychological Research (3rd ed.) Red Globe Press 2997
1403900388 -

ガイダンスにてコピーしたものを配布するので、特に準備する必要はない。

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・春学期初回のガイダンスにて授業で使用するテキストを配布し、各教員が授業の進め方について案内する。
- 秋学期ではガイダンスは行わないので、必ず出席すること。
- ・補足的資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。

- ・質問などに対するフィードバックや全体への連絡は Canvas LMS などを利用して行う。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理学調査実習 1 (A)

Practice in Psychological Research Methods 1

前田 楓／石黒 格／中島 実穂／宮川 えりか (MAEDA KAEDE/ ISHIGURO ITARU/ NAKAJIMA MIHO/ MIYAKAWA ERIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2910

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学における質問紙調査、面接調査の計画や実施、データのまとめ方、報告書の作成に関して、具体的な体験を通して理解し、習得する。

Learning and understanding how to prepare and conduct questionnaire surveys, surveys by interviewing, accumulate data, and write reports on psychology from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

少人数の班に分かれてインストラクターの指導下で実習をおこなう。実習内容は質問紙調査の実施と分析、心理尺度の開発、半構造化面接、KJ 法などである。

この授業は「心理学実験実習 1」と対になっており、「心理学実験実習 1(A)」(春学期)履修者は秋学期に「心理学調査実習 1(A)」を、また「心理学実験実習 1(B)」(秋学期)履修者は春学期に「心理学調査実習 1(B)」を履修することになる。1(A)と1(B)の授業内容は同じである。

また、各学期において、「心理学調査実習 1」と「心理学調査実習 2」は一連の「心理学調査実

Students do practical training in small groups with the guidance of their instructors. The practical training

contents are conducting and analyzing questionnaire surveys, designing psychological scales, semi-structured interviews, and affinity diagrams (KJ Method).

This class is paired with the "Practice in Psychological Experimental Methods 1" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods 1A" in the spring semester take "Practice in Psychological Research Methods 1A" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods 1B" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods 1B" in the spring semester. The contents of 1A and 1B classes are the same.

Also, each semester, "Practice in Psychological Research Methods 1" and "Practice in Psychological Research Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Research Methods" courses. Students are thus required to take both "Psychological Research Methods 1" and "Psychological Research Methods 2" in the spring or fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、質問紙調査概論、授業内情報検索講習会
- 2 回：尺度の評価と利用
- 3 回：心理尺度の使い方
- 4 回：データ分析の基礎
- 5 回：HAD の使用法
- 6 回：重回帰分析
- 7 回：調査レポートの作成
- 8 回：面接法入門
- 9 回：半構造化面接
- 10 回：レポート全体／個別指導
- 11 回：パス解析
- 12 回：共分散構造分析
- 13 回：調査参加実習
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として、最低限、要領書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくことが必要である。さらに、毎週のレポートをまとめるために実習後のデータ分析、参考文献の検索と学習は必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習課題ごとに提出するレポート：100%

レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学調査実習要領書」その他の資料を用いる。

参考文献 / Readings

小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2004 9784061548121

小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2018 9784489022913

小塩真司 はじめての共分散構造分析 Amos によるパス解析 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司 研究事例で学 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2020
9784489023354

「心理学調査実習要領書」に記載。

その他 / Others

授業計画に記した実習種目の一部は実習の班によって順序が入れ替わる。

心理学調査実習 1 (B)

Practice in Psychological Research Methods 1

前田 楓／中島 実穂／小口 孝司／宮川 えりか (MAEDA KAEDE/ NAKAJIMA MIHO/ OGUCHI TAKASHI/ MIYAKAWA ERIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2910

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学における質問紙調査、面接調査の計画や実施、データのまとめ方、報告書の作成に関して、具体的な体験を通して理解し、習得する。

Learning and understanding how to prepare and conduct questionnaire surveys, surveys by interviewing, accumulate data, and write reports on psychology from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

少人数の班に分かれてインストラクターの指導下で実習をおこなう。実習内容は質問紙調査の実施と分析、心理尺度の開発、半構造化面接、KJ 法などである。

この授業は「心理学実験実習 1」と対になっており、「心理学実験実習 1(A)」(春学期)履修者は秋学期に「心理学調査実習 1(A)」を、また「心理学実験実習 1(B)」(秋学期)履修者は春学期に「心理学調査実習 1(B)」を履修することになる。1(A)と1(B)の授業内容は同じである。

また、各学期において、「心理学調査実習 1」と「心理学調査実習 2」は一連の「心理学調査実

Students do practical training in small groups with the guidance of their instructors. The practical training

contents are conducting and analyzing questionnaire surveys, designing psychological scales, semi-structured interviews, and affinity diagrams (KJ Method).

This class is paired with the "Practice in Psychological Experimental Methods 1" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods 1A" in the spring semester take "Practice in Psychological Research Methods 1A" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods 1B" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods 1B" in the spring semester. The contents of 1A and 1B classes are the same.

Also, each semester, "Practice in Psychological Research Methods 1" and "Practice in Psychological Research Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Research Methods" courses. Students are thus required to take both "Psychological Research Methods 1" and "Psychological Research Methods 2" in the spring or fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、質問紙調査概論、授業内情報検索講習会
- 2 回：尺度の評価と利用
- 3 回：心理尺度の使い方
- 4 回：データ分析の基礎
- 5 回：HAD の使用法
- 6 回：重回帰分析
- 7 回：調査レポートの作成
- 8 回：面接法入門
- 9 回：半構造化面接
- 10 回：レポート全体／個別指導
- 11 回：パス解析
- 12 回：共分散構造分析
- 13 回：調査参加実習
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として、最低限、要領書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくことが必要である。さらに、毎週のレポートをまとめるために実習後のデータ分析、参考文献の検索と学習は必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習課題ごとに提出するレポート：100%

レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学調査実習要領書」その他の資料を用いる。

参考文献 / Readings

小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2004 9784061548121

小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2018 9784489022913

小塩真司 はじめての共分散構造分析 Amos によるパス解析 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司 研究事例で学 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2020
9784489023354

「心理学調査実習要領書」に記載。

その他 / Others

授業計画に記した実習種目の一部は実習の班によって順序が入れ替わる。

心理学概論 1

Introduction to Psychology 1

心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働き

氏家 悠太／大石 幸二／中島 実穂／金子 彩子 (UJIE YUTA/ OISHI KOUJI/ NAKAJIMA MIHO/
KANEKO AYAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM131

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学を学習・研究する上で必要不可欠な基礎知識を身につける。

Acquiring essential basic knowledge about studies and research in the field of psychology.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、おもに基礎心理学領域の成り立ちについて講義する。また、基礎心理学の立場から、人の心の仕組み及び働きについて講義する。

In this course, students learn the basic fields of psychology and attend lectures on the structure and working principles of the human mind, from the standpoint of basic psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：序論，心理学の歴史

2 回：脳と生理(1)

3 回：脳と生理(2)

- 4回：心理学の方法
 5回：学習と動機づけ(1)
 6回：学習と動機づけ(2)
 7回：学習と動機づけ(3)
 8回：感覚と知覚(1)
 9回：感覚と知覚(2)
 10回：知識と言語(1)
 11回：知識と言語(2)
 12回：記憶のしくみ
 13回：思考(1)：問題解決，推論
 14回：思考(2)：判断と意思決定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時の指示にしたがって，予習・復習を行うことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席兼コメントペーパーの内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

塚本伸一・堀耕治 編 現代心理学への招待 樹村房 2005年 9784883671168

子安増生 他 監修 現代心理学辞典 有斐閣 2021年 4641002665

無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 心理学 新版 有斐閣 2018年 4641053863

授業時に適宜紹介する。

心理学概論 2

Introduction to Psychology 2

心理学の成り立ち、人の心の基本的な仕組み及び働き

林 もも子／松永 美希／白井 述／宮崎 弦太 (HAYASHI MOMOKO/ MATSUNAGA MIKI/ SHIRAI NOBU/ MIYAZAKI GENTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM132

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

春学期と併せて、心理学を学習・研究する上で必要不可欠な基礎知識を身につける。

また、心理学を学ぶことについてキャリアの視点から考え、今後の心理学科における学びの方向性をみつける

Acquiring essential basic knowledge about studies and research in the field of psychology, in addition to

"Introduction to Psychology 1" course.

授業の内容 / Course Contents

応用心理学領域の成り立ちについて講義する。また、応用心理学の立場から、人の心の仕組み及び働きについて講義する。

応用心理学領域、発達、社会、人格、臨床領域について、4人の担当者が分担して講義する。

また、研究倫理についても基礎的なことを講義する。

Students learn the structure of applied psychology fields. Also, they learn the structure and working principles of human mind from the standpoint of applied psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理学の研究倫理および臨床心理学の倫理について講義する
- 2 回：臨床心理学について講義する
- 3 回：臨床心理学について講義する
- 4 回：臨床心理学について講義する
- 5 回：社会心理学について講義する
- 6 回：社会心理学について講義する
- 7 回：社会心理学について講義する
- 8 回：発達心理学について講義する
- 9 回：発達心理学について講義する
- 10 回：発達心理学について講義する
- 11 回：人格心理学について講義する
- 12 回：人格心理学について講義する
- 13 回：人格心理学について講義する
- 14 回：心理学科で学ぶことについてキャリアの視点から考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、参考文献を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

塚本伸一・堀耕治 現代心理学への招待 樹村房 2005 488367116

子安増生 他 監修 現代心理学辞典 有斐閣 2021 4641002665

無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 心理学 新版 有斐閣 2018 4641053863

その他 / Others

授業スケジュールは記載の内容と前後することがある。

心理学統計法 1 (A)

Psychological Statistics 1

前田 楓 (MAEDA KAEDE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM133
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY1110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学を学び、研究する過程での様々な課題を解決するための道具として、また社会的な調査を行うための手段として、統計的な考え方や手法や基礎的な知識を身につけ、使いこなせるようになる。

Acquiring fundamental knowledge and developing statistical approach in order to use it as a tool to solve various problems in the course of studying psychology, as well as using it as means to conduct social surveys.

授業の内容 / Course Contents

データから有用な情報を取り出し、問題や課題を解決するための統計技法の考え方や手法について解説する。本授業では主に記述統計法について講義を行う。そのため、下記のテーマについて教科書にそって講義を行う。小テストで理解度を確認しながら講義を進めていく。

Students are given explanation of statistical techniques approach and methods in order to solve the problems and do the tasks by extracting useful information from the data. The lectures during "Psychological Statistics 1" are mainly devoted to descriptive statistical methods. In order to do that, lectures are given in accordance with the textbook on the topics below. Students progress through lectures while taking quizzes and having their level of understanding checked.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計法と測定値の取り扱い (1)
- 2 回：統計法と測定値の取り扱い (2)
- 3 回：度数分布と統計図表
- 4 回：中心傾向の測度
- 5 回：得点の散布度 (1)
- 6 回：得点の散布度 (2)
- 7 回：得点の散布度 (3)
- 8 回：正規分布と相対的位置の測度
- 9 回：直線相関と直線回帰 (1)
- 10 回：直線相関と直線回帰 (2)
- 11 回：直線相関と直線回帰 (3)
- 12 回：母集団と標本 (1)
- 13 回：母集団と標本 (2)
- 14 回：社会における統計的手法の実用例，既存統計資料の評価

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書と電卓（ルート計算機能付き）を毎回必ず持参すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 授業内に行う小テスト（複数回）:59%

テキスト / Textbooks

山内光哉 心理・教育のための統計法（第3版）サイエンス社 2009 9784781912356 ○

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

心理学統計法 2 (A)

Psychological Statistics 2

大久保 暢俊 (OKUBO NOBUTOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM134
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学を学び、研究していくうえで、また社会的な調査を行うための手段として、統計分析は必要不可欠である。統計分析を使いこなすため、基本的な考え方と基礎知識を身につける。

Statistical analysis is an essential tool for conducting society surveys as a part of studies and research in psychology. In order to master statistical analysis, it is important to acquire basic knowledge and fundamental approach.

授業の内容 / Course Contents

データから有用な情報を取り出し、問題や課題を解決するための統計技法の考え方や手法について解説する。本授業では推測統計学について講義する。下記のテーマについて、基本的には教科書にそって講義を行う。小テストで理解度を確認しながら講義を進めていく。

Students are given explanation of statistical techniques approach and methods in order to solve the problems and do the tasks by extracting useful information from the data. The lectures during "Psychological Statistics 2" are mainly devoted to inferential statistics. In order to do that, lectures are given in accordance with the textbook on the topics below. Students progress through lectures while taking quizzes and having their level of understanding

checked.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：母集団と標本
- 2 回：統計的仮説検定 (1)
- 3 回：統計的仮説検定 (2)
- 4 回：2つの平均値の差の検定 (1)
- 5 回：2つの平均値の差の検定 (2)
- 6 回：分散分析入門
- 7 回：1 要因被験者間分散分析
- 8 回：多重比較
- 9 回：1 要因被験者内分散分析
- 10 回：複雑な分散分析 (1)
- 11 回：複雑な分散分析 (2)
- 12 回：カイ 2 乗検定
- 13 回：相関係数の検定
- 14 回：回帰分析と多変量解析入門

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教科書と電卓 (ルート計算機能付き) を毎回必ず持参すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 授業内に行う小テスト (複数回) :59%

テキスト / Textbooks

山内光哉 心理・教育のための統計法 (第3版) サイエンス社 2009 9784781912356 ○

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

心理学実験実習 1（心理学実験）（A）

Practice in Psychological Experimental Methods 1 (Psychological Experiments)

氏家 悠太／温 文／田中 拓海／藤巻 峻／女川 亮司 (UJIIE YUTA/ WEN WEN/ TANAKA TAKUMI/
FUJIMAKI SHUN/ ONAGAWA RYOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM135
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2910
使用言語： 日本語
授業形式： 実験
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学実験の計画立案や実施，データの集計と基礎的な統計解析，報告書の作成に関して，具体的な体験を通して理解し，習得する。

Learning how to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業は「心理学調査実習」と対になっており，春学期に「心理学実験実習」を履修する者は秋学期に「心理学調査実習」を，また秋学期に「心理学実験実習」を履修する者は春学期に「心理学調査実習」を履修することになる。各科目とも春学期と秋学期の授業内容は同じである。

また，各学期において，「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」は一連の「心理学実験実習」科目として運営される。したがって，各学期において「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」を共に履修することとなる。

「心理学実験実習」は初回に全体ガイド

This class comes in pair with "Practice in Psychological Research Methods" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in spring semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the spring semester. The contents of each class are the same between the semesters.

Also, in each semester, "Practice in Psychological Experimental Methods 1" and "Practice in Psychological Experimental Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Experimental Methods" course. Students are thus required to take both "Psychological Experimental Methods 1" and "Psychological Experimental Methods 2" in the spring or fall semester.

At the start of "Practice in Psychological Experimental Methods" course, general guidance is conducted. It is important to be present at the guidance, because it communicates all the important points in detail. Starting from week 2, students engage in experiment training with the guidance of their instructors and learn to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports. Specifically, after week 3 they do practical training in small groups.

The training topics are listed below. Also, students receive individual and group guidance on reports and group guidance on research.

1. Visual search. 2. Sound localization. 3. Sensory scales. 4. Short-term memory. 5. Mental rotation. 6. Brain function measurement by NIRS. 7. GSR.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習種目（1）
- 3回：集団レポート指導
- 4回：実習種目（2）
- 5回：個別レポート指導（1）
- 6回：実習種目（3）
- 7回：個別レポート指導（2）
- 8回：実習種目（4）
- 9回：個別レポート指導（3）
- 10回：実習種目（5）
- 11回：実習種目（6）
- 12回：実習種目（7）
- 13回：集団研究指導
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各実習種目について、実施前に「心理学実験実習要領書」の内容を読み、予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

種目毎に提出するレポートにより評価する。レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学実験実習要領書」を用いる。毎週持参すること。

参考文献 / Readings

「心理学実験実習要領書」に記載。

心理学統計法 1 (B)

Psychological Statistics 1

大久保 暢俊 (OKUBO NOBUTOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM136
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY1110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学を学び、研究する過程での様々な課題を解決するための道具として、また社会的な調査を行うための手段として、統計的な考え方や手法や基礎的な知識を身につけ、使いこなせるようになる。

Acquiring fundamental knowledge and developing statistical approach in order to use it as a tool to solve various problems in the course of studying psychology, as well as using it as means to conduct social surveys.

授業の内容 / Course Contents

データから有用な情報を取り出し、問題や課題を解決するための統計技法の考え方や手法について解説する。本授業では主に記述統計法について講義を行う。そのため、下記のテーマについて教科書にそって講義を行う。小テストで理解度を確認しながら講義を進めていく。

Students are given explanation of statistical techniques approach and methods in order to solve the problems and do the tasks by extracting useful information from the data. The lectures during "Psychological Statistics 1" are mainly devoted to descriptive statistical methods. In order to do that, lectures are given in accordance with the textbook on the topics below. Students progress through lectures while taking quizzes and having their level of understanding checked.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計法と測定値の取り扱い (1)
- 2 回：統計法と測定値の取り扱い (2)
- 3 回：度数分布と統計図表
- 4 回：中心傾向の測度
- 5 回：得点の散布度 (1)
- 6 回：得点の散布度 (2)
- 7 回：得点の散布度 (3)
- 8 回：正規分布と相対的位置の測度
- 9 回：直線相関と直線回帰 (1)
- 10 回：直線相関と直線回帰 (2)
- 11 回：直線相関と直線回帰 (3)
- 12 回：母集団と標本 (1)
- 13 回：母集団と標本 (2)
- 14 回：社会における統計的手法の実用例，既存統計資料の評価

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書と電卓（ルート計算機能付き）を毎回必ず持参すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 授業内に行う小テスト（複数回）:59%

テキスト / Textbooks

山内光哉 心理・教育のための統計法（第3版）サイエンス社 2009 9784781912356 ○

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

心理学統計法 2 (B)

Psychological Statistics 2

前田 楓 (MAEDA KAEDE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM137
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学を学び、研究していくうえで、また社会的な調査を行うための手段として、統計分析は必要不可欠である。統計分析を使いこなすため、基本的な考え方と基礎知識を身につける。

Statistical analysis is an essential tool for conducting society surveys as a part of studies and research in psychology. In order to master statistical analysis, it is important to acquire basic knowledge and fundamental approach.

授業の内容 / Course Contents

データから有用な情報を取り出し、問題や課題を解決するための統計技法の考え方や手法について解説する。本授業では推測統計学について講義する。下記のテーマについて、基本的には教科書にそって講義を行う。小テストで理解度を確認しながら講義を進めていく。

Students are given explanation of statistical techniques approach and methods in order to solve the problems and do the tasks by extracting useful information from the data. The lectures during "Psychological Statistics 2" are mainly devoted to inferential statistics. In order to do that, lectures are given in accordance with the textbook on the topics below. Students progress through lectures while taking quizzes and having their level of understanding

checked.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：母集団と標本
- 2 回：統計的仮説検定 (1)
- 3 回：統計的仮説検定 (2)
- 4 回：2つの平均値の差の検定 (1)
- 5 回：2つの平均値の差の検定 (2)
- 6 回：分散分析入門
- 7 回：1 要因被験者間分散分析
- 8 回：多重比較
- 9 回：1 要因被験者内分散分析
- 10 回：複雑な分散分析 (1)
- 11 回：複雑な分散分析 (2)
- 12 回：カイ 2 乗検定
- 13 回：相関係数の検定
- 14 回：回帰分析と多変量解析入門

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書と電卓(ルート計算機能付き)を毎回必ず持参すること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 授業内に行う小テスト(複数回) :59%

テキスト / Textbooks

山内光哉 心理・教育のための統計法(第3版) サイエンス社 2009 9784781912356 ○

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

心理学実験実習 1（心理学実験）（B）

Practice in Psychological Experimental Methods 1 (Psychological Experiments)

氏家 悠太／金子 彩子／藤巻 峻／女川 亮司 (UJIIE YUTA/ KANEKO AYAKO/ FUJIMAKI SHUN/
ONAGAWA RYOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM138

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2910

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学実験の計画立案や実施，データの集計と基礎的な統計解析，報告書の作成に関して，具体的な体験を通して理解し，習得する。

Learning how to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業は「心理学調査実習」と対になっており，春学期に「心理学実験実習」を履修する者は秋学期に「心理学調査実習」を，また秋学期に「心理学実験実習」を履修する者は春学期に「心理学調査実習」を履修することになる。各科目とも春学期と秋学期の授業内容は同じである。

また，各学期において，「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」は一連の「心理学実験実習」科目として運営される。したがって，各学期において「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」を共に履修することとなる。

「心理学実験実習」は初回に全体ガイド

This class comes in pair with "Practice in Psychological Research Methods" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in spring semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the spring semester. The contents of each class are the same between the semesters.

Also, in each semester, "Practice in Psychological Experimental Methods 1" and "Practice in Psychological Experimental Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Experimental Methods" course. Students are thus required to take both "Psychological Experimental Methods 1" and "Psychological Experimental Methods 2" in the spring or fall semester.

At the start of "Practice in Psychological Experimental Methods" course, general guidance is conducted. It is important to be present at the guidance, because it communicates all the important points in detail. Starting from week 2, students engage in experiment training with the guidance of their instructors and learn to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports. Specifically, after week 3 they do practical training in small groups.

The training topics are listed below. Also, students receive individual and group guidance on reports and group guidance on research.

1. Visual search. 2. Sound localization. 3. Sensory scales. 4. Short-term memory. 5. Mental rotation. 6. Brain function measurement by NIRS. 7. GSR.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習種目（1）
- 3回：集団レポート指導
- 4回：実習種目（2）
- 5回：個別レポート指導（1）
- 6回：実習種目（3）
- 7回：個別レポート指導（2）
- 8回：実習種目（4）
- 9回：個別レポート指導（3）
- 10回：実習種目（5）
- 11回：実習種目（6）
- 12回：実習種目（7）
- 13回：集団研究指導
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各実習種目について、実施前に「心理学実験実習要領書」の内容を読み、予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

種目毎に提出するレポートにより評価する。レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学実験実習要領書」を用いる。毎週持参すること。

参考文献 / Readings

「心理学実験実習要領書」に記載。

心理学実験実習 2（心理学実験）（A）

Practice in Psychological Experimental Methods 2 (Psychological Experiments)

氏家 悠太／温 文／田中 拓海／藤巻 峻／女川 亮司 (UJIIE YUTA/ WEN WEN/ TANAKA TAKUMI/
FUJIMAKI SHUN/ ONAGAWA RYOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： PSY2910

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2022 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学実験の計画立案や実施，データの集計と基礎的な統計解析，報告書の作成に関して，具体的な体験を通して理解し，習得する。

Learning how to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業は「心理学調査実習」と対になっており，春学期に「心理学実験実習」を履修する者は秋学期に「心理学調査実習」を，また秋学期に「心理学実験実習」を履修する者は春学期に「心理学調査実習」を履修することになる。各科目とも春学期と秋学期の授業内容は同じである。

また，各学期において，「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」は一連の「心理学実験実習」科目として運営される。したがって，各学期において「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」を共に履修することとなる。

「心理学実験実習」は初回に全体ガイド

This class comes in pair with "Practice in Psychological Research Methods" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in spring semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the spring semester. The contents of each class are the same between the semesters.

Also, in each semester, "Practice in Psychological Experimental Methods 1" and "Practice in Psychological Experimental Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Experimental Methods" course. Students are thus required to take both "Psychological Experimental Methods 1" and "Psychological Experimental Methods 2" in the spring or fall semester.

At the start of "Practice in Psychological Experimental Methods" course, general guidance is conducted. It is important to be present at the guidance, because it communicates all the important points in detail. Starting from week 2, students engage in experiment training with the guidance of their instructors and learn to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports. Specifically, after week 3 they do practical training in small groups.

The training topics are listed below. Also, students receive individual and group guidance on reports and group guidance on research.

1. Visual search. 2. Sound localization. 3. Sensory scales. 4. Short-term memory. 5. Mental rotation. 6. Brain function measurement by NIRS. 7. GSR.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習種目（1）
- 3回：集団レポート指導
- 4回：実習種目（2）
- 5回：個別レポート指導（1）
- 6回：実習種目（3）
- 7回：個別レポート指導（2）
- 8回：実習種目（4）
- 9回：個別レポート指導（3）
- 10回：実習種目（5）
- 11回：実習種目（6）
- 12回：実習種目（7）
- 13回：集団研究指導
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各実習種目について、実施前に「心理学実験実習要領書」の内容を読み、予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

種目毎に提出するレポートにより評価する。レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学実験実習要領書」を用いる。毎週持参すること。

参考文献 / Readings

「心理学実験実習要領書」に記載。

注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者対象

心理学実験実習 2（心理学実験）（B）

Practice in Psychological Experimental Methods 2 (Psychological Experiments)

氏家 悠太／金子 彩子／藤巻 峻／女川 亮司 (UJIIE YUTA/ KANEKO AYAKO/ FUJIMAKI SHUN/
ONAGAWA RYOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM142
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： PSY2910
使用言語： 日本語
授業形式： 実験
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2022 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学実験の計画立案や実施，データの集計と基礎的な統計解析，報告書の作成に関して，具体的な体験を通して理解し，習得する。

Learning how to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業は「心理学調査実習」と対になっており，春学期に「心理学実験実習」を履修する者は秋学期に「心理学調査実習」を，また秋学期に「心理学実験実習」を履修する者は春学期に「心理学調査実習」を履修することになる。各科目とも春学期と秋学期の授業内容は同じである。

また，各学期において，「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」は一連の「心理学実験実習」科目として運営される。したがって，各学期において「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」を共に履修することとなる。

「心理学実験実習」は初回に全体ガイド

This class comes in pair with "Practice in Psychological Research Methods" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in spring semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the spring semester. The contents of each class are the same between the semesters.

Also, in each semester, "Practice in Psychological Experimental Methods 1" and "Practice in Psychological Experimental Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Experimental Methods" course. Students are thus required to take both "Psychological Experimental Methods 1" and "Psychological Experimental Methods 2" in the spring or fall semester.

At the start of "Practice in Psychological Experimental Methods" course, general guidance is conducted. It is important to be present at the guidance, because it communicates all the important points in detail. Starting from week 2, students engage in experiment training with the guidance of their instructors and learn to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports. Specifically, after week 3 they do practical training in small groups.

The training topics are listed below. Also, students receive individual and group guidance on reports and group guidance on research.

1. Visual search. 2. Sound localization. 3. Sensory scales. 4. Short-term memory. 5. Mental rotation. 6. Brain function measurement by NIRS. 7. GSR.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習種目（1）
- 3回：集団レポート指導
- 4回：実習種目（2）
- 5回：個別レポート指導（1）
- 6回：実習種目（3）
- 7回：個別レポート指導（2）
- 8回：実習種目（4）
- 9回：個別レポート指導（3）
- 10回：実習種目（5）
- 11回：実習種目（6）
- 12回：実習種目（7）
- 13回：集団研究指導
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各実習種目について、実施前に「心理学実験実習要領書」の内容を読み、予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

種目毎に提出するレポートにより評価する。レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学実験実習要領書」を用いる。毎週持参すること。

参考文献 / Readings

「心理学実験実習要領書」に記載。

注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者対象

心理学調査実習 2 (A)

Practice in Psychological Research Methods 2

前田 楓／石黒 格／中島 実穂／宮川 えりか (MAEDA KAEDE/ ISHIGURO ITARU/ NAKAJIMA MIHO/ MIYAKAWA ERIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM143

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： PSY2910

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2022 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学における質問紙調査、面接調査の計画や実施、データのまとめ方、報告書の作成に関して、具体的な体験を通して理解し、習得する。

Learning and understanding how to prepare and conduct questionnaire surveys, surveys by interviewing, accumulate data, and write reports on psychology from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

少人数の班に分かれてインストラクターの指導下で実習をおこなう。実習内容は質問紙調査の実施と分析、心理尺度の開発、半構造化面接、KJ 法などである。

この授業は「心理学実験実習 2」と対になっており、「心理学実験実習 2(A)」（春学期）履修者は秋学期に「心理学調査実習 2(A)」を、また「心理学実験実習 2(B)」（秋学期）履修者は春学期に「心理学調査実習 2(B)」を履修することになる。2(A)と 2(B)の授業内容は同じである。

また、各学期において、「心理学調査実習 1」と「心理学調査実習 2」は一連の「心理学調査実

Students do practical training in small groups with the guidance of their instructors. The contents of the practical

training are conducting and analyzing questionnaire surveys, designing psychological scales, semi-structured interviews, affinity diagrams (KJ Method).

This class is paired with the "Practice in Psychological Experimental Methods 2" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2A" in the spring semester take "Practice in Psychological Research Methods 2A" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2B" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods 2B" in the spring semester. The contents of 2A and 2B classes are the same.

Also, each semester, "Practice in Psychological Research Methods 1" and "Practice in Psychological Research Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Research Methods" courses. Students are thus required to take both "Psychological Research Methods 1" and "Psychological Research Methods 2" in the spring or fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、質問紙調査概論、授業内情報検索講習会
- 2 回：尺度の評価と利用
- 3 回：心理尺度の使い方
- 4 回：データ分析の基礎
- 5 回：HAD の使用法
- 6 回：重回帰分析
- 7 回：調査レポートの作成
- 8 回：面接法入門
- 9 回：半構造化面接
- 10 回：レポート全体／個別指導
- 11 回：パス解析
- 12 回：共分散構造分析
- 13 回：調査参加実習
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として、最低限、要領書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくことが必要である。さらに、毎週のレポートをまとめるために実習後のデータ分析、参考文献の検索と学習は必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学調査実習要領書」その他の資料を用いる。

参考文献 / Readings

小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2018 9784061548121

小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2018 9784489022913

小塩真司 はじめての共分散構造分析 Amos によるパス解析 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司 研究事例で学 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2020
9784489023354

「心理学調査実習要領書」に記載。

その他 / Others

授業計画に記した実習種目の一部は実習の班によって順序が入れ替わる。

注意事項 (検索結果画面)

2022 年度以降入学者対象

心理学調査実習 2 (B)

Practice in Psychological Research Methods 2

前田 楓／中島 実穂／小口 孝司／宮川 えりか (MAEDA KAEDE/ NAKAJIMA MIHO/ OGUCHI TAKASHI/ MIYAKAWA ERIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM144
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： PSY2910
使用言語： 日本語
授業形式： 実験
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2022 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学における質問紙調査、面接調査の計画や実施、データのまとめ方、報告書の作成に関して、具体的な体験を通して理解し、習得する。

Learning and understanding how to prepare and conduct questionnaire surveys, surveys by interviewing, accumulate data, and write reports on psychology from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

少人数の班に分かれてインストラクターの指導下で実習をおこなう。実習内容は質問紙調査の実施と分析、心理尺度の開発、半構造化面接、KJ 法などである。

この授業は「心理学実験実習 2」と対になっており、「心理学実験実習 2(A)」（春学期）履修者は秋学期に「心理学調査実習 2(A)」を、また「心理学実験実習 2(B)」（秋学期）履修者は春学期に「心理学調査実習 2(B)」を履修することになる。2(A)と 2(B)の授業内容は同じである。

また、各学期において、「心理学調査実習 1」と「心理学調査実習 2」は一連の「心理学調査実

Students do practical training in small groups with the guidance of their instructors. The contents of the practical

training are conducting and analyzing questionnaire surveys, designing psychological scales, semi-structured interviews, affinity diagrams (KJ Method).

This class is paired with the "Practice in Psychological Experimental Methods 2" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2A" in the spring semester take "Practice in Psychological Research Methods 2A" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2B" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods 2B" in the spring semester. The contents of 2A and 2B classes are the same.

Also, each semester, "Practice in Psychological Research Methods 1" and "Practice in Psychological Research Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Research Methods" courses. Students are thus required to take both "Psychological Research Methods 1" and "Psychological Research Methods 2" in the spring or fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、質問紙調査概論、授業内情報検索講習会
- 2 回：尺度の評価と利用
- 3 回：心理尺度の使い方
- 4 回：データ分析の基礎
- 5 回：HAD の使用法
- 6 回：重回帰分析
- 7 回：調査レポートの作成
- 8 回：面接法入門
- 9 回：半構造化面接
- 10 回：レポート全体／個別指導
- 11 回：パス解析
- 12 回：共分散構造分析
- 13 回：調査参加実習
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として、最低限、要領書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくことが必要である。さらに、毎週のレポートをまとめるために実習後のデータ分析、参考文献の検索と学習は必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習課題ごとに提出するレポート：100%

レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学調査実習要領書」その他の資料を用いる。

参考文献 / Readings

小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2018 9784061548121

小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2018 9784489022913

小塩真司 はじめての共分散構造分析 Amos によるパス解析 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司 研究事例で学 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2020
9784489023354

「心理学調査実習要領書」に記載。

その他/ Others

授業計画に記した実習種目の一部は実習の班によって順序が入れ替わる。

注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者対象

心理学演習 A 1

Seminar on Psychology A1

白井 述 (SHIRAI NOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM221
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

実験的な手法による発達心理学研究を実施するために必要な、基礎的な知識を習得する。
To learn basic knowledge to conduct experimental research in developmental psychology.

授業の内容 / Course Contents

毎回発表担当者を決め、実験心理学・発達心理学領域の主要な知見について、発表してもらう。発表担当者の発表に対して、履修者全員で質疑応答を行い、発表内容の学習を促す。

また、ゼミでの発表・討論を踏まえて、各自が期末レポートを作成することを通して、実験的な発達心理学研究における基礎的知識を体得する。

In an every-week seminar, several presenters will be pre-selected from students. The presenters prepare a brief presentation about findings of previous empirical studies, by their research interest. The other students must participate in a discussion about the presented results to promote their understanding of the previous findings.

Additionally, all students need to submit a term paper to gain a deeper understanding of basic knowledge in experimental and developmental psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス
- 2回：各回の発表担当者の最終決定
- 3回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 4回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 5回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 6回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 7回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 8回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 9回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 10回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 11回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 12回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 13回：担当者による発表と履修者全員による議論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分な準備をして臨むこと。また、毎回の授業後に発表内容についての十分な復習の時間を取ること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表担当回の発表内容:30% 毎回の授業における議論への貢献度:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

必要があれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

必要があれば授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業内で求められる発表の水準は相応に高いので、十分に余裕を持って準備をすることが求められる。したがって、学習に関わる一連の作業を計画的に遂行できる能力が必須である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

心理学演習 A 2

Seminar on Psychology A2

白井 述 (SHIRAI NOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM222
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

実験的な手法による発達心理学研究を実施するために必要な、より高度な知識を習得する。

To learn advanced knowledge to conduct experimental research in developmental psychology.

授業の内容 / Course Contents

毎回発表担当者を決め、実験心理学・発達心理学領域の主要な知見について、発表してもらう。発表担当者の発表に対して、履修者全員で質疑応答を行い、発表内容の学習を促す。

また、ゼミでの発表・討論を踏まえて、各自が期末レポートを作成することを通して、実験的な発達心理学研究における基礎的知識を体得する。

In an every-week seminar, several presenters will be pre-selected from students. The presenters prepare a brief presentation about findings of previous empirical studies, by their research interest. The other students must participate in a discussion about the presented results to promote their understanding of the previous findings.

Additionally, all students need to submit a term paper to gain a deeper understanding of advanced knowledge in experimental and developmental psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業のガイダンス
 2回：各回の発表担当者の最終決定
 3回：担当者による発表と履修者全員による議論
 4回：担当者による発表と履修者全員による議論
 5回：担当者による発表と履修者全員による議論
 6回：担当者による発表と履修者全員による議論
 7回：担当者による発表と履修者全員による議論
 8回：担当者による発表と履修者全員による議論
 9回：担当者による発表と履修者全員による議論
 10回：担当者による発表と履修者全員による議論
 11回：担当者による発表と履修者全員による議論
 12回：担当者による発表と履修者全員による議論
 13回：担当者による発表と履修者全員による議論
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当者は十分な準備をして臨むこと。また、毎回の授業後に発表内容についての十分な復習の時間を取ること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表担当回の発表内容:30% 毎回の授業における議論への貢献度:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

必要があれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

必要があれば授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業内で求められる発表の水準は相応に高いので、十分に余裕を持って準備をすることが求められる。したがって、学習に関わる一連の作業を計画的に遂行できる能力が必須である。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

心理学演習 B 1

Seminar on Psychology B1

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM223
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学（おもに、行動理論、認知行動理論）や健康心理学などの関連領域の研究内容を知り、自分の興味やテーマを絞っていく。

Learning about study areas of associated fields like clinical psychology (mainly behavioral theory, cognitive behavioral theory) or health psychology, as well as narrowing it to personal topics of interest.

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学（おもに行動療法、認知行動療法に関するアナログ研究）、健康心理学の領域における日本語の研究論文・文献を講読し、臨床心理学や健康心理学における研究課題、基礎理論、実践方法、および研究手法を学修する。各自文献を読み、レジюмеにまとめて発表する。発表内容について、ディスカッションを通して、理解を深める。

Students learn about clinical psychology (mainly analog studies about behavioral therapy, cognitive behavioral therapy), health psychology through research papers and literature in Japanese, study research problems, fundamental theories, practical methods and research methods of clinical and health psychology. All students read related literature, and present a summary. Based on the contents of the summary, they promote their

understanding of it through discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：アカデミックライティング，文献検索・管理のレクチャー
- 2回：心理学における研究法
- 3回：臨床心理学・健康心理学における研究とは？
- 4回：先行研究の講読と発表①
- 5回：先行研究の講読と発表②
- 6回：先行研究の講読と発表③
- 7回：先行研究の講読と発表④
- 8回：先行研究の講読と発表⑤
- 9回：先行研究の講読と発表⑥
- 10回：先行研究の講読と発表⑦
- 11回：先行研究の講読と発表⑧
- 12回：認知行動療法に関する書籍の輪読①
- 13回：認知行動療法に関する書籍の輪読②
- 14回：認知行動療法に関する書籍の輪読③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

先行研究の講読や発表にあたっては，講義外の時間に，関連論文の講読，レジユメの作成などを行う必要があります。講義外の時間に，関連文献の講読，計画の立案，計画書の執筆などを行うことが「予習」として必要です。さらに実験調査の結果を適切に理解するためには，これまでに学習してきた心理学研究法や心理統計の知識を「復習」することも必要です。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度・討論への参加:30% 発表内容・プレゼンテーション:30% 課題提出:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

下山晴彦 臨床心理学研究の技法 福村出版 2000

杉浦義典 アナログ研究の方法 新曜社 2009

石丸径一郎 調査研究の方法 新曜社 2011

木原雅子・木原正博 医学的研究のデザイン メディカルサイエンスインターナショナル 2014

古谷嘉一郎・村山綾 やってみよう！ 実証研究入門 ナカニシヤ出版 2022 9784779514456

その他は講義内に指示する

心理学演習 B 2

Seminar on Psychology B2

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM224

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学（おもに行動療法，認知行動療法），健康心理学などの領域に興味・関心のある学生を対象に，各自の研究テーマを決定し，先行研究を参考に，研究計画を立案するプロセスを学んでいく。

For students who have interest in the fields of clinical psychology (mainly behavioral theory, cognitive behavioral theory) or health psychology, formulating their topics of research and learning the process of drafting a study plan based on preceding stu

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学（おもに行動療法，認知行動療法に関するアナログ研究），健康心理学の領域における英語論文を講読し，最新の理論や研究手法を学修する。後半は，卒業論文あるいはゼミ論に関わる研究テーマおよび研究計画を立案し，発表する。

Students learn about clinical psychology (mainly analog studies about behavioral therapy, cognitive behavioral therapy), health psychology through research papers and literature in English, study the latest research methods of clinical and health psychology. In the second half, they draft and present the research topic and research plan related to their graduation papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理学演習 B1 の振り返り
- 2 回：海外先行研究の講読と発表①
- 3 回：海外先行研究の講読と発表②
- 4 回：海外先行研究の講読と発表③
- 5 回：卒論研究計画の立て方①
- 6 回：卒論研究計画の立て方②
- 7 回：卒論・ゼミ論の実施計画の立案①
- 8 回：卒論・ゼミ論の実施計画の立案②
- 9 回：卒論・ゼミ論の実施計画の立案③
- 10 回：卒論・ゼミ論の実施計画の立案④
- 11 回：卒論・ゼミ論の実施計画の立案⑤
- 12 回：実験・調査で必要なツール（質問紙、実験課題等）の作成①
- 13 回：実験・調査で必要なツール（質問紙、実験課題等）の作成②
- 14 回：実験・調査で必要なツール（質問紙、実験課題等）の作成③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

夏季休暇中に、海外論文を講読し、レジユメの作成を行います。

卒業論文の執筆は任意ですが、後半は、卒業論文やゼミ内論文に向けて研究計画を立案します。授業外の時間を使って、各自自分の研究計画を考えるために必要な国内外の論文を講読したり、そこから研究方法を検討したり、研究計画書作成することが必要となります。秋学期末には研究計画書を指導教員に提出する課題があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度・討論への参加:30% 課題提出:40% 発表内容・プレゼンテーション:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

杉浦義典 アナログ研究の方法 新曜社 2009

石丸径一郎 調査研究の方法 新曜社 2011

木原雅子・木原正博 医学的研究のデザイン メディカルサイエンスインターナショナル 2014

白井利明・高橋一郎 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 2013

そのほか、適宜指示する

心理学演習 C 1

Seminar on Psychology C1

温 文 (WEN WEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM225
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 身体・認知心理学の文献を講読し、研究手法を理解する。
- 研究内容についてわかりやすく英語でプレゼンテーションできるようになる。
- レプリケーション研究を通して、実験課題の作成方法を身につけ、研究の再現性に関する理解を深める
- Understand research background and methods in the field of embodied psychology.
- Master the basic skills of academic presentation in English.
- Master the programming of experimental task and understanding the importance of replication research via practi

授業の内容 / Course Contents

- 教員が身体・認知心理学に関連する領域の論文リストを用意し、各自が興味のある論文を選んで講読・発表する。
- 教員が選択した先行研究の再現研究を行う。具体的には、先行研究を理解した上、実験課題をグループで作成する。データの収集と解析を行い、最後にレポートとしてまとめる。

Students will select papers of their own interests from the list that is prepared the lecturer and give a presentation about the papers. Group discussion will be conducted after each presentation. Students will also learn the basic programming and statistical analysis skills through the practice of a replication study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要と進め方に関するイントロ
- 2 回：レプリケーション研究
- 3 回：発表と討論
- 4 回：レプリケーション研究
- 5 回：発表と討論
- 6 回：レプリケーション研究
- 7 回：発表と討論
- 8 回：レプリケーション研究
- 9 回：発表と討論
- 10 回：レプリケーション研究
- 11 回：発表と討論
- 12 回：レプリケーション研究
- 13 回：発表と討論
- 14 回：レプリケーション研究

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員、毎回の授業で扱う論文を事前によく読んでくること。また発表担当の論文についてはプレゼンテーションの準備を行う必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:60% 発表による評価:20% 討論による評価:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

心理学演習 C 2

Seminar on Psychology C2

温 文 (WEN WEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM226
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・各自関心の持つテーマを決定し、実験計画を考案する。
- ・文献調査の方法を身につける。
- ・プレゼンテーションをスキルアップする。
- ・ Choose a research topic and design a research plan.
- ・ Conduct a literature review.
- ・ Improve presentation skills.

授業の内容 / Course Contents

- ・各自関心の持つテーマを決定し、文献調査のプレゼンテーションを行う。
- ・一部の授業ではグループワークの形式で、実験課題の設計と作成の実習を行う。

Students will choose a research topic according to their own interest, and design a research plan together with the instructor. Students will give a presentation regarding their research plan and literature review, and group discussion will be conducted after each presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業の概要と進め方に関するイントロ
- 2回：研究テーマに関する個別相談
- 3回：研究テーマに関する個別相談
- 4回：脳波の講義と実習
- 5回：統計、文献管理ツール、図のプロットなどの講義と実習
- 6回：文献発表と討論
- 7回：研究テーマに関する発表と討論
- 8回：文献発表と討論
- 9回：研究テーマに関する発表と討論
- 10回：文献発表と討論
- 11回：研究テーマに関する発表と討論
- 12回：文献発表と討論
- 13回：研究テーマに関する発表と討論
- 14回：文献発表と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は全員、毎回の授業で扱う論文を事前によく読んでおくこと。また発表担当の論文についてはプレゼンテーションの準備を行う必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への取り組み:60% 発表による評価:20% 討論による評価:20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

心理学演習D1

Seminar on Psychology D1

臨床心理学・家族心理学

山田 哲子 (YAMADA TETSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM227

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学の領域（家族、発達、学校など）に関する基礎知識および研究について理解を深め、心理学研究法の基礎・心理学の論文の書き方を学ぶこと。卒業論文の研究の準備として、研究計画の立案を進めること。

Promoting understanding of fundamental knowledge and research in clinical psychology (for example, family, development and school), learning the basics of research methods and writing academic papers in the field of psychology. As a preparation for research

授業の内容 / Course Contents

臨床心理学や心理学研究法に関連する文献を読み、レジュメにまとめて発表を行うことで基礎的な知識の獲得を行う。また、4年次の卒業研究に向けて、自身のリサーチクエストや関心領域の選定を進める。

Students accumulate basic knowledge about clinical psychology and methods of psychological research by reading literature and presenting a summary. Also, students get to choose research questions and fields of interest for their graduation research project in the 4th year of studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：文献講読・発表①
- 3回：文献講読・発表②
- 4回：文献講読・発表③
- 5回：文献講読・発表④
- 6回：文献講読・発表⑤
- 7回：文献講読・発表⑥
- 8回：文献講読・発表⑦
- 9回：文献講読・発表⑧
- 10回：卒業論文の研究テーマ・リサーチクエスションの検討①
- 11回：卒業論文の研究テーマ・リサーチクエスションの検討②
- 12回：卒業論文の研究テーマ・リサーチクエスションの検討③
- 13回：卒業論文の研究テーマ・リサーチクエスションの検討④
- 14回：卒業論文の研究テーマ・リサーチクエスションの検討⑤

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前半は毎週、課題となった文献を各自講読し、レジュメ・パワーポイントにまとめる。授業後半は自身の関心のある研究テーマの論文を読み、そこから卒業論文の研究テーマを絞る。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業前半における課題提出:35% 授業後半における発表準備と発表内容:35% 授業への参加態度および積極的な議論への参加:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

- ・講義においてはPowerPointを使用します。映像資料や現物資料なども適宜活用します。
- ・ディスカッションを多く取り入れる予定なので、積極的な受講態度が期待されます。
- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用します。

心理学演習D2

Seminar on Psychology D2

山田 哲子 (YAMADA TETSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM228
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学の領域（家族、発達、学校など）に関する基礎知識および研究について理解を深め、心理学研究法の基礎・心理学の論文の書き方を学ぶこと。卒業論文の研究の準備として、研究計画の立案を進めること。そして心理学演習1・2の集大成として、ゼミナール論文を執筆することを最終目標とする。

Promoting understanding of fundamental knowledge and research in clinical psychology (for example, family, development and school), learning the basics of research methods and writing academic papers in the field of psychology. As a preparation for research

授業の内容 / Course Contents

各自、卒業論文（研究）に向けて自身の関心領域・テーマの先行研究を講読して研究計画を立案し、ゼミ全体でディスカッションを行う（先行研究は、英語文献必須のこと）。ゼミでの検討により研究計画を精緻化し、それをもとにゼミナール論文執筆、および予備調査を行う。なお、ゼミナール論文は、指導教員への最終提出の前にゼミ内で学生同士が互いに読み合って修正点を指摘し合う機会を持つ。

All students read about preceding studies on their preferred topics and fields for graduation paper (research), draft research plan, engage in discussion with the whole seminar (reading on preceding studies must be in

English). They elaborate their research plan after discussion on the seminar, write seminar essay and conduct preliminary studies. Then, before submitting their seminar essay to the professor in charge, students have a chance to read and provide each other feedback on papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：先行研究レビューの発表、全体での検討①
- 3回：先行研究レビューの発表、全体での検討②
- 4回：先行研究レビューの発表、全体での検討③
- 5回：先行研究レビューの発表、全体での検討④
- 6回：研究計画の発表、全体での検討①
- 7回：研究計画の発表、全体での検討②
- 8回：研究計画の発表、全体での検討③
- 9回：研究計画の発表、全体での検討④
- 10回：予備調査の報告①
- 11回：予備調査の報告②
- 12回：予備調査の報告③
- 13回：卒業論文に向けて研究計画書のゼミ内での精緻化①
- 14回：卒業論文に向けて研究計画書のゼミ内での精緻化②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自身の関心のある研究テーマの論文を読み、そこから自身の卒業論文に向けて計画準備を進める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業の準備と発表内容:35% 積極的な議論への参加:30% 最終レポート割合：35%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

- ・講義においてはPowerPointを使用します。映像資料や現物資料なども適宜活用します。
- ・ディスカッションを多く取り入れる予定なので、積極的な受講態度が期待されます。
- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用します。

心理学演習 E 1

Seminar on Psychology E1

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM229

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質問紙を用いた社会調査法を実施し、収集したデータを計量的に分析し、レポートにまとめる能力を身につける。

This course aims to help students learn basic skills for academic social surveys with questionnaires. It also enhances development of students' skills in analyzing quantitative survey data and writing reports based on the analyses.

授業の内容 / Course Contents

社会調査に基づく論文を書くプロセスを体験し、そのためのスキルを身につける。すなわち、仮説を立て、質問項目を作成し、調査を実施し、データを分析し、結果をレポートにまとめる。

The purpose of this course is to practice writing an academic thesis based on a qualitative social survey, including a process of drawing hypotheses, making survey items, conducting a survey, analyzing data, and writing a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロ

2 回：テーマ発表と議論

- 3回：修正テーマと議論
- 4回：修正テーマと議論
- 5回：仮説発表と議論
- 6回：修正仮説発表と議論
- 7回：修正仮説発表と議論
- 8回：修正仮説発表と議論
- 9回：質問項目の発表と議論
- 10回：修正質問項目の発表と議論
- 11回：修正質問項目の発表と議論
- 12回：修正質問項目の発表と議論
- 13回：質問紙の構成
- 14回：質問紙の構成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実際の授業内で行われるのは発表と教員のコメント、それに基づく議論のみです。具体的に文献を読み、仮説を立て、質問項目を作るのは、各自が授業時間外に行います。各人の本気度によりますが、平均しても負担は小さくありません。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 議論への参加、発言:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

テーマに合わせて、適宜紹介します。また、自分でも探す必要があります。

その他 / Others

具体的な内容やプロセスは、履修人数によって調整します。履修者が少数であれば、各自が自らの関心に基づいた研究を実施できますが、多数である場合には、グループごとの研究にする、教員から与えられたテーマに基づいた研究を行うなどの方法がとられます。

心理学演習 E 2

Seminar on Psychology E2

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM230
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY3920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

質問紙を用いた社会調査法を実施し、収集したデータを計量的に分析し、レポートにまとめる能力を身につける。

This course aims to help students learn basic skills for academic social surveys with questionnaires. It also enhances the development of students' skills in analyzing quantitative survey data and writing reports based on the analyses.

授業の内容 / Course Contents

社会調査に基づく論文を書くプロセスを体験し、そのためのスキルを身につける。すなわち、仮説を立て、質問項目を作成し、調査を実施し、データを分析し、結果をレポートにまとめる。E2 では、主として分析と執筆を行う。多変量解析を主とした統計的分析法の指導を含む。

The purpose of this course is to practice writing an academic thesis based on a qualitative social survey, including a process of drawing hypotheses, making survey items, conducting a survey, analyzing data, and writing a report. The course also enhances development of students' skill in conducting statistical analyses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：夏期休暇中の課題の発表
- 2 回：質問項目の最終確認
- 3 回：質問紙のウェブ変換
- 4 回：質問紙のウェブ変換
- 5 回：質問紙のウェブ変換
- 6 回：データ分析の初頭的説明
- 7 回：分析結果の発表と議論
- 8 回：分析結果の発表と議論
- 9 回：分析結果の発表と議論
- 10 回：分析結果の発表と議論
- 11 回：分析結果の発表と議論
- 12 回：分析結果の発表と議論
- 13 回：分析結果の発表と議論
- 14 回：分析結果の発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

実際の授業内で行われるのは発表と教員のコメント、それに基づく議論のみです。具体的に文献を読み、仮説を立て、質問項目を作るのは、各自が授業時間外に行います。各人の本気度によりますが、平均しても負担は小さくありません。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

石黒格 改訂 Stata による社会調査データの分析 北大路書房 2014 4762828580 -

データ分析入門は、HAD、SPSS など、異なるデータ解析ソフトを使うのであれば、なくても大丈夫です。

参考文献 / Readings

テーマに合わせて、適宜紹介します。また、自分でも探す必要があります。

心理学演習 F 1

Seminar on Psychology F1

都築 誉史 (TSUZUKI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM231
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ゼミ参加者各々が、広範囲に先行研究を批判的に調べた上で、教員やクラスメイトとの議論を通して、主体的に独自性のある研究テーマを見だし、心理学的方法論と統計データ分析に基づく実証的研究を行い、現代社会において有意義な卒業論文研究を達成できるよう、3年次から指導を行う。卒業論文の執筆を予定しない学生も、研究計画の立案を目指す。

After extensive critical research of previous studies, seminar participants engage in mutual discussions among the professor and classmates, formulate their unique research theme independently, and conduct empirical research based on psychological methods.

授業の内容 / Course Contents

春学期は、「判断と意思決定」の心理、消費者行動と購買意思決定、人間の情報行動とインターネット利用など、現代社会で最近、関心が高まっている認知心理学・社会心理学の研究領域において、教員が準備した学術雑誌論文リストから、各自が興味のある文献を選び（さらに、自身で選んだ+α論文）、レジュメにまとめて発表し、コメンテーターを中心に全員で討論を行い、卒業論文のテーマを絞り込んで行く。秋学期には、各自のテーマに関するレポート発表と討論を通して、卒論研究の準備作業（独自の研究テーマの精緻化、調査票・

質問項目の具体的な設

In the spring semester, students will select literature of their own interest from the list of academic journal articles prepared by the professor in the research fields of cognitive psychology and social psychology, which have recently been of increasing interest in modern society, such as the psychology of judgment and decision making, consumer behavior and purchase decision-making, and human information behavior and Internet use. In the fall semester, students will present and discuss their thesis reports and prepare for their graduation thesis research (elaboration of their own research theme, concrete design of questionnaires and survey items, and concrete planning of experiments). Statistical analysis will also be emphasized in preparation for data analysis for the thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション(1)：演習の内容と目標を説明
- 2 回：オリエンテーション(2)：演習の進め方を説明，論文担当者（レポーター）を決定
- 3 回：レポート発表と討論(1)
- 4 回：レポート発表と討論(2)
- 5 回：レポート発表と討論(3)
- 6 回：レポート発表と討論(4)
- 7 回：レポート発表と討論(5)
- 8 回：レポート発表と討論(6)
- 9 回：レポート発表と討論(7)
- 10 回：レポート発表と討論(8)
- 11 回：レポート発表と討論(9)
- 12 回：レポート発表と討論(10)
- 13 回：レポート発表と討論(11)
- 14 回：演習全体のまとめ，卒業論文構想の発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

社会調査士科目を履修することを推奨する。その他，授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表・授業内期末レポート:50% 授業への出席と討論参加:50%

テキスト / Textbooks

学術雑誌論文を用いるので，授業時に指示する。

参考文献 / Readings

小塩真司・宅香菜子 心理学の卒業研究ワークブック 金子書房 2015 9784760826551

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tsuzukisemi/>

心理学演習 F 2

Seminar on Psychology F2

都築 誉史 (TSUZUKI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM232
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ゼミ参加者各々が、広範囲に先行研究を批判的に調べた上で、ゼミ生相互の議論を通して、主体的に独自性のある研究テーマを見出し、心理学的方法論と統計的データ分析に基づく実証的研究を行い、現代社会において有意義な卒業論文研究を達成できるよう、3年次から指導を行う。卒業論文の執筆を予定しない学生も、研究計画の立案を目指す。

After extensive critical research of previous studies, seminar participants engage in mutual discussions among the professor and classmates, formulate their unique research theme independently, and conduct empirical research based on psychological methods.

授業の内容 / Course Contents

判断と意思決定の心理、消費者行動と購買意思決定、人間の情報行動とインターネット利用など、現代社会で関心が高まっている認知心理学・社会心理学の研究領域に焦点を当てる。自らの研究テーマを精緻化し、研究仮説を設定した上で、具体的な調査内容（質問項目）や実験計画などを含むレポート発表と討論を行う。また、ウェブ調査法など研究法や統計的解析方法に関する学習を行う。最終的には、卒業論文の序論と、具体的な調査内容案・実験計画案を含む期末レポートを完成させる。

This course focuses on research areas in cognitive psychology and social psychology that are of increasing interest in modern society, such as the psychology of judgment and decision making, consumer behavior and purchase decision making, and human information behavior and Internet use. Students will elaborate on their own research themes, set up research hypotheses, and present and discuss reports that include specific research content (questionnaire items) and experimental plans. Students will also learn about research methods such as web survey methods and statistical analysis methods. In the end, students will complete a final report that includes an introduction of the graduation thesis and a plan for specific survey or experiment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション(1)
- 2 回：オリエンテーション(2)
- 3 回：レポート発表と討論(1)
- 4 回：レポート発表と討論(2)
- 5 回：レポート発表と討論(3)
- 6 回：レポート発表と討論(4)
- 7 回：レポート発表と討論(5)
- 8 回：レポート発表と討論(6)
- 9 回：レポート発表と討論(7)
- 10 回：レポート発表と討論(8)
- 11 回：レポート発表と討論(9)
- 12 回：レポート発表と討論(10)
- 13 回：卒業論文研究に関する発表(1)
- 14 回：卒業論文研究に関する発表(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

春学期のゼミの成果をふまえ、夏期休暇中（9月初旬）に、卒論構想発表会を実施する予定である。そのほか、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席・授業での発表・討論参加:60% 授業内期末レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小塩真司・宅香菜子 心理学の卒業研究ワークブック 金子書房 2015 9784760826551

社会調査士科目を履修することを推奨する。その他、授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tsuzukisemi/>

心理学演習 G 1

Seminar on Psychology G1

小口 孝司 (OGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM233
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 受講するにあたって、毎回異なる小グループでのディスカッションが求められることに留意されたい。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学において、研究がどのように展開されているかを理解する。
Understanding the research process in the fields of Industrial & Organizational Psychology, Tourism Psychology, and Social Psychology,.

授業の内容 / Course Contents

社会心理学、産業・組織心理学、そして主として観光心理学の各領域において高い評価を受けている英語の雑誌(Journal of Personality and Social Psychology, Tourism Management 等) の論文を指導教員が用意する。授業のはじめに、いくつかの論文を提示するので、受講生はそこから論文を選択し、論文を事前に読み、レジュメを作成して、授業時に説明を行う。その後、全員で討論する。発表する論文は、ゲーグルドライブアップロードしておき、初回授業時に紹介するので、各自事前

The professor in charge prepares papers from highly appraised English language journals in the fields of Social Psychology, Industrial and Organizational Psychology, and mostly Tourism Psychology (e.g., Journal of Personality and Social Psychology, Tourism Management). At the start of the class, he presents several papers,

from which participants make their choices, read them, create summaries, and present them in class. After that, they engage in discussion. The papers to be presented will be uploaded to Google Drive, so each participant should read through them in advance. It is highly advised that all participants actively engage in discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：論文の選定、基礎知識
- 3回：論文の内容の発表、討論（1）
- 4回：論文の内容の発表、討論（2）
- 5回：論文の内容の発表、討論（3）
- 6回：論文の内容の発表、討論（4）
- 7回：論文の内容の発表、討論（5）
- 8回：論文の内容の発表、討論（6）
- 9回：論文の内容の発表、討論（7）
- 10回：論文の内容の発表、討論（8）
- 11回：論文の内容の発表、討論（9）
- 12回：論文の内容の発表、討論（10）
- 13回：論文の内容の発表、討論（11）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①自分が担当する論文のレジюмеを作成
- ②受講生の人数分レジюмеのコピーを用意
- ③他の発表者が担当する論文を事前に通読

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:50% 授業時での取り組み内容:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

質問事項があれば、以下のメールアドレスに問い合わせること。

oguchi@rikkyo.ac.jp

心理学演習 G 2

Seminar on Psychology G2

小口 孝司 (OGUCHI TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM234
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY3920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学において、研究がどのように展開されているかを理解した上で、個人ごとあるいはグループごとに独自の研究を進める。

With the understanding of the research process in the fields of Industrial & Organizational Psychology, Tourism Psychology, and Social Psychology, performing original research individually or in groups.

授業の内容 / Course Contents

各人、研究したいテーマを挙げ、それに基づき、個人あるいはグループごとに研究を進めていく。前半の授業では、受講生は、夏季休暇中の宿題である論文レビューの内容をもとに、研究テーマの概要と研究計画について発表する。全員での討議を通し、研究計画をブラッシュアップする。後半は、着手できるところから個別研究を進め、その経過を発表する。

Students choose the topic and conduct research individually or in groups. In the first half of the course, the participants present an outline of their research topic and research plan based on the contents of the academic papers reviewed as the assignment during the summer holidays. By discussing them in the class, all the participants revise their research plans. In the second half, they proceed with their research from applicable

points and report their progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：個別テーマの発表（1）
- 3回：個別テーマの発表（2）
- 4回：個別テーマの発表（3）
- 5回：個別テーマの発表（4）
- 6回：個別テーマの発表（5）
- 7回：個別テーマの発表（6）
- 8回：研究経過の発表（1）
- 9回：研究経過の発表（2）
- 10回：研究経過の発表（3）
- 11回：研究経過の発表（4）
- 12回：研究経過の発表（5）
- 13回：研究経過の発表（6）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①興味のある論文についてのレポートの作成（夏季休暇中の課題）
- ②自身のテーマを策定
- ③研究計画の立案
- ④研究テーマに関する先行研究レビュー
- ⑤個別研究テーマの発表資料作成
- ⑥受講生の人数分個別研究テーマの発表資料のコピーを用意
- ⑦研究経過の発表資料作成
- ⑧受講生の人数分研究経過の発表資料のコピーを用意

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容:50% 授業時での取り組み内容:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

質問事項があれば、以下のメールアドレスに問い合わせること。

oguchi@rikkyo.ac.jp

心理学演習H 1

Seminar on Psychology H1

氏家 悠太 (UJIIE YUTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM235
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、知覚と認知の心理学における新たな知見や方法論を学び、履修者が各自で新たな研究計画を立てる。また、プレゼンテーション・ディスカッション能力の向上を目指す。

In this course, students learn new findings and methodologies in the psychology of perception and cognition and develop new research plans on their own. Students also aim to improve their presentation and discussion skills.

授業の内容 / Course Contents

知覚心理学や認知心理学の関連領域に関して、自身で関心のある研究テーマを教員との相談を通して選定する。そして、そのテーマに関係する知見（日本語・英語論文）の内容についてプレゼンテーション形式で発表を行い、履修者全員で議論・討論を行う。これらを通じて、研究知見と方法論について理解を深め、自身で新たに研究計画を立案する。また、必要に応じて、教員のサポートのもと、プログラミング言語の習得など実験の実施に必要な不可欠なスキルを習得する。

Students will select a research theme from the field of perceptual and cognitive psychology in discussions with their supervisor. Students will report their research results (academic papers in English and Japanese) related to that theme in the form of an oral presentation and discuss them with class participants. Through these activities,

students will deepen their understanding of research results and methodologies, and develop new research plans. Students will also learn programming and other skills necessary for experiments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：心理学研究法の基礎（1）
- 3回：心理学研究法の基礎（2）
- 4回：テーマ選択と文献調査の基礎
- 5回：論文発表準備
- 6回：論文発表（1）
- 7回：論文発表（2）
- 8回：論文発表（3）
- 9回：論文発表（4）
- 10回：論文発表（5）
- 11回：論文発表（6）
- 12回：論文発表（7）
- 13回：論文発表（8）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自プレゼンテーション資料を準備すること。英語論文に基づいて研究発表をすることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表資料・発表内容:30% 議論・討論への参加:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

心理学演習H2

Seminar on Psychology H2

氏家 悠太 (UJIIE YUTA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM236
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY3920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

知覚心理学、認知心理学の分野における先行研究をもとに、各自で具体的な研究計画を立てる。また、プレゼンテーション・ディスカッション能力の向上を目指す。

In this course, students develop their specific research plan based on previous research in the field of perceptual and cognitive psychology. They also aim to improve their presentation and discussion skills.

授業の内容 / Course Contents

知覚心理学、認知心理学の分野における先行研究をもとに、各自で具体的な研究計画を立てる。その内容についてプレゼンテーション形式で発表を行い、履修者全員で議論・討論を行う。これらを通じて、研究知見と方法論について理解を深め、自身で新たに研究計画を立案する。実験の計画・実施内容については、期末レポートとしてまとめ提出する。また、必要に応じて、教員のサポートのもと、プログラミング言語の習得など実験の実施に必要な不可欠なスキルを習得する。

Based on previous research in the field of perceptual and cognitive psychology, students will develop their specific research plan through discussions with their supervisor. They will give a presentation on their research plan and discuss it with class participants. They will submit their research plan as the term paper. They will also

learn programming and other skills necessary for experiments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究計画立案のための基礎知識（1）
- 3回：研究計画立案のための基礎知識（2）
- 4回：研究計画立案のための基礎知識（3）
- 5回：研究計画立案のための基礎知識（4）
- 6回：研究計画の立案と発表準備（1）
- 7回：研究計画の立案と発表準備（2）
- 8回：研究計画発表（1）
- 9回：研究計画発表（2）
- 10回：研究計画発表（3）
- 11回：研究計画発表（4）
- 12回：研究計画発表（5）
- 13回：研究計画発表（6）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自プレゼンテーション資料を準備すること。英語論文に基づいて研究発表をすることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表資料・発表内容:30% 議論・討論への参加:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

心理学演習 I 1

Seminar on Psychology I1

単一事例研究法の理解と実践

大石 幸二／竹森 亜美 (OISHI KOUJI/ TAKEMORI AMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM237

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 演習（座学）と実習（臨床体験）を組み合わせる。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は大きく分けて2つである。1つは現場での臨床実践（発達支援・教育相談）について学ぶ。もう1つは卒業研究の進め方を体験的に学ぶ。

The aim of this class can be largely divided into two goals. First, to learn about clinical practice (development support, education consultation) in the field. Second, to learn how to proceed with your senior thesis through hands-on experience.

授業の内容 / Course Contents

授業の目標を達成するために、①演習授業（主に卒業研究の進め方）、②相談活動（発達支援・教育相談の実践）、③ゼミ合宿（年2回：夏季と春季）、④現場派遣（秋学期：希望者のうち実習を積極的かつ継続的に行っている者）を行う。また、現在進めているさまざまな研究プロジェクトについても紹介する。

To achieve the goals of this class, we will do 1) seminar classes (primarily on how to proceed with senior thesis), 2) consultation activities (practice with development support and education consultation), 3) trips with the seminar group (two during the year: summer and spring), and 4) dispatch to the field (fall semester: only those

who want to). The class will also introduce the various research projects that are currently in progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究例紹介
- 3回：自閉スペクトラム研究概観
- 4回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 5回：研究構想発表①
- 6回：ベースラインの測定
- 7回：研究構想発表②
- 8回：単一事例実験計画法
- 9回：研究構想発表③
- 10回：維持・般化と妥当性
- 11回：研究概要発表①
- 12回：研究概要発表②
- 13回：研究概要発表③
- 14回：夏季ゼミ合宿説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

卒業研究を進めるために、以下の提出物を求める。その作成は授業時間外に各自で行う。

すなわち、①研究概要作成、②研究構想発表、③研究計画発表 (夏季ゼミ合宿時)、④先行研究調査、⑤序論 (問題と目的) 作成、⑥倫理申請書作成、⑦研究デザイン発表 (春季合宿時) である。春学期は、①、②、③を行う。

提出物については、合格水準に達するまで、授業担当者が添削指導を行うので、必要な回数の加筆修正を求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:30% 発表討論:30% 提出物:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

D.H.バーロー／M.ハーセン 一事例の実験デザイン 二瓶社 1997 9784931199378

大石幸二編著 通常学級における新たな学校改善術 学苑社 2024 9784761408503

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学科1年次の必修科目「心理学概論1」の《学習と動機づけ》の内容が、このゼミで学修することがらの基盤になっている。また、2年次以上で履修が可能となる「応用行動分析 (行動分析学)」の修得ができていない場合には、内容理解がスムーズである。

その他 / Others

児童相談所や家庭裁判所、教育相談室、および療育施設に進路をとる人、および臨床系大学院進学希望者には、得ることが多い演習である。

授業期間の毎週土曜日の1～3限（午前枠と午後枠）に、サービスマーケティングとして研究相談グループを運営している。演習での座学を具体的な実践につなげるかけがえのない実践活動であり、これを卒業研究の取り組みにすることができる。

心理学演習 I 2

Seminar on Psychology I2

発達障害学と臨床発達心理学的支援

大石 幸二／竹森 亜美 (OISHI KOUJI/ TAKEMORI AMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM238

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 演習（座学）と実習（臨床体験）を組み合わせる。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

授業の目標は大きく分けて2つである。1つは現場での臨床実践（発達支援・教育相談）について学ぶ。もう1つは卒業研究の進め方を体験的に学ぶ。

The aim of this class can be largely divided into two goals. First, to learn about clinical practice (development support, education consultation) in the field. Second, to learn how to proceed with your senior thesis through hands-on experience.

授業の内容 / Course Contents

授業の目標を達成するために、①演習授業（主に卒業研究の進め方）、②相談活動（発達支援・教育相談の実践）、③ゼミ合宿（年2回：夏季と春季）、④現場派遣（秋学期：希望者のうち実習を積極的かつ継続的に行っている者）を行う。また、現在進めているさまざまな研究プロジェクトについても紹介する。

To achieve the goals of this class, we will do 1) seminar classes (primarily on how to proceed with senior thesis), 2) consultation activities (practice with development support and education consultation), 3) trips with the seminar group (two during the year: summer and spring), and 4) dispatch to the field (fall semester: only those

who want to). The class will also introduce the various research projects that are currently in progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究デザイン発表①
- 3回：研究デザイン発表②
- 4回：研究デザイン発表③
- 5回：研究受入依頼文書の作成
- 6回：実施説明書発表①
- 7回：研究協力者同意書の作成
- 8回：実施説明書発表②
- 9回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 10回：実施説明書発表③
- 11回：倫理申請書類確認①
- 12回：倫理申請書類確認②
- 13回：倫理申請書類確認③
- 14回：卒業論文序論の作成／春季ゼミ合宿説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク : ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

卒業研究を進めるために、以下の提出物を求める。その作成は授業時間外に各自で行う。すなわち、①研究概要作成、②研究構想発表、③研究計画発表 (夏季ゼミ合宿時)、④先行研究調査、⑤序論 (問題と目的) 提出、⑥倫理申請書作成、⑦研究デザイン発表 (春季ゼミ合宿時) である。秋学期は、④、⑤、⑥、⑦を行う。提出物については、合格水準に達するまで、授業担当者が添削指導を行うので、必要な回数の加筆修正を求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:30% 発表討論:30% 提出物:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

白井利明・高橋一郎 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 2013 9784623065721

大石幸二編著 通常学級における新たな学校改善術 学苑社 2024 9784761408503

なし (必要に応じて授業時に配布する)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学科3年次春学期の選択科目「心理学演習I2」の演習 (座学) と実習 (臨床体験) における学びを前提として、本演習を進める。

その他 / Others

児童相談所や家庭裁判所、教育相談室、および療育施設に進路をとる人、および臨床系大学院進学志望者に

は、得ることが多い演習である。

授業期間の毎週土曜日の1～3限（午前枠と午後枠）に、サービ斯拉ーニングとして研究相談グループを運営している。演習での座学を具体的な実践につなげるかけがえのない実践活動であり、これを卒業研究の取り組みにすることができる。

心理学演習 J 1

Seminar on Psychology J1

岡島 純子 (OKAJIMA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM239
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

行動分析や認知行動療法を中心としたエビデンスベースの臨床心理学について、特に子どもや親を中心とした心理療法についての知識を習得する。さらに、自らの研究テーマについて、考えていく。

Learning about study areas of associated fields like evidence based clinical psychology (behavioral analysis, cognitive behavioral theory) in particular related to parents and their children, as well as narrowing it to personal topics of interest.

授業の内容 / Course Contents

子どもや親を中心としたエビデンスベースの臨床心理学についての国内の研究論文・文献を講読し、研究課題、基礎理論、実践方法や研究手法についての知識を身につける。各自で、文献や書籍を読み、プレゼンテーションとディスカッションにて知識を深める。

Students learn about evidence based clinical psychology (mainly psychotherapy for parents and their children) through research papers and literature in Japanese, study research problems, fundamental theories, practical methods and research methods of clinical psychology. All students read related literature, and present a summary and they promote their understanding their understanding of it through discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究計画の立て方・論文検索方法
- 3回：国内研究論文の講読と発表①
- 4回：国内研究論文の講読と発表②
- 5回：国内研究論文の講読と発表③
- 6回：国内研究論文の講読と発表④
- 7回：国内研究論文の講読と発表⑤
- 8回：研究テーマの設定と計画立案①
- 9回：研究テーマの設定と計画立案②
- 10回：研究テーマの設定と計画立案③
- 11回：研究テーマの設定と計画立案④
- 12回：研究テーマの設定と計画立案⑤
- 13回：研究テーマの設定と計画立案⑥
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

国内研究論文の講読や発表にあたって、講義外の時間に、論文の講読や発表資料の作成などを行うといった予習が必要となります。自らの発表後は、ディスカッションから得られた知識や考えを整理したり、研究計画に活かすための復習が必要となります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容とプレゼンテーション:40% 受講態度とディスカッション:40% 最終
レポート割合：20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

石川信一 子どもの不安と抑うつに対する認知行動療法: 理論と実践 金子書房 2013 4760823786

石川信一・佐藤正二 臨床児童心理学:実証に基づく子ども支援のあり方 ミネルヴァ書房 2015
4623072460

谷晋二 やさしいみんなのペアレント・トレーニング入門—ACTの育児支援ガイド 金剛出版 2014
4772413987

ラスハリス 幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない: マインドフルネスから生まれた心理療法
ACT入門 筑摩書房 2015 4480843078

杉山尚子・島宗理佐藤方哉・リチャード・W. マロット・アリア・E・マロット・ 行動分析学入門 産業図書
2015 4782890303

心理学演習 J 2

Seminar on Psychology J2

岡島 純子 (OKAJIMA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM240
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データを用いて適切な解析・解釈ができ、研究手法の技術を取得する。エビデンスベースドの臨床心理学（特に、親や子どもへの行動分析、認知行動療法）の知識を有し、自らの卒業論文のテーマを設定し、立案できる。

Students are able to data analysis and improve data analysis skills. Additionally students who have interest in the fields of clinical psychology (mainly behavioral theory, cognitive behavioral theory), formulating their topics of research and learning th

授業の内容 / Course Contents

既存のデータを用い、解析・データの解釈について演習することを経て、解析技術を高め、さらに自らの研究テーマについて考える。卒業論文の計画立案のために、エビデンスベースドの臨床心理学（特に、親や子どもに関する行動分析、認知行動療法）に関する国内外の文献講読を経て、研究課題や研究手法についての知識を学修する。

For students practice existing data analysis, improve analysis skill and pick the topic of their research theme. For plan related to their graduation papers, learning about evidence based clinical psychology (mainly behavior analysis and cognitive behavioral therapy for parents and their children) through research papers and literature in

English and Japanese and analysis method.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションと SPSS の使用方法
- 2回：解析練習とデータの解釈①
- 3回：解析練習とデータの解釈②
- 4回：解析練習とデータの解釈③
- 5回：国内外の研究論文の講読と発表①
- 6回：国内外の研究論文の講読と発表②
- 7回：国内外の研究論文の講読と発表③
- 8回：国内外の研究論文の講読と発表④
- 9回：国内外の研究論文の紹介卒論研究計画の発表①
- 10回：国内外の研究論文の紹介卒論研究計画の発表②
- 11回：国内外の研究論文の紹介卒論研究計画の発表③
- 12回：国内外の研究論文の紹介卒論研究計画の発表④
- 13回：国内外の研究論文の紹介卒論研究計画の発表⑤
- 14回：まとめとゼミ内卒論発表会（4年生発表）の聴講

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、夏季休暇中に、海外論文を講読し、レジユメの作成を行います。

予習として、各自自分の研究計画を考えるために必要な国内外の論文を講読したり、そこから研究方法を検討したり、研究計画書作成することが必要となります。また、発表やディスカッションを経て、復習として研究計画を再考していきます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容とプレゼンテーション:30% 受講態度とディスカッション:40% 研究計画内容:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石川信一 子どもの不安と抑うつに対する認知行動療法: 理論と実践 金子書房 2013 4760823786

石川信一・佐藤正二 臨床児童心理学:実証に基づく子ども支援のあり方 ミネルヴァ書房 2015
4623072460

谷晋二 やさしいみんなのペアレント・トレーニング入門—ACTの育児支援ガイド 金剛出版 2014
4772413987

ラスハリス 幸福になりたいなら幸福になろうとしてはいけない: マインドフルネスから生まれた心理療法
ACT 入門 筑摩書房 2015 4480843078

杉山尚子・島宗理佐藤方哉・リチャード・W. マロット・アリア・E・マロット・ 行動分析学入門 産業図書

2015 4782890303

参考文献に関連する文献（著者・テーマ）を自身で調べて書籍を講読する。

心理学演習 K 1

Seminar on Psychology K1

アタッチメントと精神分析、臨床心理学

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM241

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 臨床心理学、特にアタッチメント理論と精神分析理論を用いて、人間理解の力を身につけること。
- 臨床心理学の研究法について学ぶこと

- To acquire the ability of understanding of people through studying clinical psychology, especially the theories of attachment and psychoanalysis.
- To learn the basic methods of research of clinical psychology.

授業の内容 / Course Contents

- アタッチメント理論および精神分析理論の基礎的な文献を全講方式で読む。
- 臨床心理学についての文献を全講方式で読む。
- 臨床心理学の研究法について論文を読んで学ぶ。

- In every class, every student is required to read and discuss the basic literatures on attachment theory and psychoanalytic theory.
- Every student is expected to read and discuss the papers of clinical psychology.

3. Every student is required to learn the methods of the research of clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：アタッチメント理論の基礎文献を講読する 1
- 3回：アタッチメント理論の基礎文献を講読する 2
- 4回：アタッチメント理論の基礎文献を講読する 3
- 5回：アタッチメント理論の基礎文献を講読する 4
- 6回：アタッチメント理論の基礎文献を講読する 5
- 7回：アタッチメント理論の基礎文献を講読する 6
- 8回：精神分析的な精神療法の基礎文献を講読する 1
- 9回：精神分析的な精神療法の基礎文献を講読する 2
- 10回：精神分析的な精神療法の基礎文献を講読する 3、卒論の準備
- 11回：精神分析的な精神療法の基礎文献を講読する 4
- 12回：臨床心理学の基礎文献を講読する 1
- 13回：臨床心理学の基礎文献を講読する 2
- 14回：臨床心理学の基礎文献を講読する 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめ資料を全員が各自で読み、議論したいポイントや疑問点を二つ以上書いたレジュメ（A4一枚）をゼミの前日までに林宛にメール添付で送付する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前準備:30% 議論への積極的な参加:35% 最終レポート割合：:35%

テキスト / Textbooks

林もも子 思春期とアタッチメント みすず書房 9784622075219 -

メルツオフ クリティカルシンキング論文編 北大路書房 4762824593 -

参考文献 / Readings

心理学演習 K 2

Seminar on Psychology K2

アタッチメントと精神分析、臨床心理学

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM242

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 臨床心理学、特にアタッチメント理論と精神分析理論を用いて、人間理解の力を身につけること。
- 臨床心理学の研究法について学ぶこと

- To acquire the ability of understanding of people through studying clinical psychology, especially the theories of attachment and psychoanalysis.
- To learn the basic methods of research of clinical psychology.

授業の内容 / Course Contents

- アタッチメント理論および精神分析理論の基礎的な文献を全講方式で読む。
- 臨床心理学についての文献を全講方式で読む。
- 臨床心理学の研究法について論文を読んで学ぶ。

- In every class, every student is required to read and discuss the basic literatures on attachment theory and psychoanalytic theory.
- Every student is expected to read and discuss the papers of clinical psychology.

3. Every student is required to learn the methods of the research of clinical psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：臨床心理学の研究法に関する文献を講読する 1
- 2 回：臨床心理学の研究法に関する文献を講読する 2
- 3 回：臨床心理学の論文を講読する 1
- 4 回：臨床心理学の論文を講読する 2
- 5 回：臨床心理学の研究指導 1
- 6 回：臨床心理学の研究指導 2
- 7 回：臨床心理学の研究計画 3
- 8 回：臨床心理学の研究指導 4
- 9 回：臨床心理学の研究指導 5
- 10 回：臨床心理学の研究指導 6
- 11 回：臨床心理学の研究指導 7
- 12 回：臨床心理学の研究指導 8
- 13 回：臨床心理学の研究指導 9
- 14 回：臨床心理学の研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読では、あらかじめ資料を全員が各自で読み、議論したいポイントや疑問点を二つ以上書いたレジュメ（A4一枚）をゼミの前日までに林宛にメール添付で送付する。

研究指導では、研究計画を発表する準備をし、ゼミの前日までに林にメール添付で送付する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前準備:30% 議論への積極的な参加:35% 最終レポート割合：:35%

テキスト / Textbooks

林もも子 思春期とアタッチメント みすず書房 9784622075219 -

メルツオフ クリティカルシンキング論文編 北大路書房 4762824593 -

参考文献 / Readings

発達心理学

Developmental Psychology

河原 美彩子 (KAWAHARA MISAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM305
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

発達心理学や関連諸分野の基本的な知見や理論を体系的に理解する。
生涯発達心理学の視点から、乳児期・児童期・青年期・成人期・老年期の発達プロセスを理解する。
発達心理学の研究方法を理解する。

To learn basic findings and theories in developmental psychology and relevant research fields. The goal of this course is for students to acquire foundational knowledge of the developmental processes during infancy, childhood, adolescence, adulthood, and

授業の内容 / Course Contents

ヒトの心の諸機能（知覚、認知、感情、社会性など）が、乳児期から老年期の一生涯に渡って、身体の成長・変化とともにどのように変遷していくのか、その定形・非定形発達のプロセスについて発達心理学的な知見を講義形式で紹介していく。

This lecture introduces findings in developmental psychology regarding typical/atypical developmental changes in various aspects of the human mind (e.g., perception, cognition, emotion, social ability) throughout the whole life (from infancy to late adulthood).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：発達心理学の基礎
- 2回：発達における遺伝と環境
- 3回：感覚・運動の発達
- 4回：愛着の発達
- 5回：ピアジェの認知発達理論
- 6回：ポスト・ピアジェの発達心理学
- 7回：言語の発達
- 8回：自己と感情の発達
- 9回：社会性の発達
- 10回：遊びと対人関係の発達
- 11回：非定型な発達
- 12回：学童期～青年期の発達
- 13回：成人期～老年期の発達
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の配布資料を用いて各自授業の内容の復習を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 毎回の授業時に回収するコメントカードの提出頻度・内容:20%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

特に無し。必要があれば授業内で適宜紹介する。

コミュニティ心理学

Community Psychology

人間とコミュニティの調和を目指して

浅井 健史 (ASAI TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2420

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ コミュニティ心理学の基本概念と方法を理解する。
- ・ さまざまな属性を持つ人々が共生し、安心して生きられるコミュニティのあり方を構想できる。
- ・ コミュニティアプローチによる支援方法を理解できる。
- ・ Learn to understand the basic concepts and methods of community psychology.
- ・ Learn to consider how we can create communities that regard the diversity and healthy living of each member from psychological perspective.
- ・ Learn to understand important helpin

授業の内容 / Course Contents

私たちは社会的存在であるゆえ、人間の心を理解し、心の健康を促進していくためには、人間を取り巻く家庭・集団・社会などの「コミュニティ」を視野に入れる必要がある。コミュニティ心理学は、人間の心理をコミュニティとの相互作用として理解するとともに、人間・コミュニティ双方の幸福が調和した状態を目指して研究と実践を行う。本科目ではそうした立場から、コミュニティで生起する問題を理解し、解決や予防に向け

た方途を履修者とともに考える。

We are inevitably embedded in communities such as family, group, and society. Therefore it is essential to have a community perspective to understand and help people. Research and practice of community psychology emphasize the person-community interrelationships and fit. From that standpoint, we will consider about various problems occurred in our communities and discuss the ways to effective solution or prevention.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：人はなぜコミュニティを求めるとしての人間
- 2 回：居場所の心理(1)：大人の居場所
- 3 回：居場所の心理(2)：子どもの居場所
- 4 回：オンライン・コミュニティの意義と課題
- 5 回：偏見・差別の理解と解消に向けて
- 6 回：「いじめ」の心理学的理解と対策
- 7 回：迷惑行動の心理
- 8 回：コミュニティ支援の発想と方法(1)：人間とコミュニティの調和、ニーズアセスメント
- 9 回：コミュニティ支援の発想と方法(2)：予防的アプローチ、多職種のコラボレーション
- 10 回：コミュニティ支援の発想と方法(3)：コンサルテーション
- 11 回：コミュニティ支援の発想と方法(4)：グループアプローチ
- 12 回：ピアサポートによる心理的支援(1)：アドラー心理学の「勇気づけ」の視点から
- 13 回：ピアサポートによる心理的支援(2)：つながりの感覚をもたらす関わり
- 14 回：ピアサポートによる心理的支援(3)：社会的コンテキストの影響

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業で提示する文献リスト、および各回で紹介する関連文献を用いて、各自が予習と発展的学習に努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席兼コメントペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS に提示したプリントを用いて授業を進めるので、テキストは指定しない。

参考文献 / Readings

- 箕口雅博（編） コミュニティ・アプローチの実践 遠見書房 2016 9784866160092
 植村勝彦（編） よくわかるコミュニティ心理学（第3版） ミネルヴァ書房 2017 9784623080915
 植村勝彦（編） コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版 2007 9784779501784

各回の授業でも関連文献を紹介する。

その他 / Others

日本コミュニティ心理学会 HP <http://jscp1998.jp/>

心理学研究法 2

Research Methods in Psychology 2

前田 楓 (MAEDA KAEDE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM310
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学領域の研究において用いられている統計解析手法、さらに統計モデリングや多変量データ解析の基礎を学び、自らデータを分析するための技術の習得を目標とする。

The objective of this course is to learn the basics of statistical analysis methods used in psychological research, as well as the basics of statistical modeling and multivariate data analysis, and to acquire techniques for analyzing data on one's own.

授業の内容 / Course Contents

統計解析手法の基礎知識と、多変量データ解析法についての基本的な考え方や主要なモデルについて説明する。また、具体的な研究例を参照しながら解析のための手続きや解析結果の読み取り方についても解説する。研究の目的やデータの性質に応じて、適切な分析手法を選択する上で必要となる知識や技術の習得を目指す。なお、研究における倫理についても扱う。

This course covers the basic statistical modeling and analysis methods used in psychological research by reviewing relevant procedures and examples from existing research; we will mainly focus on major multivariate models and analytical methods. Students will learn to analyze data independently by gaining sufficient knowledge

and skills necessary to find adequate analytical methods according to the purpose of their research and nature of their data.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：記述統計の復習
- 3回：統計的仮説検定
- 4回：重回帰分析①（入門）
- 5回：重回帰分析②（応用）
- 6回：多変量解析概論①
- 7回：多変量解析概論②
- 8回：主成分分析
- 9回：尺度作成の実際
- 10回：因子分析①（入門）
- 11回：因子分析②（応用）
- 12回：共分散構造分析①（入門）
- 13回：共分散構造分析②（応用）
- 14回：ソフトウェアによる分析技法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 課題:25% リアクションペーパー:15%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

川端一光・荘島宏二郎 心理学のための統計学入門 誠信書房 2014 9784414301878

心理学のための統計学シリーズ（誠信書房・2014～2017年）

その他、授業時に適時紹介します。

心理学研究法 3

Research Methods in Psychology 3

金 智慧 (KIM JIHYE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM311
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

①質的研究の意義と目的、倫理を理解する、②さまざまな質的研究法の特徴を知る、③質的心理学の理論について説明できる、④質的データを収集できる、⑤質的研究の分析のプロセスを学ぶ、⑥質的研究の分析を行う自分自身について内省を深めること、⑦自分の研究をまとめ、レポートを作成できる、⑧グループで協働し、実習を行うことができる、⑨研究をまとめて発表できる、⑩日常生活のなかや現場実践での経験を研究に結び付ける意欲とスキルを養う。

To understand the significance, purpose, and ethics of qualitative research; to know the characteristics of various qualitative research methods; to be able to explain the theory of qualitative psychology; to be able to collect qualitative data; to learn

授業の内容 / Course Contents

この授業は研究法（つまり、方法）を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。具体的な質的研究法としては、観察法とインタビュー法を取り上げる。実際に質的データに触れ、あるいは質的データを生み出し、得られたデータの分析を行う。分析の技法はステ

ップを分けて細かく解説し、データをまとめあげて文章化する作業を行う。また、テキストや質的研究法を用いた論文を読み、さま

This class is a class to learn research methods (i.e., methods) and to become aware of one's own style of practicing methods. Through homework assignments, practice of research methods, and experience with the analysis process, we hope to promote not only the acquisition of techniques, but also self-awareness. Observation and interview methods will be covered as specific qualitative research methods. The participants will be actually exposed to qualitative data or generate qualitative data, and analyze the obtained data. The analysis techniques will be explained in detail in separate steps, and the data will be compiled and converted into text. Students will also read texts and articles using qualitative research methods to gain an overview of various qualitative research methods. PowerPoint presentations and handouts will be used in lectures. In this class, students will discover, explore, and investigate issues on their own, and deepen their understanding of the issues. discussion and collaborative work are required in the group practice to obtain theories on a single topic.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：質的研究とは何か 1：量的研究とは何が異なるか
- 3回：質的研究とは何か 2：質的研究の理論的枠組みを理解する
- 4回：質的研究とは何か 3：さまざまな質的研究法を知る
- 5回：質的研究を実践する 1：KJ法を学ぶ
- 6回：質的研究を実践する 2：研究の問いを立てる、インタビュー調査を学ぶ
- 7回：質的研究を実践する 3：インタビュー調査を実施し、データを収集する
- 8回：質的研究を実践する 4：語りデータの逐語化、分析プロセスを学ぶ
- 9回：質的研究を実践する 5：KJ法を用いて質的分析を行う (1)
- 10回：質的研究を実践する 6：KJ法を用いて質的分析を行う (2)
- 11回：分析結果のプレゼンテーション 1
- 12回：分析結果のプレゼンテーション 2
- 13回：分析結果を記述する：分析結果の文字化を学び、実践する
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前授業の学習内容を振り返ってから授業に参加すること。また、研究法に関する資料および研究論文を読み、発表と議論の準備を行う。質的研究の演習はグループで実施するため、必要に応じて授業時間外に話し合いや授業の準備を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および授業参加度:20% グループ発表:10% 課題提出:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

能智正博 臨床心理学を学ぶ6 質的研究法 東京大学出版会 2011 9784130151368

川喜田二郎 発想法—創造性開発のために 中央公論社 1967 9784121001368

無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ 質的心理学—創造的に活用するコツ 新曜社 2004
9784788509139

授業ではデータ収集、データ分析、発表において参加者個々人が適宜、PCを使用する。

臨床心理学概論

Clinical Psychology

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM315
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2420
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学とは、なんらかの悩みや生活しにくさを持った方々を対象に、アセスメントや方針を立てて、専門的な援助を実践していくこと、またはそれに関連した学問である。本講義では、臨床心理学の成り立ちと、臨床心理学の代表的な理論を理解することを目標とする。

Clinical psychology is a discipline in which worries and problems of the patients are assessed and given direction, and specialized support is put into practice. The goal of this course is to explain the structure of clinical psychology, as well as develop

授業の内容 / Course Contents

人間はどのように心の健康を維持発展させるのか（もしくは維持できなくなるのか）、そして心理的問題についてどのように理解するか、どのようにアプローチしていくのかについて、代表的な理論やその成り立ちを学ぶ。前半は、心理療法の代表的な理論と技法について紹介する。中盤は、臨床心理学における問題のアセスメントの種類や方法、それらをもとにしたケース・フォーミレーションについて学ぶ。後半は、臨床心理学におけるアプローチの実際について、事例報告なども踏まえながら紹介する。

Students learn about typical theories and structure of the ways to approach and understand psychological

problems and the ways people support the development of their mental health (or if they become unable to support it). In the first half, they are introduced to typical theories and techniques of psychotherapy. In the middle part, they learn about types and methods of assessing problems in clinical psychology, and case formulation based on those. In the second half, they are introduced to approaches in clinical psychology through case reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション, 臨床心理学とは
- 2 回：臨床心理学の成り立ち① 精神分析と力動的心理療法の成り立ち
- 3 回：臨床心理学の成り立ち② 行動理論と行動療法の成り立ち
- 4 回：臨床心理学の成り立ち③ 人間性心理学とクライアント中心療法の成り立ち
- 5 回：臨床心理学の成り立ち④ 認知理論と認知療法の成り立ち, その他の療法の成り立ち
- 6 回：臨床心理学におけるアセスメントの理論と技法① 心理アセスメント, 心理検査
- 7 回：臨床心理学におけるアセスメントの理論と技法② 精神障害の診断分類
- 8 回：小まとめ・中間テスト
- 9 回：臨床心理学におけるアセスメントの理論と技法③ ケース・フォーミレーション
- 10 回：臨床心理学における介入① 成人を対象としたアプローチ
- 11 回：臨床心理学における介入② 思春期・青年期を対象としたアプローチ
- 12 回：臨床心理学における介入③ 児童生徒の問題を対象としたアプローチ
- 13 回：臨床心理学における介入④ 集団・コミュニティを対象としたアプローチ
- 14 回：臨床心理学の課題, 全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

次回の内容について、予習や事前学習の課題を出す場合があるので、取り組んでください。また Canvas LMS にて、講義資料等はできる限りダウンロード可能としますので、復習等に役立ててください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況とリアクションペーパー:30% 中間テスト:35% 最終レポート:35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

下山晴彦・石丸径一郎 臨床心理学概論 (公認心理師スタンダード) ミネルヴァ書房 2020年
9784623086139

松見淳子 臨床行動分析のABC 日本評論社 2009年 9784535983007

下山晴彦・神村栄一 改訂版 認知行動療法 放送大学教育振興会 2020年 9784595321818

下山晴彦 よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房 2009年 9784623054350

その他、適宜講義内で指示します。

知覚心理学（知覚・認知心理学）

Perceptual Psychology (Psychology of Perception & Cognition)

氏家 悠太 (UJIIE YUTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM316
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、様々な感覚モダリティを通して、私たちが外界（環境、物体、自己、他者を含む）をどのように知覚しているのかについて、古典的研究や最新の知見に触れながら基礎知識を学ぶ。

In this course, students will learn the basic knowledge of how we perceive the external world (including the environment, objects, self, and others) through various sensory modalities, referring to classical studies as well as the latest findings.

授業の内容 / Course Contents

感覚・知覚・認知（特に多感覚知覚）に関する新旧のトピックを幅広く網羅し、感覚・知覚心理学における基本的な考え方や方法論に関する知識を深める。さらに、神経生理学に関する知見や知覚・認知の障害に関する知見についても随時紹介する。講義内容の理解を深めるために、副教材やデモンストレーションなどを適宜利用する。

Students broaden their understanding of fundamental approaches and methodologies in sensory and perceptual psychology by exploring both classical and contemporary topics in psychological phenomena related to sensory, perceptual, and cognitive systems (especially multisensory perception). Additionally, the course introduces

findings in neurophysiology and addresses perceptual and cognitive disorders. To enhance comprehension of the lecture content, supplementary materials and demonstrations will be used as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：知覚心理学の考え方
- 2回：感覚情報処理の基礎
- 3回：空間の知覚
- 4回：物体の認識
- 5回：顔の知覚
- 6回：発話の知覚
- 7回：情動の知覚
- 8回：自己と身体の知覚
- 9回：身体内部の知覚
- 10回：においの知覚
- 11回：食に関する知覚
- 12回：知覚とイメージ
- 13回：知覚の多様性
- 14回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介する参考文献を予習あるいは復習することが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 出席・コメントペーパー:20%

コメントペーパーには、各回の授業内容に対して疑問や質問を記入してもらう。

テキスト / Textbooks

指定しない。配付資料をもとに授業を進める。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

認知心理学（知覚・認知心理学）

Cognitive Psychology (Psychology of Perception & Cognition)

人間の hochi 認知過程と近接領域

金子 彩子 (KANEKO AYAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間が外界の事象を記憶し、言語を理解し、問題解決や、判断と意思決定を行う一連の「高次認知過程」について、近接領域にまたがった学際的観点から近年の研究動向を理解する。

Understanding recent research trends on high-level cognitive processing, such as humans' ability to recall scenes from nature, language comprehension, problem solving, judgement and decision making, in related fields from an interdisciplinary point of view

授業の内容 / Course Contents

認知心理学は、人間の認識のしくみとその「不思議さ」を探求する。認知心理学は現代心理学における中心的なアプローチであり、人間の認知過程と知識構造について研究が進められている。本講義では、特に高次認知過程（記憶、言語、思考など）に焦点を当てる。また、狭い枠組みにとらわれず、生理心理学、臨床心理学、情報行動心理学、社会心理学、発達心理学など近接領域にまたがった研究を積極的に紹介する。

Cognitive psychology focuses on exploring the mechanism of human awareness and its "wonder." It is a core approach in modern psychology, resulting in significant progress in research on human cognitive processes and

knowledge structures. This course mainly focuses on high-level cognitive processes (memory, language, and thought processes). However, it is not limited by a narrow framework, but rather actively introduces research in related fields like psychophysiology, clinical psychology, information behavior psychology, social psychology, and developmental psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：注意
- 3 回：記憶(1)：記憶の過程
- 4 回：記憶(2)：研究法
- 5 回：思考・推論
- 6 回：問題解決・意思決定
- 7 回：概念
- 8 回：言語（1）：言語の特徴
- 9 回：言語（2）：発話
- 10 回：社会的行動（1）：社会的認知
- 11 回：社会的行動（2）：社会的影響
- 12 回：社会的行動（3）：共感
- 13 回：認知の個人差
- 14 回：認知の障害

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時の指示に従い、予習・復習を行うことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内に指示した課題に対する提出物, 14回:40%

テキスト / Textbooks

PDF 資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 認知心理学 有斐閣 2010年 9784641053748

その他、授業中に適宜紹介する。

学習心理学（学習・言語心理学）

Psychology of Learning (Psychology of Learning & Language)

実験行動分析学入門

望月 要 (MOCHIZUKI KANAME)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM318

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代の学習心理学の代表的立場である実験行動分析学の枠組から、ヒトを含む動物の学習、すなわち行動変容に関わる法則と、それを明らかにする研究方法および重要な知見について学ぶ。

Learning about laws of behavior of non-human and human from the framework of The Experimental Analysis of Behavior as a representative viewpoint of modern psychology of learning. Students will understand the important phenomena, research methods and resea

授業の内容 / Course Contents

実験行動分析学は、厳密な実験研究に裏付けられた概念体系を持つと同時に、その知見が応用行動分析学において応用実践に直接的に活用され、実験室研究と応用実践が密接な関係を保ちつつ発展を続けている。授業では、応用行動分析学も視野に含めつつ、実験行動分析学の基本的概念について解説する。

The Experimental Analysis of Behavior (EAB) has a clear conceptual framework which is based on a large number of precise experiments. At the same time, its findings and research methods are widely applied to the social issues in the field of Applied Behavior Analysis (ABA). During class, students learn to explain basic ideas

of EAB, which includes practical applications in ABA.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：学習とは・実験行動分析学とは
- 2 回：レスポナントとオペラント
- 3 回：レスポナント行動：馴化・鋭敏化・隠蔽・阻止
- 4 回：オペラント随伴性とオペラント行動
- 5 回：強化スケジュールと行動
- 6 回：確立操作と条件性強化
- 7 回：選択行動 (1)
- 8 回：選択行動 (2)
- 9 回：回避と逃避
- 10 回：刺激性制御
- 11 回：概念行動と等価関係
- 12 回：“社会的学習”
- 13 回：言語行動 (1): 分類, 形成と維持
- 14 回：言語行動 (2): 言語行動の変容, 言行一致

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業中に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 第1回中間小レポート:30% 第2回中間小レポート:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

実森正子・中島定彦 学習の心理 (第2版) サイエンス社 2019 9784781912431

小野浩一 行動の基礎 (改訂版) 培風館 2016 9784563052478

眞邊一近 ポテンシャル学習心理学 サイエンス社 2019 9784781914411

ジェームズ・E. メイザー メイザーの学習と行動 (日本語版第3版) 二瓶社 2008 9784861080456

その他随時紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学全般について基本的な知識がある方が授業の理解は容易になると思うが、そうでなくても参考書などを使って各自で知識を補えば、履修に支障を来すことはない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート作成と LMS への提出に必要な PC (大学で共用できるものでも良い)。

その他 / Others

質問は、随時（履修登録前でも）kmochizuki@jf7.so-net.ne.jp へ。件名冒頭に[立教]と明記のこと。但し、返事に時間がかかることがありますので御了承下さい。

感情・人格心理学

Psychology of Emotion & Personality

松野 航大 (MATSUNO KODAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM319

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）※本科目は全14回のすべてがオンデマンド型の授業となります。「水曜日の1限」の各回の授業日に合わせて毎回の授業が公開されます。各回の授業の公開期限は1週間程度を予定しています。

※この科目はオンデマンドで実施するため、履修許可者は初回授業までに「Canvas LMS」にログインして具体的な授業の受講方法について確認すること。

校地： 新座

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 感情心理学およびパーソナリティ心理学の基礎理論を理解し、説明できる。
- 感情心理学およびパーソナリティ心理学の理論を日常生活におけるヒトのさまざまな行動と関連づけることができる。
- 感情やパーソナリティの問題に対するいくつかの支援方法を知り、それらを実生活で活かすことができる。

- You will be able to explain and understand the basic theory of psychology of emotion and personality.
- You will be able to relate the theory of psychology of emotion and personality to various human activities for everyday in life.
- You will learn

授業の内容 / Course Contents

「感情」や「パーソナリティ（人格）」は、現代の心理学において非常に重要なテーマです。本授業では、感情心理学およびパーソナリティ心理学の基礎理論とその応用について概観し、それらの理論的展開と発展および臨床実践に関して学習します。

具体的には、感情に関する理論および感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響、パーソナリティの概念および形成過程、人格の類型・特性等について学びます。

“Emotion” and “Personality” is one of the most important themes in the current psychology. First, we are going to learn the basic theory of psychology of emotional and personality, and application of these theories. After that, we are going to learn the development of theories and clinical trial.

Specifically, we are going to learn the theory regarding emotion, the mechanism of emotional arousal, the effect of behavior for emotion, the concept of personality, the development of personality and the type and trait of personality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション（授業の方法、成績評価の説明など）
- 2 回：感情とパーソナリティ（感情、気分、情動、パーソナリティ、気質、性格）
- 3 回：感情の基礎（1）（基本感情と表情）
- 4 回：感情の基礎（2）（感情と認知）
- 5 回：感情の理論（感情に関する理論及び感情喚起の機序）
- 6 回：感情の発達（発達早期・青年期・老年期の感情の発達）
- 7 回：感情のコントロール①（感情が行動に及ぼす影響；アンガーマネジメントを中心に）
- 8 回：感情のコントロール②（感情が行動に及ぼす影響；アンガーマネジメントを中心に）
- 9 回：パーソナリティの諸理論（人格の類型、特性等；類型論・特性論など）
- 10 回：パーソナリティの発達（人格の概念及び形成過程；遺伝と環境）
- 11 回：パーソナリティの変化（一貫性論争など）
- 12 回：パーソナリティ症などの感情調節困難とその支援（1）（パーソナリティ症、弁証法的行動療法）
- 13 回：パーソナリティ症などの感情調節困難とその支援（2）（弁証法的行動療法の心理社会的スキルトレーニング（抜粋））
- 14 回：授業総括（まとめ）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【事前学習】 各回の授業で扱うテーマについて、関連書籍等にあたって調べておいてください。

【事後学習】 各回の授業について、配布資料を復習し、必要に応じて内容要約を行ってください。また、各回の授業のテーマについて、参考書などの書籍や論文など読んで理解を深めてください。

本科目では各授業回におよそ 200 分の準備学習（予習・復習等）が望まれます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業で課す課題:60%

最終レポート割合 :40%

※なお、出席回数が全講義回数の2/3に満たない者は評価の対象になりません。

テキスト/ Textbooks

※教科書は指定しません。授業内で適宜指示します。

参考文献 / Readings

島義弘 パーソナリティと感情の心理学 サイエンス社 2017 9784781913940

戸田まり他 グラフィック 性格心理学 サイエンス社 2005 4781911021

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

オンデマンド授業になりますので、ご自身で学習計画をきちんと立てて、しっかりと各回の授業を受講してください。不正行為等の不適切な形での受講は毎年厳しくチェックしています。授業動画を観ないなど（動画をクリックするが実際には視聴していないなども含む）、不適切な形での受講で課題を提出するなどがあった場合には単位修得はできません。オンデマンド授業を最後まできちんと受講できる自己管理能力が必要不可欠となりますので、その点についてはしっかりとご検討ください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド授業になりますので、安定してインターネットにつなげる PC 等の機器の用意を必ずしてください。

その他/ Others

※心理学の概論を扱う科目ではありません。あくまでも心理学の一分野を扱う科目です。そのため、心理学関係学科以外の学生で、心理学を初めて学びたいという方（初学者）は、本科目ではなく概論を扱うような心理学関連科目の履修を強くおすすめします。その点についてはご注意ください。

※授業動画を視聴しない等の不適切な形での受講など、なんらかの不正行為があった場合は本科目の単位修得は認められません。悪質な不正行為等については大学への報告も想定しています。オンデマンド形式の授業に自信のない方は履修についてあらかじめ十分にご検

生理心理学（神経・生理心理学）

Psychophysiology (Neuro- & Physiological Psychology)

村井 祐基 (MURAI YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM320

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師カリキュラムの必修科目である「神経・生理心理学」で習得が求められる、心の生物学的基盤について学習します。

The aim of this course is to help students learn about the biological basis of the mind, which is required in "Neuro- and Physiological Psychology", a compulsory subject for the Certified Public Psychologist curriculum.

授業の内容 / Course Contents

公認心理師カリキュラムの必修科目である「神経・生理心理学」で習得が求められる、心の生物学的基盤を概説します。まず脳・神経系の構造を学習した後、知覚・言語・情動・注意・記憶など様々な心的機能の神経・生理学的機構を説明します。こうした知識をふまえて、高次脳機能障害や精神疾患など、脳の障害によって起こる様々な心の問題について解説します。

This course gives an overview about the biological basis of the mind, which is required in "Neuro- and Physiological Psychology", a compulsory subject for the Certified Public Psychologist curriculum. Students will first learn the structure of the brain and nerves, then physiological mechanisms underlying various psychological functions such as perception, language, emotion, attention and memory. Based on these knowledge, mental

problems caused by brain disorders, such as higher brain dysfunction and psychiatric disorders, will be explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：中枢神経系の構造
- 2 回：神経システムの基礎
- 3 回：神経・生理心理学の方法論
- 4 回：視覚・聴覚のしくみと障害
- 5 回：体性感覚と運動のしくみと障害
- 6 回：言語のしくみと障害
- 7 回：情動のしくみと障害
- 8 回：注意のしくみと障害
- 9 回：記憶のしくみと障害
- 10 回：高次脳機能障害
- 11 回：精神疾患のタイプと障害
- 12 回：睡眠の生理
- 13 回：脳波研究
- 14 回：自律神経の生理計測

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業後の小テスト:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梅田聡(編) 公認心理師の基礎と実践⑩——神経・生理心理学 遠見書房 2021 9784866160603

社会心理学（社会・集団・家族心理学）

Social Psychology (Social, Group & Family Psychology)

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM321
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2320
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

ヒトの心理と行動における社会的影響を、個体、集団、マクロ社会構造の3つのレベルから理解する。

Students taking this course will learn the impact of social and societal environments in human behaviors.

授業の内容 / Course Contents

ヒトの態度や行動は、社会的な環境の制約を受け、また社会的環境への適応として生じます。そのため、ヒトの思考や行動は、社会的環境から強い影響を受けています。こうした影響力を自覚するのは困難であり、それが差別、偏見をはじめとする社会問題の原因ともなっています。この授業では、ヒトが社会的環境の影響を受けやすい理由をヒトの生物としての進化の歴史から考えるアイデアを紹介した後、集団からの影響と、出身世帯の社会経済的地位というソシエタルな環境の影響について紹介します。

具体的なキーワードは、以下の通りです。社会性

Human-beings do not think and behave in a social vacuum. They are strongly influenced by their social and societal surroundings, but hardly recognize the influence. This ignorance sometimes causes a social discrimination. During this course, students will learn ideas regarding the origin of social nature of human beings. Based on the ideas, students also will learn theories and empirical evidences regarding social influences

on judgments, social and societal influences on well-being, and impacts of family socio-economical status on educational and vocational attainment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロ なぜ社会的影響が重要か
- 2回：社会性の進化的起源1 社会脳仮説
- 3回：社会性の進化的起源2 色覚の社会性
- 4回：社会性の進化的起源3 同調の利益とジレンマ
- 5回：社会性の進化的起源4 模倣と文化
- 6回：同調的社会行動 そのジレンマ
- 7回：subjective well-being と社会環境1 ミクロ要因とソーシャル要因
- 8回：subjective well-being と社会環境2 社会的比較と格差の影響
- 9回：subjective well-being と社会環境3 政策はヒトを救うか
- 10回：subjective well-being と社会環境4 上位者となることの心理的影響
- 11回：社会関係と社会環境1 関係構築の制約
- 12回：社会関係と社会環境2 同類的社会環境の影響
- 13回：職業的達成と社会環境
- 14回：学力と社会環境

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜紹介する参考文献を読んでいってください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

数が多いので、リストを配布する他、適宜、授業中に追加していきます。

その他 / Others

この授業は、公認心理師資格における「社会・集団・家族心理学」に含まれる内容のうち、以下を3単元すべてを含み、公認心理師資格取得に必要な単位として認定されます。

- ①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程
- ②人の態度及び行動
- ③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響

ただし、臨床的な意味での家族心理学的な内容は含みません。この授業で取り上げられる家庭環境の影響は、主として学業や認知的発達に対する影響と、その階層差、地域差となります。

なお、シラバスはあくまでも計画です。参加者には

教育心理学（教育・学校心理学）

Educational Psychology (Educational & School Psychology)

三好 昭子 (MIYOSHI AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM322
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育・学校心理学の基礎用語・研究方法を説明することができる。教育現場において生じる問題及びその背景を説明することができる。教育現場における心理社会的課題及び必要な支援をふまえ、教育・学校について心理学の立場から提言することができる。

Being able to explain basic terminology and research methods of educational & school psychology. Being able to expand insights on the personal educational beliefs. Being able to make suggestions on education from the standpoint of psychology for psychosoc

授業の内容 / Course Contents

教育とは何だろうか。私たちは日頃から頻繁に「教育」という言葉を使用する。しかし人によって教育観が異なるため、それぞれの「教育」が意味しているものが異なっている。教育・学校心理学の研究もまた同じで、実にさまざまな研究が行われている。この講義では、教育現場において生じる問題及びその背景と教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について論じる。そして「教育・学校」について心理学の方法を用いて研究するというとはどういうことなのかを考え、実際に研究するための基礎を解説する。

What is education? We often use the word "education" in our everyday life. However, the educational beliefs

differ from person to person, and so do their understanding of the meaning of "education". The research in educational psychology is the same, as the studies are also conducted in various ways. In this class we discuss the problems arising in educational facilities and their effects, think what it means to conduct research on "education" with methods of psychology, and provide basic explanation needed to conduct research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：教育制度の動向
- 2 回：教育・学校における諸問題 1：不登校・体罰
- 3 回：教育・学校における諸問題 2：学級崩壊・非行
- 4 回：教育・学校における諸問題 3：いじめ
- 5 回：特別支援教育
- 6 回：社会的行動の発達と教育
- 7 回：動機づけ
- 8 回：教授・学習 1
- 9 回：教授・学習 2
- 10 回：遺伝と環境
- 11 回：アイデンティティとは
- 12 回：アイデンティティ形成
- 13 回：教育分野における心理学的アセスメント
- 14 回：児童生徒・援助者・関係者への心理学的援助

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業後に毎回、配付資料やノートを復習して指定期間内に CanvasLMS で小テストを受験する必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 小テスト:10%

2 / 3 以上の出席をもって成績評価の対象とする。

テキスト / Textbooks

使用せず、資料を配付する。

参考文献 / Readings

高坂康雅・池田幸恭・三好昭子 『レクチャー 青年心理学 —学んでほしい・教えてほしい青年心理学の 15 のテーマ—』 風間書房 2017 9784759921830

大野 久・小塩真司・佐藤有耕・白井利明・平石賢二・溝上慎一・三好昭子・若松養亮 『君の悩みに答えよう —青年心理学者と考える 10 代・20 代のための生きるヒント—』 福村出版 2017 9784571230578

日本青年心理学会 企画 『心のなかはどうなっているの? 高校生の「なぜ」に答える心理学』 福村出版 2023 4571230664

市川伸一 『現代心理学入門 3 学習と教育の心理学 増補版』 岩波書店 2011 9784000039185

野島一彦・繁榎算男（監），石隈利紀（編） 『第18巻 教育・学校心理学 第2版（公認心理師の基礎と実践）』 遠見書房 2022 4866161388

大野 久・三好昭子・茂垣まどか・赤木真弓 『アイデンティティ研究のための伝記分析：生涯発達の質的心理学』 福村出版 2023 9784571230684

授業の中で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

基本的にはパワーポイントを使用した講義形式だが、グループワークなども適宜行うため、積極的な受講態度が期待される。

産業・組織心理学

Industrial & Organizational Psychology

小口 孝司 (OGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM323
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学への能動的な理解を目指す。

This course aims to provide an active understanding of industrial and organizational psychology.

授業の内容 / Course Contents

産業・組織心理学のテキストを使って、その概念、理論を学ぶ。その際少人数のグループを作り、該当箇所について事前にパワーポイントを作成し、内容を他の受講生にわかりやすく説明していく。発表では、自分自身の日常生活での出来事や経験、社会的出来事、さらには当該事項に関する心理学の専門書、関連した心理学の学術論文なども用いて説明する。発表担当の受講生以外の中から、各回ごとに司会を務めるコーディネーターと、質問や意見をするコメンテーターも決めておく。さらに受講生一般からの質問を交えながら討議することによって、産業・組織

Students will learn the concepts and theories of industrial and organizational psychology using a textbook.

Students will be divided into groups of three or four. They will prepare a PowerPoint presentation on the relevant section in advance and explain the contents to other students in an easy-to-understand manner.

Students will use their daily life events and experiences, social events, and specialized books on psychology and

related academic papers on psychology in the presentation. A coordinator will be chosen from among the students who will act as a moderator. Commentators will be chosen for each session to ask questions and give opinions. The students will deepen their understanding of industrial/organizational psychology through discussions with general public questions. Occasionally, the students will be asked to answer questionnaires and participate in experiments related to the class. The results of such surveys and experiments will be explained in the final lecture period. Students are expected to be active participants in the class. By the final lecture, each student will choose a theme from among the subjects related to the textbook's theme and write a report and submit it. Enjoy the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の運営法の説明と産業・組織心理学について
- 2 回：担当の決定と教員によるプレゼンテーション例（職場における感情）
- 3 回：経験による知恵
- 4 回：営業スキルの獲得
- 5 回：モチベーション
- 6 回：公正感
- 7 回：仕事と家族
- 8 回：職場における女性
- 9 回：トークニズム
- 10 回：ノンバーバル行動
- 11 回：依頼と説得
- 12 回：従業員支援プログラム（EAP）： 職場における問題への対処
- 13 回：適性
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当箇所をプレゼンテーションするためのパワーポイントの作成が必要である。コメンテーター役の受講生は、担当部分について質問や意見を準備しておくこと。それ以外の受講生も当該ページを事前に読んで、理解した上で、授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の発表:70% 授業時の質疑応答:30%

テキスト / Textbooks

小口孝司・楠見孝・今井芳昭 仕事のスキル 自分を活かし、職場を変える 北大路書房 2009
9784762826771 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

グループを作って共同でテーマについて、調査し、パワーポイントを作成した上で、全受講者の前で発表を行うため、そうした行動がとれることが求められる。さらに、質疑への参加に基づき評価するので、全体的な議論に積極的に参加することが求められる。

家族心理学（社会・集団・家族心理学）

Familiy Psychology (Social, Group & Family Psychology)

山田 哲子 (YAMADA TETSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM324
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2420
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代の心理学の観点から家族の定義や成り立ちなどの基本的事項を理解する。それを受け、従来の価値観にとらわれずに、現代および今後の「家族」の多様性について学習する。また、昨今の家族をめぐる様々なテーマや諸問題に関心を持ち、自ら学び、議論する力を養うことを目標とする。

Understanding fundamental matters such as definition and structure of family from the point of view of modern psychology. With this, learning about the diversity of modern and future concept of "family" without being hold back by traditional sense of valu

授業の内容 / Course Contents

家族心理学の観点から、①対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心の過程、②人の態度および行動、③家族、集団および文化が個人に及ぼす影響について学ぶ。各回では家族心理学に関するテキストや参考文献をもとに、家族の発達や家族が遭遇しやすい問題、現代の日本の家族に生じている危機などについて扱う。尚、毎回の授業では個人ワークの提出によって、学びを深める。

Students learn about the following: 1) processes in mind involved into personal relationships as well as intention and behavior in groups, 2) people's attitude and behavior, 3) effect of family, groups and culture on an individual,

all from the point of view of family psychology. This class handles, based on the texts and reference literature on family psychology, matters like family development, problems that families may encounter, risks of the modern Japanese families. Furthermore, at each lesson students enhance their studies by individual work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：家族とは、家族心理学とは
- 2 回：家族システム理論
- 3 回：家族を理解するための鍵概念
- 4 回：家族の発達：独身の若い成人期
- 5 回：家族の発達：結婚による家族の成立期
- 6 回：家族の発達：乳幼児を育てる段階
- 7 回：家族の発達：若者世代とその家族
- 8 回：家族の発達：老年期の家族
- 9 回：家族療法入門
- 10 回：家族への臨床的アプローチの実際
- 11 回：家族の中のコミュニケーション
- 12 回：離婚と家族
- 13 回：家族が経験するストレス
- 14 回：ジェンダーと家族

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストや参考文献を参照して理解を深めること
 家族に関連する最近のトピックに興味を持つこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各授業のワーク：60% 最終レポート割合：40%

授業のワークの3回以上の未提出は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 家族心理学 第2版—家族システムの発達と臨床的援助 有斐閣
 ブックス 2019 4641184461 -

参考文献 / Readings

平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義 家族の心理 家族への理解を深めるために 第2版 サイエンス
 社 2019 4781914489

心理学研究法4（心理的アセスメント）

Research Methods in Psychology 4(Psychological Assessment)

長堀 加奈子 (NAGAHORI KANAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM325

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） 毎週木曜日お昼の12時までに動画をCanvas LMSにアップロードする。視聴期間は1週間とし、その期限内に確認テストとリアクションコメントの提出を行ってください。

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3420

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学研究における心理検査を計画・実施方法し、得られたデータを分析・解析するための知識と技法を修得する。心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、適切な記録及び報告について理解する。

To acquire the knowledge and techniques to plan and conduct psychological tests in psychological research, and to analyze and analyze the data obtained. Understand the purpose and ethics of psychological assessment, perspectives and development of psychol

授業の内容 / Course Contents

心理的アセスメントは、クライアントの心理機能全体を明らかにし、その上で症状や心理的障害の特徴を評価することで、適切な支援活動や治療方針を選ぶために行われるものです。本講義では、臨床心理学の現場で活用されている心理的アセスメントの概観を捉えながら、そこで行われるいくつかの検査法について解説します。また、そうした検査法の活用方法についての理解を深めます。

Psychological assessment is conducted to clarify the overall psychological function of clients and to evaluate the

characteristics of symptoms and psychological disorders in order to select appropriate support activities and treatment policies. In this lecture, we will take an overview of psychological assessment used in the field of clinical psychology, and explain some of the testing methods used in it. In addition, we will deepen our understanding of how to utilize such testing methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：心理アセスメントの目的及び倫理
- 2回：心理アセスメントの観点及び展開
- 3回：心理アセスメントの方法
- 4回：知能検査・発達検査①
- 5回：知能検査・発達検査②
- 6回：パーソナリティ検査①
- 7回：パーソナリティ検査②
- 8回：症状評価検査①
- 9回：症状評価検査②
- 10回：神経心理学的検査・認知機能検査①
- 11回：神経心理学的検査・認知機能検査②
- 12回：適切な記録及び報告
- 13回：ケースのアセスメント
- 14回：まとめ／臨床で生きるアセスメントとは？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

検査法の原理を理解するためには、それぞれの背景にある発達、知覚、認知、パーソナリティといった基礎領域の理解が不可欠です。授業時間外では授業内で扱う各検査法に関係のある基礎領域の理解を育んでください。また、各授業はそれまでの講義を前提としますので、必ず復習をしてから臨んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の確認テスト:60% リアクションコメント:40%

テキスト / Textbooks

独自資料を Canvas LMS（予定）にアップロードする。

参考文献 / Readings

沼初枝 臨床心理アセスメントの基礎 ナカニシヤ出版 2020 9784779514920

高瀬由嗣 / 関山徹 / 武藤翔太【編著】 心理アセスメントの理論と実践—テスト・観察・面接の基礎から治療的活用まで 岩崎学術出版社 2020 9784753311668

土居健郎 方法としての面接：臨床家のために 医学書院 1992 9784260117692

笠原嘉 精神科における予診・初診・初期治療 星和書店 2007 9784791106219

ストー,アンソニー 心理面接の教科書—フロイト、ユングから学ぶ知恵と技 創元社 2015 9784422115849

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の視聴を行うことのできるデバイスが必要です（PC、タブレット等）
連絡や課題の出題は Canvas LMS を用います。

消費者心理学

Consumer Psychology

消費者の心理と行動：ミクロからマクロまで

碓 朋子 (IKARI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

消費者の心理や行動に関わる心理学的知識の習得が目標である。消費に関わる現象に対して心理学的な「メガネ」を持って接近できる態度を身につける。

Aiming to acquire psychological knowledge related to consumer psychology and behavior. Acquiring the ability to look at the phenomena of consuming through psychological "glasses".

授業の内容 / Course Contents

消費者の心理・行動に関わる（社会）心理学的理論・モデル・概念・用語を中心に、周辺分野の紹介も含め、講義する。内容的には、「ミクロ：個人」から「マクロ：社会」の水準まで、広範に扱う予定である。これは、マーケティングや広告の理解にも役立つ。機会があれば、最近の研究動向も紹介する。

The lectures are mainly given on the topics of theories, models, concepts, terminology of social psychology concerning consumer psychology and behavior, introducing also other related fields. Topics will range from micro level (individuals) to macro level (society). This is also useful for the psychology of marketing and advertising. If possible, students are also introduced to the recent trends in research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに・・・イントロダクション
- 2回：消費者心理・行動に対する諸アプローチ
- 3回：消費者心理学の歴史
- 4回：消費者の意思決定過程
- 5回：消費者の情報処理
- 6回：消費者の知覚・知識・記憶・態度・関与
- 7回：中間まとめ
- 8回：消費者と個人特性・状況要因
- 9回：消費と文化
- 10回：消費と社会
- 11回：消費と広告
- 12回：消費と地域性
- 13回：消費の現代的様相
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

一般的な心理学の基礎知識を既にある程度は学んでいることが望ましい。予習必須ということではないものの、心理学的な知識が少ない受講生の場合には、ある程度の予習をすることは授業でのより効果的な学びにつながる。復習に関しては、全ての受講生において行うことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ほぼ毎回の授業内で課すリアクションペーパーの内容:37% 中間ふりかえり【中規模のレポート課題を予定】:20% 上記以外のその他の小課題:5% 最終レポート割合：:38%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは用いず、基本的には、講師作成のPDFやPPTファイル等の教材・資料等を授業中に投影したり、「Canvas LMS」等の学習支援システム上になるべく事前にアップし、共有し、それに基づき進める。

参考文献 / Readings

参考文献は随時、授業内で紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に参考になるWebサイト等の閲覧を指示したりすることがあるため、スマホ(or タブレット or ノートPCあるいはwifiに繋いでWeb閲覧ができるその他の電子機器等)の所有が必要である。

その他 / Others

授業で用いる教材・資料の多くに関してはなるべく、当該授業の事前 or 事後のタイミングにて、学習支援システム(例えば「Canvas LMS」等)上にファイルとしてアップ、or リンク URL 等の情報を共有予定。(ただしファイルサイズや著作権等の観点からアップ困難な動画・音声ファイル等に関してはこの限りではない。)

文化心理学

Cultural Psychology

文化と心の関係 (Relationship Between Culture and Human Mind)

澤海 崇文 (SAWAUMI TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM435

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2321

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、受講生は文化心理学で扱われる主要な研究手法や研究結果を学習する。受講生は、いかに我々の考え方や行動様式が文化によって規定されているのかを学び、同時に我々の心が文化を規定しているということを理解する。

This course introduces the major content areas of cultural psychology. Students will learn and realize how culture shapes the way we think and behave, and also understand how our mind constructs our culture at the same time.

授業の内容 / Course Contents

本講義では文化と心の関係を紹介する。まず初めに、文化心理学で広く想定される理論や考え方を紹介し、人々の社会化、自己概念、動機づけ、感情、認知といった幅広い分野の心理過程に文化がどのような影響を及ぼすのかを学習する。特に、東洋と西洋の比較に着目する。また、東西文化間の認知過程の違いの背後にあると想定される歴史的背景や生活環境にも触れ、最後に異文化適応や二・多文化主義といったトピックを紹介する。

This course will cover the relationship between culture and human mind. The course starts by introducing

general theories and perspectives underlying cultural psychology. We will then explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition, especially focusing on East-West differences. We will also deal with the mechanisms underlying such cultural differences, and cover topics such as acculturation and bi/multi-culturalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: What is cultural psychology?
- 2回：Culture and socialization I: Development of the cultural mind
- 3回：Culture and socialization II: Education practices
- 4回：Culture and the self I: Cultural differences in self-concepts
- 5回：Culture and the self II: Consequences for self-consistency and egoism
- 6回：Culture and motivation I: Goals and theories underlying motivation
- 7回：Culture and motivation II: Cultural differences in motivation, control, and choice
- 8回：Exam 1: Midterm test
- 9回：Culture and emotion: Universality and cultural variation in emotions
- 10回：Culture and cognition I: Cultural differences in cognition
- 11回：Culture and cognition II: Where do cultural differences come from?
- 12回：Acculturation and biculturalism I: Time course of acculturation and factors that influence acculturation
- 13回：Acculturation and biculturalism II: The bicultural self
- 14回：Exam 2: Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. If they are unclear about anything, I would strongly recommend that they should contact the instructor or refer to the corre

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:25% Final Test:25% Reaction Papers:25% Class Participation:25%

Submitted reaction papers will be returned with written feedback by the instructor.

テキスト / Textbooks

No textbook will be used. Handouts and readings will be distributed either in class or on Canvas LMS.

PowerPoint slides that the instructor uses will be uploaded on Canvas LMS after each class.

参考文献 / Readings

Steven J. Heine Cultural Psychology New York: W. W. Norton 2007 9780393925739

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

English will basically be used throughout this course, so students should be able to communicate in basic English. Students who are not sure if they can keep up, they should come to the first class and notify the instructor.

言語心理学（学習・言語心理学）

Psychology of Language (Psychology of Learning & Language)

言語の基礎・発達・障害

奥村 安寿子 (OKUMURA YASUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM443

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）各回の講義動画，資料，課題は，原則として授業期間中の毎週月曜日に公開する（休業期間と祝日を除く，祝日・休日ではあるが授業を行う日には公開する）。講義の公開と講義内の課題提出は全て Canvas LMS を介して行う。授業の公開日と課題提出については，初回授業の動画および資料で周知するため，2024年9月23日以降に速やかに，Canvas LMS にアクセスして確認すること。

校地： 新座

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 言語の性質および心的処理について基礎的な知識を身につけることができる。
- ・ 言語の発達過程について基礎的な知識を身につけることができる。
- ・ 言語に関する障害の性質について基礎的な知識を身につけることができる。
- ・ 講義の内容に基づき、言語の学習、指導、発達支援等について提案できる。
- ・ Students will be able to acquire basic knowledge of the nature and psychological aspects of language.
- ・ Students will be able to acquire basic knowledge of the language development.
- ・ Students will be able to acquire basic knowledge of the language disorder

授業の内容 / Course Contents

言語は私たちの生活、思考、文化等を支える重要なツールである。本科目では、言語の基礎的な性質、発達過

程、障害について言語学、心理学、教育学、医学等の観点から多角的に講義する。言語の基礎・発達・障害について、基本的な知識を身につけるとともに、言語の学習、指導、発達支援等について、そしてそれにより人の行動がどのように変化しうるのかについて、自分なりの視点を持てるようになることを目指す。

Language serves as a foundation of our everyday life, thoughts and cultures. In this course, basics of language principles, development and disorders will be introduced from broad aspects, including linguistics, psychology, education, medicine, etc. Based on the basic knowledge of language acquired through the course, students are expected to develop their own ideas on language learning, instruction, and/or intervention.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：言語とは何か
- 2 回：総論 1：言語を理解する心と脳の仕組み
- 3 回：総論 2：言語発達の概要
- 4 回：総論 3：言語障害の概要
- 5 回：各論 1：音声言語（基礎・発達・障害）
- 6 回：各論 2：単語と心的辞書（基礎・発達・障害）
- 7 回：各論 3：統語（基礎・発達・障害）
- 8 回：各論 4：語用（基礎・発達・障害）
- 9 回：各論 5：文字と読み書き（基礎・発達・障害）
- 10 回：発展 1：言語と認知・思考・文化
- 11 回：発展 2：第 2 言語習得と多言語の発達
- 12 回：発展 3：言語の力を測る（検査法・評価法）
- 13 回：発展 4：言語の学習・指導・支援
- 14 回：総括：言語について学ぶ意義と展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業動画とノートやメモに基づき、前回の授業内容を復習してから次回の授業を視聴すること。前回までの授業内容は、次回以降の授業内容の基礎となるため、復習が次回授業の予習となる。授業で視聴した内容を、自らの言語体験や言語に関わる身の回りの現象と関連付けて整理することも、復習として推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内で出す課題(複数回):50%

全ての課題およびレポートは Web 提出とする。

テキスト / Textbooks

テキストは指定しない。シラバスおよび講義内で適宜参考文献を紹介する。

参考文献 / Readings

針生悦子（編） 言語心理学（朝倉心理学講座 5） 朝倉書店 2006 9784254526653

針生悦子 赤ちゃんはことばをどう学ぶのか 中央公論新社 2019 9784121506634

中島和子 完全改定版バイリンガル教育の方法 アルク 2016 9784757426986

石川慎一郎 ベーシック応用言語学第2版：L2の習得・処理・学習・教授・評価 ひつじ書房 2023
9784894767959

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の公開と講義内の課題は全て Canvas LMS を介して行うため、各自の PC 等で視聴・提出すること。

その他/ Others

- ・完全オンデマンド方式であるため、履修者自身による授業参加、課題実施および提出の調整が求められる。
- ・授業は、講義を中心とするが、個人タスク等も適宜行う。
- ・学習進度によって授業内容を一部変更することがある。

神経心理学（神経・生理心理学）

Neuropsychology (Neuro- & Physiological Psychology)

江頭 優佳 (EGASHIRA YUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM444
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） 初回更新は9月20日とする。以降の配信予定は開講後に連絡する。
校地： 新座
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目： ○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

脳と行動との関係について、脳損傷等を扱った臨床研究や正常脳における実験例を通して理解を深める。
Promoting understanding of clinical research on brain damage and examples of experiments on normal brain in relation to interaction between brain and behavior.

授業の内容 / Course Contents

脳の活動が観察可能な行動としてどのようにあらわれているかを説明する。臨床神経心理の観点からは脳に病変のある症例を通して、実験神経心理の観点からは正常脳に対する実験的研究を基に、イラストや動画を用いて説明する。はじめに、脳神経系の構造及び機能について、脳・神経系の各部位の役割を概観する。次に、記憶、感情等の生理学的反応の機序について、情動・学習・睡眠といった重要なトピックをとりあげ説明する。次に、高次脳機能障害の概要について、脳機能の特異性が示唆されている発達障害や精神疾患について治療へのアプローチも含めて

This class explains how brain activity manifests itself in form of observable behavior. It explains the cases of brain damage from the point of view of clinical neuropsychology, practical research on normal brains from the point of view of experimental neuropsychology with illustrations and videos. First of all, it outlines the structure and

functions of cranial nerve system, roles of all its parts. Then, it explains important topics about physiological response mechanisms, like memory and emotion, also topics of affection, learning and sleep. Moreover, it introduces the concept of higher brain dysfunction, including developmental disorders that brain function specificity is implied and approaches to treating patients with mental disorders.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：神経心理学とは
- 2 回：脳・神経系の概要
- 3 回：大脳皮質
- 4 回：大脳辺縁系・大脳基底核
- 5 回：間脳・脳幹・小脳
- 6 回：睡眠
- 7 回：情動
- 8 回：記憶と学習
- 9 回：発達障害 1
- 10 回：発達障害 2
- 11 回：発達障害 3
- 12 回：精神疾患 1
- 13 回：精神疾患 2
- 14 回：脳活動の可視化

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で使用したスライド資料や紹介する参考文献を予習あるいは復習することが望ましい。履修前に、中学～高校レベルの生物について予習・復習をしておくことで理解の補助になる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示した提出物:30%

テキスト / Textbooks

指定しない。配布資料をもとに授業を進める。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ヒトの種々の行動が、どのような感覚器官および中枢神経系活動によって支えられているかを理解する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド配信の視聴に耐える PC、タブレット等

障害者・障害児心理学

Psychology for Adults & Children with Disabilities

榎本 拓哉 (ENOMOTO TAKUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM445
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） 毎週火曜日 12:00 に配信予定（初回資料を 4月16日 Canvas LMS にアップ）
校地： 新座
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2420
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ①身体障害、知的障害および精神障害の概要を説明できる
- ②障害者・障害児の心理社会的課題および必要な支援方法を身につける
- ③共生社会の意義・達成するための条件についての視座を獲得する

Acquire the following skills

1. To provide an overview of physical disabilities, intellectual disabilities, and mental disorders
2. To be able to explain psychosocial issues and necessary support methods for people and children with disabilities.
3. Lear

授業の内容 / Course Contents

昨今、様々な理由から社会参加が制限されていた少数者が、十分に活躍できる共生社会の達成が大きな課題として取り上げられている。その中、障害児者と言われていた少数者を取り巻く状況も大きく変わろうとしている。まずはじめに、「障害とは何か？」という根底的な疑問からスタートし、各障害の概要について1) 生理的側面、2) 機能的側面、3) 心理・社会的側面の3領域から理解する。そして、必要とされる対人援助方略（心

理的サポート、環境的サポート)を学ぶ。そこから、共生社会を達成する意義・達成するために求められる条件について、受講

In recent years, achieving a society in which social minorities can live has become an important issue. The position of persons with disabilities is also about to change drastically. First, we begin with the question "What is a disability?", The outline of each disability will be understood from the three domains of 1) physiology, 2) function, and 3) psychology and society. Then, the necessary support (psychological support and environmental support) will be studied.

The class will be conducted in the form of on-demand lectures delivered by a video streaming system. Students are required to submit a reaction paper after watching each lecture video. The content of the reaction paper will be added to the grade evaluation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：本講義についてのガイダンス

自己紹介。「障害者・障害児心理学」で学ぶべき課題。その意義。達成基準。講義形態の説明。単位取得基準。14回分の講義内容についての説明。

2回：障害とは何か？障害の区分・法整備など

3回：身体障害①：【視覚障害】概要および教育・心理社会的支援

4回：身体障害②：【聴覚障害】概要および教育・心理社会的支援

5回：身体障害③：【肢体・病弱・重複障害】概要および教育・心理社会的支援

6回：精神障害①：【統合失調症】概要および医療・心理社会的支援

7回：精神障害②：【うつ・双極性障害】概要および医療・心理社会的支援

8回：精神障害③：【その他の精神疾患・障害】

9回：知的・発達の障害①：【知的障害】概要および教育・心理社会的支援

10回：知的・発達の障害②：【自閉症スペクトラム】概要および教育・心理社会的支援

11回：知的・発達の障害③：【注意欠陥多動性障害】概要および教育・心理社会的支援

12回：知的・発達の障害④：【LD および学校適応上の問題】概要および教育・心理社会的支援

13回：障害者の社会参加・地域生活の支援と課題について

14回：【総括】これからの障害児者支援の展望と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎講義動画に別途指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 各リアクションペーパーの内容:40%

テキスト/Textbooks

各講義で資料をPDFとして配布し、テキストとして使用する。

参考文献 / Readings

各トピックスの授業後、推薦図書を紹介する。

深く学びたい受講生は講読を勧める。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

障害というものがどんなものなのか？そして、障害と社会にはどのような関係が存在するのか？といった疑問を持つ学生の履修を想定している。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

動画視聴用の PC もしくはタブレット端末。

リアクションペーパー提出用の端末（スマートフォンを含む）。

心理学的支援法

Methods of Psychological Support

心理学的支援法としての心理療法の基礎と多様性を学ぶ

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM446

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2420

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学的支援法としての心理療法の様々な理論や技法の入門的な知識を身につける。人間についての理解を深め、日常の対人関係に役立つ知識を身につける。

Acquiring basic knowledge on various theories and methods of psychological treatment as methods of psychological support. Promoting understanding of people and acquiring knowledge useful for daily human interactions.

授業の内容 / Course Contents

心理学的支援法としての心理療法の基礎となる倫理、プライバシーへの配慮について学ぶ。代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について学ぶ。理論や技法について、公刊されている事例や映像教材を用いて学ぶ。学派を超えた広い視野で心理療法の全体を相対的に見る視点を身につける。訪問による支援や地域支援の意義について学ぶ。良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について学ぶ。心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について学ぶ。心の健康教育について学ぶ。

Students learn about fundamental ethics of psychological treatment and consideration of privacy as methods of

psychological support. They learn about typical psychological treatment and history, concepts, meaning, adaptation and limits of counselling. Theory and methods are taught with the use of published examples and video materials. It provides the skill of looking at psychological treatment as a whole with a wide field of view that exceeds the limits of just one school. Students learn about the meaning of community support such as personal visits. They learn about methods of communication needed to build good personal relationships. They also learn about support to caregivers and those who are related to the people that need psychological support. Also, this course teaches about mental health education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理療法の倫理について、基本的な考え方を学ぶ。特にプライバシーの保護について学ぶ。基本テキストの紹介。
- 2 回：治療者の基本的態度 クライアント中心療法
- 3 回：ゲシュタルト療法
- 4 回：論理情動療法 認知行動療法の源流
- 5 回：力動的な精神療法 精神分析
- 6 回：精神分析的な子どものプレイセラピー
- 7 回：夢分析
- 8 回：ユング心理学
- 9 回：箱庭療法
- 10 回：森田療法と内観療法
- 11 回：訪問による支援や地域支援の意義
- 12 回：良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
- 13 回：心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
- 14 回：心の健康教育

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、授業で紹介するテキストを読む。復習として、参考文献として紹介するテキストを読む。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の小レポート:70% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

健康・医療心理学

Health & Medical Psychology

健康・医療心理学

佐藤 さやか (SATO SAYAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM447
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	毎週水曜日 17 時に配信予定
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2420
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本科目は公認心理師対応カリキュラムである。実践心理学領域の中でも、人の心の健康と疾病・障害に関連する分野を扱う。特に①ストレスと心身の疾病との関係、②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援、④災害時等に必要な心理に関する支援について焦点を当て、将来心理職として活動する際に十分な理解が得られることを目標とする。

This course is part of the curriculum designed for Certified Psychologists. It focuses on the area of applied psychology, particularly on the aspects related to mental health, illness, and disabilities. The key topics of study include:

1) The relationshi

授業の内容 / Course Contents

行動療法・認知行動療法の立場から、予防から疾病の治療、リハビリテーションまで、保健および医療領域のメンタルヘルスに関する諸問題を取り上げる。聴講するものが将来心理職として活動することを前提に、実践に関しては可能な限り最新の取り組みを盛り込んだ内容とする。

From the perspective of Behavioral Therapy and Cognitive Behavioral Therapy, this course addresses various issues related to mental health in the fields of health care and medicine, spanning prevention, treatment of diseases, and rehabilitation. Assuming that the attendees will pursue careers in psychology, the course content will incorporate the latest practices and approaches in the field as much as possible. This is to ensure that students are equipped with current and relevant knowledge for their future professional activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 健康・医療心理学とは
- 2 回：健康・医療心理学の基礎理論① ストレスと心身の疾病との関係
- 3 回：健康・医療心理学の基礎理論② 学習理論および行動療法/認知行動療法
- 4 回：心理職が行うアセスメント～ケースフォーミュレーションと心理検査～
- 5 回：感情障害（うつ病）の概要とその支援
- 6 回：不安障害の概要とその支援
- 7 回：統合失調症をはじめとする精神病圏の疾患の概要とその支援
- 8 回：発達障害の概要とその支援
- 9 回：小まとめ
- 10 回：産業領域における心理社会的課題及び必要な支援
- 11 回：母子保健活動における心理社会的課題及び必要な支援
- 12 回：高齢者領域における心理社会的課題及び必要な支援
- 13 回：災害時等に必要な心理に関する支援
- 14 回：健康・医療心理学領域で心理職が活動していくための課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

福祉心理学

Psychology for Social Welfare

福祉領域における臨床心理学

高田 治 (TAKADA OSAMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM448

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2420

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 集中講義 授業実施日は以下の通り

8月2日(金)・5日(月)1-5限、7日(水)2-5限

授業の目標 / Course Objectives

福祉領域における心理援助について学ぶ。特に、どのような援助対象者であり、どのようなニーズがあるのかについて、現場の感覚に触れ、考える。

Learning about psychological support pertaining to welfare field. Specifically, thinking of who the target people are and the demands that exist through experiencing the real cases.

授業の内容 / Course Contents

社会福祉とは何かというところから始め、様々な福祉領域を概観し、福祉現場において生じる問題及びその背景、そして、心理社会的課題及び必要な支援について考える。その後、児童虐待問題で注目される児童福祉施設における心理援助を例に具体的に実践について考える。

Starting from the question "what is social welfare?", students get a general overview of various welfare fields and think about problems on sites of welfare, their background, as well as psychosocial tasks and essential support.

After that, they think about specific ways to provide actual psychological support at children welfare facilities

from examples focusing on child abuse problem.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：福祉とは何か、社会福祉政策。
- 2 回：様々な福祉現場の概要を知る。
- 3 回：それぞれの福祉現場で生じる心理社会的課題と支援について。
- 4 回：それぞれの福祉現場で生じる心理社会的課題と支援について。
- 5 回：支援を受ける人たちの心持を考える。当事者の思いを想像してみる。
- 6 回：支援を受ける人たちの心の支援を考える。質疑応答を通して。
- 7 回：介護支援（高齢者など）について考える。質疑応答を通して。
- 8 回：障害者支援の領域（就労支援を主に）について考える。質疑応答を通して。
- 9 回：児童福祉領域についてについて考える。質疑応答を通して。
- 10 回：児童虐待について考える。
- 11 回：虐待を受けたことによる影響について、動画等を利用して考える。
- 12 回：児童心理治療施設の実際を動画で視聴し、質疑応答の予定。
- 13 回：児童福祉施設における心理援助の実際について考える。質疑応答の予定。
- 14 回：事例から学ぶ、議論と質疑応答。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストに挙げた本は福祉心理学の概略を掴むうえでは適しているかと思いますが、購入が必須ではありません。

子どもの心理援助、特に虐待を受けた子どもの支援について学びたい方は、拙著「施設心理士から伝えたいこと」に、心理援助の考え方、発達などについて、書きましたので、参考にしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパーによる(複数回):60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

小畑文也（編） 『福祉心理学』 北大路書店 2017 9784762830051 ○

高田 治 『施設心理士から伝えたいこと』 世織書房 2022 9784866860282 ○

参考文献 / Readings

滝川一廣他編 『子ども虐待を考えるために知っておくべきこと』 日本評論社 2020 9784535904590

滝川一廣他編 『子どもの心を育む生活』 東京大学出版会 2016 10 4130111426

学校心理学（教育・学校心理学）

School Psychology (Educational & School Psychology)

猪熊 大史 (INOKUMA HIROFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM449
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学校心理学の視点から、児童生徒の成長・発達を目的とした援助のあり方について考える。児童生徒を支えている学校コミュニティに対する理解を深め、学校における諸問題に対する理解や対応、教職員との連携や協働について学ぶ。

Thinking about ways to provide support for growth and development of schoolchildren and students from the point of view of school psychology. Promoting understanding of school community that supports pupils and students, learning about ways to understand

授業の内容 / Course Contents

①教育現場において生じる問題及びその背景について理解し、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。学校心理学に基づく心理教育的援助サービスについて講義し、教育相談やスクールカウンセリングなどの実践を行う際に必要となる理論や介入方法を紹介する。ワークなどを通じて学校における問題や課題、援助に関する理解を深める。

Students learn the following: 1. Understanding the problems arising at educational facilities and their background; 2. Psychosocial problems and essential support in the field of education. They have lectures on

psychological support services based on school psychology, and get introduced to theories and intervention methods needed to conduct educational guidance and school counseling. Class promotes their understanding of problems, tasks and support at school through their work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 学校心理学とは
- 2 回：学校をめぐる現状：問題の理解とニーズの把握①発達障害
- 3 回：学校をめぐる現状：問題の理解とニーズの把握②不登校
- 4 回：学校をめぐる現状：問題の理解とニーズの把握③いじめ
- 5 回：学校をめぐる現状：問題の理解とニーズの把握④精神疾患
- 6 回：学校をめぐる現状：問題の理解とニーズの把握⑤家庭をめぐる課題
- 7 回：学校をめぐる現状：問題の理解とニーズの把握⑥教師をめぐる課題
- 8 回：学校心理学に基づく実践①カウンセリング
- 9 回：学校心理学に基づく実践②コンサルテーション
- 10 回：学校心理学に基づく実践③チームアプローチ
- 11 回：学校コミュニティの理解
- 12 回：心理教育的アセスメント
- 13 回：学校心理学の今後の課題
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・学校における最近の問題や課題に関心を持ち、自分なりの問題意識をもって授業を受けること。
- ・調べ学習等のワーク課題を出す。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終課題:40% 授業内・外課題およびワーク、レスポンスシート:60%

授業内・外課題およびワーク、レスポンスシート において、主体的・積極的な取り組みが求められる。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学校心理学会 学校心理学ハンドブック第2版 教育出版 2016 9784316803128

その他、授業内で適宜紹介する。

その他 / Others

- ・PowerPoint を用いた講義を行う。
- ・授業内で課すワークでは事例検討やロールプレイ等を模して行う。
- ・授業は毎週土曜日 1 限の時間に配信、リアクションペーパーを水曜日までに提出すること。

司法・犯罪心理学

Forensic & Criminal Psychology

越智 啓太 (OCHI KEITA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM450
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） 毎週月曜日午前8時にまでに配信予定。これより前に配信することもある。
校地： 新座
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2420
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

司法犯罪心理学の基本的な概念、用語を理解し、解説することが出来るようになる。

Understanding basic concepts and terminology of forensic & criminal psychology, becoming able to explain outline of criminal behavior.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、司法犯罪心理学の概要とその応用、現在の論点などに関して解説する。とくに犯罪の罪種（家事事件含む）ごとに犯行の特徴や動機、心理的な特徴、捜査手法、プロファイリングなどについて検討するが、それと同時に犯罪原因や防犯、日本の司法システムの現状や問題点、非行の原因と現状、非行、離婚や子どもの養育の問題に対する司法心理学的な対応および支援などについてもできるだけ広く取り上げる。

This class provides explanations on the concepts in forensic & criminal psychology, their application, and current issues. Specifically, it studies the features and motivation behind types of crimes (including domestic cases), their psychological features, investigation methods, profiling, and at the same time handles reasons for crimes, their prevention, present state and problematic points of Japanese judicial system, reasons for delinquency and its present state, support and approaches of forensic psychology to the problems of delinquency, divorce, child

upbringing as widely as possible.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、犯罪心理学とはなにか、犯罪心理学の研究分野、犯罪心理学の基本的研究方法
- 2回：殺人
- 3回：連続殺人 (1) 男性による連続殺人
- 4回：連続殺人 (2) 女性による連続殺人
- 5回：大量殺人
- 6回：子どもに対する性犯罪 (1) 犯人の行動特性
- 7回：子どもに対する性犯罪 (2) 防犯
- 8回：ドメスティック・デートバイオレンス (1) 犯罪の現状
- 9回：ドメスティック・デートバイオレンス (2) 加害者心理、被害者心理
- 10回：非行 (1) 少年法と心理職の役割
- 11回：非行 (2) 非行の原因理論
- 12回：サイバー犯罪とホワイトカラー犯罪
- 13回：司法心理学 (1) 離婚と養育権
- 14回：司法心理学 (2) 面会交流と虐待

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業前にテキストの該当する部分について読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0% 毎回のコメント:0% 最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

越智啓太 progress and application 司法犯罪心理学 サイエンス社 2020 9784781914817 ○

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房 2018 9784762828157 ○

1のテキストは授業で十分取り上げられない部分についての自習用です。授業中は使用しません。課題などで使用します。2のテキストは授業内余に沿った内容です。

参考文献 / Readings

法と心理学会 入門司法犯罪心理学 有斐閣 2022 9784641174740

越智啓太 図解犯罪心理学 日本文芸社 2024 9784537221923

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にありません

その他 / Others

犯罪のことを扱うので、人によっては不快な内容が含まれる場合もあります。動画資料などを併用します。

人体の構造と機能及び疾病

Human Body Structure, Function & Diseases

市倉 加奈子 (ICHIKURA KANAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM451
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2520
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講義の終了時には、学生は以下の能力を獲得していることを目標とします：身体の構造と機能について解剖生理学的な観点から説明できること、身体疾患の診断と治療について説明できること、身体疾患患者の抱える心理社会的問題および支援について議論できること。

At the end of the course, participants are expected to explain the body structure and function in terms of anatomical physiology, explain the diagnosis and treatment of physical diseases, and discuss the psychosocial problems and interventions among patients.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系、筋骨格系、神経系などの解剖生理学の基礎原理を学びます。また、悪性腫瘍、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、神経難病、エイズなどの身体疾患と、その診断・治療について学びます。最終的に、身体疾患患者の心理社会的問題に対するアセスメントと介入に関するスキルを学生が獲得できるよう、講義の中で演習も行っていきます。

This course deals with the fundamental principles of anatomical physiology including circulatory, respiratory, urinary, digestive, musculoskeletal, and nervous system. It also deals with the diagnosis and treatment of physical

diseases including cancer, cardiovascular and cerebrovascular diseases, diabetes, intractable nerve disease, and AIDS. Finally, we conduct exercises to enhance the development of students' skill in assessment and intervention of the psychosocial problems among patients with physical diseases.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：緩和ケアと終末期
- 3回：チーム医療と専門職
- 4回：発達と障害
- 5回：人体の構造と機能
- 6回：心にかかわる統合器系
- 7回：まとめ+小テスト1
- 8回：ストレスと健康
- 9回：精神疾患
- 10回：がん
- 11回：心疾患
- 12回：生活習慣病と難病
- 13回：感染と免疫
- 14回：まとめ+小テスト2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習：毎講義のテーマに準じてテキスト（教科書）の該当箇所を事前に熟読しておくこと。

復習：講義にて小テストの解説と重要箇所の説明を行うため、毎講義のテーマに準じてテキスト（教科書）の該当箇所を読み直しておくこと。

（予習復習に要する時間は個人によって異なる）

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト①:40% 小テスト②:40% 参加態度:20%

テキスト / Textbooks

武田克彦・岩田淳・小林靖 人体の構造と機能及び疾病（公認心理師カリキュラム準拠） 医歯薬出版株式会社 2019 ○

参考文献 / Readings

斎藤清二・野島一彦・繁耕算男 人体の構造と機能及び疾病（公認心理師の基礎と実践） 遠見書房 2019
 社会福祉士養成講座編集委員会 人体の構造と機能及び疾病 第3版 中央法規 2017

その他 / Others

配信日程は14回、秋学期の講義スケジュールに合わせて、月曜9時にCanvas LMSで実施する予定です。

精神疾患とその治療

Psychiatric Disorders & Treatments

～やさしく学ぼう『脳とこころ』～

池田 健 (IKEDA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM452

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2520

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

精神医学全般について理解を深める。精神医学と心理学の関連性、精神科医療の現場において心理士の果たす役割についても学ぶ。サブタイトルの示す通り、難解な理論や用語だけではなく『脳や心とは何か？』『精神医学など学んで本当に役に立つのか？』という素朴な疑問に関しても触れる。

Promoting overall understanding of psychiatry. Learning about the connections between psychology and psychiatry, role of psychologist in the psychiatric treatment. As the subtitle shows, it also covers trivial questions like "What is brain and mind?", "Is

授業の内容 / Course Contents

下記①～③に関して、講義を進める中で触れ、臨床現場の実際を講義や質疑応答形式で学ぶ。

- ①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因・症状・診断法・治療法・経過・本人や家族への支援など）
- ②向精神薬をはじめ薬剤による心身の変化
- ③医療機関との連携

The lectures cover points 1-3 listed below, letting students to learn about clinical sites through lectures and in the form of questions and answers.

1. Introduction to psychiatric disorders (typical causes, symptoms, diagnostic and treatment methods, prognosis of psychiatric disorders, support to patients and their families).
2. Physical and mental changes under influence of medicine such as psychotropic drugs.
3. Collaboration with medical institutions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：精神医学総論（その1）

～コロナ禍・ロシア・ウクライナ戦争などを精神医学的にどう考えるか～

2 回：精神医学総論（その2）

～我々はこの時代をどう生きるか、精神科医からの提言～

3 回：精神医学各論～導入～

～正常とは何か？異常とは何か？異常や障がいと診断することに意味はあるのか～

4 回：精神医学各論

乳幼児期、学童期の精神疾患、依存症、中毒性疾患

5 回：精神医学各論

学生のメンタルヘルス（友情、恋愛、進級、就活など身近な問題をめぐって）

6 回：精神医学各論

統合失調症～その1～

7 回：精神医学各論

統合失調症～その2～

8 回：精神医学各論

気分障がい～その1～

9 回：精神医学各論

気分障がい～その2～

10 回：精神医学各論

神経症関連疾患

11 回：精神医学各論

パーソナリティ障がい

12 回：精神医学各論

高齢者の精神疾患

13 回：精神医学各論～危機的状況の際に役立つ精神医学の知識アイデンティティの学生生活

精神科や心療内科の上手な利用法（現場に携わる医師からの提言）

～どんな悩みがある時に受診をするのか～

14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

オンライン方式の講義を予定しているため、それぞれの履修者が学習方法を工夫してほしい。具体的に事前にテキストを購入して目を通す、TVやインターネット等を見るなどの方法で精神科全般に興味を持つように心がけることが望ましい。

シラバスに記した内容は、履修者の希望や積極性などにより随時変更することがある。このため、講義を進める過程で自主的に知識を得て理解を深めることを希望する。Canvas LMSも講義のサポートとして使用する予定である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・講義への取り組み、リアクションペーパー等を総合的に考慮:100%

テキスト / Textbooks

池田健 新・臨床家のための精神医学ガイドブック 金剛出版 2022 97847724 ○

池田健・小阪憲司 専門医が語る認知症ガイドブック 金剛出版 2017 9784772415590 ○

池田健・三田誠広 ころって何？～芥川賞作家と精神科医の対話～ 岩崎学術出版社 2022 97847533 ○

大石幸二・池田健他 標準・公認心理師養成テキスト 文光堂 2022 4830636300 ○

参考文献 / Readings**その他 / Others**

講義担当者が臨床に従事する医師であるため、本シラバス執筆時点で2024年度のコロナ禍の状況が見通せない。よって講義は前年度に準じたものとして、補足するべき点はCanvas LMSを使用する。履修者はCanvas LMSにログインする習慣をつけることが望ましい。

履修者は、授業1週目にはCanvas LMSにログインして具体的な授業の受講方法について確認すること。

自己理解・他者理解の心理学

Psychology of Understanding Self and Others

キャリアを見据えたスキルの獲得

三浦 由美子 (MIURA YUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM453

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々な領域における、コミュニケーションや対人関係の実践的な心理学の知見を学ぶことにより、日常場面からビジネスエントリー場面での人間関係を円滑にするためのスキルを得ることを目的とする。

By learning practical psychological knowledge of communication and interpersonal relationships in various fields, the course aims to provide students with the skills to facilitate human relations in everyday situations and business entry situations.

授業の内容 / Course Contents

社会に出て自身のキャリアを形成するにあたって、自己分析および自己理解は重要である。また、他者理解は日常におけるコミュニケーション場面や人間関係になくてはならない。本科目では、キャリア形成のために必要なスキルに焦点を当て、ロールプレイやグループワークなどを積極的に取り入れながら他者理解と自己理解を深める。

Self-analysis and self-understanding are essential in shaping one's career in society. Besides, understanding others is essential in everyday communication situations and human relationships. This course will focus on the

skills necessary for career development, actively incorporating role-plays and group work to deepen understanding of others and self.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：自己理解とキャリア形成
- 3回：コミュニケーションと自己理解
- 4回：自己理解のまとめ
- 5回：他者理解と多様性の受容
- 6回：相手に伝えるコミュニケーション
- 7回：アサーションのロールプレイ
- 8回：説得と依頼・交渉
- 9回：説得のロールプレイ
- 10回：自己理解と感情のコントロール
- 11回：集団理解とコミュニケーション
- 12回：コンセンサスを得るグループワーク
- 13回：変化への対応
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜参考文献を示すので、それらを読んで学習を深めること。最終レポートは、今回の授業で印象に残った内容、獲得したスキルを活用した自身の体験から自己理解・他者理解をどのように深めたかについて記述する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度（グループワークやロールプレイへの関与度）：30% コメントペーパー：30%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業で学んだことを日常生活に活かすという考え方。コミュニケーションが苦手でも、ロールプレイなどに挑戦しようとする態度。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にないが、課題の作成にはワードやパワーポイントなどで行うためPCが必要。

その他 / Others

ロールプレイやディスカッションの多い授業形態。感染対策やロールプレイを円滑に進める目的で、適切な距離を設け、座席指定で演習を行う。

キャリアの心理学演習

Seminar on Careers in Psychology

キャリアの心理学演習 / Seminar on Careers in Psychology

渡辺 かおり (WATANABE KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM454

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「キャリアと心理学」「自己理解・他者理解と心理学」での学びを基にして、ビジネスエントリー期だけでなく、就職後にも活用できる心理学的観点や知識の応用の仕方を身につける。実践的な演習を通して、スキルを獲得していく。

Based on the studies in "Career and Psychology" and "Understanding Self and Others and Psychology," students will learn how to apply psychological perspectives and knowledge that students can use during the business entry period and after employment. Stud

授業の内容 / Course Contents

社会人になるための就職活動期において求められる基本的な知識を身に付け、実践の練習を行う。その後、社会人として求められるスキルについて心理学的観点からの知見を得て、それを身に付けられるように、演習中心の授業を行う。

Students will acquire the basic knowledge required during the job-hunting period to become members of society and practice the skills in practice. After that, the class will focus on exercises to gain knowledge from a

psychological perspective about the skills required as a member of society and acquire them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業全体のガイダンス
- 2回：就職活動概要
- 3回：自己理解入門
- 4回：インターンシップ
- 5回：エントリーシートの基礎理解
- 6回：面接入門（一般企業）
- 7回：働くことと心理学1
- 8回：面接入門（公務員）
- 9回：グループディスカッション入門
- 10回：セルフモチベーション
- 11回：ストレスとつきあう
- 12回：面接実践
- 13回：働くことと心理学2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜参考文献を示すので、それらを読んで学習を深めること。さらに授業外の日常場面でも本講義で習得したことを積極的に活用してみることを勧める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度（ワークなどへの関与度、コメントペーパーの内容）：70% ミニレポート：30%

テキスト / Textbooks

授業中に参考書などを適宜指示する。

参考文献 / Readings

心理学海外体験プログラム

Overseas Experience in Psychology

カヴァナ, C. / 宮川 麻理子 (KAVANAGH CHRISTOPHER/ MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM455
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春期間外
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2923
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 事前授業日程は以下の通り
8月1日(木)1-3限（N434 教室）

授業の目標 / Course Objectives

海外の大学における心理学の講義に参加し、英語で心理学の講義を受ける体験を通じて、海外における心理学研究の知見を得る。また、海外の精神科病院を見学し、精神科医療の歴史や文化との関係性、メンタルヘルスケアについての日本との違いを学ぶ。

Students will get knowledge of psychology research overseas through the experiences of attending psychology lectures at an overseas university in English. In addition, they also will visit psychiatric hospitals overseas to learn about the history of psych

授業の内容 / Course Contents

- 事前学習として、教員によるレクチャー、文献の講読、発表などを行う。
- 教員による引率のもと、シンガポールに短期滞在（5泊7日予定）を行い、大学での講義参加や精神科病院・研究所の視察・講義、現地の学生との交流などを行う。
- 帰国後に体験レポートを提出する。

1. For an advance preparation, there will be lectures, text reading, presentation etc.
2. Stay in Singapore (scheduled a 7 days trip) with teachers. We will visit the universities, hospitals, and museums. The language exchange with students in Singapore is also planned.
3. It is required to write a report after retiring to Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前学習 1 (8月を予定) / prior learning1 (Scheduled to be held in August)
- 2 回：事前学習 2 (8月を予定) / prior learning2 (Scheduled to be held in August)
- 3 回：事前学習 3 (8月を予定) / prior learning3 (Scheduled to be held in August)
- 4 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 5 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 6 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 7 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 8 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 9 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 10 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 11 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 12 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 13 回：シンガポールにおける現地研修 /On-site training in Singapore
- 14 回：事後授業 / post learning

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

履修希望者は4月10日(水)に実施する説明会に必ず出席してください。説明会の詳細は立教時間で配信します。6月と7月に1度ガイダンスを行います。日程はまた個別にご連絡します。事前学習には課題も出ます。履修に際して英語の能力は問いませんが、渡航前に英語によるコミュニケーション力をつけるために各自努力して下さい。研修後には事後授業や報告会も予定しています。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前授業時の取り組み:15% 現地研修時の取り組み:55% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

行動分析学

Behavioral Analysis

行動分析による発達支援の技法

坂本 真季 / 大石 幸二 (SAKAMOTO MAKI / OISHI KOUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM456
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	オンデマンド配信：毎週土曜日 0:00 配信予定
校地：	新座
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2320
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

行動分析のアプローチにもとづく発達障害支援について理解を深める。あわせて、行動分析研究において用いられる単一事例実験計画法（Barlow & Hersen, 1984）について基礎的な知識を得る。

In this course, students will deepen their understanding of developmental disability support based on the approach of behavior analysis. In addition, students will gain basic knowledge of single-case experimental design (Barlow & Hersen, 1984) used in beh

授業の内容 / Course Contents

行動分析学は心理学の中でも学習心理学という領域に分類される学問である。そのため、本授業の内容を的確に理解するためには「心理学概論1」および「学習心理学」の学習が必要である。それらの学習を前提としながら、北米における研究と立教大学で行われてきた研究の一端を紹介し、日常や臨床などの場面に適応するための行動の原理を学ぶ。

Behavior analysis is a discipline classified in the field of learning psychology within psychology. Therefore, in order to accurately understand the contents of this class, it is necessary to study "Introduction to Psychology 1"

and " Psychology of Learning". Based on the premise of such learning, we introduce some of the research conducted in North America and at Rikkyo University, and learn the principles of behavior to adapt to everyday and clinical situations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：好子出現による強化①（第2章「おじいちゃん」）
- 2回：好子出現による強化②（第2章「チューインガムとお通じ」）
- 3回：嫌子消失による強化①（第3章「恐怖の診察室」）
- 4回：嫌子消失による強化②（第3章「自閉症の孝」）
- 5回：嫌子出現による弱化①（第4章「歯ぎしり」）
- 6回：嫌子出現による弱化②（第4章「習慣逆転法」）
- 7回：好子消失による弱化①（第5章「良い子ゲーム」）
- 8回：好子消失による弱化②（第5章「タイムアウトと母の喜び」）
- 9回：消去と復帰①（第6章「招かれざる訪問」）
- 10回：消去と復帰②（第6章「英利の癩癩」）
- 11回：分化強化と分化弱化①（第7章「負けっぱなしのテニス部」）
- 12回：分化強化と分化弱化②（第7章「創造的行動」）
- 13回：シェイピング（第8章「子どもにメガネをかけさせる」）
- 14回：強化スケジュール（第9章「ハトの迷信行動」）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業を受講するにあたり、1. 1年次の必修科目である「心理学概論1」の[学習と動機づけ]について教科書と配布資料の振り返りを行うことがとくに有用である。また、2. Canvas LMSをつうじて、必要な資料の提示がなされることがある。これらの資料には事前に目を通す必要があるため、学修支援システムの恒常的な活用が求められる。さらに、3. 必要に応じて実施されるリアクション・ペーパーに答えるために、授業内容の予習と復習が欠かせない。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席（リアクションペーパー含む）:70% 最終レポート割合 :30%

リアクションペーパーは授業内容をふまえ、必要かつ十分な説明を行ったもののみが評価対象となる。

テキスト / Textbooks

杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・マロット&マロット 行動分析学入門（第2版） 産業図書 2023
4782890354 ○

参考文献 / Readings

バーロー／ハーセン 一時例の実験デザイン 二瓶社 2001 4931199372
ミルテンバーガー 行動変容法入門 二瓶社 2006 4861080258

ネイスワース／ウルフ 自閉症百科事典 明石書店 2010 4750332933

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

1. 履修者は、授業1週目には Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について確認すること。
2. 英語論文を紹介する場合があるが、論文原本とともに抄訳を示すので英文読解に自信がなくとも安心して受講できる。
3. 授業時間外の学習や発展的な学習に資するために、追加的な資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある
4. 質問や論点などに関するフィードバックは、Canvas LMS などを通じて行う

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

前回オンデマンド授業（動画配信）のため、受講の際にはパソコンをご準備ください。

比較認知科学

Comparative Cognitive Science

高木 佐保 (TAKAGI SAHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM457
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 動物の認知の多様性および行動と社会の進化的成り立ちについての基礎的知識を得る。
 - 動物の認知特性や社会行動があらゆる動物の集団において進化してきたことを理解する。
- To gain basic knowledge about the diversity of animal cognition, social structure, and living environment that have been shaped by evolutionary processes.
 - To understand that complex cognitive traits and social behaviors have evolved in many groups o

授業の内容 / Course Contents

本講義では動物がみせる多様な認知特性と生態を紹介し、それらを形作ってきた進化メカニズムについて解説します。具体的には、動物界における種間の相互作用、競争・協調、知覚、感情、学習、コミュニケーション、物理的・社会的認知など、幅広いトピックを取り上げる予定です。受講者は、動物の認知特性がどのように進化してきたのか、なぜ動物は生息地でそのような行動をとるのか、という問題について理解を深めることができます。

This lecture will explore the diversity of animal cognition and ecology, and examine the evolutionary mechanisms

that have shaped them. I will cover a wide range of topics such as the interaction between species, competition/cooperation, perception, emotion, learning, communication, and physical and social cognition in the animal kingdom. Students will gain a better understanding of how cognitive traits in animals have evolved and why animals behave the way they do in their habitat.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：比較認知科学とは
- 2回：動物の学習 1
- 3回：動物の学習 2
- 4回：動物の感覚・知覚
- 5回：動物の記憶
- 6回：動物の注意
- 7回：動物の動機付けと情動
- 8回：動物のコミュニケーション
- 9回：動物の社会的知性
- 10回：動物の物理的知性
- 11回：動物の意識・内省
- 12回：動物の共感性
- 13回：伴侶動物の認知
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：事前に講義資料を確認するとともに不明点や疑問点を挙げる。

復習：講義資料と授業ノートを見直して要点や疑問点を整理する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 小テスト:10%

テキスト / Textbooks

教科書：使用しない。資料を配布する。

参考書：講義中に随時指示する。

参考文献 / Readings

藤田和生 比較認知科学 放送大学教育振興会 2017

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

白井 述 (SHIRAI NOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM521
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業研究（各自の関心によるが、主には実験心理学的手法による発達心理学研究）を実施し、卒業論文執筆に向けた実験データを取得する。

Students conduct their graduation research (depending on their interests, but mainly developmental psychology research using experimental psychological methods) and obtain experimental data for writing their graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

基本的には教員との個別面談を通して研究を進めていく。毎週の面談を通して、実験機材の準備、実験の実施、結果の分析といった作業について、教員からの指導や履修者からの進捗報告を行う。また授業期間の半ばと終わりの2回、全体ミーティングを実施する。全体ミーティングでは履修者がそれぞれの研究の進捗を報告し、教員と履修者全員で、その報告内容について議論を行う。

In an every-week individual meeting, each student reports the progress of her/his research, and the mentor will provide feedback on the report. In addition, two plenary meetings are held in the middle and at the end of the class period. At the plenary meetings, all students present progress reports about their research projects. All

students are also required to join a discussion about the results shown in the progress reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：個別面談
- 2回：個別面談
- 3回：個別面談
- 4回：個別面談
- 5回：個別面談
- 6回：個別面談
- 7回：全体ミーティング1
- 8回：個別面談
- 9回：個別面談
- 10回：個別面談
- 11回：個別面談
- 12回：個別面談
- 13回：個別面談
- 14回：全体ミーティング2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実験の準備、実施、結果の分析、論文の執筆といった作業は、授業時間内だけで完結するものではありません。授業時間外に積極的、かつ計画的に作業を進めるようにして下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個別面談での作業に関わる姿勢:50% 全体ミーティングでの発表内容:25% 全体ミーティングでの議論への貢献度:25%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

特になし。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

卒業論文を完成するためには、計画的な作業の実施の積み重ねが必須です。そうしたことを意識して授業に臨んで下さい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM522
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学（おもに、行動理論、認知行動理論）や健康心理学などの領域を研究テーマにする学生を対象に、各自で立案した研究計画に沿って、実際に心理学実験・調査を行っていく。

For students who have chosen the fields of clinical psychology (mainly behavioral theory, cognitive behavioral theory) or health psychology as the topic of research, conducting psychological experiments and surveys based on drafted research plans on the t

授業の内容 / Course Contents

研究テーマに関連した先行研究などを参考に、研究の実施計画（研究目的、仮説、対象者、研究方法など）を立案していく。実施計画の立案に際しては、研究計画や実験ツールをプレゼンテーションし、集団形式でディスカッションを繰り返す。そのような過程によって作成された実施計画に基づいて、心理学実験・調査を実施する。

Students draft practical research plan (goal of the research, postulates, subjects, research methods) with reference to preceding studies on the related research topic. While drafting practical plan, they give presentation of their research plan and experiment tools, conducting group discussions repeatedly. Based on the practical plan

created through this process they perform psychological experiments and studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理学演習 B2 の振り返り
- 2 回：各自の研究実施計画の発表と検討①
- 3 回：各自の研究実施計画の発表と検討②
- 4 回：各自の研究実施計画の発表と検討③
- 5 回：研究で必要なツールの作成①
- 6 回：研究で必要なツールの作成②
- 7 回：予備調査・実験の実施①
- 8 回：予備調査・実験の実施②
- 9 回：予備調査・実験の実施③
- 10 回：本調査・実験の実施と結果の整理①
- 11 回：本調査・実験の実施と結果の整理②
- 12 回：本調査・実験の実施と結果の整理③
- 13 回：本調査・実験の実施と結果の整理④
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義外の時間に、関連文献の講読、計画の立案、計画書の執筆などを行うことが「予習」として必要です。さらに実験調査の結果を適切に理解するためには、これまでに学習してきた心理学研究法や心理統計の知識を「復習」することも必要です。また到達目標を達成するためには、講義外の時間に指導教員や先輩と個別に相談したり、予備調査・実験の結果を整理する時間を取ることも必要になります。6月末までには研究計画書完成版を指導教員に提出し、春学期末には卒業論文の序論までの執筆を行います。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度および討論への参加:30% 課題の提出状況と内容:35% 研究計画の作成・実施状況:35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

古谷嘉一郎・村山綾 やってみよう！実証研究入門 ナカニシヤ出版 2022 9784779514456

白井利明・高橋一郎 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 2013 9784623065721

授業中に指示します。

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

温 文 (WEN WEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM523
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・実験を通してリサーチクエスチョンを解明する方法を身につける。
- ・研究の新規性・独創性を理解する。
- ・ Master the approach of clarifying a research question via psychological experiments.
- ・ Understand the novelty and originality of a good study.

授業の内容 / Course Contents

- ・学生の興味と教員の専門中から卒論テーマを決め、リサーチクエスチョンを解明する実験を立案して行う。
- ・研究の新規性・独創性を説明できるように、プレゼンの練習を行う。

Students will discuss with the lecturer to select a topic for their thesis. Students will make a research plan and conduct psychological experiments under the selected topic, and learn how to describe the novelty and originality of a good study in presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：全体ガイダンス
 2回：研究指導
 3回：研究指導
 4回：研究指導
 5回：研究指導
 6回：研究指導
 7回：研究指導
 8回：研究指導
 9回：研究指導
 10回：研究指導
 11回：研究指導
 12回：研究指導
 13回：研究指導
 14回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究に関連する文献の調査と実験は授業時間外で行うことが必要。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

山田 哲子 (YAMADA TETSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM524
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学の領域（家族、発達、学校など）に関する量的または質的研究を行い、卒業論文・卒業研究を作成する。

Conducting quantitative and qualitative analysis related to clinical psychology (for example, family, development and school), and writing graduation paper.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文を執筆するため、各自研究計画（研究目的、リサーチクエスション、調査協力者の選定、データ収集方法および分析方法、年間スケジュール）を作成し、全体発表、検討を行う。そして予備調査・本調査を実施する。教員との個別による研究指導のほか、定期的に研究の進捗状況のプレゼンテーション報告を行い、全体で議論・検討を行う。

In order to write their graduation paper, students create, present and discuss their research plan (research goals, research questions, selection of study participants, data gathering and analyzing methods, and yearly schedule). They also conduct preliminary and main studies. Aside from individual research guidance from professors, students also present their reports of their research progress at set times and discuss them with the whole class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究計画の発表と全体での検討①
- 3回：研究計画の発表と全体での検討②
- 4回：研究計画の発表と全体での検討③
- 5回：卒業研究指導①
- 6回：卒業研究指導②
- 7回：卒業研究指導③
- 8回：卒業研究指導④
- 9回：卒業研究指導⑤
- 10回：卒業研究指導⑥
- 11回：卒業研究指導⑦
- 12回：進捗状況の報告と全体での検討①
- 13回：進捗状況の報告と全体での検討②
- 14回：進捗状況の報告と全体での検討③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究テーマに関連する先行研究の講読、3年次の心理学演習にて作成した研究計画にもとづき、予備調査・本調査を実施および結果を整理することが求められる。また、授業時間外に積極的に指導教員などに進捗状況報告や相談を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文 (研究) への取り組み:50% 授業内での発表:30% 授業内の議論の積極的な参加:20%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings**その他 / Others**

- ・講義においては PowerPoint を使用します。映像資料や現物資料なども適宜活用します。
- ・ディスカッションを多く取り入れる予定なので、積極的な受講態度が期待されます。
- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用します。

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM525

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY4920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成。

This course aims to help students finish their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

学生が各自の関心に応じて研究テーマを立て、進捗状況を報告し、その内容について教員と仲間で議論する。議論への参加は必須である。

This course aims for students to:

- (1) present their progress in and findings of their research and
- (2) to discuss the research presented. All students are required to participate in the discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：発表と議論

2 回：発表と議論

3 回：発表と議論

4 回：発表と議論

- 5回：発表と議論
- 6回：発表と議論
- 7回：発表と議論
- 8回：発表と議論
- 9回：発表と議論
- 10回：発表と議論
- 11回：発表と議論
- 12回：発表と議論
- 13回：発表と議論
- 14回：発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の内容は、すべて事前に準備されている必要がある。メンバーの人数分の資料を準備し、授業開始時に配布する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への参加:20% 他の参加者への援助:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

都築 誉史 (TSUZUKI TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM526
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY4920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「心理学演習 F」の成果をふまえ、判断と意思決定の心理、消費者行動と購買意思決定、人間の情報行動とインターネット利用など、認知心理、広義の社会心理、高次認知過程などに関連した研究テーマで卒業論文を作成する学生に、実証的研究の実施、データ分析、論文作成に関して指導を行う。

Based on the progress in the course “Seminars on Psychology F,” this course provides guidance to students who have chosen the fields of cognitive psychology, extended social psychology, and high-level cognitive processing (the psychology of judgment and d

授業の内容 / Course Contents

「心理学演習 F」の成果をもとに、卒業論文テーマの精緻化を支援し、実験・調査の準備と実施について指導を行う。その過程で、個別に関連した参考文献を教示するとともに、履修者自身による文献検索と学習を支援する。卒業論文の研究テーマは「心理学演習 F」と同じく、判断と意思決定、消費者行動と購買意思決定、人間の情報行動とインターネット利用、高次認知過程（記憶、知識、言語理解、言語生成、問題解決、推論、意思決定）など、現代社会で最近、関心が高まっている社会心理学・認知心理学の研究領域を想定している。

履修者に対して、先行

Based on the progress in the course “Seminars on Psychology F,” students shall receive support with their graduation thesis themes and guidance on preparing and conducting surveys and experiments. During this process, the professor instructs students individually with reference to literature for their topic, also assisting them in self-learning and their search for literature. Research themes of graduation papers cover research areas in social psychology and cognitive psychology that are garnering attention in modern society, such as judgement and decision making, consumer behavior, consumer decision making, human behavior related to Internet use, and high-level cognitive processes (i.e. memory, perception, language comprehension and generation, problem solving, reasoning, decision making).

Students receive guidance on understanding preceding studies and adding personal views and observations, drafting a research plan, preparing and conducting experiments and surveys, analyzing data with statistical software, studying and discussing results, and completing their graduation papers. At the set times, all course participants present their research progress and discuss it. It is recommended that students complete their experiments and surveys before the end of the spring semester. Individual guidance on research is also actively given outside of class time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：卒業論文研究のガイダンス，研究の進め方(1)
- 2回：卒業論文研究のガイダンス，研究の進め方(2)
- 3回：履修者による報告と研究指導(1)
- 4回：履修者による報告と研究指導(2)
- 5回：履修者による報告と研究指導(3)
- 6回：履修者による報告と研究指導(4)
- 7回：履修者による報告と研究指導(5)
- 8回：履修者による報告と研究指導(6)
- 9回：履修者による報告と研究指導(7)
- 10回：履修者による報告と研究指導(8)
- 11回：履修者による報告と研究指導(9)
- 12回：履修者による報告と研究指導(10)
- 13回：履修者による報告と研究指導(11)
- 14回：履修者による報告と研究指導(12)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時や個別面談で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究の計画:30% 研究の遂行:70%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小塩真司・宅香菜子 心理学の卒業研究ワークブック 金子書房 2015 9784760826551
研究指導の中で適宜紹介する。

その他/ Others

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tsuzukisemi/>

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

小口 孝司 (OGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM527
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学分野の卒業研究を指導する。春学期は、既存の論文、書籍、新聞、各種データなどの文献レビューと予備実験／予備調査を実施し、本実験／調査の準備を完了することを目標にする。

Providing guidance for graduation research projects in the fields of industrial & organizational psychology, tourism psychology, and social psychology. The goal in the spring semester is to conduct a literature review, preliminary experiments, and research

授業の内容 / Course Contents

基本的に個別単位、グループ単位での指導で進めてゆく。各自、各グループの途中経過を適宜オンラインで共有し、情報共有を図り、論文作成に関する知識、技量の向上に努める。可能な人は、研究1を終了させて、その部分を記述し、論文にまとめていく。そのようにして、秋学期の研究2につなげてゆく。

Guidance is basically provided individually or in groups. Each student and each group properly share their interim results online and make efforts to improve their knowledge and skills for academic paper writing. Those students who finish their first research can describe and summarize it in the form of an academic paper. This

leads to second research in the second semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究テーマの相談 1
- 2回：研究テーマの相談 2
- 3回：文献レビュー 1
- 4回：文献レビュー 2
- 5回：文献レビュー 3
- 6回：文献レビュー 4
- 7回：研究計画の相談 1
- 8回：研究計画の相談 2
- 9回：研究計画の相談 3
- 10回：研究計画の相談 4
- 11回：予備実験／予備調査 1
- 12回：予備実験／予備調査 2
- 13回：予備実験／予備調査 3
- 14回：予備実験／予備調査 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①論文作成に向けた、心理学知見の収集
- ②分析に関する知識、技量の獲得と向上
- ③先行研究のさらなる読み込み

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

各自の研究内容に応じて適宜紹介してゆく。

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

応用行動分析および発達障害学に基づく実践研究

大石 幸二 (OISHI KOUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM529

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY4920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の作成および査読の経験を通じて、観察法による心理学研究の進め方を体験的に学び、得られた知見を今後の社会的課題解決に役立てられるようにする。

Through the process of writing graduation paper and making final adjustments, learning the procedure of psychological research by observation method from experience, employing the obtained insights for further solving problems.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の作成および査読後の加筆修正に関する演習を進める。また卒業論文の内容をポスターにまとめ、これを要領よく発表するスキルを高める。春学期には、研究倫理申請書を作成した上で、研究に関する同意・承諾（アセント）を得た後に、目的と方法の作成および加筆修正を行い、卒業論文の全体像を明らかにする。加えて、最終授業日までに「卒業研究概要」をまとめ（抄録原稿を提出）、夏季ゼミ合宿においてポスター発表（中間発表）を行う。

Students attend seminars on writing and making final adjustments to their graduation papers. Also, they

summarize the contents of their graduation papers in form of posters, improving their presentation skills. In spring semester students make the whole image of their graduation papers clear by preparing and making final adjustments of goals and methods, on top of preparing research ethics application form. In addition, before the final class they summarize their graduation research project concepts (by submitting summary drafts), and then present their posters during seminar lodging trip in summer.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：序論の構成と概要①
- 3 回：序論の構成と概要②
- 4 回：序論の構成と概要③
- 5 回：データ分析演習①
- 6 回：データ分析演習②
- 7 回：データ分析演習③
- 8 回：データ分析演習④
- 9 回：データ分析演習⑤
- 10 回：データ分析演習⑥
- 11 回：中間報告事前発表①
- 12 回：中間報告事前発表②
- 13 回：中間報告事前発表③
- 14 回：夏季ゼミ合宿説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 卒業論文中間報告の資料を決められたフォーマットで作成すること
2. 卒業論文中間報告（夏季ゼミ合宿時）のポスターを作成すること
3. 卒業論文中間報告（夏季ゼミ合宿時）の抄録原稿を作成すること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 積極的な授業参加:30% 課題提出:40% 課題発表・質疑応答:30%

テキスト / Textbooks

白井利明・高橋一郎 よくわかる卒論の書き方 [第2版] ミネルヴァ書房 2013 9784623065721 ○

参考文献 / Readings

大石幸二編著 通常学級における新たな学校改善術 学苑社 2024 9784761408503

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学科3年次選択科目「心理学演習I1」および「心理学演習I2」における学びを前提として、卒業論文の執筆に向けた演習を進める。

その他 / Others

1. 追加的な資料や参考文献は、演習時に配布する
2. 発表に対しては、演習時にフィードバックを行う

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

岡島 純子 (OKAJIMA JUNKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM530
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY4920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

データを用いて適切な解析・解釈ができ、研究手法の技術を取得する。エビデンスベースの臨床心理学（特に、親や子どもへの行動分析、認知行動療法）の知識を有し、自らの卒業論文のテーマをもとに、実験・調査を行う。

Students will be able to analyze data and can expect to improve their data analysis skills. Furthermore, students interested in the field of clinical psychology (mainly behavioral and cognitive-behavioral theories) can learn the skills to put their research

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の計画立案のために、エビデンスベースの臨床心理学（特に、親や子どもに関する行動分析、認知行動療法）に関する国内外の文献講読を経て、研究課題を解明するための研究手法を実践する。

With regard to your own graduation thesis, you will practice research methods to clarify your research question through subscription to domestic and international literature on evidence-based clinical psychology (mainly behavior analysis and cognitive behavioral therapy for parents and children).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究実施計画の発表・検討①
- 3回：研究実施計画の発表・検討②
- 4回：研究に必要な測定方法の整理と準備①
- 5回：研究に必要な測定方法の整理と準備②
- 6回：調査・実験の実施①
- 7回：調査・実験の実施②
- 8回：調査・実験の実施③
- 9回：調査・実験の結果整理①
- 10回：調査・実験の結果整理②
- 11回：調査・実験の結果整理③
- 12回：調査・実験の結果整理④
- 13回：研究計画のおさらい
- 14回：まとめと卒論計画発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、研究計画を考えるために必要な国内外の論文を講読したり、そこから研究方法を検討したり、各自の研究をすすめていくことが必要となります。また、発表やディスカッションを経て、復習として研究計画をよりよいものへと再考していきます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容とプレゼンテーション:30% 受講態度とディスカッション:30% 研究計画内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 1

Seminar on Thesis Writing 1

臨床心理学研究

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM531

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY4920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学、アタッチメント理論、精神分析的な精神療法に関する研究を行う。自分の問題意識を深める。心理学についてのこれまでの学びを研究として結実させる作業を通じて、客観的な物の見方や幅広い視野を身につける。

Students conduct research on clinical psychology, attachment theory, psychoanalytic mental therapy. They improve their individual problem consciousness. Students acquire a broad view and an objective way of looking at things from activities that lead from

授業の内容 / Course Contents

卒業論文・卒業研究作成の指導、助言を行う。自分の問題関心を深め、研究テーマとして形にするために、議論する。先行研究を調べてオリジナリティのある研究、さらに意義のある研究となるように検討を進める。研究方法についての実現可能性および研究の倫理を考慮しつつ研究を進める。

演習における議論を通じて、様々な方法論について学ぶ。

In this course, students receive guidance and counseling on writing a graduation paper. Discussion is held to

define their research topics and promote individual interest to the problem. By exploring preceding studies, students make the research have originality and meaning. Students proceed with the research, taking into account research ethics and feasibility of research methods. Students learn various methodologies through discussions at the seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：卒業研究指導 1
- 2回：卒業研究指導 2
- 3回：卒業研究指導 3
- 4回：卒業研究指導 4
- 5回：卒業研究指導 5
- 6回：卒業研究指導 6
- 7回：卒業研究指導 7
- 8回：卒業研究指導 8
- 9回：卒業研究指導 9
- 10回：卒業研究指導 10
- 11回：卒業研究指導 11
- 12回：卒業研究指導 12
- 13回：卒業研究指導 13
- 14回：卒業研究指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

クリティカルシンキング研究論文編を読み直し、研究の基本を確認する。問題関心に関する論文を図書館などで探して読み込む。実際に予備調査など、研究の作業を進める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への積極的な取り組み:80% 議論への積極的な参加:20%

テキスト / Textbooks

メルツオフ クリティカルシンキング研究論文編 北大路書房 2005 4762824593 -

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

白井 述 (SHIRAI NOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM541
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文指導演習 1 から引き続き、卒業研究（各自の関心によるが、主には実験心理学的手法による発達心理学研究）を実施する。実験データの取得完了後は卒業論文執筆に関わる諸作業を行う。

Students conduct their graduation research (depending on their interests, but mainly developmental psychology research using experimental psychological methods) and obtain experimental data, and write graduate theses.

授業の内容 / Course Contents

基本的には教員との個別面談を通して研究を進めていく。毎週の面談を通して、実験の実施、結果の分析、卒業論文の執筆といった作業について、教員からの指導や履修者からの進捗報告を行う。また授業期間の半ばと終わりの2回、全体ミーティングを実施する。全体ミーティングでは履修者がそれぞれの研究の進捗を報告し、教員と履修者全員で、その報告内容について議論を行う。

In an every-week individual meeting, each student reports the progress of her/his research, and the mentor will provide feedback on the report. In addition, two plenary meetings are held in the middle and at the end of the class period. At the plenary meetings, all students present progress reports about their research projects. All students are also required to join a discussion about the results shown in the progress reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：個別面談
 2回：個別面談
 3回：個別面談
 4回：個別面談
 5回：個別面談
 6回：個別面談
 7回：全体ミーティング1
 8回：個別面談
 9回：個別面談
 10回：個別面談
 11回：個別面談
 12回：個別面談
 13回：個別面談
 14回：全体ミーティング2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実験の準備、実施、結果の分析、論文の執筆といった作業は、授業時間内だけで完結するものではありません。授業時間内に積極的、かつ計画的に作業を進めるようにして下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個別面談での作業に関わる姿勢:50% 全体ミーティングでの発表内容:25% 全体ミーティングでの議論への貢献度:25%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

特になし。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

卒業論文を完成するためには、計画的な作業の実施の積み重ねが必須です。そうしたことを意識して授業に臨んで下さい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

松永 美希 (MATSUNAGA MIKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM542
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY4920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学（行動療法、認知行動療法）、健康心理学などの領域で卒業論文を作成する者を対象に、各自が実施した研究結果の整理と、卒業論文の作成を目的とする。

For students that write their graduation papers in the fields of clinical psychology (mainly behavioral therapy, cognitive behavioral therapy) or health psychology, the goal is to organize the research results and write the graduation paper.

授業の内容 / Course Contents

個別指導と集団指導を通して、科学的研究の基礎要件を満たした研究を実施し、データを適切な統計手法を用いて処理する。得られた結果について、先行研究等を踏まえて適切に考察する方法を学ぶ、また科学的論文の基礎要件を満たした、心理学研究の論文を作成していく。

Students conduct research that meets the basic requirements for the scientific research, processing the data with the suitable statistical method. Also, they write an academic paper on psychological research that meets the basic requirements for a scientific paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：各自の研究結果の分析・記述①
- 2回：各自の研究結果の分析・記述②
- 3回：各自の研究結果の分析・記述③
- 4回：各自の研究結果の分析・記述④
- 5回：ゼミ内中間発表会①
- 6回：ゼミ内中間発表会②
- 7回：各自の研究結果の整理と考察①
- 8回：各自の研究結果の整理と考察②
- 9回：各自の研究結果の整理と考察③
- 10回：各自の研究結果報告と討論①（抄録を用いた討論）
- 11回：各自の研究結果報告と討論②（抄録を用いた討論）
- 12回：各自の研究結果報告と討論③（発表会資料の作成）
- 13回：ゼミ内最終プレゼンテーション①
- 14回：ゼミ内最終プレゼンテーション②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究論文を作成するにあたり、関連論文の精読、データの解析および記述などを、講義外の時間に自主的におこなうことが必要である。また、到達目標を達成するためには、指導教員等への相談、添削やゼミ討論をうけて、論文を繰り返し修正する作業を行っていく。11月中旬にはゼミ内での卒業論文の草稿を提出し、個別に添削を受けます。そのあとは、口頭試問の資料作成や予演をおこないます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度および討論への参加:30% 研究計画の実施:30% 研究結果の分析および論文作成への取り組み:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 東京図書 9784489022913
 白井利明・高橋一郎 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 9784623065721
 小塩真司・西口利文 質問紙調査の手順（心理学基礎演習）ナカニシヤ出版 9784779502002
 小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
 9784061548121
 授業内で指示する

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

温 文 (WEN WEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM543
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 卒業論文指導演習 1 で立案した研究を実施し、結果を論文としてまとめる方法を身につける。
- 研究の新規性・独創性に対する理解を深める。
- Conduct the research planned in the spring term.
- Further understand the novelty and originality of a good study.

授業の内容 / Course Contents

- 春学期で計画した研究を実行し、データを解析する。
- 得られた結果に基づき、卒論をまとめる。
- 研究の新規性・独創性を説明できるように、プレゼンの練習を行う。

Students will conduct the research they planned in the spring term and write the thesis basing on the results. Students will also practice presentations and describe the novelty and originality of their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2回：研究指導
 3回：研究指導
 4回：研究指導
 5回：研究指導
 6回：研究指導
 7回：研究指導
 8回：研究指導
 9回：研究指導
 10回：研究指導
 11回：研究指導
 12回：研究指導
 13回：研究指導
 14回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:		
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究に関連する文献の調査と実験は授業時間外で行うことが必要。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

山田 哲子 (YAMADA TETSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM544
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

臨床心理学の領域（家族心理学・家族療法など）で量的また質的な研究を行い、卒業論文・卒業研究を完成させる。

Students will conduct quantitative and qualitative analysis related to clinical psychology (for example, family psychology, and family therapy), and complete the graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文指導演習 1 に引き続き、自身の研究計画に基づいて研究を進め、論文としてまとめるための指導を行う。教員との個別による研究指導のほか、中間報告のプレゼンテーション発表、全体でのディスカッション・検討を経て、各自卒業論文を完成させる。

As a continuation of Seminar on Thesis Writing 1, students will receive guidance on conducting studies based on research plans and writing a graduation paper. Aside from individual guidance on research from professors, they present interim reports, hold whole group debate and discussion, and finalize graduation papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：中間報告：プレゼンテーション発表および全体での検討①
 3回：中間報告：プレゼンテーション発表および全体での検討②
 4回：中間報告：プレゼンテーション発表および全体での検討③
 5回：卒業論文執筆指導①
 6回：卒業論文執筆指導②
 7回：卒業論文執筆指導③
 8回：卒業論文執筆指導④
 9回：卒業論文執筆指導⑤
 10回：卒業論文執筆指導⑥
 11回：卒業論文執筆指導⑦
 12回：卒業論文執筆指導⑧
 13回：ポスター発表練習①
 14回：ポスター発表練習②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究計画に基づいて研究を進め、卒業論文の執筆を進めること。また、積極的に指導教員などに進捗状況報告や相談を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業研究の実施・論文執筆:60% 中間報告発表:20% 発表練習とその準備、積極的な議論:20%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・講義においては PowerPoint を使用します。映像資料や現物資料なども適宜活用します。
- ・ディスカッションを多く取り入れる予定なので、積極的な受講態度が期待されます。
- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用します。

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

石黒 格 (ISHIGURO ITARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM545

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY4920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成。

This course aims to help students finish their graduation theses.

授業の内容 / Course Contents

学生が各自の関心に応じて研究テーマを立て、進捗状況を報告し、その内容について教員と仲間で議論する。議論への参加は必須である。

This course aims for students to:

- (1) present their progress in and findings of their research and
- (2) to discuss the research presented. All students are required to participate in the discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：発表と議論

2 回：発表と議論

3 回：発表と議論

4 回：発表と議論

- 5回：発表と議論
- 6回：発表と議論
- 7回：発表と議論
- 8回：発表と議論
- 9回：発表と議論
- 10回：発表と議論
- 11回：発表と議論
- 12回：発表と議論
- 13回：発表と議論
- 14回：発表と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の内容は、すべて事前に準備されている必要がある。メンバーの人数分の資料を準備し、授業開始時に配布する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:60% 議論への参加:20% 他の参加者への援助:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

都築 誉史 (TSUZUKI TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM546
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY4920
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「卒業論文指導演習 1」の成果をふまえ、判断と意思決定、広義の社会心理、高次認知過程に関連した研究テーマで卒業論文を作成する学生に、研究指導と論文作成指導を行う。卒業論文研究を遂行し、卒業論文を完成させることが最終目標である。

Based on the progress in the course “Seminar on Thesis Writing 1,” guidance will be provided on practical research and academic paper writing to students who chose their research topic for their graduation paper from the fields of judgement and decision m

授業の内容 / Course Contents

「卒業論文指導演習 1」の成果をもとに、調査・実験データの分析と、論文執筆について指導を行う。卒業論文の研究テーマは、判断と意思決定、消費者行動と購買意思決定、人間の情報行動とインターネット利用、高次認知過程（記憶、知識、言語理解、言語生成、問題解決、推論、意思決定）など、現代社会で関心が高まっている認知心理学・社会心理学の研究領域を想定している。

本演習では履修者に対して、統計ソフトによるデータ解析、結果の考察・討論、卒業論文としてのまとめ方などを重点的に指導する。特に、統計ソフトによるデータ解析の遂行（

Based on the results of the course “Seminar on Thesis Writing 1,” students will receive guidance on academic research, analysis of experiment data, and academic writing. Research topics for graduation theses cover the research areas of cognitive and social psychology that are garnering attention in modern society, such as judgement and decision making, consumer behavior and consumer decision making, human behavior related to Internet use, and high-level cognitive processes (i.e. memory, perception, language understanding, language generation, problem solving, reasoning, decision making).

In this course, students will receive guidance on important aspects of analyzing data with statistical software, examining and discussing research results, and summarizing them for their graduation theses. Analyzing and understanding data with statistical software is especially important. Individual research guidance is actively provided outside of class time via the mailing lists.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：履修者による報告と研究指導，個別指導(1)
- 2回：履修者による報告と研究指導，個別指導(2)
- 3回：履修者による報告と研究指導，個別指導(3)
- 4回：履修者による報告と研究指導，個別指導(4)
- 5回：履修者による報告と研究指導，個別指導(5)
- 6回：履修者による報告と研究指導，個別指導(6)
- 7回：履修者による報告と研究指導，個別指導(7)
- 8回：履修者による報告と研究指導，個別指導(8)
- 9回：履修者による報告と研究指導，個別指導(9)
- 10回：履修者による報告と研究指導，個別指導(10)
- 11回：履修者による報告と研究指導，個別指導(11)
- 12回：履修者による報告と研究指導，個別指導(12)
- 13回：履修者による報告と研究指導，個別指導(13)
- 14回：履修者による報告と研究指導，個別指導(14)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。個別指導を授業時間外でも積極的に実施する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究の計画:30% 研究の遂行:70%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小宮 あすか・布井 雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2018 9784061548121

小塩真司 はじめての共分散構造分析：Amos によるパス解析 [第2版] 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司・宅香菜子 心理学の卒業研究ワークブック 金子書房 2015 9784760826551

上記のほか、研究指導の中で適宜紹介する。

その他/ Others

<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tszukisemi/>

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

小口 孝司 (OGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM547
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

産業・組織心理学、観光心理学、社会心理学分野の卒業研究を指導する。秋学期は実験・調査の実施、データ分析、論文のまとめを目標とする。

Providing guidance for graduation research projects in industrial & organizational psychology, tourist psychology, and social psychology fields. The goals of the fall semester are conducting experiments and researches, analyzing data, and finalizing acad

授業の内容 / Course Contents

個別指導を中心に授業を進める。実験・調査においては、大学院生と共同研究を実施することもある。途中経過の情報共有を図る。

The class is conducted with a focus on individual guidance. During experiments and research, it is possible to have a joint research project with graduate students. The sharing of interim progress reports is planned.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：予備実験／予備調査の結果の分析

2 回：本実験／本調査の計画

- 3回：本実験／本調査の準備
 4回：本実験／本調査の準備
 5回：本実験／本調査の実施1
 6回：本実験／本調査の実施2
 7回：結果の分析と考察1
 8回：結果の分析と考察2
 9回：論文の執筆1
 10回：論文の執筆2
 11回：論文の執筆3
 12回：論文の執筆4
 13回：論文発表／卒論発表の準備と練習1
 14回：論文発表／卒論発表の準備と練習2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) 遅くとも、秋学期授業開始までに予備実験または予備調査を実施しておくこと。
 (2) ある程度の結果が出た段階で、なるべく早く、まず卒業論文の抄録を書くこと。その抄録を担当教員が添削をする。これによって、各自、各グループの研究の骨子を自身で明確に理解することができる。この抄録から、各自の卒論の細かな記述に入っていく。抄録はなるべく早く、全員が必ず提出すること。
 (3) 卒論提出後は、卒論本文、抄録、卒論で用いたデータ、卒論で用いた文献等の PDF ファイル等を速やかに教員に提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究内容に応じて適宜個別に紹介する。

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

氏家 悠太 (UJIIE YUTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM548
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文指導演習 1 に引き続き、知覚心理学、認知心理学および実験心理学に関連するテーマについて、卒業論文を作成するための研究指導を行う。

As a continuation of the Seminar on Thesis Writing 1, students will receive guidance on practical research and writing graduation papers on topics related to perceptual psychology, cognitive psychology, and experimental psychology.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文指導演習 1 での活動内容をもとに、卒業研究を実施する学生に実験の実施と論文作成の指導を行う。また、履修者全員で、定期的の実験の進捗状況や収集したデータなどについて意見交換をする機会を設ける。

Based on the activities of the Seminar on Thesis Writing 1, guidance will be provided on conducting experiments and writing academic papers for students who work on their graduate research projects. Also, students discuss their experiment progress and data.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：教員との個別相談（1）
- 3回：教員との個別相談（2）
- 4回：教員との個別相談（3）
- 5回：全体演習（1）
- 6回：教員との個別相談（4）
- 7回：教員との個別相談（5）
- 8回：教員との個別相談（6）
- 9回：全体演習（2）
- 10回：教員との個別相談（7）
- 11回：教員との個別相談（8）
- 12回：教員との個別相談（9）
- 13回：全体演習（3）
- 14回：全体演習（4）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文指導演習1で行った研究活動の内容を踏まえて、演習に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業研究の計画・実施:60% 経過報告:20% 個別・全体討論:20%

卒業論文本体とは独立して評価を行う。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

応用行動分析および発達障害学に基づく実践研究

大石 幸二 (OISHI KOUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM549

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY4920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の作成および査読の経験を通じて、観察法による心理学研究の進め方を体験的に学び、得られた知見を今後の社会的課題解決に役立てられるようにする。

Through the process of writing graduation paper and making final adjustments, learning the procedure of psychological research by observation method from experience, employing the obtained insights for further solving problems.

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の作成および査読後の加筆修正に関する演習を進める。また卒業論文の内容をポスターにまとめ、これを要領よく発表するスキルを高める。秋学期には、研究倫理申請書を作成した上で、結果と考察の作成および加筆修正を行い、卒業論文を完成させる。加えて、最終授業日までに「卒業論文本体」と「卒業論文抄録」の提出準備を進め、ポスター形式による口頭試問の予演会を行う。

Students attend seminars on writing and making final adjustments to their graduation papers. Also, they summarize the contents of their graduation papers in form of posters, improving their presentation skills. In the

fall semester, students will prepare research ethics application and finalize their graduation papers by preparing and making final adjustments of results and observations. In addition to this, they continue the preparations for submitting their graduation paper and its abstract before the final class, and have preliminary oral exam with their posters.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：合宿後の修正発表①
- 3回：合宿後の修正発表②
- 4回：合宿後の修正発表③
- 5回：結果の分析と考察①
- 6回：結果の分析と考察②
- 7回：結果の分析と考察③
- 8回：目次と抄録の完成①
- 9回：目次と抄録の完成②
- 10回：目次と抄録の完成③
- 11回：卒論口頭試問演習①
- 12回：卒論口頭試問演習②
- 13回：卒論口頭試問演習③
- 14回：卒論口頭試問演習④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1. 卒業論文最終報告の資料を決められたフォーマットで作成すること
2. 口頭試問予演会のポスターを完成させること
3. 口頭試問のための読み上げ原稿を作成すること

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 積極的な授業参加:30% 課題提出:40% 課題発表・質疑応答:30%

テキスト / Textbooks

白井利明・高橋一郎 よくわかる卒論の書き方 [第2版] ミネルヴァ書房 2013 9784623065721 -

参考文献 / Readings

大石幸二編著 通常学級における新たな学校改善術 学苑社 2024 9784761408503

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学科4年次選択科目「卒業論文指導演習1」における学びを前提として、卒業論文の執筆に向けた演習を進める。

その他 / Others

1. 追加的な資料や参考文献は、演習時に配布する

2. 発表に対しては、演習時にフィードバックを行う

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

岡島 純子 (OKAJIMA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM550
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY4920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データを用いて適切な解析・解釈ができ、研究手法の技術を取得する。エビデンスベースの臨床心理学（特に、親や子どもへの行動分析、認知行動療法）の知識を有し、自らの卒業論文のテーマをもとに、実験・調査を行う。

Students will be able to analyze data and can expect to improve their data analysis skills. Furthermore, students interested in the field of clinical psychology (mainly behavioral and cognitive-behavioral theories) can learn the skills to put their research

授業の内容 / Course Contents

卒業論文の計画立案のために、エビデンスベースの臨床心理学（特に、親や子どもに関する行動分析、認知行動療法）に関する国内外の文献講読を経て、研究課題を解明するための研究手法を実践する。

With regard to your own graduation thesis, you will practice research methods to clarify your research question through subscription to domestic and international literature on evidence-based clinical psychology (mainly behavior analysis and cognitive behavioral therapy for parents and children).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究結果の分析と記述①
- 3回：研究結果の分析と記述②
- 4回：研究結果の分析と記述③
- 5回：研究結果の分析と記述④
- 6回：研究結果の整理と考察①
- 7回：研究結果の整理と考察②
- 8回：研究結果の整理と考察③
- 9回：研究結果の整理と考察④
- 10回：研究プレゼンテーションの準備①
- 11回：研究プレゼンテーションの準備②
- 12回：研究プレゼンテーションの準備③
- 13回：卒業論文発表会①
- 14回：卒業論文発表会②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、研究計画を考えるために必要な国内外の論文を講読したり、そこから研究方法を検討したり、各自の研究をすすめていくことが必要となります。また、発表やディスカッションを経て、復習として卒業論文をよりよいものへと再考していきます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容とプレゼンテーション:30% 受講態度とディスカッション:30% 研究計画内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文指導演習 2

Seminar on Thesis Writing 2

臨床心理学研究

林 もも子 (HAYASHI MOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM551

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY4920

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文・卒業研究を完成させる。自分の心理学研究を論文のルールに従って執筆し、発表することにより、客観的で論理的な文章の書き方、表現力を身に着ける。

Students finalize their graduation research project as a graduation paper. By writing about individual psychological research according to the rules of academic paper writing, and by presenting it, students will acquire the skill of objective and ethical

授業の内容 / Course Contents

クリティカルシンキング研究論文編を読み直し、研究の基本を確認する。卒業論文・卒業研究の結果を分析し、論文を執筆する過程で、心理学の研究論文の執筆規則や客観性や論理性について、アドバイスを行う。演習での議論により、批判的な力を身に着ける。口頭試問の資料や発表の仕方についてアドバイスする。

Students reread the chapters of research papers on critical thinking and identify the basics of research. After analyzing the results of the graduation research project, students will receive counseling on the rules for writing a research paper in psychology, on objectivity and logicity, in the course of writing the academic paper. Students

will develop critical thinking skills through discussions at the seminar. Students will receive counseling on the materials of the oral exam and the ways to make presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業論文執筆指導 1
- 2 回：卒業論文執筆指導 2
- 3 回：卒業論文執筆指導 3
- 4 回：卒業論文執筆指導 4
- 5 回：卒業論文執筆指導 5
- 6 回：卒業論文執筆指導 6
- 7 回：卒業論文執筆指導 7
- 8 回：卒業論文執筆指導 8
- 9 回：卒業論文執筆指導 9
- 10 回：卒業論文執筆指導 10
- 11 回：卒業論文執筆指導 11
- 12 回：卒業論文執筆指導 12
- 13 回：卒業論文執筆指導 13
- 14 回：卒業論文執筆指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

卒業研究の調査や実験を行い、データを統計的にまたは質的研究方法により分析する。研究結果に基づく考察を行い、論文を執筆する。また、研究発表の形での口頭試問の準備をし、資料を整える。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文執筆:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

心理学研究法 1

Research Methods in Psychology 1

実験的手法を中心に心理学の研究法を広く学ぶ

金子 彩子 (KANEKO AYAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM705

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学における研究法について、実験的手法を中心に様々な研究法に触れる。卒業論文研究を見据え、データを用いた実証的な思考方法と実験実施に際しての実践的な知識を身につけることを目指す。

Students will learn various research methods in psychology, with a focus on experimental methods. The goal is to acquire empirical thinking methods using data and practical knowledge for conducting experiments in preparation for graduation thesis research

授業の内容 / Course Contents

心理学における実証的研究法の基本である実験的手法を中心に学ぶ。実験心理の研究領域は多岐にわたるが、それぞれの領域においてよく利用される方法を理解し、自らの興味をどのように検討するべきか考えるための基礎知識とする。実験心理学とは対照的な質的研究について触れたり、具体的なデータや結果を確認することで理解を深める。近年問題となっている再現性の問題や研究倫理などにも触れながら、研究の仕方や姿勢を習得する。

This course focuses on experimental methods, which are the basis of empirical research methods in psychology.

Although there are a wide range of research areas in experimental psychology, this course will provide students with a basic understanding of the methods commonly used in each area and a basis for considering how to examine their own interests. We will touch on qualitative research, which is in contrast to experimental psychology, and deepen our understanding by confirming specific data and results. Students will learn how to conduct research and how to take a stance on it, touching on issues such as replicability and ethical issues, which have become problems in recent years.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実験の基礎1
- 3回：実験の基礎2
- 4回：実験の基礎3
- 5回：感覚・知覚1
- 6回：感覚・知覚2
- 7回：注意・認知・記憶1
- 8回：注意・認知・記憶2
- 9回：注意・認知・記憶3
- 10回：言語・思考・感情1
- 11回：言語・思考・感情2
- 12回：学習・発達1
- 13回：学習・発達2
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

できるだけ多くの研究法を紹介するので、毎時間終了後に資料を見直して自分なりに理解すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の確認テスト・コメントペーパー・出席：70% 最終テスト割合：30%

確認テストはランダムに、いずれかの授業回の最後に行う（複数回実施）。コメントペーパーでの質問等で授業への積極的参加を求める。

テキスト / Textbooks

PDF 資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

日本基礎心理学会 基礎心理学実験法ハンドブック 朝倉書店 2018 9784254520231

南風原 朝和（編集），下山 晴彦（編集），市川 伸一（編集） 心理学研究法入門—調査・実験から実践まで 東京大学出版会 2001 9784130120357

三浦 麻子（監修・著） なるほど！心理学研究法 北大路書房 2017 9784762829666

三浦 麻子（監修・著） なるほど! 心理学実験法 北大路書房 2017 9784762829963
授業中に適宜紹介する。

情報処理

Data Processing

Excel を利用した心理調査データの整理と統計分析実習

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM706

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY9930

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学の研究では調査で得られたデータを分析用に加工し、傾向を数値で記述し、表やグラフにまとめ、統計的に分析することで仮説を検証する。Excel を利用してこれらのデータ処理の基礎とレポートでの結果の記述方法について修得する。

In psychological research, data obtained from surveys is processed for analysis, trends are described numerically, summarized in tables and graphs, and hypotheses are verified through statistical analysis. Learn the basics of data processing and how to de

授業の内容 / Course Contents

実際の心理尺度を用いた調査の生データを利用し、入力形式と分析に必要なデータの加工、グラフや表の作成、論文・レポートに求められる書式に変更するための Excel の設定方法について学ぶ。

さらに Excel の数式と関数を利用して記述統計および基本的な統計的検定を実行することで、統計分析の選択基準と分析過程、結果の記述と解釈についても理解を深める。

Using raw data from surveys using actual psychological scales, learn about input formats, data processing

necessary for analysis, creation of graphs and tables, and how to set up Excel to change formats required for papers and reports. .

Furthermore, by using Excel formulas and functions to perform descriptive statistics and basic statistical tests, students will deepen their understanding of the selection criteria and process of statistical analysis, as well as the description and interpretation of results.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査データの入力：Excel の基本操作と入力形式，入力に有用な機能
- 2 回：分析の準備と記述統計：数式と関数を利用した逆転項目の変換と尺度得点の作成，平均値・中央値・最頻値・標準偏差・標準誤差の算出
- 3 回：水準ごとの記述統計：データの並べ替えと表の作成，レポートに求められる数値形式と表書式への変更
- 4 回：結果の図示：折れ線グラフ・棒グラフの作成とレポートに求められる表示形式への変更
- 5 回：妥当性と分布の偏り：調査方法や質問項目の影響による妥当性の低さとヒストグラムの作成，分布の偏りの確認
- 6 回：大きさを持つ 2 変数の関係性の図示：散布図の作成と疑似相関について
- 7 回：大きさを持つ 2 変数の関係性の数値化：相関係数および無相関検定と結果の記述
- 8 回：データに生じる誤差と全体的傾向の推定：標準誤差と母集団平均の区間推定
- 9 回：統計的検定：帰無仮説と有意確率は何を表すか，「有意」と効果量について
- 10 回：2 水準の平均の比較：対応のある t 検定と結果の記述
- 11 回：2 水準の平均の比較：等分散性の検定および対応のない t 検定と結果の記述
- 12 回：一要因 3 水準の平均の比較：一元配置分散分析および多重比較と結果の記述
- 13 回：名義尺度のクロス表：カイ二乗検定および残差分析と結果の記述
- 14 回：最終課題：Excel を利用した統計分析のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS で配布する分析の概要と Excel 操作の資料に目を通し，分析手法や操作方法の疑問点をまとめておくこと。

また授業内容を踏まえて扱った手法がどのような調査内容及び質問項目の分析に利用可能か，その場合留意すべき点はなにか整理すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 通常の授業内で指定する課題(複数):75% 最終授業内で指定する課題:25%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。資料を Canvas LMS で配布する。

参考文献 / Readings

栗原伸一・丸山敦史 統計学図鑑 オーム社 2017 9784274220807

大村平 統計のはなし【第3版】：基礎・応用・娯楽 日科技連 2022 9784817180292

大村平 統計解析のはなしーデータに語るテクニック 日科技連 2006 9784817180285

吉田寿夫 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房 1998
9784762821257

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Excel の入力，選択，保存などの基本操作を習得していることが望ましいが，不明点があれば実習時に対応する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業はすべてメディアセンターの PC 実習室で実施するため特に必要な準備はない。

所有する機器を利用しての実習も可能だが，その場合 Microsoft Office または Microsoft365 の Excel をインストールしておくこと。Excel があれば Macintosh PC の利用も可。

ただし他の表計算アプリ（Google スプレッドシート，Numbers，ポラリス Office など）およびタブレット・スマホの Office Mobile は使用できない。

Excel がインストールされていない場合は EES ライセンスプ

その他/ Others

Powerpoint および PDF 資料の配布と課題提示は Canvas LMS を通じて行う。課題提出にも Canvas LMS を利用する。

社会調査概論

Introduction to Social Research

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM721
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2920
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本語社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。

Students will understand the basic issues about the meaning and types of social surveys, and we will provide an outline of the basic issues concerning the process from collection of materials and data to analysis.

授業の内容 / Course Contents

社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査の種類（量的調査と質的調査など）と実例について学ぶ。加えて、データの収集から分析までの実施過程に関する基礎的な事項についても概説する。

Actual examples will be used for students to learn the history and purpose of social research, survey methodology, and survey types (quantitative survey, qualitative surveys, etc.). In addition, an overview will be given of the fundamental matters regarding the implementation process from the collection of data to its analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会調査とは：社会調査の役割、目的
- 2 回：調査設計：調査の企画、調査のスケジュール

- 3回：社会調査の歴史：日本と欧米における社会調査
 4回：日本における官公統計（1）：統計法と近年の社会調査
 5回：日本における官公統計（2）：基幹統計
 6回：問い・仮説の設定：記述的問いと説明的問い、理論仮説と作業仮説
 7回：社会調査の種類：面接調査、郵送調査、留置調査、集合調査、web 調査
 8回：標本調査（1）：標本調査の方法と特徴、無作為抽出
 9回：標本調査（2）：様々な無作為抽出調査、割当調査
 10回：質的調査：聴き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、混合調査
 11回：量的調査（1）：調査票の作成、変数、データハンドリング
 12回：量的調査（2）：集計、分析
 13回：報告書作成：報告書の執筆、結果のまとめかた
 14回：社会調査の今後：調査倫理、データアーカイブ、近年の社会調査

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で配布するスライドで示したキーワード等について、適宜インターネットや参考書で調べることを推奨します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内での課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

松本渉 社会調査の方法論 丸善出版 2021 9784621306314

轟亮・杉野勇 入門・社会調査法〔第4版〕 法律文化社 2021 9784589041418

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本授業では、社会調査に関する基礎事項について、初学者にも理解できるように具体例を多用しながら授業を進めていきます。

また心理学の分野で必須となる統計的内容について、苦手意識がある受講生でも分かるように配慮しておりますので、こちらも初学者にはおすすすめです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料を PDF でアップロードしますので、その資料が閲覧できる環境をご準備ください。

その他 / Others

この授業は社会調査士科目 A に対応している。詳しくは立教大学社会情報教育研究センターのホームページ (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/shakai/SitePages/about.aspx>) を参照すること。

社会調査設計法

Design Methods in Social Research

社会調査の企画と設計

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM722
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2920
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会調査を実施するための技法、とくに調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する一連の過程を理解する。

We will understand the methodology of social surveys, especially the processes from setting and planning the survey to gathering and organizing data.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の技法的側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理の諸方法について解説する。量的調査に関しては、量的調査の種類、標本抽出、調査票の作成、実査、エディティング、コーディング、データクリーニングについて、質的調査に関しては、聞き取り、参与観察フィールドへのアプローチやラポールの形成、フィールドノートの作成、その他のデータ測定・収集・整理の技法について扱う。また、社会調査における実験や、社会調査の現場が抱える課題など、近年の社会調査に関するテーマについても取り扱う。

Focusing on the technical aspects of social research, this course will explain various methods from survey planning and design to data collection and organization. For quantitative research, we will cover types of

quantitative surveys, sampling, questionnaire design, fieldwork, editing, coding, and data cleaning; for qualitative research, we will cover interviews, participatory field approaches, rapport building, field note taking, and other data measurement, collection, and organization techniques. The course will cover techniques for measuring, collecting, and organizing data. The course will also cover topics related to recent social survey, such as experiments and issues facing the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査の企画と設計
- 2 回：標本調査の理論と実際
- 3 回：標本抽出の実際
- 4 回：無作為標本の特徴
- 5 回：調査票の作り方
- 6 回：質問文の作り方
- 7 回：選択肢の作り方
- 8 回：調査の実施
- 9 回：調査データセットの作成
- 10 回：調査データの集計、分析と結果のまとめ方
- 11 回：インタビュー調査・フィールドワーク
- 12 回：実験と社会調査
- 13 回：調査データの整備と倫理
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

資料や関連書籍を読み、不明な点がないか確認すること。学習した統計量の計算手順を復習し、その性質についての理解を定着させること。指定された文献等から、社会調査法に関する疑問点や論点を主体的に整理していくことが理解を深めることにつながる。

予復習にかかる時間は1回の授業あたり概ね150分が目安である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内テストを複数回出題する：100%

授業中の議論の貢献度に加点する

テキスト / Textbooks

特に指定せず、講義レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

- 轟亮・杉野勇・平沢和司編 入門・社会調査法[第4版]—2ステップで基礎から学ぶ 法律文化社 2021
45890414139784589041418
- 松本渉 社会調査の方法論 丸善出版 2021

その他/ Others

本講義は社会調査協会の定める社会調査士指定項目 B 科目「調査設計と実施方法に関する科目」に該当する。その性質上、同 A 科目「社会調査の基本的事項に関する科目」（現代心理学部開講の「社会調査概論」または全学共通科目「社会調査入門」）の履修または同等の知識を習得済みであることを前提とする。知識の習得が不安なものは、各自復習をしておくこと。

社会調査演習

Seminar on Social Research

前田 楓／大久保 暢俊 (MAEDA KAEDE/ OKUBO NOBUTOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM723
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 通年
単位： 4
科目ナンバリング： PSY2920
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学的な視点から、統計的な手続きに基づいた社会調査を行うために、調査の企画から実施、データ分析・報告書作成までの実践スキルを習得することを目標とします。

The goal of this class is to obtain practical skills for conducting social research based on statistical processes from the point of view of psychology, including planning, conducting, analyzing data, and writing a report.

授業の内容 / Course Contents

心理学においては、人々の心のはたらきについての量的・質的データに基づいた実証的検討が必要とされます。この科目では、統計的な手続きに基づいた社会調査を行うために、調査の企画から実施、データ分析・報告書作成までの実践スキルを習得することを目的とします。受講生の関心に基づき、現代社会における心理学的な問題・トピックを対象にした調査課題を設定し、実際に質問紙や Web 調査を用いた統計的な調査をグループワークによって実施します。調査によって得られたデータは統計的な分析を行った結果としてまとめ、結果

In psychology, empirical studies of the work of a human mind, based on quantitative and qualitative data, are very important. The goal of this class is to obtain practical skills for conducting social research based on statistical processes, including planning, conducting, analyzing data, and writing a report. Depending on the interests of

students, this class will arrange survey tasks about psychological problems and topics of modern society, and students will conduct the statistical survey in groups using actual questionnaires or Web surveys. They will summarize the results of analyzing the data they have gathered and make observations about the results. Then they will write a report and make a presentation.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：社会調査の企画(1)：課題の選定
- 3回：社会調査の企画(2)：対象の選定
- 4回：社会調査の企画(3)：実施計画
- 5回：資料の収集、先行研究のサーベイ(1)：社会調査データの探し方
- 6回：資料の収集、先行研究のサーベイ(2)：計画の位置づけ
- 7回：資料の収集、先行研究のサーベイ(3)：予測と展開
- 8回：仮説の構築(1)：理論仮説
- 9回：仮説の構築(2)：操作化と作業仮説
- 10回：調査票作成(1)：質問文や選択肢のワーディング
- 11回：調査票作成(2)：設問フローの作成
- 12回：コーディング実習、無作為標本抽出の実習
- 13回：調査の実施(1)：事前の準備
- 14回：調査の実施(2)：実施上の注意点
- 15回：調査結果のデータ化(1)：回収時点検
- 16回：調査結果のデータ化(2)：エディテング
- 17回：調査結果のデータ化(3)：データセット作成、データクリーニング
- 18回：調査結果のデータ化(4)：データ入力
- 19回：統計分析ソフトの操作(1)：操作の確認
- 20回：統計分析ソフトの操作(2)：変数ビューの作成と注意点
- 21回：統計分析ソフトの操作(3)：SPSS以外のソフトの場合
- 22回：単変量・多変量のデータ分析(1)：相関、回帰分析の復習
- 23回：単変量・多変量のデータ分析(2)：重回帰分析の復習
- 24回：単変量・多変量のデータ分析(3)：潜在構造の社会調査的意義
- 25回：調査結果の読み方・レポートへのまとめ方(1)
- 26回：調査結果の読み方・レポートへのまとめ方(2)
- 27回：全体レポート作成、プレゼン指導(1)
- 28回：全体レポート作成、プレゼン指導(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:30% 授業内で指示した提出物:30% プレゼン及び出席:40%

テキスト / Textbooks

授業に必要な資料を適宜配布します。

参考文献 / Readings

安藤清志・村田光二・沼崎誠編 新版 社会心理学研究入門 東京大学出版会 2009

キャリアと心理学

Career Psychology

キャリアと心理学

内藤 淳 (NAITO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM725

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY1110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

①大学で心理学を学ぶ意義をキャリアの視点から理解・実感する。

②心理学を専攻した先輩の話聞くことで、自分の今後のキャリアのイメージを持てるようにする。

1. Students will learn to understand and feel the significance of studying psychology in the university in terms of future careers.

2. Students will listen to their senior students in the Graduate program in psychology and get an image of their future car

授業の内容 / Course Contents

この授業では、キャリアを考える際に必要となる基本的な知識や心理学の知見について学び、実際に社会で活躍している方々のお話を伺うことで、キャリアに関する理解を深めるとともに、心理学を学ぶことの意味を考える。

授業の前半は、キャリアに関する基本的な考え方やキャリア関連の理論を紹介する。自己の適性や仕事・組織についての理解を深めるための講義となる。

後半は、心理学を専攻し、現在社会の様々な領域で活躍されている方々をゲストスピーカーとしてお招きし、それぞれのキャリアや仕事についてのお話を伺う（家

Students will learn the basic knowledge and findings in psychology necessary for the future career, promote their understanding of the career by listening to people who play an active part in the society, and think of the meaning of studying psychology.

The first half of the class introduces basic approaches to career and theories related to it. Lectures are given to promote students' understanding of work and organizations and their own suitability to different types of jobs and organizations.

The second half features guest speakers who used to study in the graduate program in psychology and have active roles in various social areas (family court probation officers, psychologists in Metropolitan police department (civil servants), certified clinical psychologists, counselors, people from an information service provider, IT industry, electrical industry, or writers (travel)). (Guest speakers might change.)

Students will acquire hints to get the image of their future career from the whole course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入「キャリアと心理学」 ～キャリアとは何か
- 2 回：キャリアの発達とデザイン ～キャリアに関するさまざまな理論
- 3 回：キャリアを考えるための前提 1
自己理解 ～適性と指向
- 4 回：キャリアを考えるための前提 2
仕事と組織の理解
- 5 回：キャリアを考えるための前提 3
自己と仕事・組織のマッチング
- 6 回：ゲストスピーカーの講演①
- 7 回：ゲストスピーカーの講演②
- 8 回：ゲストスピーカーの講演③
- 9 回：ゲストスピーカーの講演④
- 10 回：働く上で求められる能力とワーク・モチベーション
- 11 回：ゲストスピーカーの講演⑤
- 12 回：ゲストスピーカーの講演⑥
- 13 回：ゲストスピーカーの講演⑦
- 14 回：持続的なキャリア形成に向けて ～職業性ストレスとワーク・ライフ・バランス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業前後の予習または復習として、テキストの該当する章の通読を推奨します。

その他必要な場合には、授業の中および「CanvasLMS」システム上で案内を行います。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席およびコメントペーパーの内容評価（毎回の授業の後、「CanvasLMS」上の課題として記入・提出):70% 最終レポート割合 :30%

テキスト/ Textbooks

小口孝司（監修）・内藤淳（著） キャリア形成に活かす心理学 誠信書房 2024 9784414300277 ○

参考文献 / Readings

宗方比佐子・渡辺直登 編著 キャリア発達の心理学仕事・組織・生涯発達 川島書店 2002 4761007575 3011

渡辺三枝子 編著 新版キャリアの心理学 キャリア支援への発達のアプローチ ナカニシヤ出版 2007 9784779501753

小口孝司・楠見孝・今井芳昭 編著 仕事のスキル 自分を活かし、職場を変える 北大路書房 2009 762826771

二村英幸 個と組織を生かすキャリア発達の心理学自律支援のマネジメント論 金子書房 2009 9784760823437 3034

必要な場合、参考文献等を適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

・「キャリア」と「心理学」に関する講義内容を的確に理解した上で、それを自分の中で咀嚼し、自らの今後のキャリアと結び付けながら思考を深めていく力

・講義を通じて理解したこと、考えたこと、感じたことを、自分の言葉で説得力のある文章として表現する力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の中では、PCなどの機材を使用する必要ありません。ただし、各回の授業後に提出するコメントペーパー、および期末に提出する課題レポートは、「CanvasLMS」システム上の「課題」として提出してもらいますので、PCなどの機材の使用が必要となります。

その他/ Others

各回の授業のコメントペーパーおよび期末の課題レポートは、「CanvasLMS」システム上で記入・提出します。

心理学実験実習 2 (A)

Practice in Psychological Experimental Methods 2

氏家 悠太／温 文／田中 拓海／藤巻 峻／女川 亮司 (UJIIE YUTA/ WEN WEN/ TANAKA TAKUMI/
FUJIMAKI SHUN/ ONAGAWA RYOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM726
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： PSY2930
使用言語： 日本語
授業形式： 実験
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学実験の計画立案や実施，データの集計と基礎的な統計解析，報告書の作成に関して，具体的な体験を通して理解し，習得する。

Learning how to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業は「心理学調査実習」と対になっており，春学期に「心理学実験実習」を履修する者は秋学期に「心理学調査実習」を，また秋学期に「心理学実験実習」を履修する者は春学期に「心理学調査実習」を履修することになる。各科目とも春学期と秋学期の授業内容は同じである。

また，各学期において，「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」は一連の「心理学実験実習」科目として運営される。したがって，各学期において「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」を共に履修することとなる。

「心理学実験実習」は初回に全体ガイド

This class comes in pair with "Practice in Psychological Research Methods" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in spring semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the spring semester. The contents of each class are the same between the semesters.

Also, in each semester, "Practice in Psychological Experimental Methods 1" and "Practice in Psychological Experimental Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Experimental Methods" course. Students are thus required to take both "Psychological Experimental Methods 1" and "Psychological Experimental Methods 2" in the spring or fall semester.

At the start of "Practice in Psychological Experimental Methods" course, general guidance is conducted. It is important to be present at the guidance, because it communicates all the important points in detail. Starting from week 2, students engage in experiment training with the guidance of their instructors and learn to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports. Specifically, after week 3 they do practical training in small groups.

The training topics are listed below. Also, students receive individual and group guidance on reports and group guidance on research.

1. Visual search. 2. Sound localization. 3. Sensory scales. 4. Short-term memory. 5. Mental rotation. 6. Brain function measurement by NIRS. 7. GSR.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習種目（1）
- 3回：集団レポート指導
- 4回：実習種目（2）
- 5回：個別レポート指導（1）
- 6回：実習種目（3）
- 7回：個別レポート指導（2）
- 8回：実習種目（4）
- 9回：個別レポート指導（3）
- 10回：実習種目（5）
- 11回：実習種目（6）
- 12回：実習種目（7）
- 13回：集団研究指導
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各実習種目について、実施前に「心理学実験実習要領書」の内容を読み、予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

種目毎に提出するレポートにより評価する。レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学実験実習要領書」を用いる。毎週持参すること。

参考文献 / Readings

「心理学実験実習要領書」に記載。

注意事項（検索結果画面）

2016～2021 年度入学者対象

心理学実験実習 2 (B)

Practice in Psychological Experimental Methods 2

氏家 悠太／金子 彩子／藤巻 峻／女川 亮司 (UJIIE YUTA/ KANEKO AYAKO/ FUJIMAKI SHUN/
ONAGAWA RYOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM727

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： PSY2930

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学実験の計画立案や実施，データの集計と基礎的な統計解析，報告書の作成に関して，具体的な体験を通して理解し，習得する。

Learning how to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業は「心理学調査実習」と対になっており，春学期に「心理学実験実習」を履修する者は秋学期に「心理学調査実習」を，また秋学期に「心理学実験実習」を履修する者は春学期に「心理学調査実習」を履修することになる。各科目とも春学期と秋学期の授業内容は同じである。

また，各学期において，「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」は一連の「心理学実験実習」科目として運営される。したがって，各学期において「心理学実験実習 1」と「心理学実験実習 2」を共に履修することとなる。

「心理学実験実習」は初回に全体ガイド

This class comes in pair with "Practice in Psychological Research Methods" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in spring semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods" in the spring semester. The contents of each class are the same between the semesters.

Also, in each semester, "Practice in Psychological Experimental Methods 1" and "Practice in Psychological Experimental Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Experimental Methods" course. Students are thus required to take both "Psychological Experimental Methods 1" and "Psychological Experimental Methods 2" in the spring or fall semester.

At the start of "Practice in Psychological Experimental Methods" course, general guidance is conducted. It is important to be present at the guidance, because it communicates all the important points in detail. Starting from week 2, students engage in experiment training with the guidance of their instructors and learn to draft plans for psychological experiments, conduct them, collect data, conduct basic statistical analysis and write reports. Specifically, after week 3 they do practical training in small groups.

The training topics are listed below. Also, students receive individual and group guidance on reports and group guidance on research.

1. Visual search. 2. Sound localization. 3. Sensory scales. 4. Short-term memory. 5. Mental rotation. 6. Brain function measurement by NIRS. 7. GSR.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：実習種目（1）
- 3回：集団レポート指導
- 4回：実習種目（2）
- 5回：個別レポート指導（1）
- 6回：実習種目（3）
- 7回：個別レポート指導（2）
- 8回：実習種目（4）
- 9回：個別レポート指導（3）
- 10回：実習種目（5）
- 11回：実習種目（6）
- 12回：実習種目（7）
- 13回：集団研究指導
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各実習種目について、実施前に「心理学実験実習要領書」の内容を読み、予習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習課題ごとに提出するレポート:100%

種目毎に提出するレポートにより評価する。レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学実験実習要領書」を用いる。毎週持参すること。

参考文献 / Readings

「心理学実験実習要領書」に記載。

注意事項（検索結果画面）

2016～2021 年度入学者対象

心理学調査実習 2 (A)

Practice in Psychological Research Methods 2

前田 楓／石黒 格／中島 実穂／宮川 えりか (MAEDA KAEDE/ ISHIGURO ITARU/ NAKAJIMA MIHO/ MIYAKAWA ERIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM728

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： PSY2930

使用言語： 日本語

授業形式： 実験

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学における質問紙調査、面接調査の計画や実施、データのまとめ方、報告書の作成に関して、具体的な体験を通して理解し、習得する。

Learning and understanding how to prepare and conduct questionnaire surveys, surveys by interviewing, accumulate data, and write reports on psychology from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

少人数の班に分かれてインストラクターの指導下で実習をおこなう。実習内容は質問紙調査の実施と分析、心理尺度の開発、半構造化面接、KJ 法などである。

この授業は「心理学実験実習 2」と対になっており、「心理学実験実習 2(A)」（春学期）履修者は秋学期に「心理学調査実習 2(A)」を、また「心理学実験実習 2(B)」（秋学期）履修者は春学期に「心理学調査実習 2(B)」を履修することになる。2(A)と 2(B)の授業内容は同じである。

また、各学期において、「心理学調査実習 1」と「心理学調査実習 2」は一連の「心理学調査実

Students do practical training in small groups with the guidance of their instructors. The contents of the practical

training are conducting and analyzing questionnaire surveys, designing psychological scales, semi-structured interviews, affinity diagrams (KJ Method).

This class is paired with the "Practice in Psychological Experimental Methods 2" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2A" in the spring semester take "Practice in Psychological Research Methods 2A" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2B" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods 2B" in the spring semester. The contents of 2A and 2B classes are the same.

Also, each semester, "Practice in Psychological Research Methods 1" and "Practice in Psychological Research Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Research Methods" courses. Students are thus required to take both "Psychological Research Methods 1" and "Psychological Research Methods 2" in the spring or fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、質問紙調査概論、授業内情報検索講習会
- 2 回：尺度の評価と利用
- 3 回：心理尺度の使い方
- 4 回：データ分析の基礎
- 5 回：HAD の使用法
- 6 回：重回帰分析
- 7 回：調査レポートの作成
- 8 回：面接法入門
- 9 回：半構造化面接
- 10 回：レポート全体／個別指導
- 11 回：パス解析
- 12 回：共分散構造分析
- 13 回：調査参加実習
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として、最低限、要領書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくことが必要である。さらに、毎週のレポートをまとめるために実習後のデータ分析、参考文献の検索と学習は必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習課題ごとに提出するレポート：100%

レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学調査実習要領書」その他の資料を用いる。

参考文献 / Readings

小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2018 9784061548121

小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2018 9784489022913

小塩真司 はじめての共分散構造分析 Amos によるパス解析 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司 研究事例で学 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2020
9784489023354

「心理学調査実習要領書」に記載。

その他/ Others

授業計画に記した実習種目の一部は実習の班によって順序が入れ替わる。

注意事項 (検索結果画面)

2016～2021 年度入学者対象

心理学調査実習 2 (B)

Practice in Psychological Research Methods 2

前田 楓／中島 実穂／小口 孝司／宮川 えりか (MAEDA KAEDE/ NAKAJIMA MIHO/ OGUCHI TAKASHI/ MIYAKAWA ERIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM729
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： PSY2930
使用言語： 日本語
授業形式： 実験
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

心理学における質問紙調査、面接調査の計画や実施、データのまとめ方、報告書の作成に関して、具体的な体験を通して理解し、習得する。

Learning and understanding how to prepare and conduct questionnaire surveys, surveys by interviewing, accumulate data, and write reports on psychology from practical experience.

授業の内容 / Course Contents

少人数の班に分かれてインストラクターの指導下で実習をおこなう。実習内容は質問紙調査の実施と分析、心理尺度の開発、半構造化面接、KJ 法などである。

この授業は「心理学実験実習 2」と対になっており、「心理学実験実習 2(A)」（春学期）履修者は秋学期に「心理学調査実習 2(A)」を、また「心理学実験実習 2(B)」（秋学期）履修者は春学期に「心理学調査実習 2(B)」を履修することになる。2(A)と 2(B)の授業内容は同じである。

また、各学期において、「心理学調査実習 1」と「心理学調査実習 2」は一連の「心理学調査実

Students do practical training in small groups with the guidance of their instructors. The contents of the practical

training are conducting and analyzing questionnaire surveys, designing psychological scales, semi-structured interviews, affinity diagrams (KJ Method).

This class is paired with the "Practice in Psychological Experimental Methods 2" class. Students who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2A" in the spring semester take "Practice in Psychological Research Methods 2A" in the fall semester, while those who took "Practice in Psychological Experimental Methods 2B" in the fall semester take "Practice in Psychological Research Methods 2B" in the spring semester. The contents of 2A and 2B classes are the same.

Also, each semester, "Practice in Psychological Research Methods 1" and "Practice in Psychological Research Methods 2" are administered as a series of "Practice in Psychological Research Methods" courses. Students are thus required to take both "Psychological Research Methods 1" and "Psychological Research Methods 2" in the spring or fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、質問紙調査概論、授業内情報検索講習会
- 2 回：尺度の評価と利用
- 3 回：心理尺度の使い方
- 4 回：データ分析の基礎
- 5 回：HAD の使用法
- 6 回：重回帰分析
- 7 回：調査レポートの作成
- 8 回：面接法入門
- 9 回：半構造化面接
- 10 回：レポート全体／個別指導
- 11 回：パス解析
- 12 回：共分散構造分析
- 13 回：調査参加実習
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習として、最低限、要領書の該当箇所にあらかじめ目を通しておくことが必要である。さらに、毎週のレポートをまとめるために実習後のデータ分析、参考文献の検索と学習は必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習課題ごとに提出するレポート：100%

レポートは原則として、翌週の授業日に提出しなければならない。提出の遅延は厳しい減点対象となる。また種目実施日に欠席した者にはレポートの提出を認めない。

テキスト / Textbooks

学科で作成した「心理学調査実習要領書」その他の資料を用いる。

参考文献 / Readings

小宮あすか・布井雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計：簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社
2018 9784061548121

小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2018 9784489022913

小塩真司 はじめての共分散構造分析 Amos によるパス解析 東京図書 2014 9784489021848

小塩真司 研究事例で学 SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第3版 東京図書 2020
9784489023354

「心理学調査実習要領書」に記載。

その他 / Others

授業計画に記した実習種目の一部は実習の班によって順序が入れ替わる。

注意事項 (検索結果画面)

2016～2021 年度入学者対象

心理学原書講読（入門）

Seminar on Basic English Reading in Psychology

川久保 惇 (KAWAKUBO ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM730
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2933
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この講義の目的は英語文献を読むための基本的スキルを習得することである。同時に、研究論文をまとめ、その内容について発表するスキルの向上を目指す。本講義の到達目標は、

- (1) 心理学に関する専門用語、研究デザインや分析に関する基礎的な知識を得ること、
- (2) 英語研究論文・文献を方法、結果、考察の観点から理解・評価すること、

である。

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to read English-language literature. It also enhances the development of students' skills in summarizing the contents of the research paper and making oral presentations.

授業の内容 / Course Contents

受講生は担当教員が用意した心理学に関する英語文献の中から、自身の興味関心に近いテーマに関するものを選択し、それらを読み解き、内容をまとめた上で日本語でプレゼンテーションを行う。また、他者のプレゼンテーションに対して建設的な意見・質問を行う。発表者は自身の発表に寄せられた質問に対して適切に答えるように努めてもらう。講義、およびプレゼンテーションは日本語で行うが、使用する論文・文献は全て英語で

書かれているものを使用する。

Students will choose the literature on the topic close to their interests and concerns from the list of English-language literature selected by their teaching staff and then read it and summarize its contents. Presentations will be made in Japanese. Also, it is expected that they give constructive opinions and ask questions to other presenters, and the presenters, in turn, would properly answer those. This course will be taught in Japanese. But all of the course materials are in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：担当文献の決定とプレゼンテーションの例
- 3回：プレゼンテーションの準備
- 4回：プレゼンテーション1
- 5回：プレゼンテーション2
- 6回：プレゼンテーション3
- 7回：プレゼンテーション4
- 8回：プレゼンテーション5
- 9回：プレゼンテーション6
- 10回：プレゼンテーション7
- 11回：プレゼンテーション8
- 12回：プレゼンテーション9
- 13回：プレゼンテーション10
- 14回：予備日・総評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は個人で発表を担当する（ただし、受講者数が多い場合はグループ発表となる可能性もある）。そのため、発表担当者は文献の読解やプレゼンテーションの準備等を授業時間外に各自で行う必要がある。また、発表者以外の受講者も事前に発表論文に目を通しておくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題への取り組み：発表担当、プレゼンテーション:50% ディスカッションへの参加態度：質問や意見等の発言:25% 理解度：リアクションペーパーの提出:25%

以上の評価を総合して単位認定を行う。なお、個人発表は単位取得の為の必須要件である。

テキスト / Textbooks

使用しない。授業時に必要な資料（英語論文等）を配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

多くの心理学に関する論文は英語で書かれている。そのため、英語論文の読解能力は卒業論文の執筆や大学院進学を目指す人にとって必要なスキルである。本講義は、これまでの経験を問わず今後英語論文に積極的に取り組みたい学生を対象としている。卒業論文研究の準備を早めに行いたい学生や大学院進学を希望する学生などの積極的な受講を期待したい。

本講義では心理学の英語論文を各自で読み進めて行く必要がある。そのため1年生にとっては難易度の高い講義になっている点を踏まえて履修するかどうか判断してほしい。

公認心理師の職責

Professionalism of Certified Public Psychologists

齋藤 誠四郎 (SAITO SEISHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM751
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3430
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師の役割、法的義務及び倫理、心理に関する支援を要するものなどの安全の確保、情報の適切な取り扱い、保健医療・福祉・教育その他の分野における具体的な業務、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携について理解することを目標とする。

The goal is to understand the roles of Certified Public Psychologists, legal responsibilities and ethics, how to ensure the safety of those who need psychological support, appropriate handling of information, tasks in healthcare, welfare, education, and o

授業の内容 / Course Contents

公認心理師の基本的な知識や実践に必要な視点、また心理職としての発達について、講義や架空事例などを通じて学習する。

In this class, you will learn about the basic knowledge of Certified Public Psychologists, the perspectives necessary for their practice, and their development through lectures and mock cases.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：公認心理師の役割

- 2回：公認心理師の法的義務及び倫理
- 3回：心理に関する支援を要する者等の安全の確保
- 4回：情報の適切な取り扱い
- 5回：公認心理師の業務と心理支援－保健医療分野
- 6回：公認心理師の業務と心理支援－福祉分野
- 7回：公認心理師の業務と心理支援－教育分野
- 8回：公認心理師の業務と心理支援－司法・犯罪分野
- 9回：公認心理師の業務と心理支援－産業・労働分野
- 10回：多職種連携及び地域連携
- 11回：支援者としての自己課題発見・解決能力
- 12回：生涯学習への準備
- 13回：公認心理師の今後の展開
- 14回：総論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への取り組み（授業時に指示する提出物）:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

野島一彦(編) 公認心理師の基礎と実践 第1巻 公認心理師の職責 遠見書房 2018 9784866160511

下山晴彦・慶野遥香 公認心理師の職責（公認心理師スタンダードテキストシリーズ 1） ミネルヴァ書房
2020 9784623086115

関係行政論

Legal & Administrative Systems

梶原 洋生 (KAJIWARA HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM752
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2930
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師を養成するために設けられたカリキュラム科目群のひとつである。公認心理師として社会で活動するために係る法制度等について理解する。

This is one of the subject groups in a curriculum for training Certified Public Psychologists. The goal is to understand policies and laws related to being a part of society as Certified Public Psychologists.

授業の内容 / Course Contents

公認心理師の基礎と実践に向けて、養成カリキュラムの科目群に相応しい関係行政の知識体系論を講じる。

As fundamentals and practice for Certified Public Psychologist, it teaches systematized knowledge on relevant administrative organizations suitable as a subject group in a training curriculum.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：はじめに

関係行政論に係る法制度の基本と全体像（1）

2 回：関係行政論に係る法制度の基本と全体像（2）

（前回授業の振返りを含む）

- 3回：保健医療分野に係る法制度（1）
（前回授業の振返りを含む）
- 4回：保健医療分野に係る法制度（2）
（前回授業の振返りを含む）
- 5回：保健医療分野に係る法制度（3）
（前回授業の振返りを含む）
- 6回：福祉分野に係る法制度（1）
（前回授業の振返りを含む）
- 7回：福祉分野に係る法制度（2）
（前回授業の振返りを含む）
- 8回：福祉分野に係る法制度（3）
（前回授業の振返りを含む）
- 9回：教育分野に係る法制度
（前回授業の振返りを含む）
- 10回：司法・犯罪分野に係る法制度（1）
（前回授業の振返りを含む）
- 11回：司法・犯罪分野に係る法制度（2）
（前回授業の振返りを含む）
- 12回：司法・犯罪分野に係る法制度（3）
（前回授業の振返りを含む）
- 13回：産業・労働分野に係る法制度
（前回授業の振返りを含む）
- 14回：おわりに
その他の法制度
（前回授業の振返りを含む）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

○

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

心理演習(A)

Seminar in Clinical Psychology

山田 哲子/井之上 祥子 (YAMADA TETSUKO/ INOUE SHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM755
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3430
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師として求められる、心理技法・心理査定・地域支援について、演習形式にて知識の習得とスキルの獲得を目的とする。

The purpose of this course is to acquire the knowledge and skills necessary for Certified Public Psychologists. To achieve the above objectives, exercises and case studies on psychological tests, psychological therapies, and community approaches will be c

授業の内容 / Course Contents

公認心理師資格取得のため、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討などを行う。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

- （1）コミュニケーション
- （2）心理検査
- （3）心理面接

(4) 地域支援等

- (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- (エ) 多職種連携及び

The purpose of this class is for students to acquire the knowledge and skills required for Certified Public Psychologist, including through exercises of role-playing and case studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：第1クールの第1回演習を行う。
- 3回：第1クールの第2回演習を行う。
- 4回：第1クールの第3回演習を行う。
- 5回：第1クールの第4回演習を行う。
- 6回：第2クールの第1回演習を行う。
- 7回：第2クールの第2回演習を行う。
- 8回：第2クールの第3回演習を行う。
- 9回：第2クールの第4回演習を行う。
- 10回：第3クールの第1回演習を行う。
- 11回：第3クールの第2回演習を行う。
- 12回：第3クールの第3回演習を行う。
- 13回：第3クールの第4回演習を行う。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各領域の演習及び事例検討を進めるにあたり、担当講師から必読書や参考資料の提示がなされる予定である。事前にそれを読み、不明な術語や概念等について、調べ学習を行うこと。この授業時間外の学習も含めて、「授業への積極的な参加」について評価を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的な参加:60% レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

必要な情報や連絡を、Canvas LMS などを通じて掲示するので、毎回の授業前後にかならず確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理演習(B)

Seminar in Clinical Psychology

山田 哲子／大橋 智 (YAMADA TETSUKO/ OHASHI TOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM756

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3430

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師として求められる、心理技法・心理査定・地域支援について、演習形式にて知識の習得とスキルの獲得を目的とする。

The purpose of this course is to acquire the knowledge and skills necessary for Certified Public Psychologists. To achieve the above objectives, exercises and case studies on psychological tests, psychological therapies, and community approaches will be c

授業の内容 / Course Contents

公認心理師資格取得のため、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討などを行う。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

- （1）コミュニケーション
- （2）心理検査
- （3）心理面接

(4) 地域支援等

- (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
- (エ) 多職種連携及び

The purpose of this class is for students to acquire the knowledge and skills required for Certified Public Psychologist, including through exercises of role-playing and case studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：第1クールの第1回演習を行う。
- 3回：第1クールの第2回演習を行う。
- 4回：第1クールの第3回演習を行う。
- 5回：第1クールの第4回演習を行う。
- 6回：第2クールの第1回演習を行う。
- 7回：第2クールの第2回演習を行う。
- 8回：第2クールの第3回演習を行う。
- 9回：第2クールの第4回演習を行う。
- 10回：第3クールの第1回演習を行う。
- 11回：第3クールの第2回演習を行う。
- 12回：第3クールの第3回演習を行う。
- 13回：第3クールの第4回演習を行う。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各領域の演習及び事例検討を進めるにあたり、担当講師から必読書や参考資料の提示がなされる予定である。事前にそれを読み、不明な術語や概念等について、調べ学習を行うこと。この授業時間外の学習も含めて、「授業への積極的な参加」について評価を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加:60% レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

必要な情報や連絡を、Canvas LMS などを通じて掲示するので、毎回の授業前後にかならず確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理演習(C)

Seminar in Clinical Psychology

山田 哲子/下平 美智代 (YAMADA TETSUKO/ SHIMODAIRA MICHIYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM757

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY3430

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師として求められる、心理技法・心理査定・地域支援について、演習形式にて知識の習得とスキルの獲得を目的とする。

The purpose of this course is to acquire the knowledge and skills necessary for Certified Public Psychologists. To achieve the above objectives, exercises and case studies on psychological tests, psychological therapies, and community approaches will be c

授業の内容 / Course Contents

公認心理師資格取得のため、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）、事例検討などを行う。

（ア）心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

- （1）コミュニケーション
- （2）心理検査
- （3）心理面接

(4) 地域支援等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ

(エ) 多職種連携及び

The purpose of this class is for students to acquire the knowledge and skills required for Certified Public Psychologist, including through exercises of role-playing and case studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：第1クールの第1回演習を行う。
- 3回：第1クールの第2回演習を行う。
- 4回：第1クールの第3回演習を行う。
- 5回：第1クールの第4回演習を行う。
- 6回：第2クールの第1回演習を行う。
- 7回：第2クールの第2回演習を行う。
- 8回：第2クールの第3回演習を行う。
- 9回：第2クールの第4回演習を行う。
- 10回：第3クールの第1回演習を行う。
- 11回：第3クールの第2回演習を行う。
- 12回：第3クールの第3回演習を行う。
- 13回：第3クールの第4回演習を行う。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各領域の演習及び事例検討を進めるにあたり、担当講師から必読書や参考資料の提示がなされる予定である。事前にそれを読み、不明な術語や概念等について、調べ学習を行うこと。この授業時間外の学習も含めて、「授業への積極的な参加」について評価を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的な参加:60% レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

必要な情報や連絡を、Canvas LMS などを通じて掲示するので、毎回の授業前後にかならず確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

心理実習

Practical Training in Clinical Psychology

松永 美希／岡島 純子／大橋 智 (MATSUNAGA MIKI/ OKAJIMA JUNKO/ OHASHI TOMO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM760
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	通年
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY3430
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

公認心理師としての心理実践の実習の基礎を身につける。公認心理師の支援の現場の見学を通じて、(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ) 多職種連携及び地域連携、(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を知的及び体験的に習得する。

Students will master the fundamental, practical know-how required of certified public psychologists. Through visits to the actual workplace of a certified public psychologists, students will come to understand the following both intellectually and experie

授業の内容 / Course Contents

公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ) 多職種連携及び地域連携、(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、現場を見学し、実習指導者又は実習指導教員による指導を受ける。

After understanding the fundamental knowledge and skills that are essential for certified public psychologists, students will visit the actual workplace of a therapist and will receive guidance from the responsible instructor or faculty member in the following areas: (A) team approaches to client support; (B) cooperation among multiple

professions and within communities; and (C) the professional ethics and legal obligations of certified public psychologists.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：主要5分野における見学等による実習の目標と内容について
- 2回：見学実習のための事前学習：保健医療分野を中心として
- 3回：見学実習のための事前学習：福祉・教育分野を中心として
- 4回：見学実習のための事前学習：司法・犯罪分野を中心として
- 5回：見学実習のための事前学習：産業・労働分野を中心として
- 6回：見学実習のための事前学習：心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- 7回：見学実習のための事前学習：多職種連携および地域連携
- 8回：見学実習のための事前学習：公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
- 9回：見学実習1
- 10回：見学実習2
- 11回：見学実習3
- 12回：見学実習4
- 13回：見学実習5
- 14回：見学実習6
- 15回：見学実習7
- 16回：見学実習8
- 17回：見学実習9
- 18回：見学実習10
- 19回：見学実習11
- 20回：見学実習12
- 21回：見学実習の振り返りのための事後学習：保健医療分野を中心として
- 22回：見学実習の振り返りのための事後学習：福祉・教育分野を中心として
- 23回：見学実習の振り返りのための事後学習：司法・犯罪分野を中心として
- 24回：見学実習の振り返りのための事後学習：産業・労働分野を中心として
- 25回：見学実習の振り返りのための事後学習：心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
- 26回：見学実習の振り返りのための事後学習：多職種連携および地域連携
- 27回：見学実習の振り返りのための事後学習：公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
- 28回：まとめ：主要5分野における見学等による実習発表会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

保健医療分野を含む主要5分野における見学等による実習を進めるにあたり、担当講師から必読書や参考資料の提示や紹介がなされる予定である。事前にそれを読み、不明な術語や概念、あるいは事例等について、調べ学習を行うこと。なおその際、既習科目である「公認心理師の職責」および「心理演習」の学びを参照するこ

と。この授業時間外の学習も含めて、「授業への積極的な参加」について評価を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加・態度:60% 発表会:20% レポート（春・秋）:20%

実習時間は 80 時間を満たすこと。事前連絡のあった、やむを得ない理由の欠席（就職活動、大学院入試、忌引き、通院、感染症が疑われる体調不調など）は補講を認める。事前連絡なく無断欠席（忌引や事故といった不測の事態を除いて）は補講は認めない。また学外実習の見学は、実習先機関の都合などにより、定刻に終わらない場合もあるので、余裕をもって予定を立てること。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

必要な情報や連絡を、Canvas LMS ないし Google Drive に提示するので、毎回の授業前後にかならず確認すること。特に、見学実習に関する重要なお知らせや緊急連絡、それから欠席時（出席停止を含む）の措置に関する指示については見逃さないようにすること。

心理学英語文献講読演習 1

English Reading for Psychology 1

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM770
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2931
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

論文を読み解く能力は、心理学分野で大学院進学や研究者を目指す方にとって不可欠なスキルです。心理学の主要な文献や国際的な研究は、ほとんどが英語で書かれています。

「心理学英語文献講読演習 1」コースでは、英語の文献をゆっくりかつ確実に読む経験を積むことを目指します。この授業では、論文の標準的な構成（序論、方法、結果、考察）を学び、論文を効果的に理解するためのテクニックを習得します。

The ability to read and interpret academic papers in English is a fundamental skill for those planning to pursue graduate studies or a career in research. The Seminar on English Reading in Psychology (Level 1, Beginner Level) aims to develop this skill by

授業の内容 / Course Contents

初級コースは、英語で書かれた学術論文の読解経験が限られている学生向けに設計されており、この分野でのスキル向上を目指しています。また、一定の読解能力を有しているが、さらなる練習とスキルの洗練を望む学生にも適しています。授業では、毎週英語の学術論文や抄録を段階的に読むことで、理解を促進します。

学生は指定された論文を個別に読み、その後グループ討議に参加して内容を分析し理解します。講師は、読解

中に遭遇する困難な部分や複雑な用語の解説を支援します。学期を通じて、学生は合計3～5本の学術論文を取り組みます。このコ

This introductory course is tailored for students who have limited experience in reading English-language academic papers and are seeking to enhance their skills in this area. It is also suitable for those who already possess some proficiency but wish to further practice and refine their abilities. The course involves weekly readings of academic papers or abstracts in English, approached gradually to facilitate comprehension.

Students are expected to read the assigned papers individually and then engage in group discussions to analyze and understand the content. The instructor will assist in clarifying any challenging sections or complex terminology encountered in the readings. Over the semester, students will practice with a total of 3-5 academic papers. This course structure is designed to provide a supportive environment for developing the skills necessary to confidently navigate psychological and general academic research.

Students will be required to complete reading practice tasks and submit review sheets for selected articles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Course Overview
- 2回：[Lecture] Examining the Structure of Academic Articles
- 3回：[Practice] Abstract Reading Practice 1
- 4回：[Practice] Abstract Reading Practice 2
- 5回：[Practice] Collective Reading Article 1
- 6回：[Discussion] Group Review of Article 1
- 7回：[Practice] Collective Reading of Article 2
- 8回：[Discussion] Group Review of Article 2
- 9回：[Practice] Collective Reading of Article 3
- 10回：[Discussion] Group Review of Article 3
- 11回：[Practice] Collective Reading of Article 4
- 12回：[Discussion] Group Review of Article 4
- 13回：[Discussion] Discussion of Selected Articles
- 14回：[Lecture] Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

There will be time given in class to read material but you need to do some independent reading in preparation for each class.

授業内で論文を読む時間を設けますが、毎週少しずつ各自で読んでくる必要があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussion:30% Completing Assigned Reading:20% Submission of article review sheets (many times) :50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading will be distributed in class.

論文はクラスで配布されます。

その他 / Others

The course contents will be adjusted according to the abilities and needs of the students.

授業の具体的な進め方は、履修者の数やニーズに合わせて適宜調整していきます。

心理学英語文献講読演習 2

English Reading for Psychology 2

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM771
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY3931
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

論文の読解能力は、心理学の分野で大学院進学や研究者を目指す人にとって不可欠なスキルです。心理学の多くの文献や国際的な研究も英語で書かれているため、この能力は特に重要です。

心理学英語文献講読演習 2（中級～上級）では、論文の要点を効果的に理解し、批判的思考能力を養うことを目標とします。このコースは、基本的な読解スキルを身に付けた学生が、さらにその能力を深めていくために設計されています。

授業では、学生の読解力向上に焦点を当て、心理学のさまざまな分野から選ばれた論文を読むことで、学術的表現や専門用語に慣れ

Building on the foundational skills developed in Level 1, the Seminar on English Reading in Psychology (Level 2) is designed for those who have already established a basic proficiency in reading academic papers and are looking to deepen their understandin

授業の内容 / Course Contents

心理学英語文献講読演習 2 は、心理学英語文献講読演習 1 を履修済みの学生、自主的に英語の学術論文を読む能力がある学生、また学習意欲が高い学生を対象としています。この授業では、論文の構成要素である各セク

ションの意味と機能を深く理解し、論文の効率的かつ効果的なレビュー方法を習得します。

ディスカッションの時間には、論文の特定の箇所や全体的な評価に焦点を当て、学術的な研究論議に参加する経験を積みます。学生は毎週指定された英語の学術論文を読み、小グループでその内容について討論します。1学期にわたって、各学生は学術論

The English Reading in Psychology Level 2 course is designed for students who have completed Level 1, those who are already capable of reading academic literature to some extent, and those keen to further enhance their reading skills. In this course, students will deepen their understanding of the structure and functions of the different sections in academic papers and learn techniques for efficiently and effectively reviewing scholarly literature.

During discussions, students will engage in the comprehensive analysis of articles, focusing on both overall assessments and specific elements, thereby gaining experience in academic discourse and research evaluation.

The course involves weekly reviews of English-language academic papers, with small group discussions to dissect and understand their content. Over the semester, each student will read 4-5 papers.

Additionally, the course will introduce students to critical evaluation of research, new methodologies in Open Science, and targeted literature review strategies. This level aims to build upon the foundational skills, equipping students with advanced capabilities for engaging with and analyzing psychological research literature.

Students will be required to complete reading practice tasks and submit review sheets for selected articles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：[Lecture] Course Overview & Class Structure
- 2 回：[Lecture] Examining the sections of Academic Articles and their connections
- 3 回：[Practice] Abstract Reviews
- 4 回：[Lecture] How to Review Literature
- 5 回：[Lecture] The Replication Crisis & Open Science
- 6 回：[Practice] Collective Reading of Article 1
- 7 回：[Discussion] Group Discussion of Related Research to Article 1
- 8 回：[Practice] Collective Reading of Article 2
- 9 回：[Discussion] Group Discussion of Related Research to Article 2
- 10 回：[Practice] Collective Reading of Article 3
- 11 回：[Discussion] Group Discussion of Related Research to Article 3
- 12 回：[Practice] Collective Reading & Discussion of Article 4
- 13 回：[Practice] Collective Reading & Discussion of Article 5
- 14 回：[Lecture] Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

There will be time given in class to read material but in the Level 2 class it is important that you engage in independent reading in preparation for each class.

授業に課題論文を読んだり、疑問点を話し合ったり、質問ができる週を設けますが、心理学英語文献講読演習2クラスでは授業外でも自主的に論文を読むことが求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in group discussion:30% Reading Assigned Articles:20%

Submission of article review sheets (many times) :50%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Reading will be distributed in class.

論文はクラスで配布されます。

その他 / Others

The course contents will be adjusted according to the abilities and needs of the students.

授業の具体的な進め方は、履修者の数やニーズに合わせて適宜調整していきます。

心理学英語表現演習 1

English Expression for Psychology 1

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HM772
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	PSY2931
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

心理学研究における主要な言語は英語であり、研究を英語で討論し発表する能力は重要です。心理学英語表現演習 1（初級）では、基本的なプレゼンテーションスキル、学術用語の使用法、そして研究内容の英語での討論方法を学びます。

学期末までに、学生は心理学研究で頻繁に使用される表現や専門用語を理解し、研究内容を表現し議論するための基本的なスキルを身に付けることが期待されます。このコースは、学術的な環境における効果的なコミュニケーション、特に心理学の文脈でのそれを基礎から学ぶためのものです。

Understanding and effectively communicating psychology research in English is crucial, as English remains the primary language of the field. The English Expression in Psychology course, Level 1 (beginner level), focuses on developing foundational skills f

授業の内容 / Course Contents

この初級コースは、心理学および関連する研究を英語でプレゼンテーションするための基礎的なスキルを身につけることを目的としています。コースでは、心理学のさまざまなトピックを取り上げ、関連する用語や効果的なプレゼンテーションの構成方法を学びます。

授業では、グループ活動、クラスディスカッション、そしてミニプレゼンテーションを通じて、プレゼンテーションスキルを育成します。これらの活動は、英語による研究発表の能力を高めるために特に重要です。授業は段階的に進められ、学術プレゼンテーションの技術を徐々に身につけるよう

This beginner-level course is designed to equip students with the foundational skills necessary for presenting psychology and related research in English. Throughout the course, we will cover a diverse range of topics in psychology, focusing on learning relevant terminology and the fundamentals of structuring effective presentations.

The course structure includes a variety of interactive activities such as group work, class discussions, and mini-presentations. These activities are specifically aimed at developing presentation skills and enhancing students' ability to communicate research findings coherently and confidently in English. Each session will build on the last, progressively guiding students in the art of academic presentation.

A significant component of the course is practical application. Students will engage in group activities and discussions, gaining hands-on experience in crafting and delivering presentations. This approach not only reinforces their understanding of psychological concepts but also improves their public speaking and presentation skills.

By the end of the course, students will have the opportunity to demonstrate their learning and progress through a final presentation, lasting 10-15 minutes, on a psychology-related topic of their choice.

The goal is to ensure that students leave the course not only with a deeper understanding of psychology topics but also with the confidence and ability to present these topics effectively in an academic setting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：[Lecture] Course Overview & Class Structure
- 2回：[Lecture] How to do research and read academic papers
- 3回：[Lecture] Oral presentation structure & slide construction
- 4回：[Discussion] Group Discussion and Preparation on Topic 1
- 5回：[Practice] Mini Presentations on Topic 1
- 6回：[Discussion] Group Discussion and Preparation on Topic 2
- 7回：[Practice] Mini Presentations on Topic 2
- 8回：[Lecture] Connecting Research & Critical Evaluation
- 9回：[Discussion] Group Discussion and Preparation on Topic 3
- 10回：[Practice] Mini Presentations on Topic 3
- 11回：[Discussion] Final Presentation Topics & Debate Format
- 12回：[Practice] Debated Topic
- 13回：[Practice] Preparation for Final Presentations
- 14回：[Practice] Final Preparations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Limited reviews of English language material relating to research.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussion:30% In-class Presentation:40% Final Presentation (Slides & Script):30%

テキスト / Textbooks

Nothing.

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他 / Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

心理学英語表現演習 2

English Expression for Psychology 2

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM773
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3931
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学英語表現演習 2（中級・上級レベル）は、基礎コースで得たスキルを基にして、英語で心理学研究を討論し、プレゼンテーションを行う能力をさらに伸ばすことを目指しています。心理学研究の主要な言語として英語の重要性を踏まえ、国内外でのコミュニケーションスキルの向上を求める方々にとって、このコースは非常に有益です。

この中級から上級レベルのコースでは、学会や会議などの学術的な場で求められる英語の口頭発表スキルを養います。コースの進行は段階的で、学生がプレゼンテーション技術を実践的に学び、磨くための多くの機会を提

The Seminar on English Expression in Psychology 2 (Intermediate-Advanced Level) is designed to build upon the skills acquired in the introductory course, focusing on enhancing the ability to discuss and present psychological research in English. Recognizi

授業の内容 / Course Contents

このコースは、心理学の研究を英語で表現し、発表する能力を向上させることを主眼としています。コース全体を通じて、ミニプレゼンテーション、グループディスカッション、さまざまな研究トピックの探求など、プ

プレゼンテーションスキルを構築するためのさまざまな活動が行われます。

このコースの焦点は、包括的な一つのプレゼンテーションに限定するのではなく、実践的なスキルの発展にあります。コースが進行するにつれて、方法論、結果、議論など、プレゼンテーションの異なる側面に取り組み、幅広いスキルセットを習得します。

同僚および

This course is designed to enhance your proficiency in expressing views on and presenting psychological research in English. Throughout the course, you will engage in a variety of activities aimed at building your presentation skills, including mini-presentations, group discussions, and exploration of diverse research topics.

The emphasis is on practical skill development rather than focusing solely on a single, comprehensive presentation. As the course progresses, you will address different aspects of presenting, including how to present methodologies, results, and cover debates, providing you with a well-rounded skill set.

Constructive feedback from both peers and the instructor will help you refine your clarity, presentation style, and communication effectiveness. The culmination of the course involves a 20-minute final presentation on a topic of your choice, where you will apply the skills you've acquired. This presentation will incorporate PowerPoint and a prepared script. Students have the option to base this final presentations on their thesis topics or select a research area of personal interest.

The primary goal of this course is to enable you to effectively convey your research in clear, simple English that is engaging for the audience. It is important to note that this course is designed for students of varying English proficiency levels, with a focus on practical skill development rather than language complexity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：[Lecture] Course Overview & Class Structure
- 2 回：[Lecture] How to do Research & Read Papers
- 3 回：[Lecture] Presentation Structure & Slide Construction
- 4 回：[Lecture] Open Science & the Replication Crisis
- 5 回：[Discussion] Group Discussion & Preparation for Topic 1
- 6 回：[Practice] Mini Presentations on Topic 1
- 7 回：[Discussion] Group Discussion & Preparation for Topic 2
- 8 回：[Practice] Mini Presentations on Topic 2
- 9 回：[Lecture] Current Debates in Psychology
- 10 回：[Discussion] Group Discussion & Preparation for Debate
- 11 回：[Practice] Class Debate on Selected Topic
- 12 回：[Practice] Final Presentation Preparation
- 13 回：[Practice] Final Presentations
- 14 回：[Practice] Final Presentations & Course Overview

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

It is necessary to create presentation slides and to complete some research outside of class.

スライド作成は各自が授業外に行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussion:30% In-class Presentations:40% Final
Presentation (Slides & Script):30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他 / Others

- It is recommended that 4th grade students use their graduation thesis as the subject for their final presentation.
- 4年生は、自分の卒業論文の内容を発表課題にすることをおすすめします（後で役立ちます）。
- Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abi

英語心理学研究法演習 1

Psychological Research Methods in English 1

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM774
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY2931
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講座の目標は以下の通りです：

- 学生に心理学の研究の基本原則を教えることです。
- 研究に対する批判的思考を促進することを目指します。
- 学生に学術用語や研究用語を紹介することが含まれます。
- 学生の心理学および学術的なトピックについて議論する能力と自信を高めることを目指します。

The objectives of this course are:

- To teach students the core principles of research in psychology
- To promote critical thinking about research
- To introduce students to academic and research vocabulary
- To increase students' ability and confidence t

授業の内容 / Course Contents

この授業は、英語の初級から中級レベルの学生を対象に設計されています。学生は心理学および学術研究の幅広い文脈での重要な用語を認識し、使用するスキルを身につけます。また、この授業の目的は、学生に心理学

の研究と実験設計の基本原則を紹介することです。

毎週、研究方法に関連するトピックが紹介され、クラスディスカッションと一部の短い授業内演習が行われます。学生は選定された主題に関する短い反応論文を提出し、選んだ研究トピックについて約10～15分の最終プレゼンテーションを行う必要があります。

このコースを修了するこ

The course is designed for students at beginner to lower intermediate levels of English. Students will learn to recognise and use key terminology in psychology and academic research more broadly. The course aims to introduce students to the fundamental principles of psychology research and experimental design.

Each week a topic related to research methods will be presented, followed by class discussions and some short in-class exercises. Students will be required to submit short reaction papers on selected subjects and to deliver a final presentation lasting approximately 10-15 minutes on a research topic of their choice.

By the conclusion of this course, students will have cultivated a solid foundational understanding of psychological research and various research methodologies. They will be proficient in discussing these methodologies and evaluating their strengths and weaknesses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：[Lecture] Course Introduction
- 2回：[Lecture] Introduction to Contemporary Research in Psychology
- 3回：[Lecture] Fundamentals of Research
- 4回：[Lecture] Reviewing Research Literature
- 5回：[Lecture] Formulating Research Questions
- 6回：[Lecture] Exploring Experimental Designs
- 7回：[Lecture] Conducting Field Research
- 8回：[Discussion] Class Discussion on Research Topic
- 9回：[Lecture] Data Analysis Methods
- 10回：[Lecture] Introduction to Open Science Practices
- 11回：[Lecture] Ethical Considerations in Research
- 12回：[Lecture] Current Debates in Psychology
- 13回：[Practice] Final Presentations (Part 1)
- 14回：[Practice] Final Presentations (Part 2) & Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Some independent reading of short English materials is required but most of the English material will be examined together in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussion:30% Final Presentation:30% Reaction Papers:40%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他 / Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

英語心理学研究法演習 2

Psychological Research Methods in English 2

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HM775
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： PSY3931
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講座の目標は以下の通りです：

- 学生の心理学における研究デザインの原則に関する理解を深化させることを促進します。
- 心理学分野における現在の研究に関する議論を学び、情報を吸収します。
- 学生の心理学および学術的なトピックに関する議論能力と自信を向上させることを目指します。
- 適切な学術用語と研究用語の使用能力を高めます。

研究方法に対する批判的思考を促進し、研究のベストプラクティスを紹介します。

The objectives of this course are:

- To develop students understanding of the principles of research design in psychology
- To learn about current debates about research in the psychology field
- To increase students' ability and confidence to discuss psy

授業の内容 / Course Contents

このコースは、英語の中級から上級レベルの学生を対象として設計されています。学生は心理学の重要な用語や学術研究に広く関連する能力を高め、研究トピックに対する自分の意見を表現する力を養います。このコー

スは、心理学研究と実験設計の原則を理解し、既存の研究を批判的に評価する力を学生に養成することを意図しています。

毎週、講義、クラスディスカッション、授業内の演習を通じて研究トピックが探究されます。コースの間、学生は選択したトピックに関する短い反応論文を提出し、自分の選んだ研究トピックについて2つのプレゼンテーション

The course is designed for students at intermediate to advanced levels of English. Students will develop their abilities to use key terminology in psychology and academic research more broadly and to express their opinions on research topics. The course is intended to develop students' understanding of the principles of psychology research & experimental design and to help them critically evaluate existing research.

Each week there will be a research topic explored through lectures, class discussions and in-class exercises.

During the course, students will complete short reaction papers on selected topics and produce two presentations (each 10-15 mins) on research topics of their choice.

By the end of the course, students should have improved their understanding of research practices, be aware of current debates in psychology, and be better at discussing their opinions in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：[Lecture] Course Introduction
- 2回：[Lecture] Contemporary Psychology Research
- 3回：[Lecture] Methods for reviewing Research Literature
- 4回：[Lecture] Researcher Degrees of Freedom
- 5回：[Lecture] Experimental Design Methods
- 6回：[Lecture] Replication Studies
- 7回：[Lecture] Debates over Diversity, Inclusion, & Equity
- 8回：[Lecture] Mid-course Review & Presentations
- 9回：[Lecture] Preregistration & Registered Reports
- 10回：[Practice] Reexamination of Classic Studies
- 11回：[Debate] Ethics of Critical Reevaluation
- 12回：[Lecture] Questionable Research Practices
- 13回：[Practice] Final Presentations 1
- 14回：[Practice] Final Presentations 2 & Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Some independent reading of English materials is required but most of the English material will be examined together in class.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussion:40% In-Class Presentations:30% Reaction

Papers:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他 / Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

英語心理学特講

Specialized Psychology Lecture in English

Cognitive and Evolutionary Psychological Approaches to Religion and Ritual

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HM776

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： PSY2931

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このセミナーの目標は以下の通りです：

- 学生に宗教と儀式に関する現代の研究の概要を提供すること、特に認知心理学と進化理論の観点から。
- 学生に研究を批判的に評価し、理論的アプローチを比較する方法を教えること。
- 学生の研究を議論し、意見を伝える能力を向上させること。
- 学生に進行中の議論と新しい方法論の基準を紹介すること。

The goal of this seminar is to:

- Provide students with an overview of modern research on religion and ritual, especially from the perspective of cognitive psychology and evolutionary theory.
- Teach students how to critically evaluate research and compar

授業の内容 / Course Contents

このセミナーは、宗教と儀式に関する現代の研究に焦点を当てます。特に、進化論的または認知的な視点を採用した研究に着目します。日本や他の社会において特定の宗教を信仰していない人々が多い一方で、世界中の

大多数の人々が神を信じ、宗教団体に所属しています。儀式も文化的表現の一部として、あらゆる社会において重要な役割を果たしています。

この講座では、宗教と儀式を異文化的に再発生する社会的および心理的な現象として探求し、宗教的信念と儀式への参加の効果について探究する現代の研究を検討します。

学生はコース中に選択した

The seminar focuses on modern research on religion and ritual, particularly research that adopts an evolutionary or cognitive perspective. Although many people in Japan and other societies do not follow any specific religion, the majority of people across the world believe in Gods and belong to religious groups. Rituals are also important in all societies as part of cultural expression.

This course examines religion and ritual as a cross-culturally recurrent social and psychological phenomenon and examines modern research that explores both the effects of religious belief and ritual participation.

Students are required to make a presentation (15-20 mins) on a selected topic during the course and will be required to submit short reaction papers for certain weeks. Classes throughout are a combination of lectures and group discussion segments. The course is conducted in English but the contents will be adjusted according to the level of the students.

By the end of the course, students will be familiar with the key theories on religion/ritual and have gained experience in discussing research critically and presenting their opinions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：[Lecture] Course Introduction
- 2 回：[Lecture] What is Religion?
- 3 回：[Lecture] What are Rituals?
- 4 回：[Lecture] The Cognitive Science of Religion
- 5 回：[Lecture] Gods and other Minimally Counterintuitive Concepts (MCI)
- 6 回：[Lecture] Big Gods and Supernatural Punishment
- 7 回：[Lecture] Conspiracy Theories & Gurus
- 8 回：[Practice] Class Debate
- 9 回：[Lecture] Afterlife Beliefs
- 10 回：[Lecture] Rituals & Overimitation
- 11 回：[Lecture] The Psychology of Shamanism
- 12 回：[Lecture] The Psychology of Religious Extremism
- 13 回：[Lecture] Cults & NRMs
- 14 回：[Practice] Final Presentations & Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Some independent reading of English materials is recommended but most of the relevant material will be provided in class lectures.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class discussion:40% In-Class Presentation:20% Reaction Papers:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他 / Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

映像身体学入門 1

Introduction to Body Expression and Cinematic Arts 1

何を映像身体学と呼ぶのか

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC1310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像身体学の基本的な発想や概念が理解できるようになることを目標とする。

The aim of this course is to understand basic concepts and ideas of Body Expression and Cinematic Arts.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、「何を映像身体学と呼ぶのか」を印刷物に基づいて、講義形式でおこなう。

The professor explains, using printed materials, what theories of Body Expression and Cinematic Arts are about in form of lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業方針の説明と総論

2 回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。

3 回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。

4 回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。

5 回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。

- 6回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 7回：まとめとレポート。
 8回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 9回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 10回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 11回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 12回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 13回：小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」に基づき、学科の基本的発想を説明する。
 14回：まとめとレポート。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストとして配布する小冊子「何を映像身体学と呼ぶのか」を繰り返し熟読すること。
 授業計画は予定なので、状況によって変更する可能性がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業に取り組む態度及び出席:50% 中間レポート（2回）:20% 最終レポート
 割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像身体学入門2

Introduction to Body Expression and Cinematic Arts 2

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN106
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC1310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

映像身体学科が探求する、映像身体学。この授業では、その学びの基礎や核となる思考を理解することを目標とする。

The Department of Body Expression and Cinematic Arts pursues the theories of image and embodiment. The goal of this course is to understand the fundamentals and core ideas of this study.

授業の内容 / Course Contents

本授業を通して、身体学という学びの基礎や核となる発想を確認しながら、その思考の領域と存在意義を明らかにしていく。映像身体学の系譜に位置するテキストを紹介しながら、具体的な作品や表現を通して映像身体学の思考の具体的な展開を観て探り、映像身体学の学びを深める。前半は主に人類史上初めて登場した機械の知覚像である写真映像と人間の身体の知覚について、後半は映画という機械の知覚について、特にジル・ドゥルーズの『シネマ』を紹介しながら、掘り進めて学んでいく。

During this course, students will learn the fundamentals and core ideas of the studies of image and embodiment. It also makes the field of this concepts and the reason for their existence clear. With the help of the professors in charge, they will read the texts that belong to the lineage of the theory of image and embodiment. Then students

will watch and investigate specific development of this theory through specific works and expressions, thus deepening the study of the theories of image and embodiment. The first half of this course is mostly about photographs which were the first form of mechanical perception that has ever appeared in human history, and human body perception. The second half is about the mechanical perception of the movie format, specifically starting from introducing Cinéma by Gilles Deleuze and progressing forwards from that.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション。
- 2回：映像身体学の基礎、その思考の核について1。
- 3回：映像身体学の基礎、その思考の核について2。
- 4回：映像身体学における〈機械の知覚〉という問題圏。
- 5回：写真映像の実在性について。
- 6回：映像の向かう二つの道――写真映像を例に。
- 7回：前半のまとめ。
- 8回：思考の領域としての映像身体学とジル・ドゥルーズ『シネマ』。
- 9回：『シネマ1』解題。
- 10回：『シネマ1』とその映画作品について。
- 11回：『シネマ2』解題。
- 12回：『シネマ2』とその映画作品について。
- 13回：『シネマ2』とその映画作品について。
- 14回：全体のまとめ。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% コメントペーパー（複数回）：50% 中間レポート：20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

授業時に指示、配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を通じて授業に関する連絡等をおこなうことがある。PC やタブレット等、CanvasLMS にアクセスできる機器を授業時に持参が必要な場合は、告知します。

映像身体学とキャリア

Career for Expression Studies Students

加藤 千恵／宮本 裕子／田崎 英明／松田 正隆／砂連尾 理／横山 太郎 (KATO CHIE/ MIYAMOTO YUKO/ TAZAKI HIDEAKI/ MATSUDA MASATAKA/ JAREO OSAMU/ YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2310
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、受講生が以下の2つを達成することを目標とする。(1) 自身の将来を構想できるようになること。(2) それと関連付けて映像身体学を学ぶ意義を自分なりに理解すること。

This course aims to have students achieve two goals: (1) to be able to have a vision of their own future and (2) to find in their own ways the meaning of their studies in the Department of Body Expression and Cinematic Arts in relation to that future.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、学生が上記の二つの目標を達成するための思考と議論の場である。各回の担当教員はファシリテーターとなって、社会のなかで活躍するゲスト講師をお招きする。授業前半ではゲスト講師が自身の経験に基づいて、学生が自身の将来のキャリアを考えるための話題を提供する。授業後半では、その話題についての学生によるグループディスカッション、話し合った結果の発表、担当教員とゲスト講師からのフィードバックをおこなう。学生は授業後にコメントペーパーを提出することによって、授業を通じてどのような気づきを得たかを言語化し、自分のな

The class of this course is where students develop thoughts and discussions to achieve the above two goals. The instructor in each class acts as the facilitator and invites guest lecturers who play important roles in the society. In the first half of the class, the guest lecturers talk about their own experiences to provide some topics to help students think about their future careers. In the second half of the class, a group discussion by students is held, followed by the presentation of their discussions and the feedback by instructors and guest lecturers. After the class, students submit commentary papers that verbalize what they have learned in the class, thus deeply understanding it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：講義とディスカッション (1)
- 3回：講義とディスカッション (2)
- 4回：ゼミとキャリア
- 5回：講義とディスカッション (3)
- 6回：講義とディスカッション (4)
- 7回：講義とディスカッション (5)
- 8回：講義とディスカッション (6)
- 9回：講義とディスカッション (7)
- 10回：講義とディスカッション (8)
- 11回：講義とディスカッション (9)
- 12回：講義とディスカッション (10)
- 13回：講義とディスカッション (11)
- 14回：講義とディスカッション (12)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

コメントペーパーを書くにあたり、授業のトピックに関連する学問や業界について Web 等を通じて調べること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントペーパー（複数回）:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「授業の内容」に示した段取りはモデルケースであり、ゲスト講師の事情や担当教員の判断によって柔軟に運営する。

身体社会論

Body and Social Theories

奴隷制からヒップホップ・カルチャー，アフロフューチャリズムへ

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN131

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

奴隷貿易，奴隷制からアフロフューチャリズムにいたるアフリカン・ディアスポラのカルチャーを通して，文化の身体性と新しい身体の可能性を把握する。

This class handles the embodiment in culture and possibility of a new body through the culture of the African diaspora looking into slavery, slave trade, and Afrofuturism.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で行う。映像や音楽などの教材も用いる。

The class will be conducted in lecture format. Course materials include movies and music.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：奴隷貿易

『アミスタッド』

3 回：奴隷貿易（続き）

- 4回：ブラック・パワー
公民権運動後とパンサー
- 5回：ブラック・パワー（続き）
- 6回：ジェイムズ・ボールドウィンとブラック・フェミニズム/クィア理論1
- 7回：ジェイムズ・ボールドウィンとブラック・フェミニズム/クィア理論2
- 8回：ジェイムズ・ボールドウィンとブラック・フェミニズム/クィア理論3
- 9回：ポスト公民権運動/ポスト・ソウル
デトロイト・テクノ
- 10回：アイザック・ジュリアン
- 11回：アフロフューチャリズム1
『ブラック・パンサー』
- 12回：アフロフューチャリズム2
- 13回：アフロフューチャリズム3
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分が普段聴くポピュラー音楽（ジャズ、モータウン、ファンク、ヒップホップ、ダブ、テクノなど）の文化的・政治的背景について調べておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 毎回提出するリアクション・ペーパー:20%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。また、Google Classroom 等にアップした教材を見ておくこと。

映像社会論

Image and Social Theories

映画ジャンル論

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN132
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2120
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

一本の映画作品を語ろうとするとき、その作品を成立させている産業的な条件を無視することはできない。映画における産業的側面を色濃く反映しているのが、ジャンルというカテゴリーである。この授業では、主に「古典的ハリウッド映画」と呼ばれる時期のアメリカ映画を対象に、映画ジャンルについて考えるための基礎的な知識を学ぶ。映画ジャンル論の知識を踏まえたうえで、歴史のおよび美学的な観点から映画作品を具体的に分析するための能力を身につけ、映画とわたしたちの社会の関係を検証することを目標とする。

When we discuss a film, we cannot ignore the industrial conditions that establish the film. It is the category of genre that strongly reflects the industrial dimension in cinema. This class will focus primarily on American films of the period known as “Cl

授業の内容 / Course Contents

「古典的ハリウッド映画」という歴史概念／様式概念を導入したのち、その代表的なジャンルとみなすことのできる西部劇、メロドラマ、サスペンスの特徴について、具体的な作品分析を通じて検証する。併せて、ジャンルという認識論的な枠組みに基づいて映画に接するとはそもそもどういうことなのかを考察していく。さら

に、「古典的ハリウッド映画」の支柱となるスタジオ・システムが崩壊していった 1950～60 年代作品の分析を通じて、映画というメディアの特性を検証していくことにもなるだろう。

After introducing the historical/stylistic concept of the “classical Hollywood cinema,” we will examine some aspects of western, melodrama, and suspense films, which can be regarded as the representative genres of Hollywood, through the analyses of some specific films. At the same time, we will examine what it means to see films based on the epistemological framework of genre. Furthermore, through the analyses of films made in the 1950s and 1960s, when the studio system on which the “classical Hollywood cinema” depended was in decline, we will examine the characteristics of the film.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：古典的ハリウッド映画とは何か
- 3 回：西部劇 ジョン・フォード①
- 4 回：西部劇 ジョン・フォード②
- 5 回：西部劇 50 年代以後の変質①
- 6 回：西部劇 50 年代以後の変質②
- 7 回：メロドラマ ニコラス・レイ①
- 8 回：メロドラマ ニコラス・レイ②
- 9 回：メロドラマ ダグラス・サーク①
- 10 回：メロドラマ ダグラス・サーク②
- 11 回：サスペンス アルフレッド・ヒッチコック①
- 12 回：サスペンス アルフレッド・ヒッチコック②
- 13 回：サスペンス アルフレッド・ヒッチコック③
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

特定の映画作品の観覧や、文献の熟読を課す場合がある。作品の観覧にあたっては、図書館やレンタルショップ、動画配信サイトなどを活用すること。それらの活用方法に関しては、授業内で詳しく説明する。なお、授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

- ・レポート試験の提出が単位修得の前提となる。
- ・単位修得のためには平常点とレポート試験の点数の合計が合格点を上回る必要がある (=レポート試験を提出しても、平常点との合計が合格点を上回っていない場合、単位を修得できない)。
- ・出席していれば自動的に平常点が加算されるわけではない (=出席自体は平常点とならない)。平常点はリア

クシヨンペーパーの内容に応じて、毎回 0～5 点で採点し加算していく。

・すなわち、一定の出席回数を満たしていれば単位が自ずと修得できるタイプの授業ではない。出席の回数よりもリアクションペーパー

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。なお、ひとまず参考資料として以下を挙げておく。

ジョン・マーサー、マーティン・シングラー『メロドラマ映画を学ぶ』中村秀之、河野真理江訳、フィルムアート社、2013 年。

Barry Keith Grant. Film Genre: From Iconography to Ideology. London: Wallflower Press, 2007.

その他 / Others

■レジュメまたは PowerPoint を用いた講義形式で、映像資料も適宜使用する。

■上記「授業計画」はあくまで暫定的なものであり、受講者の意向や関心に応じて臨機応変に調整することがある。

■《※注意》暴力的・性的にやや過激な描写を含む作品を取り扱う場合がある。そうした場合は上映前にアナウンスをする等、一定の配慮をするが、そのような描写が極端に苦手な方は受講の際に注意すること。

■専門や学年を問わず、映画に関心を持つ者を歓迎する。ただし、「好き／嫌い」や「共感できる／できない」などといったアマチュア的

生態心理学

Ecological Psychology

知覚と行為の心理学

奥野 真之 (OKUNO MASAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN133

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

生態心理学の入門的な知識と考え方を身につけることを目標とする。

This class aims to acquire entry level knowledge on Ecological Psychology.

授業の内容 / Course Contents

アメリカの知覚心理学者、J.J.Gibson が構想した知覚に対するアプローチの方法は生態心理学と呼ばれている。Gibson 及び彼のフォロワーによる研究の紹介を通じて、生態心理学の基礎的な概念やその理論的枠組みについて講義する。

本講義で扱う「心理学」とは特にヒトを含む動物が行う「知覚」と「行為」に関する研究領域を指している。知覚とは、周囲の環境や自分自身の状態について知ることであり、行為とは環境中である目的を達成するために運動することを指す。道を歩くこと、食事をすること、スポーツをすること、音楽を楽しむ

The approach to perception that an American perceptual psychologist J.J. Gibson invented is called ecological psychology. This class introduces the research of Gibson and his followers, provides lectures on the fundamental concepts and theoretical framework of ecological psychology.

The psychology this class handles refers to the research field that is especially related to perception and behavior of animals, including human species. Perception is being aware about your surroundings and environment, as well as your own state, and behavior is performing actions to achieve certain goals within the environment. All activities we perform every day, like walking down the street, eating, doing sports, enjoying music, falls into the category of either perception or behavior.

So, what are we actually doing when performing those activities? How do we grasp where we are now and what we are doing, and how do we control our actions? This class teaches to think about perception and behavior not as a set of instincts written in our genes or as biological response of our nerve system, but from ecological point of view as activities of animals living in a certain environment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：“ココロ”の科学に向けて：動物に心はあるか.
- 2 回：生態心理学の誕生：心理学者 J.J.Gibson の歩み.
- 3 回：アフォーダンスの理論：知覚と行為を支える環境 - 1.
- 4 回：アフォーダンスの理論：知覚と行為を支える環境 - 2.
- 5 回：ダイナミック・タッチ：触るだけで分かるコト - 1.
- 6 回：ダイナミック・タッチ：触るだけで分かるコト - 2.
- 7 回：生態学的サイボーグ論：「私」の範囲はどこまでか.
- 8 回：生態光学：視覚情報としての光 - 1.
- 9 回：生態光学：視覚情報としての光 - 2.
- 10 回：接触のタイミングを制御する情報 = τ (タウ).
- 11 回：知覚の情報 = 不変項：変化の中で持続する構造.
- 12 回：映像の知覚：スクリーンの上に視えているコト.
- 13 回：知覚と行為の発達.
- 14 回：運動の制御：運動はどのように生まれるのか.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

復習のために各回の授業内容に合わせたワークシートや小レポート課題を実施する.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回授業内および授業後の提出物 (ワークシートや小レポート等) :60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストとなる書籍は指定しない。各回授業のスライド資料のデータを PDF 形式で配布する。

参考文献 / Readings

三嶋博之 エコロジカル・マインドー知性と環境をつなぐ心理学 NHK ブックス 2000
佐々木正人 新版 アフォーダンス 岩波科学ライブラリー 2015

エドワード・S・リード（細田直哉訳） アフォーダンスの心理学 新曜社 2000

エドワード・S・リード（佐々木正人監訳） 伝記ジェームズ・ギブソン 勁草書房 2006

J.J.ギブソン（佐々木正人監訳） 生態学的知覚システム 東京大学出版会 2011

J.J.ギブソン（古崎敬共訳） 生態学的視覚論 サイエンス社 1986

その他、毎週の講義ごとに参考文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

受講にあたっては基礎的な心理学の知識を身につけていることが望ましいが、必須ではない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内および授業後に実施する課題には CanvasLMS を利用するため、スマートフォンや PC 等のネットワークに接続可能な機器を持参すること。

その他/ Others

パワーポイントを使用した講義形式を基本とし、映像資料等も適宜使用する。

また、理解を深めるため必要に応じてワークシート等の課題も活用するため、積極的な受講態度が期待される。

リアクションペーパーや小テスト課題へのフィードバックは次回以降の授業時間で行う。

身体表現史

History of Bodily Expression

江口 正登 (EGUCHI MASATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN134
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 身体もしくはパフォーマンスを主題とした芸術表現の歴史と理論について、基本的な知識を身につける。
- 身体もしくはパフォーマンスを主題とした芸術表現について、自分なりに思考していくための基礎を身につける。

Students will acquire the following:

- A basic knowledge of the history and theories of art involving the body and performance.
- A foundation for developing their own thinking about art that involves the body and performance.

授業の内容 / Course Contents

授業は講義形式で行います。

最初の数回では、リチャード・シェクナーやアーヴィング・ゴフマン、ジュディス・バトラーなど、身体やパフォーマンスを巡るさまざまな思想的言説や理論を概観し、中盤以降は、20世紀前半から今日にいたるまでの国内外における様々な身体表現の実践を、概ね時系列順に検討していきます。具体的には、ジョン・ケージやジョージ・ブレクト、アラン・カプロー、ギュンター・ブルス、ブルース・ナウマン、ヴィト・アコンチ、ク

リス・バーデン、キャロリー・シュニーマン、ミエレル・レーダーマン・ユケレス、マリーナ・ア

The course will be conducted in lecture format.

In the first few sessions, we will survey various discourses and theories of the body and performance, such as those of Richard Schechner, Erving Goffman, and Judith Butler. We will then examine various art practices involving the body and performance from the early 20th century to the present in roughly chronological order. To name a few, we will look at the work of John Cage, George Brecht, Allan Kaprow, Gunter Brus, Bruce Nauman, Vito Acconci, Chris Burden, Carolee Schneemann, Mierle Laderman Ukeles, Marina Abramovic, Tehching Hsieh, Pope.L, Jeremy Deller, Tania Bruguera, Tino Sehgal, and Maria Hassabi.

Please be aware that due to the nature of the topics discussed, this course contains sensitive material, including violent, sexual, or grotesque images that some may find uncomfortable. You are encouraged to consider this before taking the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：身体とパフォーマンスの思考（1）
- 3 回：身体とパフォーマンスの思考（2）
- 4 回：身体とパフォーマンスの思考（3）
- 5 回：パフォーマンスの展開：前史
- 6 回：パフォーマンスの展開：1950-60年代（1）
- 7 回：パフォーマンスの展開：1950-60年代（2）
- 8 回：パフォーマンスの展開：1970年代（1）
- 9 回：パフォーマンスの展開：1970年代（2）
- 10 回：パフォーマンスの展開：1980年代
- 11 回：パフォーマンスの展開：1990年代
- 12 回：パフォーマンスの展開：2000年以降（1）
- 13 回：パフォーマンスの展開：2000年以降（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献をあらかじめ読んだり、資料に目を通したりしておく。また、課題としてではないが、展示や上演の紹介もしばしば行うので、なるべく足を運ぶようにしてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :75%

平常点割合 :25% リアクションペーパー:25%

欠席回数が5回に達した場合、成績は不可となります。遅刻および早退は2回で欠席1回、出席の不正は1回で欠席3回とみなします。

テキスト / Textbooks

都度、プリントもしくはPDFファイルによる資料を配布します。

参考文献 / Readings

ローズリー・ゴールドバーグ（中原佑介訳） 『パフォーマンス 未来派から現代まで』 リブロポート
1982 9784845700776

リチャード・シェクナー（高橋雄一郎訳） 『パフォーマンス研究 演劇と文化人類学の出会い』 人文書院 1998 9784409100097

高橋雄一郎、鈴木健編 『パフォーマンス研究のキーワード：批判的カルチュラル・スタディーズ入門』 世界思想社 2011 9784790715085

- 『美術手帖』2018年8月号（特集：ポスト・パフォーマンス） 美術出版社 2018

Catherine Wood Performance in Contemporary Art Tate 2019 9781849763110

ほか、必要に応じて指示します。

映像表現史

History of Filimic Style

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN135
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

複数の映画を見ることで、映画ならではの時間や空間、表現方法を学ぶ。

By watching multiple films, you can learn the time, space, and expression of the movie.

授業の内容 / Course Contents

時代やジャンル、国籍を超えて様々な映画を見ます。殺人などの暴力描写や性的描写を含む映画も取り上げる場合があるので、そうした描写が苦手な学生は受講を避けてください。また授業内で見せる映画の他に、最低でも 1～2 本映画館で上映している映画をあらかじめ授業外で見てもらい、それについてレポートを書いたり、話し合いをします。単に映画を見て単位がとれると思ったら、大間違いです。専門的な知識は全く必要ではありませんが、積極的な発言が求められます。ほぼ毎回リアクション・ペーパーや小レポートを課します。学生による発表

Watch movies of various genres. Some of his film contains violent scenes and sexual scenes.

If you are not comfortable violence and sexual scenes, do not participate in class.

In addition to class hours, you have to watch several films at the movie theater, and write critics and discuss about them.

It is difficult to get grade if you are absent from class even once.

This semester we are going to study films of Kitano Takeshi.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：作品①鑑賞
- 3回：作品①の講評
- 4回：作品②鑑賞
- 5回：作品②の講評
- 6回：作品③鑑賞
- 7回：作品③の講評
- 8回：作品④鑑賞
- 9回：作品④の講評
- 10回：作品⑤鑑賞
- 11回：作品⑤の講評
- 12回：作品⑥鑑賞
- 13回：作品⑥の講評
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 上映作品ごとのリアペおよび課題作の小レポート(複数回):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

デニス・シェーファー+ラリー・サルヴァート マスターズ・オブ・ライト 完全版 フィルムアート社
2023/1/26

生態心理学実験

Practice in Experiments of Ecological Psychology

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN137
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： HN133：生態心理学を修得済みでないと履修できない
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

身体行為と結びついた知覚について、実験や観察を通して理解する。

Students learn to understand perception related to physical behavior through practical experimental research.

授業の内容 / Course Contents

生態心理学は、人を含む生き物の振る舞いを、環境中にある「資源」の探索とその知覚から捉える。生き物の振る舞いと知覚、環境の関係を実践的に理解するため、この授業ではいくつかの実験実習、フィールドワークを行う。

Ecological psychology comprehends the behavior of living things, including humans, from exploring the resources in the environment and their perception. In order to understand in practice the connection between the behavior of living things and their perception and environment, several lectures feature experimental practice and fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：実験：部屋環境の観察 1

文献の紹介

3回：実験：部屋環境の観察2

観察の計画と準備

4回：実験：部屋環境の観察3

観察

5回：実験：部屋環境の観察4

分析とディスカッション

6回：実験：マイクロスリップ1

文献の紹介

7回：実験：マイクロスリップ2

実験デザインと準備

8回：実験：マイクロスリップ3

実験

9回：実験：マイクロスリップ4

分析とディスカッション

10回：フィールドワーク：場所とナビゲーション1

文献の紹介

11回：フィールドワーク：場所とナビゲーション2

予備調査と研究デザイン

12回：フィールドワーク：場所とナビゲーション3

調査

13回：フィールドワーク：場所とナビゲーション4

報告とディスカッション

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

分析に使用する映像データ採集に、授業時間外の作業を必要とすることがある。その他、授業時間内で必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業への取り組み:40% 授業内プレゼンテーション:60%

テキスト / Textbooks

適宜テキストを配布する。

参考文献 / Readings

佐々木正人 アフォーダンス入門——知性はどこに生まれるか 講談社 2008 4061598635

その他 / Others

受講者の数、および関心に応じて、授業内容やスケジュールを変更する可能性がある。くわしくは初回授業で説明する。また、授業時間外の作業が生じるので、そのつもりで臨むこと。

入門演習 1 (A)

Elementary Research Seminar 1

田崎 英明／森田 塁／横山 太郎／篠崎 誠／砂連尾 理／加藤 千恵 (TAZAKI HIDEAKI/ MORITA RUI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ JAREO OSAMU/ KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： BEC1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(2回目までは全体で、3回目以降は各クラスに分かれて受講する。3回目以降の授業計画はクラスにより異なる。詳しくはガイダンスで説明する。)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first 2 lectures are given for all the students, starting from the 3rd lecture they are given in separate classes. The syllabus after the 3rd lecture differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体&各クラス個別)
- 2回：Master of Writing 解説&キャリア・ガイダンス&図書館を知る
- 3回：映像の魅惑——写真の原理から考える① (森田)
- 4回：映像の魅惑——写真の原理から考える② (森田)
- 5回：パフォーマンスの批評と調査① (横山)
- 6回：パフォーマンスの批評と調査② (横山)
- 7回：映像制作① オリエンテーション (篠崎)
- 8回：映像制作② 撮影 (篠崎)
- 9回：ブラック・フェミニズムとアート① (田崎)
- 10回：ブラック・フェミニズムとアート② (田崎)
- 11回：東洋の身体観① (加藤)
- 12回：東洋の身体観② (加藤)
- 13回：身体表現入門① (砂連尾)
- 14回：身体表現入門② (砂連尾)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS、Google Classroom など、立教大学のメールアドレスを用いる通知等をきちんとチェックするよう
うにしてください。

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 1 (B)

Elementary Research Seminar 1

田崎 英明／森田 壘／横山 太郎／篠崎 誠／砂連尾 理／加藤 千恵 (TAZAKI HIDEAKI/ MORITA RUI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ JAREO OSAMU/ KATO CHIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN142
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(2回目までは全体で、3回目以降は各クラスに分かれて受講する。3回目以降の授業計画はクラスにより異なる。詳しくはガイダンスで説明する。)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first 2 lectures are given for all the students, starting from the 3rd lecture they are given in separate classes. The syllabus after the 3rd lecture differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体&各クラス個別)
- 2回：Master of Writing 解説&キャリア・ガイダンス&図書館を知る
- 3回：映像の魅惑——写真の原理から考える① (森田)
- 4回：映像の魅惑——写真の原理から考える② (森田)
- 5回：パフォーマンスの批評と調査① (横山)
- 6回：パフォーマンスの批評と調査② (横山)
- 7回：映像制作① オリエンテーション (篠崎)
- 8回：映像制作② 撮影 (篠崎)
- 9回：ブラック・フェミニズムとアート① (田崎)
- 10回：ブラック・フェミニズムとアート② (田崎)
- 11回：東洋の身体観① (加藤)
- 12回：東洋の身体観② (加藤)
- 13回：身体表現入門① (砂連尾)
- 14回：身体表現入門② (砂連尾)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS、Google Classroom など、立教大学のメールアドレスを用いる通知等をきちんとチェックするよう
うにしてください。

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 1 (C)

Elementary Research Seminar 1

田崎 英明／森田 壘／横山 太郎／篠崎 誠／砂連尾 理／加藤 千恵 (TAZAKI HIDEAKI/ MORITA RUI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ JAREO OSAMU/ KATO CHIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN143
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(2回目までは全体で、3回目以降は各クラスに分かれて受講する。3回目以降の授業計画はクラスにより異なる。詳しくはガイダンスで説明する。)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first 2 lectures are given for all the students, starting from the 3rd lecture they are given in separate classes. The syllabus after the 3rd lecture differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体&各クラス個別)
- 2回：Master of Writing 解説&キャリア・ガイダンス&図書館を知る
- 3回：映像の魅惑——写真の原理から考える① (森田)
- 4回：映像の魅惑——写真の原理から考える② (森田)
- 5回：パフォーマンスの批評と調査① (横山)
- 6回：パフォーマンスの批評と調査② (横山)
- 7回：映像制作① オリエンテーション (篠崎)
- 8回：映像制作② 撮影 (篠崎)
- 9回：ブラック・フェミニズムとアート① (田崎)
- 10回：ブラック・フェミニズムとアート② (田崎)
- 11回：東洋の身体観① (加藤)
- 12回：東洋の身体観② (加藤)
- 13回：身体表現入門① (砂連尾)
- 14回：身体表現入門② (砂連尾)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS、Google Classroom など、立教大学のメールアドレスを用いる通知等をきちんとチェックするよう
うにしてください。

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 1 (D)

Elementary Research Seminar 1

田崎 英明／森田 壘／横山 太郎／篠崎 誠／砂連尾 理／加藤 千恵 (TAZAKI HIDEAKI/ MORITA RUI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ JAREO OSAMU/ KATO CHIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN144
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(2回目までは全体で、3回目以降は各クラスに分かれて受講する。3回目以降の授業計画はクラスにより異なる。詳しくはガイダンスで説明する。)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first 2 lectures are given for all the students, starting from the 3rd lecture they are given in separate classes. The syllabus after the 3rd lecture differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体&各クラス個別)
- 2回：Master of Writing 解説&キャリア・ガイダンス&図書館を知る
- 3回：映像の魅惑——写真の原理から考える① (森田)
- 4回：映像の魅惑——写真の原理から考える② (森田)
- 5回：パフォーマンスの批評と調査① (横山)
- 6回：パフォーマンスの批評と調査② (横山)
- 7回：映像制作① オリエンテーション (篠崎)
- 8回：映像制作② 撮影 (篠崎)
- 9回：ブラック・フェミニズムとアート① (田崎)
- 10回：ブラック・フェミニズムとアート② (田崎)
- 11回：東洋の身体観① (加藤)
- 12回：東洋の身体観② (加藤)
- 13回：身体表現入門① (砂連尾)
- 14回：身体表現入門② (砂連尾)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS、Google Classroom など、立教大学のメールアドレスを用いる通知等をきちんとチェックするよう
うにしてください。

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 1 (E)

Elementary Research Seminar 1

田崎 英明／森田 壘／横山 太郎／篠崎 誠／砂連尾 理／加藤 千恵 (TAZAKI HIDEAKI/ MORITA RUI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ JAREO OSAMU/ KATO CHIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN145
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(2回目までは全体で、3回目以降は各クラスに分かれて受講する。3回目以降の授業計画はクラスにより異なる。詳しくはガイダンスで説明する。)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first 2 lectures are given for all the students, starting from the 3rd lecture they are given in separate classes. The syllabus after the 3rd lecture differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体&各クラス個別)
- 2回：Master of Writing 解説&キャリア・ガイダンス&図書館を知る
- 3回：映像の魅惑——写真の原理から考える① (森田)
- 4回：映像の魅惑——写真の原理から考える② (森田)
- 5回：パフォーマンスの批評と調査① (横山)
- 6回：パフォーマンスの批評と調査② (横山)
- 7回：映像制作① オリエンテーション (篠崎)
- 8回：映像制作② 撮影 (篠崎)
- 9回：ブラック・フェミニズムとアート① (田崎)
- 10回：ブラック・フェミニズムとアート② (田崎)
- 11回：東洋の身体観① (加藤)
- 12回：東洋の身体観② (加藤)
- 13回：身体表現入門① (砂連尾)
- 14回：身体表現入門② (砂連尾)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS、Google Classroom など、立教大学のメールアドレスを用いる通知等をきちんとチェックするよう
うにしてください。

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 1 (F)

Elementary Research Seminar 1

田崎 英明／森田 壘／横山 太郎／篠崎 誠／砂連尾 理／加藤 千恵 (TAZAKI HIDEAKI/ MORITA RUI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ JAREO OSAMU/ KATO CHIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN146
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(2回目までは全体で、3回目以降は各クラスに分かれて受講する。3回目以降の授業計画はクラスにより異なる。詳しくはガイダンスで説明する。)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first 2 lectures are given for all the students, starting from the 3rd lecture they are given in separate classes. The syllabus after the 3rd lecture differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体&各クラス個別)
- 2回：Master of Writing 解説&キャリア・ガイダンス&図書館を知る
- 3回：映像の魅惑——写真の原理から考える① (森田)
- 4回：映像の魅惑——写真の原理から考える② (森田)
- 5回：パフォーマンスの批評と調査① (横山)
- 6回：パフォーマンスの批評と調査② (横山)
- 7回：映像制作① オリエンテーション (篠崎)
- 8回：映像制作② 撮影 (篠崎)
- 9回：ブラック・フェミニズムとアート① (田崎)
- 10回：ブラック・フェミニズムとアート② (田崎)
- 11回：東洋の身体観① (加藤)
- 12回：東洋の身体観② (加藤)
- 13回：身体表現入門① (砂連尾)
- 14回：身体表現入門② (砂連尾)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

Canvas LMS、Google Classroom など、立教大学のメールアドレスを用いる通知等をきちんとチェックするよう
うにしてください。

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 2 (A)

Elementary Research Seminar 2

松田 正隆／樋本 淳／宮本 裕子／滝浪 佑紀／宮川 麻理子／山本 祐輝 (MATSUDA MASATAKA/
HIMOTO JUN/ MIYAMOTO YUKO/ TAKINAMI YUKI/ MIYAGAWA MARIKO/ YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： BEC1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(初回は全体で、2回目以降は各クラスに分かれて受講する。授業計画はクラスによって異なる。詳しくは、初回のガイダンスで説明する)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first lecture is given for all the students, starting from the 2nd lecture they are given in separate classes. The syllabus differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体授業)
- 2回：場所を上演する① (松田)
- 3回：場所を上演する② (松田)
- 4回：映像における演出とは① (樋本)
- 5回：映像における演出とは② (樋本)
- 6回：アニメーションとは何か① (宮本)
- 7回：アニメーションとは何か② (宮本)
- 8回：基礎演習と文献講読に向けてのガイダンス (全体授業)
- 9回：映画を見る経験とは何か① (滝浪)
- 10回：映画を見る経験とは何か② (滝浪)
- 11回：ダンスの多様さを知る① (宮川)
- 12回：ダンスの多様さを知る② (宮川)
- 13回：映画テキスト分析入門① (山本)
- 14回：映画テキスト分析入門② (山本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

各教員に従う。

参考文献 / Readings

各教員に従う。

その他 / Others

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 2 (B)

Elementary Research Seminar 2

松田 正隆／樋本 淳／宮本 裕子／滝浪 佑紀／宮川 麻理子／山本 祐輝 (MATSUDA MASATAKA/
HIMOTO JUN/ MIYAMOTO YUKO/ TAKINAMI YUKI/ MIYAGAWA MARIKO/ YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： BEC1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(初回は全体で、2回目以降は各クラスに分かれて受講する。授業計画はクラスによって異なる。詳しくは、初回のガイダンスで説明する)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first lecture is given for all the students, starting from the 2nd lecture they are given in separate classes. The syllabus differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体授業)
- 2回：場所を上演する① (松田)
- 3回：場所を上演する② (松田)
- 4回：映像における演出とは① (樋本)
- 5回：映像における演出とは② (樋本)
- 6回：アニメーションとは何か① (宮本)
- 7回：アニメーションとは何か② (宮本)
- 8回：基礎演習と文献講読に向けてのガイダンス (全体授業)
- 9回：映画を見る経験とは何か① (滝浪)
- 10回：映画を見る経験とは何か② (滝浪)
- 11回：ダンスの多様さを知る① (宮川)
- 12回：ダンスの多様さを知る② (宮川)
- 13回：映画テキスト分析入門① (山本)
- 14回：映画テキスト分析入門② (山本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

各教員に従う。

参考文献 / Readings

各教員に従う。

その他 / Others

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 2 (C)

Elementary Research Seminar 2

松田 正隆／樋本 淳／宮本 裕子／滝浪 佑紀／宮川 麻理子／山本 祐輝 (MATSUDA MASATAKA/
HIMOTO JUN/ MIYAMOTO YUKO/ TAKINAMI YUKI/ MIYAGAWA MARIKO/ YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN153

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： BEC1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(初回は全体で、2回目以降は各クラスに分かれて受講する。授業計画はクラスによって異なる。詳しくは、初回のガイダンスで説明する)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first lecture is given for all the students, starting from the 2nd lecture they are given in separate classes. The syllabus differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体授業)
- 2回：場所を上演する① (松田)
- 3回：場所を上演する② (松田)
- 4回：映像における演出とは① (樋本)
- 5回：映像における演出とは② (樋本)
- 6回：アニメーションとは何か① (宮本)
- 7回：アニメーションとは何か② (宮本)
- 8回：基礎演習と文献講読に向けてのガイダンス (全体授業)
- 9回：映画を見る経験とは何か① (滝浪)
- 10回：映画を見る経験とは何か② (滝浪)
- 11回：ダンスの多様さを知る① (宮川)
- 12回：ダンスの多様さを知る② (宮川)
- 13回：映画テキスト分析入門① (山本)
- 14回：映画テキスト分析入門② (山本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

各教員に従う。

参考文献 / Readings

各教員に従う。

その他 / Others

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 2 (D)

Elementary Research Seminar 2

松田 正隆／樋本 淳／宮本 裕子／滝浪 佑紀／宮川 麻理子／山本 祐輝 (MATSUDA MASATAKA/
HIMOTO JUN/ MIYAMOTO YUKO/ TAKINAMI YUKI/ MIYAGAWA MARIKO/ YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN154

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： BEC1310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(初回は全体で、2回目以降は各クラスに分かれて受講する。授業計画はクラスによって異なる。詳しくは、初回のガイダンスで説明する)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first lecture is given for all the students, starting from the 2nd lecture they are given in separate classes. The syllabus differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス (全体授業)
- 2 回：場所を上演する① (松田)
- 3 回：場所を上演する② (松田)
- 4 回：映像における演出とは① (樋本)
- 5 回：映像における演出とは② (樋本)
- 6 回：アニメーションとは何か① (宮本)
- 7 回：アニメーションとは何か② (宮本)
- 8 回：基礎演習と文献講読に向けてのガイダンス (全体授業)
- 9 回：映画を見る経験とは何か① (滝浪)
- 10 回：映画を見る経験とは何か② (滝浪)
- 11 回：ダンスの多様さを知る① (宮川)
- 12 回：ダンスの多様さを知る② (宮川)
- 13 回：映画テキスト分析入門① (山本)
- 14 回：映画テキスト分析入門② (山本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

各教員に従う。

参考文献 / Readings

各教員に従う。

その他 / Others

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 2 (E)

Elementary Research Seminar 2

松田 正隆／樋本 淳／宮本 裕子／滝浪 佑紀／宮川 麻理子／山本 祐輝 (MATSUDA MASATAKA/
HIMOTO JUN/ MIYAMOTO YUKO/ TAKINAMI YUKI/ MIYAGAWA MARIKO/ YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(初回は全体で、2回目以降は各クラスに分かれて受講する。授業計画はクラスによって異なる。詳しくは、初回のガイダンスで説明する)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first lecture is given for all the students, starting from the 2nd lecture they are given in separate classes. The syllabus differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体授業)
- 2回：場所を上演する① (松田)
- 3回：場所を上演する② (松田)
- 4回：映像における演出とは① (樋本)
- 5回：映像における演出とは② (樋本)
- 6回：アニメーションとは何か① (宮本)
- 7回：アニメーションとは何か② (宮本)
- 8回：基礎演習と文献講読に向けてのガイダンス (全体授業)
- 9回：映画を見る経験とは何か① (滝浪)
- 10回：映画を見る経験とは何か② (滝浪)
- 11回：ダンスの多様さを知る① (宮川)
- 12回：ダンスの多様さを知る② (宮川)
- 13回：映画テキスト分析入門① (山本)
- 14回：映画テキスト分析入門② (山本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

各教員に従う。

参考文献 / Readings

各教員に従う。

その他 / Others

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

入門演習 2 (F)

Elementary Research Seminar 2

松田 正隆／樋本 淳／宮本 裕子／滝浪 佑紀／宮川 麻理子／山本 祐輝 (MATSUDA MASATAKA/
HIMOTO JUN/ MIYAMOTO YUKO/ TAKINAMI YUKI/ MIYAGAWA MARIKO/ YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： BEC1310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： クラス指定

授業の目標 / Course Objectives

この授業は映像身体学科への導入科目で、2つの大きな目標がある。ひとつは学術的な目標で、大学で学ぶための基本的な姿勢と知識やスキルを身につけるとともに、映像身体学科を構成する学術的な知の広がりとその基礎を理解することを目指す。もうひとつは制作実践的な目標で、映像身体学科で学ぶ映像表現や身体表現について、各教員の専門ごとに、その分野の基礎となる発想や姿勢、知識や技法などを身につけることを目的とする。

There are 2 big goals for this introductory discipline in the Department of Body Expression and Cinematic Arts. The academic goal is to teach the skills and knowledge, fundamental approaches for studying in the university, and to give understanding of the

授業の内容 / Course Contents

学科の専任教員が全クラスを交替で巡回するオムニバス形式の授業である。映像身体学科がカバーする多様な専門領域への導入として役立つ方法と題材によって各回の授業を進める。学術系の授業では、学問についての基礎的な考え方や必要な基礎能力（読む・調べる・書く・発表する・議論する等）を養成し、制作実践系で

は、映像制作や身体表現の基礎となる発想や姿勢、基礎知識を習得する。(初回は全体で、2回目以降は各クラスに分かれて受講する。授業計画はクラスによって異なる。詳しくは、初回のガイダンスで説明する)

The class has an omnibus structure, with the full-time teachers of the department rotating to give classes. Each class is given according to the methods and tasks useful for introducing the various specialization disciplines covered by the Department of Body Expression and Cinematic Arts. Academic lectures foster the basic approaches to the discipline and basic skills (reading, researching, writing, presenting, discussing). Production lectures teach basic ideas, structure and fundamental knowledge about movie production and body expression. (The first lecture is given for all the students, starting from the 2nd lecture they are given in separate classes. The syllabus differs between classes. Detailed explanation is given during guidance sessions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (全体授業)
- 2回：場所を上演する① (松田)
- 3回：場所を上演する② (松田)
- 4回：映像における演出とは① (樋本)
- 5回：映像における演出とは② (樋本)
- 6回：アニメーションとは何か① (宮本)
- 7回：アニメーションとは何か② (宮本)
- 8回：基礎演習と文献講読に向けてのガイダンス (全体授業)
- 9回：映画を見る経験とは何か① (滝浪)
- 10回：映画を見る経験とは何か② (滝浪)
- 11回：ダンスの多様さを知る① (宮川)
- 12回：ダンスの多様さを知る② (宮川)
- 13回：映画テキスト分析入門① (山本)
- 14回：映画テキスト分析入門② (山本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各教員に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常点 (各担当者の基準による) :100%

テキスト / Textbooks

各教員に従う。

参考文献 / Readings

各教員に従う。

その他 / Others

クラスによって授業計画の順序と異なる。

注意事項（検索結果画面）

クラス指定

基礎演習 1

Basic Research Seminar 1

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN161
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「メディア」や「メディウム」といった観点から対象を分析する方法を学ぶ。アニメーションや映画といった視覚文化を中心に取り上げ、対象を物質性や技術的、産業的な条件、慣習や受容といった観点から議論した文献を講読し、学術論文の読み方を身につけ、メディア論的に対象を検討する視点を獲得する。

The aim of this course is for students to learn the idea of media/medium and to develop methodologies for researching and analyzing their own topics. By reading texts on animation, film, and other visual cultures that discuss materiality, technological an

授業の内容 / Course Contents

アニメーションや映画といった視覚文化について、メディア論的な観点から書かれた文献を講読する。学生は事前に文献を読み、内容を指定された方法でまとめてくる必要がある。各自のまとめをもとにグループと全体での討議を行う。最終的には前半で学んだ内容を踏まえて、学生各自が自身の研究対象についての資料調査を行い、発表、報告をする。

Students will read texts on animation, film, and other visual cultures written from media studies perspectives. All students will be required to summarize the texts in a given form before each reading session. Based on their

summaries, students will participate in small-group and whole-class discussions. The goal is for all students to research their own topics and to make reports and presentations based on what they have learned in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：文献講読
- 8回：文献講読
- 9回：リサーチ
- 10回：学生による発表
- 11回：学生による発表
- 12回：学生による発表
- 13回：学生による発表
- 14回：学生による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容の復習、文献の講読、発表準備など。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:30% 発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

基礎演習 2

Basic Research Seminar 2

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN162
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一本の映画作品を、様々な角度から徹底的に検証することで、映画の美学、物語構造、社会、歴史、文化への理解を深める。同時に、映画史に関する知識も獲得する。

The course will examine one film thoroughly from various perspectives, attempting thereby to more deeply understand film aesthetics, narrative structure, society, history and culture. The course will also provide a grounding in film history.

授業の内容 / Course Contents

『残菊物語』（1939年）は、日本を代表する映画監督・溝口健二の傑作である。この作品を、様々な角度から徹底的に分析することによって、映画を見るとはどのような行為か、映画作品を形成する映画史とはいかなるものか、映画の背景にある歴史や文化とは何かを理解することを目指す。具体的には、(1)美学的アプローチとして、他の映画作品やテレビ・ミュージックビデオなどの異なるメディアのコンテンツとの比較を通じて、溝口の長回しの美学を理解し、(2)小津安二郎や黒澤明を含めた日本映画史の基礎知識を獲得し、(3)『残菊物語』

The Story of the Last Chrysanthemums (1939) is a masterpiece by an important Japanese film director,

Mizoguchi Kenji. The course will closely examine the film from various perspectives, thereby attempting to understand the act of watching a film, film history embedded in a film, and the history and culture that are the backdrop to a film. In particular, the course will: (1) compare Mizoguchi's aesthetic of the long take with other films and media content, including TV programs and music videos; (2) teach the basics of Japanese film history, including the place of the works of Ozu Yasujiro and Kurosawa Akira; (3) examine the historical background to *The Story of the Last Chrysanthemums*; and (4) explore the relationship between cinema and other cultural traditions, such as kabuki, and the political implications of a film.

Through the lectures, students will gain perspectives on cinema and will have occasion to present and engage in discussion, achieving enjoyment in watching films and developing a critical attitude to the history and society that is the backdrop of a film. Submission of short papers will help students learn how to write about films.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：課題作品の上映と解説(1)
- 3回：課題作品の上映と解説(2)
- 4回：課題作品についての全体討議と授業の進め方の解説
- 5回：講義(1)——映画美学
- 6回：講義(2)——日本映画史
- 7回：講義(3)——歴史的背景
- 8回：講義(4)——文化と政治
- 9回：学生発表と討議(1)
- 10回：学生発表と討議(2)
- 11回：学生発表と討議(3)
- 12回：学生発表と討議(4)
- 13回：学生発表と討議(5)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献の読書。関連作品の視聴。発表準備。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表などの授業への取り組み:40% 授業内レポート:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業内でプリントを配布します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

基礎演習 3

Basic Research Seminar 3

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN163
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近代世界の構成要因のひとつであるアフリカン・ディアスポラが生み出した文化を理解することで近代性をより深く理解し批評できるようになる。

The goal is to understand the importance of African diaspora as the constituent factor of modernity, and to become able to criticize modern society.

授業の内容 / Course Contents

アフリカン・ディアスポラの文化にとって重要な音楽についての論考を取り上げる。教員の講義と学生によるグループ発表によって進めていく。映像教材も用いる。

The goal is to elucidate the importance of music in the African diasporatic culture through the reading of studies on the black music. Professor gives lectures, and students do presentations in groups. Course uses movies as materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：BLM について 1

- 3回：BLM について 2
 4回：ピヨンセをめぐって 1
 5回：ピヨンセをめぐって 2
 6回：ピヨンセをめぐって 3
 7回：ジャネール・モネイと Afrofuturism1
 8回：ジャネール・モネイと Afrofuturism2
 9回：ジャネール・モネイと Afrofuturism3
 10回：SF 小説における Afrofuturism
 オクテヴィア・バトラーとサミュエル・ディレイニー1
 11回：SF 小説における Afrofuturism
 オクテヴィア・バトラーとサミュエル・ディレイニー2
 12回：SF 小説における Afrofuturism
 オクテヴィア・バトラーとサミュエル・ディレイニー3
 13回：まとめの議論 1
 14回：まとめの議論 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

SF と音楽に馴染んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

プリントおよび Canvas LMS (もしくは Google Classroom) を通じて配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

基礎演習 5

Basic Research Seminar 5

中国古代思想家たちの知恵

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

紀元前の中国の代表的な思想家のことばを読み、理解を深める。とくに共通の文化の基盤をもつ日中韓の東アジアにおいて、どうふるまっていべきかを考える。

The aims of this course are for students to read and promote their understanding of representative ancient Chinese thought, especially considering how they should behave in East Asia.

授業の内容 / Course Contents

孔子・荘子・韓非子・墨子・孟子・荀子の思想について知識を得たうえで、「規則は必要か」「無為の政治は可能か」「真のリーダーシップとは」「競争は必要か」「知識は多ければいいのか」などのテーマについて各思想家の考えを比較しつつ考察する。授業は、教員の講義と担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は、古典文献の訳注や参考図書を使って思想家たちのことばの意味を調べ、授業時に報告する。

In this course, students acquire knowledge of ancient Chinese thought and consider certain subjects, for example: "Do we have to keep rules?" "What kind of government is the best?" "Do we have to compete?" "Does more knowledge make us happier?"

At each meeting, one student in charge presents a report, and all the students exchange opinions. The person in charge carefully reads his/her part, does research if necessary, and explains the material to the other students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・図書館案内・担当課題割り振り
 2回：講義：諸子百家と孔子について
 3回：報告：盗人の罪と親孝行 — もし親が盗みをはたらいたら…
 講義：韓非子と法家について
 4回：報告：儒家の「孝」と墨家の「兼愛」
 講義：孝について
 5回：報告：儒家の「徳治」
 6回：報告：法家の「法治」と道家の「無為の治」
 7回：講義：老子と荘子、道家の理想社会について
 8回：報告：墨家の「尚賢」 — 競争は必要か
 講義：墨子について
 9回：報告：「仁」と「礼」 — 仁とは何か
 講義：礼について
 10回：報告：「仁」と「礼」 — 形式か中身か
 講義：孟子と荀子について
 11回：報告：学問と修養 — 誰のために学ぶのか
 12回：報告：学問と修養 — 知識は多ければいいのか
 13回：まとめ1
 14回：まとめ2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回に説明する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

初回に配布する。

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

基礎演習 6

Basic Research Seminar 6

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN166
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像身体学の重要な主題の1つである「身体の知覚」について思考と体験の両面から理解する。

To understand “body perception,” one of the important subjects in the philosophy in body expression and cinematic arts, from both thought and experience.

授業の内容 / Course Contents

身体は動くとともに知覚します。この「身体の知覚」を焦点をあてながら、前田英樹著『ベルクソン哲学の遺言』を読解していくことで、思考のトレーニングを行っていきます。それと並行して、映像作品の鑑賞やドローイングなどのワークショップを行うことで、知覚に関する思考と身体的な体験を接続することを目指します。

When the body moves, the body perceives something. While focusing on this “body perception,” students will train their thoughts by reading texts on “duration,” “time and space,” and “memory.” At the same time, they aim to connect their thoughts on perception with physical experience through workshops, including video works observation and drawing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（受講上の注意点など）
 2回：持続（1）
 3回：持続（2）
 4回：持続（3）
 5回：持続（4）
 6回：時間と空間（1）
 7回：時間と空間（2）
 8回：時間と空間（3）
 9回：時間と空間（4）
 10回：記憶（1）
 11回：記憶（2）
 12回：記憶（3）
 13回：記憶（4）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布するプリントを授業前後に読み込むこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（出席、コメントペーパーなど）：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

配布プリント（主に前田英樹著『ベルクソン哲学の遺言』岩波書店 2013年より配布）

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の進行や扱うテーマは学生の関心や理解の具合に応じて変更する可能性がある。

基礎演習 7

Basic Research Seminar 7

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN167
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々なボディーワークに取り組みながら表現する身体とは何かについて考察していきたい。また訓練していく身体性だけにフォーカスせず、知覚を揺るがすことから開かれていく身体性や、遊ぶ身体性にも着目し、そこで生まれる身体、表現の可能性について研究する。

By taking into consideration various body works, students explore what an expressive body is. Also, they research not only the trained embodiment, but also the embodiment that appears after things that stir perception, focus on the embodiment of game and

授業の内容 / Course Contents

ボディーワークとしてダンス、ヨガ、合気道、気功などのワーク、稽古を行いながらメディアとしての身体、フィクショナルな身体について考察する。また、ポストモダンダンス以降に開発されたタスク、コンタクト、インプロビゼーション、またコンセプトをもとに知覚に訴えるコレオグラフが特徴的なノンダンスのアイデアなども取り組みながら身体感覚を拡げていきたい。

以下に大まかな授業計画を示すが、集まったメンバーに応じ授業内容や進め方は変更する可能性がある。

From the bodywork like dancing, yoga, aikido, and training, students observe the body as media and fictional

body. Also, they broaden body sensation by studying the idea of non-dance characterized by choreography which trains the perception based on tasks, contacts, improvisation and concepts that appeared after post-modern dance.

Below is a rough syllabus for this class, but there is a possibility that the class contents and speed will be changed depending on participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス。ゆっくり動く。身体と時間について考察する。
- 2回：揺れに身を委ねる。身体と重力の関係を考察する。
- 3回：動きを真似る、ズレる、また、ズレに乗ることから動きを考える。
- 4回：日常動作、癖、自分が属している世界（バイト、サークル等）の身振りをもとにダンスを作る。
- 5回：デフォルメ、反復、アクセント、変形を用いてダンスのバリエーションを考察する。
- 6回：絵からダンスを作る①
- 7回：絵からダンスを作る②
- 8回：オノマトペからダンスを作る①
- 9回：オノマトペからダンスを作る②
- 10回：アジアのダンスージャワ舞踊をやってみる。
- 11回：人、物とのコンタクトからダンスを創作する。
- 12回：ダンスのスコアを考えるーコラージュ。
- 13回：ダンスのスコアを考えるーリミックス。
- 14回：12、13回で取り組んだことの発表と合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業時の積極性:50% 発表に至る取り組み及び内容:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP:<https://www.jareo-osamu.com/>

基礎演習 8

Basic Research Seminar 8

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN168
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

演劇作品を構想し「試演作品」を上演することで、「演劇とはなにか」という問いに向き合う。

Performing a theatrical work. Thinking about the question "what is drama?"

授業の内容 / Course Contents

一つの主題を通して演劇の上演を試みたい。

この世界において、すでに書かれている言葉を演劇の空間にどのように引用し対応させるのか。都市の風景のなかには、人間の言葉では理解できない言葉が書かれているのかもしれない。それをどのように劇にするのか。受講者自身の日常生活の中にモチーフを見つけることができるのかもしれない。

一つの主題を通じて複数のモチーフが提起されることだろう。それに応じて、グループ分けを行い、そのグループごとに演劇作品を創作する。創作を試みることで、演劇という問題について思考したいと思っている。

I want to try a theater performance through one theme. Several motifs will be proposed through one theme.

Divide into groups and create theatrical works for each group.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：リハーサル
- 3回：リハーサル
- 4回：リハーサル
- 5回：リハーサル
- 6回：リハーサル
- 7回：リハーサル
- 8回：リハーサル
- 9回：リハーサル
- 10回：リハーサル
- 11回：リハーサル
- 12回：リハーサル
- 13回：上演
- 14回：合評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での発表および積極性:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

基礎演習 9

Basic Research Seminar 9

宮川 麻理子 (MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN169
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

戦後の日本で誕生し、1960 年代以降多様な発展を遂げた「(暗黒) 舞踏」について、その歴史的展開や美学を概観する。20 世紀のダンスにおけるダンスの大きな転換点としての舞踏を、映像・写真資料、舞踏家によるテキスト、批評文などから読み解く。なお題材として取り扱うのは舞踏であるが、舞踏のリサーチを通して、ダンス・パフォーマンスといった上演芸術一般を分析するための手法（論文の書き方や研究発表の作法）を身につけることを目指す。

This class focuses on butoh (or ankoku butoh) which is an avant-garde dance form arose in the 1960s, in Japan. The goal of this class is to understand its history and aesthetics and its social and political context. The butoh is situated on a very turning

授業の内容 / Course Contents

本演習は、担当教員による導入（講義）、作品鑑賞（映像）とその分析、舞踏に関連する文献の講読を行い、舞踏についての理解についての理解を深めつつ、ダンスやパフォーマンス研究の手法を学びます。文献講読については、毎回担当者を決め、内容について発表してもらいます。また、舞踏の創始者とされる土方巽によるテキスト「病める舞姫」の音読を行います。難解なテキストですが、音読することで体感可能な独自の世界観や

身体観を体験してみましょう。

Lectures will provide an introduction to butoh and there will be discussion of dance pieces, with reference to videos. Students will read texts about butoh and dance studies and will present brief reports. In the second half of the semester, students will read aloud a text « The Sick Dancer » by Hijikata Tatsumi, a founder of butoh. The text seems difficult to understand, but we will find the richness of its world and thought about body expressed in it through reading aloud.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：導入：舞踏について①
- 3回：導入：舞踏について②
- 4回：導入：舞踏について③
- 5回：作品鑑賞とディスカッション①
- 6回：作品鑑賞とディスカッション②
- 7回：文献講読①
- 8回：文献講読②
- 9回：文献講読③
- 10回：文献講読④
- 11回：「病める舞姫」音読①
- 12回：「病める舞姫」音読②
- 13回：「病める舞姫」音読③
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で講読する文献に関しては、必ず全員授業前に読んでおくこと。できれば事前に、土方巽の「病める舞姫」にも目を通しておくことが望ましい。また必修とはしませんが、できる限り様々な公演や展覧会に足を運び、自分の目で見ておくことを勧めます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み・発表:70% 最終レポート割合 :30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

土方巽 〔普及版〕土方巽全集 I、II 河出書房新社 2005 4309268447

その他、開講時に指示する。

その他 / Others

※履修者数によって各回の内容を調整します。

基礎演習 10

Basic Research Seminar 10

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN170
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

具体的に映像作品を製作し、映像作品を見ることで、映画ならではの独自の空間と時間、演出、演技などに対する思考を深める。

Students will create film projects and through watching them, they will deepen consideration of space, time, direction, and acting characteristic to films.

授業の内容 / Course Contents

7～8名ほどのグループに分かれ、課題に応じて、数十秒～数分の映像作品を作ってもらおう。成績はワークショップの名の通りに何よりも出席と参加態度を重視する。交通機関の大幅な遅延（証明書付き）、忌引き（あるいは家族の事故や病気）、医師の診断書付きの病気以外の理由での遅刻・欠席・早退は認めない。サークルや部活などを理由にする欠席・早退も一切認めないので、それらを最優先したい学生は遠慮願いたい。遅刻も厳禁。講義と違い、一人でも遅刻者がでることで、所属している班のすべての作業がストップすることも

Students make groups of 7-8 people and make a film project of several tens of seconds/minutes according to the assignment. The grades heavily depend on attendance and participation as this is a workshop-style course. It is unacceptable to skip class, be late or leave early for any reasons other than being late due to traffic accidents

(submitting confirmation for that), absence due to mourning (or due to an accident or disease of the family member) or due to sickness confirmed by doctor's note. Absence or leaving early due to circle or club activities is unacceptable, so students who prioritize those should withdraw from this workshop. Being late is prohibited. Unlike lectures, if just one member is late, the activities of the whole group may come to a halt. It is not enough to just attend all lessons. A lot of time is needed for out-of-class activities, like preparation, filming and editing, so students should be prepared for this. They should be enthusiastic. One of the assignments was on specific places, like staircases. Assignments on techniques like moving shots. It covers a lot of topics including shooting silent movies. This semester the plan is to use "Anxiety" or "Fear" as motifs for film projects at the Niiza campus. Before the first lesson, students should come up with some ideas. Also, they should watch at least 2-3 movies on the topic outside class schedule and write short reports on them, which would be graded and added to in-class points.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション、グループ分け、課題作①の撮影

第一回目の授業までに「不安」と「恐れ」をテーマにした10分程の短編の企画と、「心の底から湧き上がる喜び」をテーマにした3分～5分程度の企画を考えておくこと。自己紹介とともにそれを発表してもらいます。

2回：課題作①の撮影、見るべき映画①の提示

3回：課題作①の講評、課題作②の提示、話し合い

4回：課題作②の撮影

5回：課題作②の撮影

6回：課題作②の撮影

7回：課題作②の講評、課題作③の提示、話し合い

8回：課題作③の話し合い、見るべき映画②の提示

9回：課題作③の撮影

10回：課題作③の撮影

11回：課題作③の撮影・編集

12回：課題作③の撮影・編集

13回：課題作③の講評

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

映像作品を製作するにあたって、実際の撮影は当然のこと、企画の立案、シナリオ作成、ロケーションハンティング、撮影準備、編集など、すべての作業が授業内では収まらない。したがって授業時間外にかなりの時間を割いてもらうことになる。また同時に、授業期間内で、劇場公開されている映画をあらかじめ見てきてもらい、それについて質疑応答やレポートなども書いてもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業への取り組み:70% 課題レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

基礎演習 1 1

Basic Research Seminar 11

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品は「創り手」と「受け手」の関係で成り立っています。そして、ただ漠然と創られた作品が「受け手」の心を動かすことはありません。「受け手」の心を動かすためには、「創り手」による「心に届くための演出」が必要になってきます。

この演習では、「受け手」を意識した短い映像作品を制作することで、「演出とはなにか」を考察していきます。

A moving-image work exists based on the relationship between the creator and the audience. A piece of work crafted without a sense of focus will fail to sway the emotions of the audience. In order to move the audience, the creator must do a direction in s

授業の内容 / Course Contents

授業全体を通して、受講生は2本の短い映像作品を制作・発表します。

基本的なルールは3つ。

1. 提示された作品のテーマから大きく逸脱しない

2. 決められた作品の長さを守る
3. 決められた制作期間内に仕上げる

「受け手」は他の受講生となるので、その人たちを視聴者層と想定して演出します。

作品発表では、演出意図が思い通りに伝わっているかどうかをディスカッションの中で確認。

ここが、本演習の核の部分となります。

Through the classes in this course, each student will create and present two short moving-image works.

There are three fundamental rules for this process.

1. Do not deviate too far from the given theme of the work.
2. Adhere to the given length of the work.
3. Complete the work within the given production time frame.

As the audience for each work will be the other students in the course, students will direct their productions with their classmates as the target audience.

During the presentations, students will discuss whether the aim of the direction successfully came through to the audience. This element forms the core of the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品1 構想・構成
- 3回：作品1 撮影
- 4回：作品1 撮影
- 5回：作品1 撮影／編集
- 6回：作品1 編集
- 7回：作品1 発表・講評①
- 8回：作品1 発表・講評②
- 9回：作品2 構成・脚本
- 10回：作品2 脚本／ロケハン
- 11回：作品2 撮影
- 12回：作品2 撮影
- 13回：作品2 編集
- 14回：作品2 発表・講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

構成・撮影・編集など、授業時間内に終了しなかったものについては、時間外に行ってください。

また、普段から多くの映像に触れるようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題作品の提出（2回）:60% 授業に臨む姿勢:40%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

基礎演習 1 2

Basic Research Seminar 12

芸能研究への導き

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の伝統芸能に関する初歩的な研究課題の実践を通じて、研究スキル（文献探索、テキスト読解、フィールドワーク、資料分析、発表、討議、論文作成等）の基礎を身につけることを目標とします。

The goal is to obtain fundamental research skills (searching for literature, reading texts, fieldwork, analyzing materials, presentation, discussion, writing academic works etc.) through completing elementary research assignments on traditional Japanese p

授業の内容 / Course Contents

(1) 日本の演劇、舞踊、その他の芸能を扱う諸学問（国文学、演劇学、舞踊学、芸能史、思想史、美学、パフォーマンス・スタディーズ、民俗学、人類学、文化経済学、文理融合研究など）の研究史と研究手法を概観します。この際には伝統芸能だけではなく、現代の舞台芸術も視野に入れます。自分が将来の卒業論文でどのようなスタイルの研究をするのかを考える契機としてください。

(2) 【作品解釈実践】 能の作品を一つ取り上げます。作品分析の視点を教えるので、それをふまえて自分で言語表現や身体表現を分析します。分析から作品の新たな解釈が

1. Get a general outline of research history and research methods of various disciplines that handle Japanese performing arts, such as Japanese literature, performing arts history, art theory, ethnology and ethnography, etc. This class handles modern theater and contemporary dance, together with traditional theater. It is aimed to give students an opportunity to think in which style they want to research for their future graduation paper.
2. [Practice] Interpretation of a theatre piece. It features one of the works of Noh theatre. Students will analyze the verbal and body expressions based on the analytical point of view given in the class. This will provide students with opportunity to experience the emergence of new interpretation of an art work.
3. [Practice] Literature studies and fieldwork. Each student will search newspapers and magazines for articles about local festivals, conduct hearing survey in order to inspect the transition of performance. This will provide students with opportunity to experience the joy of discovery through collecting and surveying research materials.
4. Students will make oral presentations about the two research activities mentioned above. They will receive guidance about presentation methods and writing reports beforehand.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：芸能研究概説（1）
- 2回：芸能研究概説（2）
- 3回：能楽入門
- 4回：能「井筒」の鑑賞
- 5回：言語表現の分析
- 6回：身体表現の分析
- 7回：発表の仕方、レポートの書き方／文献調査、フィールドワークの第一歩
- 8回：作品解釈実践 学生による発表（1）
- 9回：作品解釈実践 学生による発表（2）
- 10回：歴史文献から身体を復元すること
- 11回：芸能のフィールドワーク
- 12回：文献調査・フィールドワーク実践 学生による発表（1）
- 13回：文献調査・フィールドワーク実践 学生による発表（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
ディスカッション・ディベート	：	○		：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査と聞き取り調査に行ってもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表:20% 中間レポート:40% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

エリカ・フィッシャー＝リヒテ 演劇学へのいざない——研究の基礎 国書刊行会 2013 9784336056399

佐藤郁也 現代演劇のフィールドワーク——芸術生産の文化社会学 東京大学出版会 1999 9784130501439

基礎演習 1 3

Basic Research Seminar 13

映像身体学の意義と魅力を巡って

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

〈機械の知覚〉という視角は、映像身体学の核を成している。この視角から、写真という人類史上初めて出現した〈機械の知覚像〉である映像の本質を考察することができるようになることを目標とする。あわせて、映像身体学の意義について、考察することができるようになることを目指す。

Device perception forms the core of the theory of image and embodiment. From this perspective, this class observes the nature of photographic images, which were the first form of device perception that has ever appeared in human history. It also explores

授業の内容 / Course Contents

まずは、〈機械の知覚〉という考え方とその意義を確認したうえで、写真家であり、また写真教育者でもあるスティーヴン・ショアの著書『写真の本質』を主に精読する。本書のなかには多くの写真が取り上げられており、本授業を通して、あわせて写真を読む方法を学んでいく。そして、自身の写真作品をプレゼンテーションしてもらう。

After understanding the approach and meaning of device perception, the class focuses on reading the book “The

Nature of Photographs” by Stephen Shore, a photographer and photography teacher. This book features a lot of photos. In this class students will also learn the methods of reading photos, and prepare to deliver a presentation of photographic work taken by themselves to the class,

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション—映像身体学の基礎
- 2回：〈機械の知覚〉と〈人間の知覚〉
- 3回：『写真の本質』精読
- 4回：『写真の本質』精読
- 5回：『写真の本質』精読
- 6回：『写真の本質』精読
- 7回：精読の学びを活かした作品プレゼン・講評会
- 8回：精読の学びを活かした作品プレゼン・講評会
- 9回：『写真の本質』精読
- 10回：『写真の本質』精読
- 11回：『写真の本質』精読
- 12回：精読の学びを活かした作品講評会
- 13回：精読の学びを活かした作品講評会
- 14回：『写真の本質』精読のまとめ、並びに『写真の本質』と映像身体学について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日高優編『映像と文化 知覚の問いに向かって』（2016年）を読むこと。さらなる授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表:30% 授業に取り組む姿勢（コメントペーパーや出席）:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

その他 / Others

授業はテキストの精読とそれを深めるための講義、議論を中心としておこなう。現代のトピックスについても取り上げながら、展開していく。学生各自が撮影した写真のプレゼンをおこなってもらい、その講評をする回を設定する予定。

基礎演習 1 4

Basic Research Seminar 14

映画音響の基礎

山本 祐輝 (YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN174
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

聴覚および録音／再生の概念を中心に、「映像を見る」という行為の意味を問う。作品鑑賞および分析をとおして、視覚と聴覚の双方から総合的に映像表現をとらえるための基礎的な批評力を身につけることを目標とする。

Focusing on the concepts of audition and recording/playback, we consider the meaning of "watching films." The goal is to acquire the basic ability to perceive images synthetically with eyes and ears by appreciation and analysis of specific works.

授業の内容 / Course Contents

しばしば、音は映像の一部であると誤解される。たとえば、画面内の登場人物が音を発したら、鑑賞者の耳にその音が聞こえるのはごく「自然」だと感じられてしまう。本演習ではまず、その事態を徹頭徹尾「不自然」なものに見なすための、基本的な映画音響理論の概説を行なう。その際、具体的な映画作品を例にとり、ディスカッションも交えて理解を深める。演習後半では、映像表現の聴覚性という枠組みのなかでの文献講読を行なう。

Sounds tend to be considered as being part of an image. For example, if a character on screen makes a sound, it is inevitably thought very "natural" that the viewer hears the sound. In this class, students first study an overview of the basics of sound theory of films in order to consider that situation as completely "unnatural." Students deepen their understanding by watching and discussing films. In the second half of the seminar, they lead literature within the framework of the auditory aspects of images.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：映画音響理論概説①
- 3回：映画音響理論概説②
- 4回：作品上映および解説①
- 5回：作品上映および解説②
- 6回：映画音響理論概説③
- 7回：映画音響理論概説④
- 8回：前半のまとめ
- 9回：学生による発表①
- 10回：学生による発表②
- 11回：学生による発表③
- 12回：学生による発表④
- 13回：学生による発表⑤
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 予習として、指定した映画作品を全編見ておくよう指示する場合があります。
- 配布する資料を熟読すること。なお、日常的に、本演習で得た知見を意識しつつ映画・映像文化に接してみたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（出席、授業内での発言、グループ・ワークへの参加、グループ発表など）：70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業では、私たちが普段見逃したり、聞き逃したりしてしまうような映像と音の細部に注目し、その意味を学術的に読み解いていく能動的な姿勢が求められます。映画を分析的・批評的に観る／聴くということに関

心のある方に向いています。

また、映画を見て思考したことを自分なりに言語化し、他者へ伝えようとする姿勢が必要不可欠です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

運営には Canvas LMS を使用します。資料等は基本的には LMS 経由で配布するので、パソコンやタブレット、スマホなどを持参し、毎回必要な資料を確認できる状態にしておいてください。

その他/ Others

■授業の進め方や評価方法などについての説明、およびグループ分けを行なうので、初回授業には必ず出席してください。

■上記の授業計画はシラバス執筆時のものです。授業の進捗や受講者の関心に応じて変更となる場合があります。

身体系ワークショップ1

Workshop on Performing Arts 1

シネエッセイを創る

中村 佑子 (NAKAMURA YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN217

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

シネエッセイやドキュメンタリーなどの映像の可能性を探究しながら、現代社会を批評的にとらえ、自己に内在する感覚や言葉を発見することを目指します。

By exploring the possibilities of essay films and documentaries, this course aims to consider what modern society is alienating and to discover the sensibilities and words inherent in ourselves.

授業の内容 / Course Contents

シネエッセイとは日記としての映像であり、「言葉を手放さずに映像を描くこと」といえます。私自身は一人の作り手として「思考の過程」が映画であっても良いと考えてきました。日常という現実を、自分の思考と言葉によって異化すること。そのときドキュメンタリーとフィクションは交差します。

この授業は、シネエッセイという手法によって、ある種の社会批評を試みます。授業前期はヒントとなる作品を鑑賞し、考察しながら自分に内在する言語を見つめてもらい、後期は一人一人がシネエッセイを作り、皆で批評しあいます。現実是不確かなものです。

Essay films are diaries, in which images are drawn with words themselves. As a film-maker, I think the process of

personal thinking can also take place through film. When we try to alienate day-to-day reality by our own thoughts and words, the boundary between documentary and fiction may disappear.

This class attempts a certain type of social criticism through the technique of essay films. In the first half of the semester, we will view and consider masterpieces of essay film, and develop viewpoints for criticizing to them. Then I think students will each discover their own inherent language. In the latter half of the semester, each student actually makes an essay film of their own. Reality is uncertain. This class aims to train students in acquiring a specific viewpoint of reality that lies at the beginning of making their own work.

Weakness, pain, and disease are necessarily inherent in a body facing death. However, they are hidden, and placed on the outer edges of society. This class observes reality from the perspective of weakness and pain, and reconsiders our overly-standardized society through words born from the individual body. As a method for exploring such matters, we consider "essay films."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：レクチャーとグループディスカッション
：言語化できないことを見つめる
- 3回：レクチャーとグループディスカッション
：私的さを超えながら「私」であること
- 4回：レクチャーとグループディスカッション
：痛みから見る世界
- 5回：レクチャーとグループディスカッション
：フェミニズムが切り拓くもの
- 6回：レクチャーとグループディスカッション
：ケアの深層に流れる時間
- 7回：レクチャーとグループディスカッション
：現実への繊細な触れ方（映像人類学のまなざし）
- 8回：ワークインプログレスの方法（オープンダイアログの説明）
- 9回：ワークインプログレス（制作過程の発表）とディスカッション
- 10回：ワークインプログレス（制作過程の発表）とディスカッション
- 11回：作品発表
- 12回：作品発表
- 13回：講評
- 14回：講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する参考文献の読解、リサーチなど事前課題に取り組んでもらうことがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:20% 授業への出席と積極性:60% 作品の達成:20%

テキスト/Textbooks

中村佑子 マザリング 現代の母なる場所 集英社 2019 -

中村佑子 わたしが誰かわからない ヤングケアラーを探す旅 医学書院 2023 -

参考にする映像作品は、ジョナス・メカス、ホセ・ルイス・ゲリン、アニエス・ヴァルダ、シャンタル・アケルマン、トリン・T・ミンハ、ジャン・ルーシュ、クリス・マルケル、J・L・ゴダール、鈴木志郎康、出光真子 etc を考えています。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

撮影・編集はスマートフォンのみで大丈夫です（カメラでの撮影、パソコン編集も可）

身体系ワークショップ2

Workshop on Performing Arts 2

羽鳥 嘉郎 (HATORI YOSHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN218
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

先行世代の演劇実践について理解を深め、制作・研究に際しての基礎的な視座を身につける。

Students will improve their understanding of theatrical practice of preceding generations, obtain the basic viewpoint needed for production and research.

授業の内容 / Course Contents

80年代中頃～90年代前半の各種演劇運動に関する、当時の座談会などの採録を声に出して読む。教員による補足、全体での議論および該当する作品の再演を通じて、言説空間を想像する。履修者が親しんでいると思われる現行の舞台芸術表現や、新劇、アンガラ、小劇場、現代口語演劇といった演劇史理解、またアートワールドにおける位置付けとすぐにはむすびつかないかもしれない。しかし現在の潮流である参加型、ドキュメンタリー、ポストドラマ的な演劇実践の前史にあたるので、適宜つながりを提示する。

Students will read the records from the discussion meetings in 80s and early 90s about the various theatrical movements of that time. Through teacher's explanations, whole class discussions, reproducing the corresponding works they imagine the space of the discourse. It might not immediately connect to the current theatrical art expression students might be familiar with, understanding of the history of theater like Shingeki, Angura, small

theater and modern colloquial drama, or to the position in the art world. However, the class will cover the connection with theatrical practices trending nowadays, like participatory, documentary and post-drama as it historically relates to them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：リーディング1
- 3回：リーディング2
- 4回：リーディング3
- 5回：リーディング4
- 6回：リーディング5
- 7回：リーディング6
- 8回：リーディング7
- 9回：リーディング8
- 10回：振り返り
- 11回：グループ制作1
- 12回：グループ制作2
- 13回：授業内発表
- 14回：授業内発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の取り組み:50% 課題発表:50%

テキスト / Textbooks

羽鳥嘉郎 『集まると使える—80年代 運動の中の演劇と演劇の中の運動』 ころから 2018
9784907239374 ○

参考文献 / Readings

パブロ・エルゲラ 『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門』 フィルムアート社 2015

身体系ワークショップ3

Workshop on Performing Arts 3

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN219
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

身体を表現するメディアとして捉え、様々な技法に触れながら身体が持っている可能性に目を向け、その受信力及び発進力を高めていくことを目的とする。また、身体と言葉、身体と映像の関係にも着目し、身体を通じた記録と記憶、想起、継承についても考察する。

By comprehending the media of body expression and covering various techniques, this class points to the possibilities the body possesses, aiming to improve its receptive and sending power. Also, it pays attention to the relationship between body and language.

授業の内容 / Course Contents

ダンス、ヨガ、合気道、気功などの基本的な身体トレーニングを毎授業、反復して取り組みながら自己の持つ身体感覚に目を向け、また、それと同時にメソッドに囚われない自由な発想を毎回異なるテーマからアプローチしながら身体の可能性を探る。また、朗読や撮影を通して言葉とカメラをインタラクティブに扱う身体ワークショップを考案してみたい。以下に大まかな授業計画は示すが、集まった学生に応じて授業内容は変更されることがある。

By practicing the basic types of body training in each lesson, like dancing, yoga, Aikido, Qigong, this class points

to individual body sensation, at the same time improving the possibilities of the body by approaching the freedom of expression, not bound by methodology, from different topics every time. I plan to hold a body workshop in which students will handle both words and camera by reading aloud and shooting. Below is a rough syllabus for this class. Class contents will vary depending on the number of students enrolled.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：呼吸と脱力を意識したボディーワーク。
視覚からダンスを考える。見えているものを身体でなぞってみる。
- 2回：呼吸と脱力を意識したボディーワーク。
視覚からダンスを考える。絵画からダンスを作る。
- 3回：身体の軸を探ることを意識したボディーワーク。
真似ることからダンスを展開する。
- 4回：身体の軸を探ることを意識したボディーワーク。
真似ることからダンスを展開する。リズム、アクセントを意識する。
- 5回：丹田を意識したボディーワーク。
真似ながらもズラす。コンタクトからダンスを展開する。
- 6回：丹田を意識したボディーワーク。
真似ながらもズラす。音楽を用いてダンスを展開する。
- 7回：気の錬磨を意識したボディーワーク。
物や周りの環境と関わることでダンスを考える。一触れることから生まれる動きを中心に。
- 8回：気の錬磨を意識したボディーワーク。
物や周りの環境と関わることでダンスを考える。一触れることができない遠くにあるものをイメージする。
- 9回：モノを使ったボディーワーク。
擬音語、言葉からダンスを立ち上げる。
- 10回：モノを使ったボディーワーク。
言葉、文章からダンスを立ち上げる。
- 11回：即興ダンスの分析と実践。
- 12回：デュオのダンス作品（ショートピース）を作ってみる。一舞踊譜を作る。
- 13回：デュオのダンス作品（ショートピース）を作ってみる。ー12回目に生まれたものを深める。
- 14回：作品発表・合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業行うメソッド、テクニック、技法は学期中は授業後も反復して取り組んで貰いたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加:60% 課題の成果:30% 振り返りレポート:10%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: <https://www.jareo-osamu.com/>

身体系ワークショップ5

Workshop on Performing Arts 5

健康法としての24式太極拳

何 柳 (HE LIU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN225

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

太極は陰陽を中心とした中国伝統文化であり、太極拳は太極思想に基づくスポーツです。学生さん達には、二十四式太極拳の練習を通じて、陰陽のバランスを体感し、繰り返して練習をする事により呼吸を整えて奥深い太極拳の理解を目標とします。

Based on the concepts of yin and yang, Tai Chi forms part of Chinese traditional culture. Tai Chi Chuan is a sport with roots in Tai Chi philosophy. Practicing the 24 movements of Tai Chi Chuan will enable students to experience the balance between yin an

授業の内容 / Course Contents

二十四式太極拳の練習を通じて、手の動きの基礎である八法:

棚(ポン)、掙(リュイ)、擠(ジー)、按(アン)、採(ツァイ)、捌(リエ)、肘(ジョウ)、靠(カオ)と

足の動きの基礎である五法:

進(ジン)、退(トウイ)、顧(グ)、盼(パン)、定(デエイ)を学びます。

次に体幹の動きの基礎である身法を学び、その動作から両足の実と虚を体感します。

特に、ポーズから次のポーズに行く、繋がり部分を丁寧に授業を行います。

Through practicing the 24 movements of Tai Chi Chuan, students will learn the eight methods that form the basis for moving the hand (Peng, Lv, Ji, An, Cai, Lie, Zhou, and Kao) and the five methods that form the basis for moving the legs (Jin, Tui, Gu, Pan, and Ding).

Following this, students will learn the method, which forms the basis for moving the core of the body, and experience the jitsu and kyo through these movements.

In particular, the course will carefully demonstrate the connecting elements when moving from one pose to the next.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：二十四式太極拳の紹介と基本動作の説明
- 2 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 一式～三式実技練習
- 3 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 四式～六式実技練習
- 4 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 一式～六式実技練習
- 5 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 七式～八式実技練習
- 6 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 九式～十一式実技練習
- 7 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 一式～十一式実技練習
- 8 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 十二式～十五式実技練習
- 9 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 十六式～十七式実技練習
- 10 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 十二式～十七式実技練習
- 11 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 十八式～二十式実技練習
- 12 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 二十一式～二十四式実技練習・レポート提出
- 13 回：ストレッチ・基本功・歩法と動作練習
二十四式太極拳 復習・レポート提出
- 14 回：二十四式太極拳・実技試験

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク

上記いずれも用いない予定　：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

渡すテキストを参考して復習する。

授業で習った動作など一つでもいいので、

繰り返し復習してみる事を望む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合　:100%　授業への取り込む姿勢:50%

最終レポート割合：:20%最終テスト割

合：:30%

テキスト / Textbooks

日本武術太極拳連盟　太極拳実技テキスト　J・W・T・F　1998　-

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

テキストを事前に読んでおくこと

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味をしておくこと

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

必ず運動着にて参加の事（足を上げたり、開くことがあるので、ショートパンツ、スカート、フレアーパンツ
スカート不可）

運動靴着用

飲み物持参

携帯は必ずマナーモードにすること

身体系ワークショップ6

Workshop on Performing Arts 6

武術

廖 赤陽 (RYOU SEKIYOU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN226

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中国伝統武術の練習を通して、身・心・技を磨き、以下の四つの目標を目指す。

- 心身健康の向上を図る。
- 身体能力の開発により身体表現の域を広げる。
- 一定の自衛術の習得。
- 東アジアの心身観に対する理解を深める。

Through practicing Chinses Traditional Martial Art (Wushu) ; 1. Students will improve mental and physical health. / 2. Students will have wider range of physical expressions. / 3. Students will learn basic self-defense skills. / 4. Students will deepen unde

授業の内容 / Course Contents

実技を中心とするアジア身体論ワークショップ。

【実技】入門劈掛拳(にゅうもんひっかけん)

劈掛拳は劈掛掌（ひかしょう）とも言う。260 何年も前から、中国武術の故郷・滄州塩山大左村より伝えられ

てきた伝統武術の一種。日本では、「疾風怒濤の超実戦拳法」として広く知られており、近年、対戦格闘ゲームにもよく取り入れられる拳法である。ハリー・ポッターと死の秘宝 ゲームに出てくるヘレナは、劈掛拳を使っている。そのしなやかな動きにより、身体各部位が全面的に鍛えられ、武道の基礎としてはもとより、その他の身体表現を習うために

This is a training workshop on Asian embodied art. Training: Entry-level Piguaquan. Piguaquan is also known as Piguazhang. This is a traditional martial art that originated around 260 years ago from its home in Dazuocun, Yanshan County, Cangzhou City, China. In Japan, it is widely known as "the most fight-effective martial art of storm and stress", and is often used in recent match-type fighting video games. Helena, who appears in the game "Harry Potter and the Deathly Hallows" uses Piguaquan. The supple movements train the whole body, give the basics of a martial art and serve as a good addition to other ways of body expression. It is also connected to improving the power of mind and spirit. Theory: The essence (health), application (fight) and expression (art) of martial arts / holistic thinking and martial arts / the "Shen" (spirit and information) and "Xing" (structure and expression) of martial art / history, schools and types of martial arts / weapon theory / martial arts and Qigong / martial arts and Chinese medicine / martial arts and dancing, performing / exchange of martial arts in Eastern Asia.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：「戈を止めることを武とする」、武術の理念とその儀礼を学ぶ。
- 2 回：基本功の練習：1. 肩、腰、足の柔軟性、2. 足腰の強化訓練：站とう功の基本
- 3 回：基本功の練習：1. 肩、腰、足の柔軟性、2. 站とう功の基本、3. 踢腿（蹴りの練習）
4. 肩の技法：単環・双環・抽鞭・双劈掛など。
- 4 回：上記1－4、5. 複合基本功：穿（せん）掌、展縮式勢、揉球
6. 専門基本功：単劈手
- 5 回：基本功：上記1－6 及び 套路（形）：入門劈掛拳、第一段
- 6 回：基本功：上記1－6 及び 套路：入門劈掛拳、第一段
- 7 回：基本功：上記1－6 及び 套路：入門劈掛拳、第二段
- 8 回：基本功：上記1－6 及び 套路：入門劈掛拳、第二段
- 9 回：基本功：上記1－6 及び 套路：入門劈掛拳、第三段
- 10 回：基本功：上記1－6 及び 套路：入門劈掛拳、第三段
- 11 回：基本功：上記1－6 及び 套路：入門劈掛拳、第四段 授業内課題レポートの発表
- 12 回：基本功：上記1－6 套路：入門劈掛拳、第四段
- 中国武術の武器紹介：刀・剣・槍・棍・鞭など
- 13 回：総合復習
- 象形拳法（動物や人間の形態を模した武術）の紹介：酔拳・虎拳・猿拳・鶴拳など
- 14 回：総合復習、実技テスト
- * 授業内課題レポートは、立教 SPIRIT 上メール形式で提出。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

<http://www.muikiko.com/>

1. インターネット上、劈掛拳の動画サイトを見る。
2. 各自、柔軟性の練習や足腰を鍛え、基礎体力を作る。
3. 日常の飲食と生活リズムに気をつける。
4. 毎回習った内容を各自で復習する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加度:60%

最終レポート割合：:20%最終テスト割合：:20%

テキスト / Textbooks

廖赤陽・廖萃萃 『実践気功健康法』 DVD ブック(2800 円) 春秋社 2004 -

田隆智・藤原芳秀 『拳児』(漫画)全 21 巻 小学館文庫 2001 -

郭瑞祥 王華鋒 『中国武術 滄州劈掛拳 疾風怒濤の実戦拳』 武術別冊 1995 -

参考文献 / Readings

廖赤陽 『気功ーその思想と実践』増補版 春秋社 2013 年

廖赤陽 『気功で読み解く老子』 春秋社 2009 年

加藤千恵 『不老不死の身体一道教と「胎」の思想』 大修館書店 2002

加藤千恵ほか 『煉丹術の世界』 大修館書店 2018

森秀樹ほか編 『生命論への視座』 大明堂 1998

参考ホームページ：<http://www.muikiko.com/>

http://profile.musabi.ac.jp/page/LIAO_Chi-Yang.html

その他 / Others

持参：運動着（色：黒または白の二色限定/長袖・長ズボン/ボタン・ファスナーのついてないもの）、体育館用シューズ（できれば白）、タオル

身体系ワークショップ7

Workshop on Performing Arts 7

気功

Qigong

廖 赤陽 (RYOU SEKIYOU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN227

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 気功養生学の実技とその原理を学び、東アジアの思想と文化を「体得」する。
- 心身の健康レベルの向上を図る。
- 身体表現の本質を問いかける。

- Participants will study the techniques and principles of Health Preserving Qigong, learning the traditional culture of East Asia from experience.
- Students will improve mental and physical health.
- Students will question about the nature of express

授業の内容 / Course Contents

だれでも心身の不調や悩み・ストレスがある。誰でも自ずからこれを治す力を備えている。気功はその力を導き出す方法の一つである。この授業は、気功養生の基本方法とその原理を実体験を通して会得し、同時に、このような内なる心身実践を通して、東アジアの思想と文化を「体得」するものでもある。

Everyone faces disorders, problems and stress of body and mind at some point. Everyone has the power to deal with those by themselves. Qigong is one of the methods to draw out this power. In this class, students will grasp the basic methods of Qigong and its principles from practice, learning about Eastern Asian culture through experiencing such internal practices of body and mind.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：気になる「気」：気の世界への招待、自ら気を感じ取る練習
 2回：理論：気功養生の目的・意義と方法論 実技：身体と心をリラックスする基本
 3回：理論：一つの考え方：気功のホリスティック的な考え方実技：気功入門八法
 4回：理論：二つのポイント、静かとリラックス 実技：入門八法 取功
 5回：理論：三つの調節 - - 調身・調息・調心 実技：入門八法、睡功
 6回：理論：生命は静止にあり、静功の基本原則 実技：静坐、睡功
 7回：理論：動功の基本原則 実技：遊龍功第一節から第三節 静坐
 8回：理論：気の流れる道としての経絡 実技：遊龍功第一節から第三節 静坐
 9回：理論：エネルギースポットとしてのツボ 実技：遊龍功第四節から第六節 静坐
 10回：理論：気功の中の構造（身体）・エネルギー（気）と情報（意識）
 実技：遊龍功第四節から第六節 静坐
 11回：理論：身体内外の環境問題－「七情」と「六淫」
 実技：遊龍功第七節から第十節 静坐 授業内課題レポートの発表
 12回：理論：飲食と日常生活管理 実技：遊龍功第七節から第十節 静坐
 13回：理論：すべての答えは自分の中にある
 実技：遊龍功第一節から第十節 静坐 授業内課題レポートの回収
 14回：理論：宇宙は一つ 実技：遊龍功第一節から第十節 静坐
 課題レポートは SPIRIT 上メール形式で提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

<http://www.muikiko.com/>

『気功－その思想と実践』を読む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

廖赤陽・廖萃萃 『実践気功健康法』DVDブック(2800円) 春秋社 2004 -

-

-

参考文献 / Readings

廖赤陽 『気功－その思想と実践』増補版 春秋社 2019

廖赤陽 『気功で読み解く老子』 春秋社 2019

廖赤陽 『老子与気功一心身実践的中華文化』 上海科学技術出版社 2017

加藤千恵 『不老不死の身体一道教と「胎」の思想』 大修館書店 2002

森秀樹ほか編 『生命論への視座』 大明堂 1998

加藤千恵ほか 『煉丹術の世界』 大修館書店 2018

その他/ Others

<http://www.muikiko.com/>

http://profile.musabi.ac.jp/page/LIAO_Chi-Yang.html

持参・服装：体育館用シューズ、動きやすい服装。

映像系ワークショップ1

Workshop on Film and Video 1

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN228
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

具体的にシナリオを書き、映像作品を製作し、映像作品を見ることで、映画ならではの独自の空間と時間、演出、演技などに対する思考を深める。

Students will create film projects and through writing scenario and directing and watching films they will deepen consideration of space, time, direction, and acting characteristic to films.

授業の内容 / Course Contents

5名～8名のグループに分かれ、課題に応じて、シナリオを書き、数十秒～数分の映像作品を作ってもらおう。成績はワークショップの名の通りに何よりも出席と参加態度を重視する。1日でも休むと単位の修得は難しい。交通機関の大幅な遅延（証明書付き）、忌引き（あるいは家族の事故や病気）、医師の診断書付きの病気以外の理由での遅刻・欠席・早退は認めない。サークルや部活などを理由にする欠席・早退も一切認めないので、それらを最優先したい学生は遠慮願いたい。遅刻も厳禁。講義と違い、一人でも遅刻者がでることで、Students make groups of 5-8 people and make a film project of several tens of seconds/minutes according to the assignment. The grades heavily depend on attendance and participation as this is a workshop-style course. The class takes up 2 time blocks, so skipping even one day will make getting the credit difficult. It is unacceptable to

skip class, be late or leave early for any reasons other than being late due to traffic accidents (submitting confirmation for that), absence due to mourning (or due to an accident or disease of the family member) or due to sickness confirmed by doctor's note. Absence or leaving early due to circle or club activities is unacceptable, so students who prioritize those should withdraw from this workshop. Being late is prohibited. Unlike lectures, if just one member is late, the activities of the whole group may come to a halt. It is not enough to just attend all lessons. A lot of time is needed for out-of-class activities, like preparation, filming and editing, so students should be prepared for this. They should be enthusiastic. Also, they should watch at least 2-3 movies on the topic outside class schedule and write short reports on them, which would be graded and added to in-class points.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、グループ分け、課題作①の撮影
- 2回：課題作①の撮影、見るべき映画①の提示
- 3回：課題作①の講評、課題作②の提示、話し合い
- 4回：課題作②の撮影
- 5回：課題作②の撮影
- 6回：課題作②の撮影
- 7回：課題作②の講評、課題作③の提示、話し合い
- 8回：課題作③の話し合い、見るべき映画②の提示
- 9回：課題作③の撮影
- 10回：課題作③の撮影
- 11回：課題作③の撮影・編集
- 12回：課題作③の撮影・編集
- 13回：課題作③の講評
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

映像作品を製作するにあたって、実際の撮影は当然のこと、企画の立案、シナリオ作成、ロケーションハンティング、撮影準備、編集など、すべての作業が授業内では収まらない。したがって授業時間外にかなりの時間を割いてもらうことになる。また同時に、授業期間内で、劇場公開されている映画をあらかじめ見てきてもらい、それについて質疑応答やレポートなども書いてもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業への取り組み:70% 課題レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

映像系ワークショップ2

Workshop on Film and Video 2

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN229

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品は、様々な制約の下でつくられます。今後、プロの現場で映像制作を行っていく場合、「潤沢な予算」と「十分な時間」が与えられることは、ほとんどありません。しかし優れた映像作家は、そうした制約下の中でも、作品の中に自分の署名を残します。

このワークショップでは、ある一定の条件下で課題作品を制作することで「自分の作家性とは何か？」を追求していきます。

Moving-image works are created under various limitations. In the future, when students will work on productions in a professional capacity, they will find that they rarely have an ample budget or enough time. However, an outstanding creator will leave the

授業の内容 / Course Contents

14 回の授業期間に、2つの作品を制作・発表します。作品については、短編映画、ドキュメンタリー、ミュージックビデオ、ビデオアート等、ジャンルの制限はありません。その際、制作する作品のジャンル・内容に合わせて、「9グループ」を上限に班分けを行います。

課題の内容は、ワークショップ参加者の映像嗜好も考慮しますが、文学や音楽等を絡めたものにします。例えば、「ある作家の短編集の中から一編を選び、インスピレーションを得て制作する」など。

基本的には、作品の演出にフォーカスして行うワークショップですが、撮影・照明・編集な

Over the 14 classes in this course, students will create and present two works. There are no limits to the choice of genre; students may create a short film, documentary, music video, video art, or other type of work. Students will be divided into a maximum of 9 groups according to the genre and content of the work being created.

Assignments will account for the preferences of the participants but also involve connections with fields such as literature and music. For example, students may be asked to choose a specific work that inspires them from a collection of short stories by a certain author and create a work.

This workshop will focus on direction, but it also welcomes students who want to concentrate on technical aspects such as filming, lighting, editing, and acting. Projects of this nature will be evaluated on the same basis as those centering on the direction of a production.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品1 構成・脚本
- 3回：作品1 脚本／撮影
- 4回：作品1 撮影
- 5回：作品1 撮影
- 6回：作品1 編集
- 7回：作品1 発表・講評
- 8回：作品2 企画・構成
- 9回：作品2 構成・脚本
- 10回：作品2 脚本／撮影
- 11回：作品2 撮影
- 12回：作品2 撮影
- 13回：作品2 編集
- 14回：作品2 発表・講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

構成・撮影・編集など、授業時間内に終了しなかったものについては、時間外に行ってください。

また、普段から多くの映像に触れるようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題作品の提出（2回）：60% 授業に臨む姿勢：40%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

映像制作への意欲があること。

撮影・編集等、経験の有無は問いません。

映像系ワークショップ3

Workshop on Film and Video 3

大工原 正樹 (DAIKUHARA MASAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN230
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2120
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

映画だけに通用する演技というものがある。誰もが思い浮かべる、画面の人物サイズを自在に変化させることやマイクを通して小さな吐息まで拾うような「技法」に由来する側面ではなく、会話として書かれたテキストを俳優がどう演じるかという点において「映画だけに通用する」演技のことである。それは作り手がどのように映画の特性を考えた結果そうになっていったのか。一例として、黄金期といわれる 1950 年代の日本映画を、同じテキストを用いてなぞることで、演者と演出者双方の立場から探してみたい。その上で、近年の日本映画の演技・演出・セリ

There is a certain type of acting that only works in movies. It is not an aspect that comes to mind that comes from "techniques" such as freely changing the size of the characters on the screen or picking up even the smallest breaths through a microphone,

授業の内容 / Course Contents

- ・ 様々な映画の断片を観ながら、映画の演技の特徴を考える。（考察レポートを書く）
- ・ 映画監督が行うリハーサルの実際を知る。（考察レポートを書く）
- ・ 既存の長編映画（50 年代）のシナリオを読み込む。（考察レポートを書く）

- ・同シナリオのホン読み。
- ・同シナリオの一場面を自分たちで演じてみる。演出もやってみる。
- ・既存の長編映画（2000年代）のシナリオを読み込む。（考察レポートを書く）
- ・同シナリオのホン読み。
- ・同シナリオの一場面を自分たちで演じてみる。演出もやってみる。
- ・上記2本の映画の演技の違いを考察
- ・ Think about the characteristics of movie acting while watching fragments of various movies. (Write a study report)
- ・ Learn about the actual rehearsals conducted by movie directors. (Write a study report)
- Load the scenario of an existing feature film (1950s). (Write a study report)
- ・ Hon reading of the same scenario.
- ・ Try acting out a scene from the same scenario yourself. I'll also try directing.
- Load the scenario of an existing feature film (2000s). (Write a study report)
- ・ Hon reading of the same scenario.
- ・ Try acting out a scene from the same scenario yourself. I'll also try directing.
- ・ Discuss the differences in acting between the two films above. (Write a study report)
- ・ Everyone writes a short scenario. (1 minute conversation play)
- ・ Divide into groups of 5 to 6 people to rehearse, film, edit, and adjust the sound of the chosen scenario.
- ・ Screening and discussion.

Since everyone repeats ``acting as an actor" and ``directing as a director," it is important to have an active attitude even if you are inexperienced.

In the first half, continuity with the previous class is important, and in the second half there will be group work, so full attendance is a prerequisite. Particularly in group work, if even one person is missing, rehearsals and filming will be disrupted, and the group members will also be inconvenienced, so please participate responsibly.

In addition to class time, you will be required to report on at least five assignments, read a full-length scenario of over 100 pages, watch a designated full-length movie, write the scenario, have group meetings, edit, and adjust the sound. It requires a certain amount of determination and a strong interest in the topic.

In addition, we may change the class schedule as appropriate while monitoring the progress of students and the extent of their interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：・アンケート、自己紹介、授業の流れの説明

・参考上映

※上映された短編（もしくは長編映画の様々な断片）の感想（1500字以上）を次週までに提出。

2回：資料映像上映①とディスカッション

※観た映像の演出に関する考察①（1200字以上）を次週までに提出。

3回：資料映像上映②

※観た映像の演出と演技に関する考察②（1500字以上）を次週までに提出。

・全員から提出された考察①をもとにディスカッション

4回：・資料映像上映③

※観た映像の演出と演技に関する考察③（1500字以上）を次週までに提出。

・全員から提出された考察②をもとにディスカッション

5回：・全員から提出された考察③をもとにディスカッション

- ・参考上映
- ・次週から行う授業の説明

6回：長編映画①（1950年代の日本映画）のシナリオの一場面を演じてみる（演出してみる） 1

7回：長編映画①（1950年代の日本映画）のシナリオの一場面を演じてみる（演出してみる） 2

8回：長編映画②（2000年代の日本映画）のシナリオの一場面を演じてみる（演出してみる） 1

9回：長編映画②（2000年代の日本映画）のシナリオの一場面を演じてみる（演出してみる） 2

※同じシチュエーションの一場面を持つ長編映画①と②の「演技と演出の違い」に関する考察を次週までに提出する（4000字以上）。

10回：・前週の課題をもとにディスカッション

- ・参考上映

※ディスカッションを踏まえ、全員が次週までに1分のシナリオを書いてくる。

11回：・提出されたシナリオから一本を選び、グループに分かれて演出・演技を行う（リハーサル）①

12回：・提出されたシナリオから一本を選び、グループに分かれて演出・演技を行う（リハーサル）②

- ・グループに分かれて撮影①

13回：・グループに分かれて撮影②

※グループごとに、次週までに編集・整音を行い提出する。

14回：・提出された映像を上映・講評

- ・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

シナリオを繰り返し読み込むこと、課題のレポート作り5回（それぞれ1500字、1200字、1500字、1500字、4000字以上）、シナリオの執筆、グループで行うリハーサル・撮影のための準備や打ち合わせ、編集と整音の作業などが授業外で必要になってきます。

また、授業で指定した映画を時間外にレンタルDVDや有料配信で観てもらふ必要があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題への取り組みの積極性、授業での発表(提出物を含む):100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

編集ソフトで編集を行えることや、編集ソフトでの最低限の整音が行えることが望ましいが必須とはしない。未経験者は履修後に自力で習得してほしい。

映像系ワークショップ5

Workshop on Film and Video 5

非劇映画の撮影技法

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN248

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期2

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自分の見ている被写体に起こっている現象が実は見る視点、角度、時間の長さを変えてみることで新たな発見がある。それがどのように推移しているのか観察し検証するために撮影し映像化していく。

New discoveries can be made by changing the perspective, angle, and length of time from which you view the phenomenon that is actually happening to the subject you are looking at. In order to observe and verify how this is progressing, we will photograph

授業の内容 / Course Contents

2 コマ連続授業。

学科保有の撮影照明機材や手持ち機材、スマートフォンなどを用いて撮影技術や照明技術を身につけ微速度撮影やハイスピード撮影（スローモーション）を取り入れながら映像化していく。

グループでの短編課題制作。適宜参考試写あり。

授業内容は受講学生の技術習得に応じて下記の計画から変更する可能性がある。

Two consecutive classes.

Students will further acquire photography and lighting techniques by using the department's photography and lighting equipment and smartphones in the studio building. The images are created using time-lapse photography and high-speed photography (slow motion).

Creating assignments in groups. There are reference previews as appropriate.

The content of the lessons may change from the plan below depending on the skill acquisition of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／課題提示
- 2回：参考試写
- 3回：撮影照明技術／参考試写
- 4回：撮影照明技術／参考試写
- 5回：企画
- 6回：企画
- 7回：撮影照明技術／参考試写
- 8回：撮影照明技術／参考試写
- 9回：課題制作
- 10回：課題制作
- 11回：課題制作/編集
- 12回：課題制作/編集
- 13回：編集/上映講評
- 14回：上映講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示します。授業時間外での取材やロケハンなどある可能性あり。

企画によっては学外での撮影を行う場合もあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題撮影と提出:70% 授業への取り組み:30%

出席を重視し課題提出は必須です。

テキスト / Textbooks

授業時に適宜配布します。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示します。

映像系ワークショップ6

Workshop on Film and Video 6

村越 としや (MURAKOSHI TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN249
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「撮影→選択→発表」という具体的な制作作業を通じて写真と向き合い、見ること、感じること、考えることを繰り返すことで写真への理解を目指す。

In this course, students will work on a photography project and stay committed to photography by “shooting, selecting, and presenting” photos, and repeating the process of seeing, appreciating, and critiquing the photos, with the goal of developing an und

授業の内容 / Course Contents

写真がなかった時代、物事は文字や絵にして残しておかなければ、それを覚えている人間がいなくなると同時に消えるものであった。

そんななか、元々自然の法則や自然の現象から写真が発見され、そして科学や技術の発展により、現在では多くの人がカメラを持ち歩き、写真や動画で物事を記録し、すぐに sns や web などに保存、保管することが出来るようになった。

結果、今現在も目には見えないデータとして想像もつかないほど大量の写真が web 上に存在し増え続けている。

こうした歴史的背景を踏まえたうえで、この授業では、写真が大量生産、

Before the advent of photography, only those things preserved in writing and painting had any possibility of withstanding the passage of time; things stored in people's memories would be lost as soon as they were gone.

Photography originally began with the discovery of natural principles and phenomena. Nowadays with the advances in science and technology, many people started to walk around with cameras in their pockets, ready to capture moments in photos and videos, and immediately posting them on social media and websites.

Consequently, the volume of photos being stored online is growing exponentially by the second, which is beyond our ability to conceive.

Based on our understanding of the historical background, and with the emerging trends in photographic mass production and consumption, this course will explore the question: What exactly are we trying to accomplish with photos? Students will try to answer this question by shooting, viewing, and presenting photos.

In particular, I will first provide an overview of the course structure and a historical review of photography.

Students will then present their photos to the class and share feedback and opinions with their peers.

The course schedule is basically as follows, but it is subject to change depending on the interests and progress of the students.

* Prior knowledge of photographic techniques is not a prerequisite, but active participation in class discussion is highly encouraged.

* Students can use a camera of their choice. If you do not have a camera of your own, you may use university equipment (a digital single-lens reflex camera). You may need to use your own digital camera or smartphone camera.

* If you use university equipment, you will be required to buy/have your own memory card (SD card).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス（授業の流れと講師の作品の紹介）

2 回：撮影

3 回：2 で撮影した写真の発表と講評

4 回：発表と講評

5 回：発表と講評

6 回：発表と講評

7 回：発表と講評

8 回：発表と講評

9 回：発表と講評

10 回：発表と講評

11 回：発表と講評

12 回：発表と講評

13 回：発表と講評

14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド*（パワポ*等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク

上記いずれも用いない予定　：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外での課題撮影を原則とし授業内は発表と講評を中心とする。写真を撮って持ってくる、そしてそれらをよく見ることの繰り返しとなる。授業外での制作時間と積極性および継続性を要するので受講生にはその覚悟を持って臨んでもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合　:100%　出席及び授業への取り組み:50%　積極性:50%

テキスト / Textbooks

授業時に提示する。

参考文献 / Readings

授業時に提示する。

超域系ワークショップ1

Workshop on Media and Sound Art 1

音と音楽の間、サウンドデザインの試行

小野寺 唯 (ONODERA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN263

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

音に対する感性や知識を深め、音への感性開発/リテラシー向上に主眼をおいた、あらゆる音を素材とした作品を作り上げます。

The main focus is on developing sensitivity to and knowledge of sound, and developing sensitivity to sound/literacy, and creating works of art using all kinds of sound as material.

授業の内容 / Course Contents

「サウンドアート」とは「聴覚芸術」のことです。音楽のみならず、環境の音風景としてのサウンドスケープ、身体音楽としてのダンス/パフォーマンス、言葉や発声によるサウンド・ポエトリー、音を鳴らすオブジェとしての音響彫刻、音の存在と体験を重視するサウンド・インスタレーション、視覚と聴覚の関係性を問う映像や図形楽譜という視覚芸術なども含まれています。前半はサウンドアーティスト/作品の事例紹介、後半はレコーディング&編集によって作品を作り上げるという構成の授業になります。

The term 'sound art' refers to 'aural art'. It includes not only music, but also soundscapes as soundscapes of the environment, dance/performance as music of the body, sound poetry through words and vocalisations, sound

sculptures as sounding objects, sound installations that focus on the presence and experience of sound, video and graphic works that question the relationship between sight and hearing The visual art of musical notation is also included. The first half of the class will consist of case studies of sound artists/works, while the second half will consist of recording and editing to create a work of art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：授業概要
- 2回：作品紹介・解説
- 3回：作品紹介・解説
- 4回：作品紹介・解説
- 5回：オーディオエディター（DAW）操作説明
- 6回：個人作業・個人指導
- 7回：個人作業・個人指導
- 8回：中間レポート1：プレゼンテーション・講評 [1]
- 9回：中間レポート1：プレゼンテーション・講評 [2]
- 10回：個人作業・個人指導
- 11回：個人作業・個人指導
- 12回：個人作業・個人指導
- 13回：最終レポート：プレゼンテーション・講評 [1]
- 14回：最終レポート：プレゼンテーション・講評 [2]

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

作品制作時に個別に必要とされる場合に行う音の録音（環境音、器楽音 etc.）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:25% 最終レポート割合：35%最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

- デレク・ベイリー 『インプロヴィゼーション』 工作舎 1981 4875022220 ○
- 佐々木敦 『(H)EAR ポスト・サイレンスの諸相』 青土社 2006 4791762525 ○
- ダニエル・J・レヴィティン 『音楽好きな脳』 ヤマハ音楽出版 9784636975918 ○

参考文献 / Readings

- ブライアン・イーノ 『A YEAR』 パルコ出版 1998 4891945532
- 吉村弘 『都市の音』 春秋社 1990 4393934113
- 堀本彰 『武満徹 Visions in Time』 esquire magazine japan 2006 4872951026
- 細川周平 『音と耳から考える』 アルテスパブリッシング 2021 9784865592405
- デヴィッド・バーン 『音楽のはたらき』 イースト・プレス 2023 9784781621968

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、スマートフォン（録音に使用）

その他/ Others

Yui Onodera (www.critical-path.info)

art collective NOR (www.nor.tokyo)

映像シナリオ演習 1

Seminar in Screenwriting 1

映像シナリオ演習 1

Seminar in Screenwriting 1

佐藤 佐吉 (SATO SAKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

プロット・シナリオ制作および映像作品分析を通して、映画やドラマにとって根幹をなす脚本の重要性を『魅力的なキャラクターはいかにして創造し得るか』を主なテーマとして考察する。

Through the creation of plots and scenarios and the analysis of films, students will examine the importance of screenplays, which form a core element in films and dramas, focusing primarily on the theme of what an appealing character is.

授業の内容 / Course Contents

脚本とはいかなるものかを既存の映像作品を参考にしながらまずは執筆もしくは模写することで概要を把握し、その上で自主制作を前提とした短編映画用（約 15～30 分想定）のプロット（200 字程度の文章で物語の内容を表現したもの）および脚本の作成を行う。その過程において教師からの講評、クラスでのディスカッションを行い『魅力的なキャラクターはいかにして創造し得るか』実践を通して考察する。基本的には毎回必ず何かしらの課題が出されるものとし、各自他人の提出物を読んだ上で講義に臨むこと。また週に 1 本は映像作品

を各自の自由選択

To understand what a screenplay entails, students will refer to existing films and then write or reproduce their screenplays to understand the corresponding outlines. From there, students will create a plot (a text of around 200 words to express the content of the story) and write a screenplay for an independent short film (approximately 15–30 minutes long). During this process, students will gain practical experience by receiving critiques from the instructor and engaging in class discussions to understand what an appealing character is. An assignment will generally be given for each class, and students are expected to have read the work that other students have submitted before attending the lectures. Students will also be required to watch one film of their own choice every week and be prepared to briefly share their impressions of the works during the lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：授業の目標についての説明、アンケート、次回講座までの課題提示

2回：課題の講評

プロットの書き方について

3回：プロット講評

4回：プロット講評

5回：キャラクター及びシナリオ分析①

6回：プロット講評

7回：プロット講評

8回：プロット講評

9回：キャラクター及びシナリオ分析②

10回：シナリオ講評

11回：シナリオ講評

12回：シナリオ講評

13回：シナリオ講評

14回：シナリオ講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

プロット、シナリオ制作

※第1回講座までに下記の課題に取り組むこととする

- ・ 1作品以上の映画シナリオを図書館等を利用し読了（『年鑑代表シナリオ集』『月刊シナリオ』等）
- ・ 参考文献『複眼の映像』『文章教室』読了

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席、授業への取り組み:40% プロット課題:20% シナリオ課題 第1稿:30% シナリオ課題 第2稿:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

橋本忍 複眼の映像 私と黒澤明 文春文庫 2010年03月10日 9784167773540

藤本義一 藤本義一の文章教室 PHP文庫 1992年3月1日 4569564585

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

パソコンの word が使える

日本語による会話が可能

映画やドラマの脚本に興味がある

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

その他/ Others

脚本を書くためにはまずたくさんの映像作品を見ましょう

見れば見るほど脚本を書く力になります

私の脚本・監督作品に関して興味のある方はぜひネットで検索してみてください

映像シナリオ演習 2

Seminar in Screenwriting 2

映像シナリオ演習 2

Seminar in Screenwriting 2

佐藤 佐吉 (SATO SAKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

プロット・シナリオ制作および映像作品分析を通して、映画やドラマにとって根幹をなす脚本の重要性を『魅力的なキャラクターとは何か』を主なテーマとして考察する。

Through the creation of plots and scenarios and the analysis of films, students will examine the importance of screenplays, which form a core element in films and dramas, focusing primarily on the theme of how an appealing character can be created.

授業の内容 / Course Contents

脚本とはいかなるものかを既存の映像作品を参考にしながらまずは執筆もしくは模写することで概要を把握し、その上で自主制作を前提とした短編映画用（約 15～30 分想定）のプロット（200 字程度の文章で物語の内容を表現したもの）および脚本の作成を行う。その過程において教師からの講評、クラスでのディスカッションを行い『魅力的なキャラクターとは何か』実践を通して考察する。基本的には毎回必ず何かしらの課題が出されるものとし、各自他人の提出物を読んだ上で講義に臨むこと。また週に 1 本は映像作品を各自の自由選択

で鑑賞し講義時に

To understand what a screenplay entails, students will refer to existing films and then write or reproduce their screenplays to understand the corresponding outlines. From there, students will create a plot (a text of around 200 words to express the content of the story) and write a screenplay for an independent short film (approximately 15–30 minutes long). During this process, students will gain practical experience by receiving critiques from the instructor and engaging in class discussions to understand how an appealing character can be created. An assignment will generally be given for each class, and students are expected to have read the work that other students have submitted before attending the lectures. Students will also be required to watch one film of their own choice every week and be prepared to briefly share their impressions of the works during the lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業の目標についての説明、アンケート、次回講座までの課題の提示
 2回：課題の講評
 プロットの書き方について
 3回：プロット講評
 4回：プロット講評
 5回：キャラクター及びシナリオ分析①
 6回：プロット講評
 7回：プロット講評
 8回：プロット講評
 9回：キャラクター及びシナリオ分析②
 10回：シナリオ講評
 11回：シナリオ講評
 12回：シナリオ講評
 13回：シナリオ講評
 14回：シナリオ講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

プロット、シナリオ制作

※第1回講座までに下記の課題に取り組むこととする

- ・1作品以上の映画シナリオを図書館等を利用し読了（『年鑑代表シナリオ集』『月刊シナリオ』等）
- ・参考文献『複眼の映像』『文章教室』読了

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席、授業への取り組み:40% プロット課題:20% シナリオ課題 第1稿:30% シナリオ課題 第2稿:10%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

橋本忍 複眼の映像 私と黒澤明 文春文庫 2010年03月10日 9784167773540

藤本義一 藤本義一の文章教室 PHP文庫 1992年3月1日 4569564585

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

パソコンの word が使える

日本語による会話が可能

映画やドラマの脚本に興味がある

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

その他/ Others

脚本を書くためにはまずたくさんの映像作品を見ましょう

見れば見るほど脚本を書く力になります

私の脚本・監督作品に関して興味のある方はぜひネットで検索してみてください

映像シナリオ演習3

Seminar in Screenwriting 3

中村 佑子 (NAKAMURA YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN323
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ドキュメンタリーとフィクションの境界にある作品や、シナリオ分析としてはなかなか俎上にあがらない女性監督の作品を取りあげ、物語や構造を考察しながら、自分の言葉で批評する力を養う。

We will analyze works that exist on the border between documentary and fiction. We will specifically deal with works by female directors, which are not often considered for scenario analysis. I want students to strive to develop the ability to critique in

授業の内容 / Course Contents

監督自身の思考の過程をシナリオに入れたり、社会批評を大胆に挟み込むなど、登場人物の心情表出の台詞にとどまらないシナリオをもつ作品を扱う。また作品中の女性の描き方についてフェミニズム的視点によって考察する。具体的には、シャンタル・アケルマン、マルグリット・デュラス、アンヌ＝マリー・ミエヴィル、サリー・ポッター、ジェーン・カンピオン、ホセ・ルイス・ゲリン、JL ゴダール、成瀬巳喜男等の監督作品を分析する。映画の可能性の臨界点を考察し、清新なアプローチがあり得ることを、一人一人が作り手として体感することを目指す。

We handle scenarios that go beyond the characters' emotional dialogue, such as incorporating the director's own

thought process or social criticism into the scenario. We will also analyze the way women are portrayed in the work from a feminist perspective. Specifically, works by directors such as Chantal Akerman, Marguerite Duras, Anne-Marie Miéville, Sally Potter, Jane Campion, José Luis Guerin, JLGodard, and Mikio Naruse. The aim is for each person, as a creator, to experience the critical point of film's potential and the possibility of a completely new approach to film.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：レクチャー、作品鑑賞とシナリオ分析
- 3回：レクチャーおよび作品鑑賞とシナリオ分析
- 4回：レクチャーおよび作品鑑賞とシナリオ分析
- 5回：個人発表とディスカッション（担当制）
- 6回：レクチャーおよび作品鑑賞とシナリオ分析
- 7回：個人発表とディスカッション（担当制）
- 8回：レクチャーおよび作品鑑賞とシナリオ分析
- 9回：個人発表とディスカッション（担当制）
- 10回：レクチャーおよび作品鑑賞とシナリオ分析
- 11回：個人発表とディスカッション（担当制）
- 12回：レクチャーおよび作品鑑賞とシナリオ分析
- 13回：個人発表とディスカッション（担当制）
- 14回：おわりに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業では抜粋を鑑賞するので、必要があればその作品全編を観賞してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度：25% リアクションペーパー：25% 発表とディスカッションへの積極性：50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

戯曲シナリオ演習 1

Seminar in Playwriting 1

戯曲を書く

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN325

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

演劇のための戯曲を書き、戯曲とはなにかを考える。

The aims of this course are for students to consider what a play is and to write plays for the theater.

授業の内容 / Course Contents

戯曲のことについて思考するという事は、演劇のことを考えることでもある。

身体から一つの声生まれるということは、なんと素晴らしいことであろうか。「せりふ」という書かれた言葉はその奇跡の瞬間への導きである。

この授業では受講生に戯曲を書いてもらう。

二つの流れがある。一つは、毎回の授業で提示された課題に応じて5分から10分ほどの短い戯曲を書き、授業内でリーディングして、合評することが繰り返される。その流れとは別に、自由なモチーフで30分から60分ほどの戯曲を執筆してもらい最終週までに提出してもらう。

以下

Thinking about theatre also means thinking about drama. The purpose of this course is to write drama, that is, a

short play of about 5–10 minutes depending on the tasks presented. Students are expected to create drama innovative to the concept of theatre.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと課題①の説明
- 2回：①の合評
- 3回：課題②の説明と参考戯曲の考察
- 4回：②の合評
- 5回：課題③の説明と参考戯曲の考察
- 6回：③の合評
- 7回：課題④の説明と参考戯曲の考察
- 8回：④の合評
- 9回：課題⑤の説明と参考戯曲の考察
- 10回：⑤の合評
- 11回：課題⑥の説明と参考戯曲の考察
- 12回：⑥の合評
- 13回：受講生の創作戯曲の合評
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題戯曲作品を執筆し、期日までに提出する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の課題提出:50% 戯曲作品への批評、授業への積極性:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

戯曲シナリオ演習 2

Seminar in Playwriting 2

羽鳥 嘉郎 (HATORI YOSHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN326
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

書かれたものに対する、上演を前提とした編集・構成・演出の手法を身につける、あるいは開発する。
Students learn and also invent methods for editing, organizing and production for turning the written work into a play.

授業の内容 / Course Contents

翻案、再話、人称の操作、位置関係など、パフォーマンスとテキストが複雑な関係を結ぶよう差し向ける手法について、リーディング上演のグループ発表を交えながら学ぶ。チェーホフ『かもめ』、シェイクスピア『ロミオとジュリエット』『ハムレット』、ベケット『しあわせな日々』などを改作したテキスト群を例として取り上げることを予定しているが、履修者の需要や希望も考慮する。

Students learn about methods referring to the complex relationship between text and performance, like adaptation, retelling, handling characters, relative positions, by presenting reading plays in groups. The plan is to have the texts of Chekhov's "The Seagull", Shakespeare's "Romeo and Juliet" and "Hamlet", Beckett's "Happy Days" as the examples, but the course can take into account the requests of the participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：リーディング1
- 3回：リーディング2
- 4回：リーディング3
- 5回：リーディング4
- 6回：リーディング5
- 7回：リーディング6
- 8回：リーディング7
- 9回：リーディング8
- 10回：グループ制作1
- 11回：グループ制作2
- 12回：グループ発表1
- 13回：グループ発表2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題の文献を事前に読む。その他、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の取り組み:50% 課題発表:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

デヴィッド・ボール 戯曲の読み方 戯曲を深く読みこむために 日本劇作家協会 2003 4893092892

さそうあきら マンガ脚本概論 漫画家を志すすべての人へ 双葉社 2021 4575316629

ケイティ・ミッチェル ケイティ・ミッチェルの演出術 舞台俳優と仕事するための14段階式クラフト 白水社 2021 4560098288

別役実 別役実の演劇教室 舞台を遊ぶ 白水社 2002 4560035725

米光一成 自分だけにしか思いつかないアイデアを見つける方法 “企画の魔眼”を手に入れよう 日本経済新聞出版 2010 4532491055

身体学文献講読 1

Reading in Body and Theories 1

江口 正登 (EGUCHI MASATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN327
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

演劇における演技（あるいはより広くパフォーマンスにおける振る舞い）について書かれた文献を読み、議論することを通じて、英語の理論的な文章の読解の技術を身につける。

The aim of this course is to improve skills in reading theoretical texts in English through reading and discussing the literature written about acting in theatre (or more broadly, behavior in performance).

授業の内容 / Course Contents

演劇は、俳優による演技を中心的な構成要素として成り立つ芸術ですが、その演技とは、具体的にはいかなるものなのでしょうか。演技と演技でない行為の境界はどこにあり、演技のあり方を分類や検討、評価するための基準や枠組にはどのようなものがあるのでしょうか。このようなことを、英語で書かれた文献を読みながら考えます。

ひとまずは、Phillip B. Zarrilli ed., *Acting (Re)Considered A Theoretical and Practical Guide*, 2nd ed., (London: Routledge, 2002). Theatre is an art form whose central component is the acting of actors, but what exactly is acting? Where is the boundary between acting and non-acting? What are the frameworks and criteria for classifying, examining, and evaluating acting? We will explore these questions as we read the literature written in English.

The current plan is to read several articles from the anthology, *Acting (Re)Considered: A Theoretical and Practical Guide*, 2nd ed., edited by Phillip B. Zarrilli (London; New York: Routledge, 2002), but other literature may be included depending on the interests of the participants and the progress of the class.

The class will be conducted as follows (subject to adjustment depending on number of students):

1. Each week we will read about five or six pages of the English text.
2. Students will be required to make presentations. Presenter(s) will prepare a summary or Japanese translation of their assigned section.
3. After each presentation, following the instructor's supplementary explanation, the whole class will discuss it.
4. Students (presenters and others) should prepare their opinions and questions in advance of the discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：参加者による発表とディスカッション
- 3回：参加者による発表とディスカッション
- 4回：参加者による発表とディスカッション
- 5回：参加者による発表とディスカッション
- 6回：参加者による発表とディスカッション
- 7回：参加者による発表とディスカッション
- 8回：参加者による発表とディスカッション
- 9回：参加者による発表とディスカッション
- 10回：参加者による発表とディスカッション
- 11回：参加者による発表とディスカッション
- 12回：参加者による発表とディスカッション
- 13回：参加者による発表とディスカッション
- 14回：参加者による発表とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された範囲をあらかじめよく読み、ディスカッションの際に発言できるよう意見や疑問点を整理しておく。

毎回、事前に文献講読票を提出していただきます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表および授業への取り組み：65% 最終レポート割合：35%

欠席回数が5回に達した場合、成績は不可となります。

テキスト / Textbooks

Phillip B. Zarrilli *Acting (Re)Considered: A Theoretical and Practical Guide*, 2nd ed. Routledge 2002
9780415263009 -

上記講読文献はコピーを配布するので、入手は必須ではありません。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示します。

その他 / Others

Google Classroom を使用する予定です。

身体学文献講読 2

Reading in Body and Theories 2

『老子』を読む

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN328

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

『老子』の代表的な章を講読し、理解を深める。

Students read and promote their understanding of the representative chapters from Tao Te Ching.

授業の内容 / Course Contents

『老子』は、著者も成立年代もはっきりしない、たった五千字という短い文章なのに、中国古典のなかで最も多くの注釈書が作られてきた名著であり、戦術家、為政者、庶民、不死を目指す者、だれが覗いても、その人に応じて進むべき道を映し出してくれる鏡のようなところのある、じつに不思議な書である。この『老子』のなかから代表的な章を選んで講読し、「水」のごとく、「雌」のごとく、「嬰兒」のごとくあれ、というその内容から、中国人がいかに世界や歴史、そして身体をとらえようとしていたのかを、他の思想と比較しながら考察する。

授業

Tao Te Ching is a text of only 5,000 characters, with its authorship and date of composition debated, but it is the most commented masterpiece of Chinese literature, a mysterious work that reflects, like a mirror, a path which

any person, be it a warrior, a politician, a commoner, anyone aiming to achieve immortality, should follow. Students read the representative chapters from Tao Te Ching, and learn how Chinese people perceived the world, history and body through the contents of "like water, like females, like babies", while also comparing it to other ideas.

The class consists of the report from the person in charge of the day and whole class exchange opinions. The person in charge carefully reads their part, does research if needed, and gives an oral explanation in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：『老子』講読 道とは
- 3回：『老子』講読 最高の善は水のよう
- 4回：『老子』講読 玄牝一根源のメス
- 5回：『老子』講読 無用の用
- 6回：『老子』講読 嬰兒への復帰
- 7回：『老子』講読 美や善は絶対か
- 8回：『老子』講読 学を絶てば憂い無し
- 9回：『老子』講読 無為の政治
- 10回：『老子』講読 大器晩成
- 11回：『老子』講読 理想郷
- 12回：『老子』講読 足るを知る
- 13回：『老子』講読 柔弱は剛強に勝つ
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した章を精読してくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

金谷治 『老子』 講談社 1997 4061592785 ○

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

身体学文献講読3

Reading in Body and Theories 3

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN329
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2220
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「美的経験」という概念の理解を深めることでポピュラー芸術について理論的に論じられるようになる。
The goal of this course is to understand the concept of aesthetic experience and to criticize the works of popular art with the concept.

授業の内容 / Course Contents

美的経験についての美学的論考を読みながらポピュラー芸術を批判的に理解する仕方について議論する。
Reading the texts about the theories of asthetic expeirences in this course, we discuss about the critical understanding of popular art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
- 3 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
- 4 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
- 5 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む

- 6回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
 7回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
 8回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
 9回：シュスターマンを読む
 10回：シュスターマンを読む
 11回：シュスターマンを読む
 12回：シュスターマンを読む
 13回：シュスターマンを読む
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	○
ディスカッション・ディベート	:	○		:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教材には予め目を通しておくこと。また、関連する音楽作品などに触れておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回提出する感想:70% 授業への取り組み:15% 最終レポート割合 :15%

テキスト / Textbooks

テキスト (ジャン・コース『コミュニケーションの美学』文庫クセジュおよびリチャード・シュスターマンの論文等の抜粋) は Google classroom などを通じて配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業中に指示する。

専門演習 A 1

Advanced Research Seminar A1

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN331
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「メディア」や「メディウム」という考え方から対象を分析、検討する方法を学ぶ。学術的な文献の読み方、対象についてメディア論的に研究、分析する方法を身につける。発表、レポートの執筆を通じて自身の考えを言語化する能力を養い、他の履修者との議論を通して広い視野から物事を理解し分析する姿勢を培う。

The aim of this course is for students to learn the idea of media/medium and to develop methodologies for researching and analyzing their own topics from the perspective of media theories. The course will enhance students' ability to verbalize their ideas

授業の内容 / Course Contents

文献講読では、主に映画、アニメーションなど、映像に関するものを中心に扱う。ただし、映像の内容や表現を所与のものとして考えるのではなく、物質や技術、環境、その他のメディア的条件（媒介するものの様態、状態）から検討する。文献講読は毎回全員が文献を読み、指定の方法で内容をまとめてくる必要がある。各自のまとめをもとにグループと全体での討議を行い、文献への理解を深める。履修者は文献の主旨を正確に掴み、理解を深めた上で、自らの考えを発展させていくことが求められる。適宜資料調査方法についても講じる。これらを通じて、自身

Although the texts are mainly about film and animation, the point of view of this course is not to take the content of film and animation as given, but to examine it in terms of materiality, technology, and other media conditions. All students will be required to summarize the content of the texts in a given form before each reading session. Based on their summaries, students will participate in small-group and whole-class discussions to promote deeper understanding of the texts. Students will be expected to understand the arguments of the texts accurately and to develop their own thoughts. Lectures on research methods will also be offered as needed. Through this work, students will explore their own research topics. Students will also practice verbalizing their thoughts through presentations, report writing, and feedback.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：文献講読
- 8回：文献講読
- 9回：学生による発表
- 10回：学生による発表
- 11回：学生による発表
- 12回：学生による発表
- 13回：学生による発表
- 14回：学生による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の講読。復習。発表の準備。課題作品の鑑賞など。

授業課題以外でも様々な文化、芸術、映像に触れる。自主的に文献を探して読む。

日々の生活でもメディア的条件・環境を意識する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:30% 発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

専門演習 A 2

Advanced Research Seminar A2

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN332
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「メディア」や「メディウム」という考え方から対象を分析、検討する方法を学ぶ。学術的な文献の読み方、対象についてメディア論的に研究、分析する方法を身につける。発表、レポートの執筆を通じて自身の考えを言語化する能力を養い、他の履修者との議論を通して広い視野から物事を理解し分析する姿勢を培う。3年生は4年次の卒業論文執筆（卒業制作）に向けて、自身のテーマと研究方法を探求する。

The aim of this course is for students to learn the idea of media/medium and to develop methodologies for researching and analyzing their own topics from the perspective of media theories. The course will enhance students' ability to verbalize their ideas

授業の内容 / Course Contents

文献講読では、主に映画、アニメーションなど、映像に関するものを中心に扱う。ただし、映像の内容や表現を所与のものとして考えるのではなく、物質や技術、環境、その他のメディア的条件（媒介するものの様態、状態）から検討する。文献講読は毎回全員が文献を読み、指定の方法であらかじめ内容をまとめてくる必要がある。各自のまとめをもとにグループと全体での討議を行い、文献への理解を深める。履修者は文献の主旨を正確に掴み、理解を深めた上で、自らの考えを発展させていくことが求められる。適宜資料調査方法について

も講じる。これらを通

Although the texts are mainly about film and animation, the point of view of this course is not to take the content of film and animation as given, but to examine it in terms of materiality, technology, and other media conditions. All students will be required to summarize the content of the texts in a given form before each reading session. Based on their summaries, students will participate in small-group and whole-class discussions to promote deeper understanding of the texts. Students will be expected to understand the arguments of the texts accurately and to develop their own thoughts. Lectures on research methods will also be offered as needed. Through this work, students will explore their own research topics. Third-year students will explore and find themes and appropriate methods for their senior projects, which they will pursue in their fourth year.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文献講読
- 2 回：文献講読
- 3 回：学生による発表
- 4 回：学生による発表
- 5 回：学生による発表
- 6 回：学生による発表
- 7 回：学生による発表
- 8 回：学生による発表
- 9 回：学生による発表
- 10 回：学生による発表
- 11 回：学生による発表
- 12 回：学生による発表
- 13 回：学生による発表
- 14 回：学生による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献の講読。復習。発表の準備。課題作品の鑑賞など。

授業課題以外でも様々な文化、芸術、映像に触れる。自主的に文献を探して読む。

日々の生活でもメディア的条件・環境を意識する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 発表:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

専門演習 B 1

Advanced Research Seminar B1

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN333
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像文化（映画・テレビ・ミュージックビデオなど）に関して、批判的に分析できる手法と視野を手に入れ、それを映像身体論の視点から論じることができるような能力を養うことを目標とする。具体的には、一貫した分析的視点と論証をともなった、論文執筆へといたる能力の獲得を目指し、先行研究を批判的に読み解く読解力、一貫した主張を明晰に展開する文章作成力、あるテーマについて生産的に議論するディスカッション力を鍛える。

The course will offer perspectives and methods for critically analyzing image culture (for example, film, television, and music video) and considering it in terms of body and image. In particular, the course will attempt to provide the foundations for wri

授業の内容 / Course Contents

ゼミ教員が作品分析の手法を講義形式で紹介したのち（イントロダクション）、映像分析に関する基本文献を読解し（文献講読）、受講学生が各自で選んだ映像作品の分析の発表へと進む（学生による発表）。映像分析の対象として、まずは基本となる映画を大きく扱うが（発表などでも映画をテーマとすることを推奨する）、学生による発表はその応用として、テレビやミュージックビデオなど他のメディアを主題としたものも認める。

After the introduction, in which the instructor will present basic analytical methodologies, the course will involve classes in reading basic literature on image analysis and presentations on personal areas of interest from each student. The content of analysis will mainly be films (recommended as the theme of presentation as well), but students may present on the themes of other media, including television and music video.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1（全体の予定、映像分析の手法）
- 2回：イントロダクション2（映像分析の手法）
- 3回：文献講読1
- 4回：文献講読2
- 5回：文献講読3
- 6回：学生による発表1
- 7回：学生による発表2
- 8回：学生による発表3
- 9回：学生による発表4
- 10回：学生による発表5
- 11回：学生による発表6
- 12回：学生による発表7
- 13回：学生による発表8
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読では、授業時間外であらかじめ読解しておくことが前提となる。日常的に、映像文化にたいし分析的に接し、各自の発表テーマの発見に努めてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:70% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

専門演習 B 2

Advanced Research Seminar B2

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN334
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像文化（映画・テレビ・ミュージックビデオなど）に関して、批判的に分析できる手法と視野を手に入れ、それを映像身体論の視点から論じることができるような能力を養うことを目標とする。具体的には、一貫した分析的視点と論証をともなった、論文執筆へといたる能力の獲得を目指し、先行研究を批判的に読み解く読解力、一貫した主張を明晰に展開する文章作成力、あるテーマについて生産的に議論するディスカッション力を鍛える。

The course will offer perspectives and methods for critically analyzing image culture (for example, film, television, and music video) and considering it in terms of body and image. In particular, the course will attempt to provide the foundations for wri

授業の内容 / Course Contents

ゼミ教員が作品分析の手法を講義形式で紹介したのち（イントロダクション）、映像分析に関する基本文献を読解し（文献講読）、受講学生が各自で選んだ映像作品の分析の発表へと進む（学生による発表）。映像分析の対象として、まずは基本となる映画を大きく扱うが（発表などでも映画をテーマとすることを推奨する）、学生による発表はその応用として、テレビやミュージックビデオなど他のメディアを主題としたものも認める。

After the introduction, in which the instructor will present basic analytical methodologies, the course will involve classes in reading basic literature on image analysis and presentations on personal areas of interest from each student. The content of analysis will mainly be films (recommended as the theme of presentation as well), but students may present on the themes of other media, including television and music video.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1（全体の予定、映像分析の手法）
- 2回：イントロダクション2（映像分析の手法）
- 3回：文献講読1
- 4回：文献講読2
- 5回：文献講読3
- 6回：学生による発表1
- 7回：学生による発表2
- 8回：学生による発表3
- 9回：学生による発表4
- 10回：学生による発表5
- 11回：学生による発表6
- 12回：学生による発表7
- 13回：学生による発表8
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読では、授業時間外であらかじめ読解しておくことが前提となる。日常的に、映像文化にたいし分析的に接し、各自の発表テーマの発見に努めてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み：70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

専門演習 C 1

Advanced Research Seminar C1

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN335
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「ユートピア的想像力」という共通のテーマのもとに、参加者各自の関心（音楽、SF、哲学 etc.）を深めるためのテキストや映像を共有する。「ユートピア的想像力」という問いの多面性を理解し、これまで以上に深い問いを立てられるようになることを目指す。

Course participants share texts and videos in the common topic of "utopian imagination" (music, sci-fi, philosophy etc.) to deepen their personal interests. They learn to understand the various aspects of the topic of "utopian imagination", aim to start a

授業の内容 / Course Contents

テキストについて教員が解説し、それを踏まえて参加者によって議論して、理解を深めていく。テキストはプリントして配布する。

Professor gives explanations of the texts, then, course participants discuss the texts and promote their understanding. Texts are distributed as printed copies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ユートピア的想像力について

ユートピアの歴史概観

2回：ユートピアの哲学

エルンスト・ブロッホの思想

3回：ユートピアの哲学

ヘルベルト・マルクーゼ

4回：フーリエその他の19世紀ユートピア思想

5回：ユートピアの表現形態

メルヒェン、ファンタジー、SF

6回：ユートピアの表現形態

音楽

7回：ユートピアの表現形態

視覚芸術と建築

8回：ディストピア

9回：不可能なものへの要求1

フレドリック・ジェイムソン/スラヴォイ・ジジエク/マーク・フィッシャー

10回：不可能なものへの要求2

フレドリック・ジェイムソン/スラヴォイ・ジジエク/マーク・フィッシャー

11回：アフrofューチャリズム1

12回：アフrofューチャリズム2

13回：参加者の問題関心を深めるための議論

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒論を書くことを前提に、自分の問題関心を研ぎ澄ます必要がある。広く文化史に関心を持って文献やヴィジュアル/サウンド資料にあたること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

プリントして配布する。また、Google classroomにもアップするので、事前に目を通しておくこと。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

その他 / Others

卒論を選択しない場合は卒論に代わるレポートを必須とする。このレポートは学年末に提出する。卒論に代わるレポートは共同執筆や論文以外の形式（例えばプレイリストを作って、そのライナーノーツを書くなどが考えられる）も認める。

専門演習 C 2

Advanced Research Seminar C2

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN336
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「ユートピア的想像力」という共通のテーマのもとに、参加者各自の関心（音楽、SF、哲学 etc.）を深めるためのテキストや映像を共有する。「ユートピア的想像力」という問いの多面性を理解し、これまで以上に深い問いを立てられるようになることを目指す。

Course participants share texts and videos in the common topic of "utopian imagination" (music, sci-fi, philosophy etc.) to deepen their personal interests. They learn to understand the various aspects of the topic of "utopian imagination", aim to start a

授業の内容 / Course Contents

3 年次生は卒論執筆の前段階として、自分が卒論で取り扱うテーマに関する先行業績に対する書評論文を書く。そのための発表を中心とする。4 年次生は、卒論に向けて中間発表を行う。

Third year students write a book review about preceding researches on the topic of their graduation paper as a step before writing the paper. Presentation is important for this. Fourth year students make an interim presentation for their graduation papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：学生による発表とディスカッション
 2回：学生による発表とディスカッション
 3回：学生による発表とディスカッション
 4回：学生による発表とディスカッション
 5回：学生による発表とディスカッション
 6回：学生による発表とディスカッション
 7回：学生による発表とディスカッション
 8回：学生による発表とディスカッション
 9回：学生による発表とディスカッション
 10回：学生による発表とディスカッション
 11回：学生による発表とディスカッション
 12回：学生による発表とディスカッション
 13回：学生による発表とディスカッション
 14回：学生による発表とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

論文の書き方を身につけるために先行業績をしっかりと読み込み、また、自分でも少しずつでも良いから書き続けること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じて Google classroom も活用する。

参考文献 / Readings

専門演習D1

Advanced Research Seminar D1

映像身体論を展開する

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN337

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像身体学の基本概念（表現、解釈、想像力、身体の触発、等々）をさらに展開して、各自のテーマや関心領域に即して、その表現（論文、発表、等々）と思考する力を高めます。

Exploring further the basic concepts of Body Expression and Cinematic Arts (expression, interpretation, imagination, affection of the body, etc.), students will develop the ability to consider and express themselves (essay, presentations, etc.) on themes

授業の内容 / Course Contents

春学期の前半は、主に講義中心ですが、そのなかでつねに問いを発することができるような仕方でまずは聴講してください。というのも、問いを発したり、問題を提起したりするなかで、はじめて各自のテーマが明確になり、それとともに批判的で創造的な表現が可能となるからです。学期の後半は、各自の口頭発表と担当講師のコメントが中心となります。

In the first half of spring semester, the classes are mainly lectures, students will need to listen carefully while thinking of questions and comments. When they pose questions and raise problems, they can start to express

their individual topics clearly, creatively and critically. The second half of the semester is focused on oral presentations from students and comments from professors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業の概説
- 2回：各自のテーマ紹介と担当講師コメント
- 3回：講義と学生からの質問
- 4回：講義と学生からの質問
- 5回：講義と学生からの質問
- 6回：講義と学生からの質問
- 7回：講義と学生からの質問
- 8回：講義と学生からの質問
- 9回：学生発表と担当講師コメント
- 10回：学生発表と担当講師コメント
- 11回：学生発表と担当講師コメント
- 12回：学生発表と担当講師コメント
- 13回：学生発表と担当講師コメント
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

小冊子「何を〈映像身体学〉と呼ぶのか」を最初の授業に配布しますので、それを読んで、ここで述べられている考え方と自分が関心を持っている事柄との接続面を表現できるような学習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席、発表：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布します。

参考文献 / Readings

その都度、指示します。

専門演習D2

Advanced Research Seminar D2

映像身体論を展開する

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN338

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

さらに秋学期では、精神（イメージ、感情、等々）の能力についての、また身体の活動能力についての、哲学・思想における基本的理解を深めるなかで、各自のテーマや関心領域に即して、その表現（論文、発表、等々）と思考する力を高めます。

In the fall semester, through deepening fundamental understanding of ability of mind (image, affect, etc.) and locomotive activity in the field of philosophy / ideas, students will develop the ability to consider and express themselves (essay, presentatio

授業の内容 / Course Contents

学期の前半は、主に講義中心ですが、そのなかでつねに問いを発することができるような仕方でもまずは聴講してください。というのも、問いを発したり、問題を提起したりするなかで、はじめて各自のテーマが明確になり、それとともに批判的で創造的な表現が可能となるからです。学期の後半は、各自の口頭発表と担当講師のコメントが中心となります。

In the first half of the semester, the classes are mainly lectures, students will need to listen carefully while

thinking of questions and comments. When they pose questions and raise problems, they can start to express their individual topics clearly, creatively and critically. The second half of the semester is focused on oral presentations from students and comments from professors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業の概説
- 2回：各自のテーマ紹介と担当講師コメント
- 3回：講義と学生からの質問
- 4回：講義と学生からの質問
- 5回：講義と学生からの質問
- 6回：講義と学生からの質問
- 7回：講義と学生からの質問
- 8回：講義と学生からの質問
- 9回：講義と学生からの質問
- 10回：学生発表と担当講師コメント
- 11回：学生発表と担当講師コメント
- 12回：学生発表と担当講師コメント
- 13回：学生発表と担当講師コメント
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

その都度の授業で行ったことを自分なりに再表現できるような学習を心掛けてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席、発表：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布します。

参考文献 / Readings

その都度、指示します。

専門演習 E 1

Advanced Research Seminar E1

気の身体観と宇宙観

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN339

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代中国人が「気」の観念でとらえた身体と世界を理解し、現代の社会における問題点を見極め、どのような生き方が理想的であるか、古典文献の中にヒントを模索する。

Students will learn views of chi (気) that were held in ancient China.

授業の内容 / Course Contents

現代の東洋哲学者・石田秀実の著作『気のコスモロジー』を中心に読み進めながら、古代の中国人が「気」の観念でとらえた身体・世界と、今日の我々が認識している身体・世界とを比較する。

授業はいずれも教員の講義と担当者の報告と全員の意見交換によって進めてゆく。担当者は、古典文献の訳注や授業中に紹介する現代の身体に関わる文献を参考にして、自分で選んだテーマもしくは与えられた課題について調べ、授業時に報告する。

We will read articles written by Hidemi Ishida, learn views of chi that were held in ancient China, and compare with the way we view our bodies and the world today. Each class will consist of either a lecture or a student report followed by an exchange of opinions by the whole class. Students making reports will carefully read their

assigned texts, conduct research as required, and deliver an oral explanation in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：客観視は可能か
- 3回：「私」は必要か
- 4回：ミミズはコンピュータを超えるか
- 5回：オイゲン・ヘリゲルの弓
- 6回：日本の武術に受け継がれる「こころ」とは
- 7回：こころ＝行為
- 8回：内部観測とは
- 9回：脳の知と身体の知
- 10回：世界は分けてもわからない
- 11回：絵画の中の時間と空間
- 12回：「存在」という思考の不在
- 13回：気のコスモロジー
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された箇所を精読してくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

石田秀実 『気のコスモロジー—内部観測する身体』 岩波書店 2004 -

参考文献 / Readings

- オイゲン・ヘリゲル 『日本の弓術』 岩波書店 1982
- 福岡伸一 『世界は分けてもわからない』 講談社
- 金谷治訳注 『莊子』 岩波書店
- 柳生宗矩 『兵法家伝書』 岩波書店
- 東田直樹 『自閉症の僕が跳びはねる理由』 KADOKAWA

専門演習 E 2

Advanced Research Seminar E2

小宇宙をさがす

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN340

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中国の神話、寓話、小説などの古典文献や出土資料、美術作品の中に、ミニチュアの宇宙をさがす。宇宙の生成と構造に欠かせない要素とは何か、究極の小宇宙とはどのようなものかを考える。

We will seek miniature universes in ancient Chinese literature, and study what is necessary for the creation and construction of such universes.

授業の内容 / Course Contents

「桃源郷」「龍宮城」「洞天」「ひょうたん」「夢」などの題材を扱った中国古典文献を読み、これらの性質およびその周辺の思想について学習する。これらはいずれも「壺中天」と呼ばれる中国独特の宇宙観を表す。「壺中天」の思想を通して、おもに唐代の宇宙観・身体観・死生観について考察する。

We will read ancient Chinese literature about the utopian realm of the Peach Blossom Spring, grotto-heavens, gourds, and dreams, and consider views of the universe, views of the body, and views of life and death.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：南柯太守伝 1
 3回：南柯太守伝 2
 4回：枕中記 1
 5回：枕中記 2
 6回：杜子春伝 1
 7回：杜子春伝 2
 8回：柳毅伝 1
 9回：柳毅伝 2
 10回：周秦行紀 1
 11回：周秦行紀 2
 12回：西遊記 1
 13回：西遊記 2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

初回に説明する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

専門演習 F 1

Advanced Research Seminar F1

黒木 秀房 (KUROKI HIDEFUSA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN341
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像「と」身体。この「と」をめぐって、〈映像身体学〉における問いは立てられるはずでず。「と」はそれぞれの項を分断するかと思えば、接続させもします。あるいは、それらを共起させたり、分岐させることもあるでしょう。この「と」の使用法を学び、対象に対してどこまでも知覚と思考を深くしていくことで、自らに固有の問いを適切に立てられるようにすることが目標です。その意味で、この授業は、〈映像身体学〉を各人がそれぞれのやり方で生きる実践の場としてあります。原則として、受講者は卒業論文、あるいは卒業制作を必修とします。

Image AND body. The problem of the theory of image and embodiment is raised around this AND. The word AND divides items and at the same time connects them. Or it may also make them go together and then diverge. Students learn about this use of AND, deepen

授業の内容 / Course Contents

受講者が自らの関心に基づいて選んだテーマや具体的な映像作品などを取り上げ、発表してもらい、発表内容に対して担当教員が意見、所感、助言を述べたのち、出席者全員による自由な討議に入ります。また、この授業は卒業論文、あるいは卒業制作を必修とします。

Participants bring up the specific visual works and the topics based on their own interests, present them, and after the professor in charge gives their opinion about the contents, their impressions and some advice, all present participants engage in free discussion. In addition, all the participants are required to complete a graduation thesis or graduation production.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：各自のテーマ紹介
- 2回：学生による口頭発表と全体討論
- 3回：学生による口頭発表と全体討論
- 4回：学生による口頭発表と全体討論
- 5回：学生による口頭発表と全体討論
- 6回：学生による口頭発表と全体討論
- 7回：学生による口頭発表と全体討論
- 8回：学生による口頭発表と全体討論
- 9回：学生による口頭発表と全体討論
- 10回：学生による口頭発表と全体討論
- 11回：学生による口頭発表と全体討論
- 12回：学生による口頭発表と全体討論
- 13回：学生による口頭発表と全体討論
- 14回：まとめ—映像身体学とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『映像と文化 知覚の問いに向かって』（2016年）をよく読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組みと口頭発表:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

口頭発表や質疑応答、全体討論に応じて適宜、紹介する。

その他 / Others

上記の授業計画は予定であり、進捗状況によって変更の可能性がある。

専門演習 F 2

Advanced Research Seminar F2

黒木 秀房 (KUROKI HIDEFUSA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN342
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像「と」身体。この「と」をめぐって、〈映像身体学〉における問いは立てられるはずでず。「と」はそれぞれの項を分断するかと思えば、接続させもします。あるいは、それらを共起させたり、分岐させることもあるでしょう。この「と」の使用法を学び、対象に対してどこまでも知覚と思考を深くしていくことで、自らに固有の問いを適切に立てられるようにすることが目標です。その意味で、この授業は、〈映像身体学〉を各人がそれぞれのやり方で生きる実践の場としてあります。原則として、受講者は卒業論文、あるいは卒業制作を必修とします。

Image AND body. The problem of the theory of image and embodiment is raised around this AND. The word AND divides items and at the same time connects them. Or it may also make them go together and then diverge. Students learn about this use of AND, deepen

授業の内容 / Course Contents

受講者が自らの関心に基づいて選んだテーマや具体的な映像作品などを取り上げ、発表してもらい、発表内容に対して担当教員が意見、所感、助言を述べたのち、出席者全員による自由な討議に入ります。また、この授業は卒業論文、あるいは卒業制作を必修とします。

Participants bring up the specific visual works and the topics based on their own interests, present them, and after the professor in charge gives their opinion about the contents, their impressions and some advice, all present participants engage in free discussion. In addition, all the participants are required to complete a graduation thesis or graduation production.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：各自のテーマ紹介
- 2回：学生による口頭発表と全体討論
- 3回：学生による口頭発表と全体討論
- 4回：学生による口頭発表と全体討論
- 5回：学生による口頭発表と全体討論
- 6回：学生による口頭発表と全体討論
- 7回：学生による口頭発表と全体討論
- 8回：学生による口頭発表と全体討論
- 9回：学生による口頭発表と全体討論
- 10回：学生による口頭発表と全体討論
- 11回：学生による口頭発表と全体討論
- 12回：学生による口頭発表と全体討論
- 13回：学生による口頭発表と全体討論
- 14回：まとめ—映像身体学とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『映像と文化 知覚の問いに向かって』（2016年）をよく読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組みと口頭発表:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

口頭発表や質疑応答、全体討論に応じて適宜、紹介する。

その他 / Others

上記の授業計画は予定であり、進捗状況によって変更の可能性がある。

専門演習 G 1

Advanced Research Seminar G1

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN343
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

<映像身体学>とは、映像と身体という問題系を通して、ひとりひとりが自らの問いをたてて回答していくための学びであり、思考の領域です。そのような<映像身体学>に向かうために、学問的基礎と展開の方法とを身につけることを目指します。

The theory of image and embodiment is a field of thought and a discipline in which everyone asks and answers questions on the problematic topics of image and body. In order to approach this theory of image and embodiment, students learn the academic basic

授業の内容 / Course Contents

具体的な写真映像を取り上げ、カメラという機械が生み出す機械映像と人間の身体との連関について議論し学んでいきます。最終的には、この連関を学ぶことにどのような意義があり、それを各人がどのように展開していけるのかを思考できるように学んでいきます。授業は、前半では、この連関の基礎を確認するために講義と文献講読とおこない、後半では、学生各自が写真（集）を選び、それについて問いを立てて調査、報告をおこなってもらいます。

With specific images as examples, students learn and discuss the connection between human body and machine

vision, the perception by the machine. In the end, students should become able to think of the meaning of studying this connection and the way to develop it. In the first half of the course, students have lectures and read the literature in order to check the basics of this connection. In the second half, each student chooses a set of photos, poses questions about them, researches and makes a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：『映像と身体』の論考を読む
- 3回：『映像と身体』の論考を読む
- 4回：『映像と身体』の論考を読む
- 5回：映像身体学の基礎
- 6回：写真を観るということ——映像身体学を实践する（1）
- 7回：写真を観るということ——映像身体学を实践する（2）
- 8回：写真（集）についての報告に向けて——調査の仕方
- 9回：写真（集）についての報告に向けて——写真と言葉について考える
- 10回：報告に向けての文献講読と質疑応答
- 11回：報告に向けての文献講読と質疑応答
- 12回：学生による報告
- 13回：学生による報告
- 14回：まとめ——映像身体学の意義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

一年次必修授業「映像身体学入門1」のテキスト「何を映像身体学と呼ぶのか」を復習するとともに、『映像と身体』（せりか書房、2008年）を読むこと。また、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じてさらに別途授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表:30% 授業に取り組む姿勢（コメントペーパーや出席）:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

専門演習 G 2

Advanced Research Seminar G2

自ら問い、学びを深める

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN344

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

〈映像身体学〉とは、映像と身体という問題系を通して、ひとりひとりが自らの問いをたてて回答していくための学びであり、思考の領域です。そのような〈映像身体学〉に向かうために、学問的基礎と展開の方法とを身につけることを目指します。

The theory of image and embodiment is a field of thought and a discipline in which everyone asks and answers questions on the problematic topics of image and body. In order to approach this theory of image and embodiment, students learn the academic basic

授業の内容 / Course Contents

具体的な映像を取り上げ、カメラが生み出す機械映像と人間の身体との連関について議論し学んでいきます。最終的には、この連関を学ぶことにどのような意義があり、それを各人がどのように展開していけるのかを思考できるところに到達するように学んでいきます。授業はまず、この連関の基礎的理解を深めるための文献講読をおこない、次いで、学生自身が対象（主に映像作品とする）を自由に選んで発表をおこなってもらい、みなで議論をして進めていきます。担当者は、写真を中心とする映像作品によって問題提起をおこないますの

で、写真について積極的

With specific images as examples, students learn and discuss the connection between human body and machine vision, the perception by the machine. In the end, students should become able to think of the meaning of studying this connection and the way to develop it. First of all, students read the literature needed to promote basic understanding of this connection, and then, they freely choose their medium for presentation (mainly visual works) and the whole class will engage in discussions. People in charge pose questions about visual works, mainly photos, thus actively learning about photography. The students pose their own questions about images they choose, mainly photos but including movies, TV, videos in the Internet, and present those.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読——身体の知覚、機械の知覚について
- 3回：文献講読——映像身体学の目的と意義
- 4回：映像身体学研究事例
- 5回：学生発表
- 6回：学生発表
- 7回：学生発表
- 8回：学生発表
- 9回：学生発表
- 10回：学生発表
- 11回：学生発表
- 12回：学生発表
- 13回：学生発表
- 14回：まとめ——映像身体学の意義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の探究したいテーマを一層深化させておくこと。授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表:30% 授業に取り組む姿勢（コメントペーパーや出席）:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

専門演習H1

Advanced Research Seminar H1

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN345
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ダンスを含む様々なジャンルのアート表現だけでなく政治・文化など、社会全般の流れを意識しながら、今日の舞台に於ける表現及びダンスの可能性について考察する。また特別な訓練を経た特権的な身体表現としてだけでなく、ヒエラルキーを排した身体によって開かれていくダンスや表現の可能性を模索しながら、デモクラシーな身体によって再現可能なシステム、コレオグラフについて研究する。

We will think not only about the various genres of artistic expression such as dance, but will also be conscious of politics, culture, and the entire current of society as we consider possibilities for contemporary theatrical expression and dance. We will

授業の内容 / Course Contents

授業の前半は西洋のダンスコンテキスト、主にポストモダンダンス以降の研究と身体訓練を往復しながら身体表現を探る。毎回テーマに沿ったクリエーションをグループワーク中心に行い、そこで生まれた表現についてディスカッションとクリエーションを重ね、ダンスとは何か、そしてダンスはいつ生まれるのかについて考察を深める。後半は前半の授業から見てきたテーマ、コンセプトをもとに作品制作を進める。尚、授業計画は授業を進めていく中で授業内容や発表形態が変更されることがある。

We will investigate physical expression both through dance exercises as well as through research into the Western dance context, especially that of post-modern dance. During each class, students will work mainly in groups on a creation with an assigned theme. They will then discuss the resulting expressions, create them repeatedly, and consider deeply what dance is and when it comes into existence. During the second half of the class, students will work on an actual production based on the theme and concepts fleshed out during the first half. Moreover, as the class progresses, changes may be made to the class contents and presentation format.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ポストモダンダンスの方法論を研究する①。
- 2回：ポストモダンダンスの方法論を研究する②。
- 3回：コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する①。
- 4回：コンテンポラリーダンスの作家からダンスの方法論を研究する②。
- 5回：ノンダンス、コンセプチュアルなダンスを研究する。
- 6回：映像におけるダンスを研究する。
- 7回：コミュニティーダンス、武道、民俗芸能、老いの身体について考察する。
- 8回：発表に向けたコンセプト作り及びリサーチ。
- 9回：発表に向けた制作。
- 10回：発表に向けた制作。
- 11回：発表に向けたワーク・イン・プロGRESS。
- 12回：発表に向けた制作。
- 13回：発表に向けた制作。
- 14回：上演及び合評。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○
上記いずれも用いない予定	：				
				校外実習・フィールドワーク	：○

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自主的な継続できる身体トレーニングに取り組み、日々変化する自分の身体と向きあってもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業時の積極性:50% 発表に至る取り組み及び内容:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: <https://www.jareo-osamu.com/>

専門演習H2

Advanced Research Seminar H2

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN346
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ダンスを含む様々なジャンルのアート表現だけでなく政治・文化など、社会全般の流れを意識しながら、今日の舞台に於ける表現及びダンスの可能性について考察する。また特別な訓練を経た特権的な身体表現としてだけでなく、ヒエラルキーを排した身体によって開かれていくダンスや表現の可能性を模索しながら、デモクラシーな身体によって再現可能なシステム、コレオグラフについて研究する。

We will think not only about the various genres of artistic expression such as dance, but will also be conscious of politics, culture, and the entire current of society as we consider possibilities for contemporary theatrical expression and dance. We will

授業の内容 / Course Contents

授業の前半は西洋のダンスコンテキスト、主にポストモダンダンス以降の研究と身体訓練を往復しながら身体表現を探る。毎回テーマに沿ったクリエーションをグループワーク中心に行い、そこで生まれた表現についてディスカッションとクリエーションを重ね、ダンスとは何か、そしてダンスはいつ生まれるのかについて考察を深める。後半は前半の授業から見てきたテーマ、コンセプトをもとに作品制作を進める。尚、授業計画は授業を進めていく中で授業内容や発表形態が変更されることがある。

We will investigate physical expression both through dance exercises as well as through research into the Western dance context, especially that of post-modern dance. During each class, students will work mainly in groups on a creation with an assigned theme. They will then discuss the resulting expressions, create them repeatedly, and consider deeply what dance is and when it comes into existence. During the second half of the class, students will work on an actual production based on the theme and concepts fleshed out during the first half. Moreover, as the class progresses, changes may be made to the class contents and presentation format.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：時代性、社会性を鑑み、どのようなダンスを制作するかについてのディスカッション。
- 2回：時代性、社会性を鑑み、どのようなダンスを制作するかについてのディスカッション。
- 3回：グループごとに制作に向けたリサーチ。
- 4回：グループごとに制作に向けたリサーチ。
- 5回：グループごとに制作に向けたリサーチ。
- 6回：発表に向けた制作。
- 7回：発表に向けた制作。
- 8回：発表に向けた制作。
- 9回：発表に向けた制作。
- 10回：発表に向けたワーク・イン・プログレス。
- 11回：発表に向けた制作。
- 12回：発表に向けた制作。
- 13回：発表に向けた制作。
- 14回：上演及び合評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○
上記いずれも用いない予定	：				
				校外実習・フィールドワーク	：○

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自主的な継続できる身体トレーニングに取り組み、日々変化する自分の身体と向きあってもらいたい。また、学外で行われているダンス、パフォーマンス公演、美術館での展覧会などをグループごと、また個人個人で鑑賞し、研究を重ねて欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業時の積極性:50% 発表に至る取り組み及び内容:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

HP: <https://www.jareo-osamu.com/>

専門演習 I 1

Advanced Research Seminar I1

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN347
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

演劇をつくる。劇あるいは演劇の、素材ないし媒体に関して自分の意見を持ち、その議論の裏付けとする経験を積む。

Creating a play. Students develop their own opinion on materials and mediums of plays and performance, accumulate experience that supports their arguments.

授業の内容 / Course Contents

授業は主に、音読と議論、創作をもって進める。講読する文献は国内の演劇実践にまつわるものを中心に、履修者の需要も考慮する。ただし身振り研究、民衆演劇、形式については必ず取り扱う。創作について、春学期は基本的に教員が演出を担当し、学生が出演する上演を行なう。

The class mainly features reading aloud, discussion and creating. The main literature used in class is about Japanese theater practices, but the requests of course participants can be taken into account. The contents must, however, feature research of gestures, folk plays and the form. The first semester features basically the supervision of production from professors, and performing plays staged by the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：講読
- 3回：講読
- 4回：講読
- 5回：稽古
- 6回：稽古
- 7回：稽古
- 8回：稽古
- 9回：稽古
- 10回：稽古
- 11回：稽古
- 12回：稽古
- 13回：上演
- 14回：合評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特になし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時の取り組み:50% 実技による課題発表:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

専門演習 I 2

Advanced Research Seminar I2

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN348
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

演劇をつくる。劇あるいは演劇の、素材ないし媒体に関して自分の意見を持ち、その議論の裏付けとしうる経験を積む。

Creating a play. Students develop their own opinion on materials and mediums of plays and performance, accumulate experience that supports their arguments.

授業の内容 / Course Contents

春学期と同様、授業は主に、音読と議論、創作をもって進める。講読する文献は国内の演劇実践にまつわるものを中心に、履修者の需要も考慮する。議論に基づき、秋学期は学生各自が仮説に基づく企画立案とプレゼンを行ない、グループまたは個人での創作を行なう。

The same as in the first semester, the class mainly features reading aloud, discussion and creating. The main literature used in class is about Japanese theater practices, but the requests of course participants can be taken into account. In the second semester, students create their works in groups or individually, with plan proposals and presentation based on their own postulates derived from discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：講読
- 3回：講読
- 4回：講読
- 5回：稽古
- 6回：稽古
- 7回：稽古
- 8回：稽古
- 9回：稽古
- 10回：稽古
- 11回：稽古
- 12回：稽古
- 13回：上演
- 14回：合評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特になし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時の取り組み:50% 実技による課題発表:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

専門演習 J 1

Advanced Research Seminar J1

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN349

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

具体的に映像作品の製作に関わることで、映画ならではの独自の空間と時間、演技などに対する思考を深める。

Students improve their views on the individual atmosphere, time and acting in movies by watching movies and engaging in production of a video work.

授業の内容 / Course Contents

学生諸君が書いたシナリオをもとに、自分たちで演じ、演出・撮影をしてみる。さらに撮ったものを自分たちで編集し、出来上がったものを大きなスクリーンで見て、相互に批評し合う。その上で場合によっては、もう一度、別な演技や様々な演出を試すためにリテイクや追加撮影を行ってみる。完成したひとつの作品を作りあげること以上に、なによりもこうした試行錯誤を繰り返すプロセスこそ大切にしたい。また卒業制作に向けて劇場公開中の映画を映画館で見てもらった上で、映画批評を書いてもらい、関係者をゲストで招き、学生たちと質疑応答してもらう

Students engage in acting, production and shooting based on their own scripts. Furthermore, they edit the result themselves, watch the final version on a big screen and exchange critique on each other's work. Depending on the

circumstances, they may do retaking and additional shooting to try different acting and production. It is desirable that after they finish one work, they learn to treasure this process of repeated trial and error. As a preparation for their graduation work, students watch some movie that is in the cinemas at the moment and write a critical review. In some cases, people from the industry are invited as guests to answer questions from the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーションおよび企画講評①

春休み中に短編映画（20～30分）の企画を考えてくること。シナリオの形にする必要はありません。A4の用紙3枚以内にまとめてください。それを最初の授業で自己紹介とともに発表してもらいます。テーマに縛りはありません。

2回：企画講評②

演出、撮影と相互批評①

3回：企画講評③演出、撮影と相互批評②

4回：企画講評④演出、撮影と相互批評③

5回：企画の絞り込み

演出、撮影と相互批評④

6回：企画講評⑤

演出、撮影と相互批評⑤

7回：企画講評⑥

演出、撮影と相互批評⑥

8回：企画講評⑦

演出、撮影と相互批評⑦

9回：企画選出

演出、撮影と相互批評⑧

10回：企画講評⑧演出、撮影と相互批評⑨

11回：企画講評⑨演出、撮影と相互批評⑩

12回：企画講評⑩

演出、撮影と相互批評⑩

13回：企画講評⑪演出、撮影と相互批評⑫

14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（予習・復習） 企画立案，ロケハン，撮影諸準備，撮影，編集。

（その他）卒制に向けて企画立案。プロット作り。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業への取り組み：60% 映像作品、レポート：40%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

- ロベール・ブレッソン シネマトグラフ覚書 映画監督のノート 筑摩書房 初版1987
- 塩田明彦 映画術 その演出はなぜ心をつかむのか イースト・プレス 2014
- 蓮實重彦 ハリウッド映画史講義 翳りの歴史のために ちくま学芸文庫 2017
- 小川紳介 映画を獲る ドキュメンタリーの至福を求めて 太田出版 2012
- 三宅隆太 スクリプトドクターの脚本教室・初級編 新書館 2015
- 三宅隆太 スクリプトドクターの脚本教室・中級編 新書館 2016

専門演習 J 2

Advanced Research Seminar J2

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN350

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業制作を見据えてのシナリオ作成および映像制作

To write script for graduation film and explore to direct film

授業の内容 / Course Contents

夏期休暇中に書き上げたシナリオの中から 1 作を選び、全員参加で 30 分程度の短編、又は中編映画を制作する。そのことで卒制への実践的予習とする。

During summer vacation students have to write script.

We choose one script, and make one short film all together as preparation for graduation film.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：企画、プロット、シナリオのプレゼン、相互批評①

2 回：企画、プロット、シナリオのプレゼン、相互批評②

3 回：企画、プロット、シナリオのプレゼン、相互批評③

4 回：スタッフ編成、企画会議

5 回：シナリオと並行して企画会議、ロケハン、キャスティングなど

- 6回：シナリオと並行して企画会議、ロケハン、キャスティングなど
 7回：本読み、リハーサル
 8回：オールスタッフ・ミーティング
 9回：撮影
 10回：撮影
 11回：撮影
 12回：撮影
 13回：編集ラッシュ
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ①夏季期間中に卒業制作で作りたい映画のアイデアを、プロットや企画書の形にする。
 ②同様に、夏季期間中に、「希望と恐れ (HOPES AND FEARS)」をモチーフに (どちらかが欠落することなく、二つの要素が入ってくることを)、大学生を主人公にした短編映画の企画を考えてくる。最低限プロットの形にすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 提出したプロット、または脚本:30% 授業への取り組み:70%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献は、専門演習 J1 を参照のこと。

専門演習 K 1

Advanced Research Seminar K1

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. 各自が“映像を使って何を表現したいのか”を考えていきます。これまでしてきた、「自分の好きな作家を真似てみる」「好きな音楽に合わせて映像を当てはめてみる」というものを一歩進めて、自分が観客に対して「何を伝えたいのか」を明確にします。

2. 映像作家には、10 人いれば 10 通りのスタイルがあります。スタイルとは「映像の表現方法」であり、その特徴が撮影に顕れることも、演出や編集に顕れることもあります。スタイルを知ることは、自分がどのジャンルに向いているかを知る指標にもなります。

以上から、“自分のテーマ×自

1. Each student will explore what they want to express through a moving-image work. Students will be required to go beyond what they have done to date, such as imitating the works of their favorite artists or arranging images to match their favorite music,

授業の内容 / Course Contents

14 回の授業全体を通して、各学生が“1つの作品”を制作・発表します。基本的なルールは以下の通り。

1. 映像作品であればジャンルは問わない
2. 作品の長さは3分～20分とする
3. 他の作品にスタッフ・キャストとして関わるのは自由だが1本は自分名義の作品を制作する
(ただし完全な共同作業と認められる場合は複数人で1作品も可とする)
4. 決められた制作期間内に仕上げる

中間のラッシュ試写、ラスト2週の作品発表では、各作品についての評価・質疑応答・討論を全員で行います。

Over the 14 classes in this course, each student will create and present one work.

The basic rules for this process are as follows

- 1.The genre can be anything as long as it is a moving-image work.
- 2.The moving-image work must be between 3 and 20 minutes in length.
- 3.Students may participate as part of the crew or cast in other productions but must produce one work under their own name. (However, for collaborative productions, several students may produce a single work together.)
- 4.The work needs to be completed within the given time frame.

All students in the course will participate in the evaluation, question-and-answer session, and discussions for each work during the mid-term screening of rush and the last two weeks of presentations of work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション/制作目標発表
- 2回：企画プレゼンテーション
- 3回：構成案
- 4回：シナリオ作成
- 5回：シナリオ修正
- 6回：ロケハン／撮影
- 7回：撮影
- 8回：撮影
- 9回：ラッシュ試写
- 10回：追加撮影／編集
- 11回：編集
- 12回：編集／録音
- 13回：作品発表・講評①
- 14回：作品発表・講評②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

構成案・シナリオ・撮影・編集など、授業時間内に終了しなかったものについては、時間外に行ってください。

また、普段から多くの映像に触れるようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 作品:40% 授業に臨む姿勢:60%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

専門演習 K 2

Advanced Research Seminar K2

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. 各自が“映像を使って何を表現したいのか”を考えていきます。これまでしてきた、「自分の好きな作家を真似てみる」「好きな音楽に合わせて映像を当てはめてみる」というものを一歩進めて、自分が観客に対して「何を伝えたいのか」を明確にします。

2. 映像作家には、10 人いれば 10 通りのスタイルがあります。スタイルとは「映像の表現方法」であり、その特徴が撮影に顕れることも、演出や編集に顕れることもあります。スタイルを知ることは、自分がどのジャンルに向いているかを知る指標にもなります。

以上から、“自分のテーマ×自

1. Each student will explore what they want to express through a moving-image work. Students will be required to go beyond what they have done to date, such as imitating the works of their favorite artists or arranging images to match their favorite music,

授業の内容 / Course Contents

14 回の授業全体を通して、各学生が“1つの作品”を制作・発表します。基本的なルールは以下の通り。

1. 映像作品であればジャンルは問わない
2. 作品の長さは3分～20分とする
3. 他の作品にスタッフ・キャストとして関わるのは自由だが 1本は自分名義の作品を制作する
(ただし完全な共同作業と認められる場合は 複数人で1作品も可とする)
4. 決められた制作期間内に仕上げる

中間のラッシュ試写、ラスト2週の作品発表では、各作品についての評価・質疑応答・討論を全員で行います。

※3年生に関して

Over the 14 classes in this course, each student will create and present one work.

The basic rules for this process are as follows

- 1.The genre can be anything as long as it is a moving-image work.
- 2.The moving-image work must be between 3 and 20 minutes in length.
- 3.Students may participate as part of the crew or cast in other productions but must produce one work under their own name. (However, for collaborative productions, several students may produce a single work together.)
- 4.The work needs to be completed within the given time frame.

All students in the course will participate in the evaluation, question-and-answer session, and discussions for each work during the mid-term screening of rush and the last two weeks of presentations of work.

※For third-year students, "group production" may be conducted according to the student's goals.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：企画プレゼンテーション
- 2回：構成案作成①
- 3回：構成案作成②
- 4回：ストーリー作成
- 5回：シナリオ作成①
- 6回：シナリオ作成②
- 7回：撮影準備／ロケハン
- 8回：撮影①
- 9回：撮影②
- 10回：ラッシュ試写
- 11回：編集
- 12回：編集／録音
- 13回：作品発表・講評①
- 14回：作品発表・講評②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

構成案・シナリオ・撮影・編集など、授業時間内に終了しなかったものについては、時間外に行ってください

い。

また、普段から多くの映像に触れるようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 作品:40% 授業に臨む姿勢:60%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

専門演習 L 1

Advanced Research Seminar L1

芸能研究ゼミナール

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN353

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の芸能における表現と伝承の仕組みを理解し、独自の視点から問いを立てて論じることができるようになる。

Students learn to understand the structure of transition and expression in Japanese geino(performance), so that they become able to discuss it and ask questions from their perspectives.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、日本における広義の芸能を対象とします。「芸能」はここでは、身体的な実践をともなって人前でパフォーマンスされるもので、かつそのわがが世代を超えて伝承されるものを指します。たとえば能楽や歌舞伎のような伝統芸能はもちろん、近現代の演劇、ダンス、さらにはスポーツ、演芸、茶道や華道のような実践的な文化も含まれます。

授業は、二つの取り組みを軸にします。(1) クラス全員で共通して取り組む課題。文献を読む、舞台を鑑賞する、芸能の現場を取材するといった取り組みの成果を発表してもらいます。(2) 受講者自身の関心に

This class handles Japanese geino(performance) in broad sense. "Geino" here stands for performance in front of

people along with physical practice, and performance that passed down through generations. For example, it includes not only traditional performances like Noh and kabuki, but also modern theater, dancing, sports, variety shows, and even practical cultural arts like tea ceremony and flower arrangement.

The class features 2 main activities. 1) Common task involving the whole class. Students report the results of activities like reading literature, watching theater plays, interview people engaging in geino. 2) Students present the results of their study and observations of an example of geino, prepared based on their own preferences, and discuss them with the class.

L1 sets the main points for getting basic knowledge of of geino.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：学生による発表と討議
- 3回：学生による発表と討議
- 4回：学生による発表と討議
- 5回：学生による発表と討議
- 6回：学生による発表と討議
- 7回：学生による発表と討議
- 8回：学生による発表と討議
- 9回：学生による発表と討議
- 10回：学生による発表と討議
- 11回：学生による発表と討議
- 12回：学生による発表と討議
- 13回：学生による発表と討議
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
ディスカッション・ディベート	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、フィールドワーク、観劇、見学。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加（討議・提出物・フィールドワーク調査を総合的に評価）：70% 発表：30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

参考文献 / Readings

- 石井倫子 能・狂言の基礎知識 KADOKAWA 2009 9784047034402
- 橋本裕之 芸能的思考 森話社 2015 9784864050814
- 古井戸秀夫 歌舞伎入門 岩波書店 2002 9784005004041
- 三浦しをん あやつられ文楽鑑賞 双葉社 2011 9784575713831

乗越たかお ダンス・バイブル〈増補新版〉 河出書房新社 2016 9784309277059

扇田昭彦 日本の現代演劇 岩波書店 1995 9784004303725

エリカ・フィッシャー＝リヒテ 演劇学へのいざない 研究の基礎 国書刊行会 2013 9784336056399

適宜紹介します。

専門演習 L 2

Advanced Research Seminar L2

芸能研究ゼミナール

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN354

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC3320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の芸能における表現と伝承の理解を深め、現代におけるその思想的含意を考察し、独自の論考を口頭発表と論文のかたちにとまとめあげることができるようになる。

Students promote their understanding of expression and transmission in Japanese geino(performance), study its modern philosophical connotations, and learn to summarize their ideas in an essay or oral presentation.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、日本における広義の芸能を対象とします。「芸能」はここでは、身体的な実践をともなって人前でパフォーマンスされるもので、かつそのわがが世代を超えて伝承されるものを指します。たとえば能楽や歌舞伎のような伝統芸能はもちろん、近現代の演劇、ダンス、さらにはスポーツ、演芸、茶道や華道のような実践的な文化も含まれます。

授業は、二つの取り組みを軸にします。(1) クラス全員で共通して取り組む課題。文献を読む、舞台を鑑賞する、芸能の現場を取材するといった取り組みの成果を発表してもらいます。(2) 受講者自身の関心に

This class handles Japanese geino(performance) in broad sense. "Geino" here stands for performance in front of

people along with physical practice, and performance that passed down through generations. For example, it includes not only traditional performances like Noh and kabuki, but also modern theater, dancing, sports, variety shows, and even practical cultural arts like tea ceremony and flower arrangement.

The class features 2 main activities. 1) Common task involving the whole class. Students report the results of activities like reading literature, watching theater plays, interview people engaging in geino. 2) Students present the results of their study and observations of an example of geino, prepared based on their own preferences, and discuss them with the class.

L2 sets the main points for fieldwork study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：各自のテーマ紹介
- 2回：学生による発表と討議
- 3回：学生による発表と討議
- 4回：学生による発表と討議
- 5回：学生による発表と討議
- 6回：学生による発表と討議
- 7回：学生による発表と討議
- 8回：学生による発表と討議
- 9回：学生による発表と討議
- 10回：学生による発表と討議
- 11回：学生による発表と討議
- 12回：学生による発表と討議
- 13回：学生による発表と討議
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	
ディスカッション・ディベート	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献調査、フィールドワーク、観劇、見学。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加（討議・提出物・フィールドワーク調査を総合的に評価）：70% 発表：30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布します。

参考文献 / Readings

福島真人編 身体の構築学 社会的学習過程としての身体技法 ひつじ書房 1995 9784938669461

福島真人 学習の生態学 東京大学出版会 2010 9784130111270

生田久美子・北村勝朗編 わざ言語 感覚の共有を通しての「学び」へ 慶應義塾大学出版会 2011 9784766418040

倉島哲 身体技法と社会学的認識 世界思想社 2007 9784790712329

菅原和孝 ことばと身体 「言語の手前」の人類学 講談社 2010 9784062584814

細馬宏通 介護するからだ 医学書院 2016 9784260028028

国立劇場編 日本の伝統芸能講座 舞踊・演劇 淡交社 2009 9784473035301

適宜紹介します。

専門演習N1

Advanced Research Seminar N1

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN357
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画をはじめとする視聴覚メディアについて論じるために欠かせない知識や技法を習得し、研究発表とディスカッションを通じて各自のテーマに関する理解を深める。各自の学修の成果を卒業論文としてまとめることを最終的な目標とする。

Students will acquire the essential knowledge and techniques for discussing audiovisual media, especially film, and consider their own themes through research presentations and discussions. The final goal is to complete the results of each student's study.

授業の内容 / Course Contents

まず、映画をはじめとする視聴覚メディアをテーマに研究を進めていくための方法に関して教員が導入的な講義を行う。資料の調べ方やまとめ方、発表の仕方、卒論の進め方などについて理解を深める。そのなかで、必要に応じて研究に関する方法論や、映画について論じた優れた文章を講読する。次に、履修者が各自のテーマに基づいて発表と議論を行っていく。授業計画における講義、講読、発表のスケジュールは、履修者の人数に基づいて柔軟に調整する。

First, students will attend an introductory lecture on how to research audiovisual media, especially film. Then,

they will learn how to research, how to make presentations, and how to conduct a thesis. In the course, students will read research methodologies and critical texts on film. Students will then give presentations based on their own themes. The schedule of lectures, subscriptions, and presentations will be adjusted flexibly based on the number of students enrolled.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：担当教員による講義①
- 3回：担当教員による講義②
- 4回：学生の発表とディスカッション①
- 5回：学生の発表とディスカッション②
- 6回：学生の発表とディスカッション③
- 7回：学生の発表とディスカッション④
- 8回：学生の発表とディスカッション⑤
- 9回：学生の発表とディスカッション⑥
- 10回：学生の発表とディスカッション⑦
- 11回：学生の発表とディスカッション⑧
- 12回：学生の発表とディスカッション⑨
- 13回：学生の発表とディスカッション⑩
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み、発表:100%

最終レポート割合 :0%

学期末に小レポート課題を実施する可能性がある。

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

専門演習N2

Advanced Research Seminar N2

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN358
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画をはじめとする視聴覚メディアについて論じるために欠かせない知識や技法を習得し、研究発表とディスカッションを通じて各自のテーマに関する理解を深める。各自の学修の成果を卒業論文としてまとめることを最終的な目標とする。

Students will acquire the essential knowledge and techniques for discussing audiovisual media, especially film, and consider their own themes through research presentations and discussions. The final goal is to complete the results of each student's study.

授業の内容 / Course Contents

まず、映画をはじめとする視聴覚メディアをテーマに研究を進めていくための方法に関して教員が導入的な講義を行う。資料の調べ方やまとめ方、発表の仕方、卒論の進め方などについて理解を深める。そのなかで、必要に応じて研究に関する方法論や、映画について論じた優れた文章を講読する。次に、履修者が各自のテーマに基づいて発表と議論を行っていく。授業計画における講義、講読、発表のスケジュールは、履修者の人数に基づいて柔軟に調整する。

First, students will attend an introductory lecture on how to research audiovisual media, especially film. Then,

they will learn how to research, how to make presentations, and how to conduct a thesis. In the course, students will read research methodologies and critical texts on film. Students will then give presentations based on their own themes. The schedule of lectures, subscriptions, and presentations will be adjusted flexibly based on the number of students enrolled.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：担当教員による講義①
- 3回：担当教員による講義②
- 4回：学生の発表とディスカッション①
- 5回：学生の発表とディスカッション②
- 6回：学生の発表とディスカッション③
- 7回：学生の発表とディスカッション④
- 8回：学生の発表とディスカッション⑤
- 9回：学生の発表とディスカッション⑥
- 10回：学生の発表とディスカッション⑦
- 11回：学生の発表とディスカッション⑧
- 12回：学生の発表とディスカッション⑨
- 13回：学生の発表とディスカッション⑩
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み、発表：100%

最終レポート割合：0%

学期末に小レポート課題を実施する可能性がある。

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

映像学文献講読 2

Reading in Image and Theories 2

写真を見ることの深さへ

調 文明 (SHIRABE BUNMEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN361
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2120
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、写真の本質について書かれた文献を扱い、写真の分野において映像と身体の学びへの理解を深めること、並びに、写真映像に関する英語文献の読解力を涵養しながら、写真映像を批評する目を獲得することを目標とする。

By dealing with the literature on the nature of photography, the goals of this course are to

- (1) deepen the understanding of the studies of the image and embodiment in the field of photography, and
- (2) obtain a critical eye on photographic images while cu

授業の内容 / Course Contents

ロラン・バルトの『明るい部屋』は、写真論の古典のひとつである。写真に関する基礎知識を教員の説明で補ってのち、この書物を英語版を中心に、オリジナルのフランス語版と邦訳を参照しつつ精読していく。本書の理解が深まるように、適宜、関連する写真家や写真集なども紹介する。一枚の写真を見ることの深さ、豊かさを学ぶことを通して、日常に潜在する〈見る〉という知覚の営為の創造性について、詳細に見定めていく。

Camera Lucida by Roland Barthes is one of the classics of the theory of photography. After being supplemented

of the basic knowledge of photography by the professor in charge, students will carefully read this book (English edition) along with the original French edition and Japanese translation. In order to deepen the understanding of this book, related photographers and photo books will be also introduced. Through gaining the rich and deep experience of looking at a photograph, they will have a detailed insight into the creativity that is latent in their own ordinary days in the perception of looking.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——ロラン・バルト『明るい部屋』について
- 2回：文献講読
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：中間まとめと質疑応答
- 8回：文献講読
- 9回：文献講読
- 10回：文献講読
- 11回：文献講読
- 12回：文献講読
- 13回：文献講読
- 14回：まとめ——写真を読むということ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（出席と訳担当）：60% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

その他 / Others

英語のテキストで読みます。原書はフランス語で書かれていますが、フランス語は読めなくても構いません。

映像学文献講読 3

Reading in Image and Theories 3

篠儀 直子 (SHINOGI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN362
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画分析の入門書的な英語文献を読みます。英文読解力の向上と、映画の分析的な見方、映画について書く方法の体系的取得が目的です。

Students will read introductory texts to the anatomy of movies. The goal is to improve comprehensive English skills and acquire an analytical view of movies, as well as methods for writing about movies.

授業の内容 / Course Contents

Ed Sikov, *Film Studies: An Introduction*, 2nd ed. (New York: Columbia University Press, 2020) を読みます。映画研究について、学生向けの教科書として書かれた入門書的な本です。1本の映画を分析するにあたっては、スタイル面、主題面、映画史的な位置づけなど、さまざまな面からアプローチできますが、それらのアプローチ方法について簡潔に説明されています。

授業時には、必要に応じて映像資料も参照し、参考文献（日本語・英語）のコピー

Students will read *Film Studies: An Introduction*, 2nd ed., (New York: Columbia University Press, 2020). The book is an introductory student textbook on film studies. To analyze a movie, it is possible to focus on such aspects as style, themes, characters, and the place of the film in movie history. The textbook concisely explains

each approach, demonstrates how the student can articulate their ideas, and how to express those ideas clearly and precisely.

During classes, as necessary, students will watch video materials, or consider printed copies of related texts (in Japanese or English).

Students will be asked either to translate the textbook sentence-by-sentence, or to present summaries in Japanese with reference to related videos.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による発表
- 3回：参加者による発表
- 4回：参加者による発表
- 5回：参加者による発表
- 6回：参加者による発表
- 7回：参加者による発表
- 8回：参加者による発表
- 9回：参加者による発表
- 10回：参加者による発表
- 11回：参加者による発表
- 12回：参加者による発表
- 13回：参加者による発表
- 14回：参加者による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲は、前の回の授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献・取組み:20% 発表:40% 最終レポート割合：:40%

レポート提出と発表のいずれかを怠った場合、単位取得不可。

テキスト / Textbooks

テキストのPDFをCanvas LMSで配付します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示・配付します。

その他 / Others

授業では学生への質問も活発に行なう予定なので、積極的な受講態度が期待されます。

連絡事項の伝達、テキスト配付などで、Canvas LMSを使用する予定。

専門演習O1

Advanced Research Seminar O1

宮川 麻理子 (MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN363
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ダンスやパフォーマンスを分析する際の方法論を身につける。作品の美学だけでなく、社会的背景や歴史に目を配りながら、独自の視点でダンスやパフォーマンスを思考し、言語化できるようになることを目標とする。Students will learn methods for analyzing dance and performance. The aim of the class is to achieve an understanding, not only of the aesthetics of performances, but also their history and social and political context, to enable students to think and disc

授業の内容 / Course Contents

この授業は、ダンスを中心とした舞台芸術（パフォーマンスや演劇も含みます）や、より広く身体に関わる表象を対象にしています。

授業は主に以下の二つを柱として進めます。①ダンスや舞台芸術に関わる文献を全員で読み、ディスカッションを行う。毎回担当を決め、内容について発表してもらいます。②卒業論文、あるいは卒業制作にもつながる問題意識や興味のあるトピックについて、各自リサーチや分析を行い、その成果を発表する。

春学期は、日本語の文献を中心に読んでいきます。また、過去の舞台作品や各自関心を持った作品について、

This class deals with performing arts, with a particular focus on dance (including theater, performance, and representations featuring the body). The class involves two main activities: 1) reading texts related to dance studies and theater and performance studies (Students will present a text topic in their area of personal interest and will lead the class in discussion); 2) students each researching a topic of interest and making a presentation. Spring semester will focus on reading texts written in Japanese and analysis of videos or literature related to past dance pieces.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読①
- 3回：文献講読②
- 4回：文献講読③
- 5回：文献講読④
- 6回：文献講読⑤
- 7回：文献講読⑥
- 8回：学生による発表①
- 9回：学生による発表②
- 10回：学生による発表③
- 11回：学生による発表④
- 12回：学生による発表⑤
- 13回：学生による発表⑥
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読に際しては、必ず全員授業前に目を通しておくこと。また必修とはしませんが、できる限り様々な公演や展覧会に足を運び、自分の目で見ておくことを勧めます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業への取り組み・発表:70% レポート:30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。授業内で読む文献は、参加者の興味に応じて決定する。

参考文献 / Readings

開講時に指示する。

その他 / Others

※履修者数によって授業計画の各回の内容を調整する場合がある。

専門演習O2

Advanced Research Seminar O2

宮川 麻理子 (MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN364
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ダンスやパフォーマンスを分析する際の方法論を身につける。作品の美学だけでなく、社会的背景や歴史に目を配りながら、独自の視点でダンスやパフォーマンスを思考し、言語化できるようになることを目標とする。Students will learn methods for analyzing dance and performance. The aim of the class is to achieve an understanding, not only of the aesthetics of performances, but also their history and social and political context, to enable students to think and disc

授業の内容 / Course Contents

この授業は、ダンスを中心とした舞台芸術（パフォーマンスや演劇も含みます）や、より広く身体に関わる表象を対象にしています。

授業は主に以下の二つを柱として進めます。①ダンスや舞台芸術に関わる文献を全員で読み、ディスカッションを行う。毎回担当を決め、内容について発表してもらいます。②卒業論文、あるいは卒業制作にもつながる問題意識や興味のあるトピックについて、各自リサーチや分析を行い、その成果を発表する。

秋学期は、日本語だけでなく、英語の文献にも目を通す予定です。また、今後研究を進めていきたいテーマを

This class deals with performing arts, with a particular focus on dance (including theater, performance, and representations featuring the body). The class involves two main activities: 1) reading texts related to dance studies and theater and performance studies (Students will present a text topic in their area of personal interest and will lead the class in discussion); 2) students each researching a topic of interest and making a presentation. In the fall semester the focus will be on reading texts in English and identifying personal themes for graduation papers and projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読①
- 3回：文献講読②
- 4回：文献講読③
- 5回：文献講読④
- 6回：文献講読⑤
- 7回：文献講読⑥
- 8回：学生による発表①
- 9回：学生による発表②
- 10回：学生による発表③
- 11回：学生による発表④
- 12回：学生による発表⑤
- 13回：学生による発表⑥
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読に際しては、必ず全員授業前に目を通しておくこと。また必修とはしませんが、できる限り様々な公演や展覧会に足を運び、自分の目で見ておくことを勧めます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業への取り組み・発表:70% レポート:30%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。授業内で読む文献は、参加者の興味に応じて決定する。

参考文献 / Readings

開講時に指示する。

その他 / Others

※履修者数によって授業計画の各回の内容を調整する場合がある。

専門演習 P 1

Advanced Research Seminar P1

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN365
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画の具体的な表現としての撮影照明技術を実践的に探求する。

特に映画全体を貫く「映像の光と翳」の表現に重点を置く。

Practical exploration of cinematography and lighting technology as a concrete expression of film.

Particular emphasis is placed on expressing the "light and shadow of images" that permeate the entire film.

授業の内容 / Course Contents

主に学科保有の撮影、照明機材を使い課題制作を通して「劇映画」の具体的な表現方法を学び実践していく。

フィクションだけでなく「ドキュメンタリー作品」の制作、撮影を志す者も歓迎する。

また授業以外にも「卒業制作作品」などへの撮影、照明スタッフとしての参加も念頭に入れ連携していく。授業への積極的、能動的な参加は必須。授業時間の延長や授業時間以外の準備、撮影などを行う場合もあるので、木曜日4限以降は極力空けておく事。授業計画はあくまでも予定です。

合わせて、卒業制作と制作論文を指導する。

卒業論文の指導は行いませ

合わせて、卒業制作と制作論文を指導する。

卒業論文の指導は行いませ

Students will learn and put into practice specific expression methods for "feature films" through the production

of assignments, mainly using the department's own photography and lighting equipment.

We welcome those who wish to produce and film documentary works as well as fiction.

In addition to classes, we will also work together to take part in photography and lighting staff for ``graduation projects." Active and active participation in class is essential. Please leave as much time as possible after the 4th period on Thursdays, as class hours may be extended or preparations or filming may take place outside of class hours. The lesson plan is just a plan.

In addition, we will provide guidance on your graduation project and thesis.

We do not provide guidance on graduation thesis. Please note that those who will write a graduation thesis will not be eligible to enroll in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：課題提示
- 3回：企画
- 4回：撮影照明技術
- 5回：撮影照明技術
- 6回：撮影照明技術
- 7回：撮影照明技術
- 8回：課題実習
- 9回：課題実習
- 10回：課題実習
- 11回：課題実習
- 12回：課題実習
- 13回：課題上映と講評
- 14回：課題上映と講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ）等の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題制作のためのあらゆる準備。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題実習を通し映像表現をどれだけ積極的に実践出来たかの度合い:100%

課題制作と提出は必須です。

テキスト / Textbooks

必要に応じてテキストと参考資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業時に参考となる映画、映像、絵画を提示します。

専門演習 P 2

Advanced Research Seminar P2

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN366
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC3320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画の具体的な表現としての撮影照明技術を実践的に探求する。

特に映画全体を貫く「映像の光と翳」の表現に重点を置く。

Practical exploration of cinematography and lighting technology as a concrete expression of film.

Particular emphasis is placed on expressing the "light and shadow of images" that permeate the entire film.

授業の内容 / Course Contents

春学期「専門演習 P1」の内容の継続と発展。

主に学科保有の撮影、照明機材を使い課題制作を通して「劇映画」の具体的な表現方法を学び実践していく。フィクションだけでなく「ドキュメンタリー作品」の制作、撮影を志す者も歓迎する。

また授業以外にも「卒業制作作品」などへの撮影、照明スタッフとしての参加も念頭に入れ連携していく。授業への積極的、能動的な参加は必須。授業時間の延長や授業時間以外の準備、撮影などを行う場合もあるので、木曜日 4 限以降は極力空けておく事。授業計画はあくまでも予定です。

合わせて、卒業制作と制

Continuation and development of the content of "Specialized Seminar P1" in the spring semester.

Students will learn and put into practice specific expression methods for "feature films" through the production of assignments, mainly using the department's own photography and lighting equipment.

We welcome those who wish to produce and film documentary works as well as fiction.

In addition to classes, we will also work together to take part in photography and lighting staff for "graduation projects." Active and active participation in class is essential. Please leave as much time as possible after the 4th period on Thursdays, as class hours may be extended or preparations or filming may take place outside of class hours. The lesson plan is just a plan.

In addition, we will provide guidance on your graduation project and thesis.

We do not provide guidance on graduation thesis. Please note that those who will write a graduation thesis will not be eligible to enroll in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：課題提示
- 3回：企画
- 4回：撮影照明技術
- 5回：撮影照明技術
- 6回：撮影照明技術
- 7回：撮影照明技術
- 8回：課題制作
- 9回：課題制作
- 10回：課題制作
- 11回：課題制作
- 12回：課題制作
- 13回：課題上映と講評
- 14回：課題上映と講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題制作のためのあらゆる準備。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題実習を通し映像表現をどれだけ積極的に実践出来たかの割合：100%

課題制作と提出は必須です。

テキスト / Textbooks

必要に応じてテキストと参考資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業時に参考となる映画、映像、絵画を提示します。

映像身体学文献講読

Reading in Expression Studies

デジタル文化とメディア

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN370

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀において、デジタル技術はわたしたちの生きる環境を大きく変えました。ここでは、インターネット上でのコミュニケーション、SNS、さまざまな短編動画、デジタル編集技術が含まれます。この授業では、文献の講読を通じて、こうしたデジタル技術が与えた影響について考えます。

In the 21st-century, the digital technologies have changed the environment of our lives. This includes the communication through the Internet, SNS, various short moving images, digital editing technologies. This course will consider the impact the digital

授業の内容 / Course Contents

デジタル技術に関して書かれた近年の文献を扱う。技術、視覚文化、コミュニケーションを主題とした文献を中心に、日本語および英語の重要著作や論文からいくつかの抜粋を読む。

The course treats recent texts on digital technologies. The course focuses particularly on the issues of technology, visual culture, and communication. The reading includes excerpts from important books and papers written in Japanese and English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：学生からの発表とディスカッション
 3回：学生からの発表とディスカッション
 4回：学生からの発表とディスカッション
 5回：学生からの発表とディスカッション
 6回：学生からの発表とディスカッション
 7回：学生からの発表とディスカッション
 8回：学生からの発表とディスカッション
 9回：学生からの発表とディスカッション
 10回：学生からの発表とディスカッション
 11回：学生からの発表とディスカッション
 12回：学生からの発表とディスカッション
 13回：学生からの発表とディスカッション
 14回：学生からの発表とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献を精読し、自身の考察を深めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終レポート:35% 授業への取り組み:65%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

身体学文献講読 1

Reading in Body and Theories 1

江口 正登 (EGUCHI MASATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN371

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

演劇における演技（あるいはより広くパフォーマンスにおける振る舞い）について書かれた文献を読み、議論することを通じて、英語の理論的な文章の読解の技術を身につける。

The aim of this course is to improve skills in reading theoretical texts in English through reading and discussing the literature written about acting in theatre (or more broadly, behavior in performance).

授業の内容 / Course Contents

演劇は、俳優による演技を中心的な構成要素として成り立つ芸術ですが、その演技とは、具体的にはいかなるものなのでしょうか。演技と演技でない行為の境界はどこにあり、演技のあり方を分類や検討、評価するための基準や枠組にはどのようなものがあるのでしょうか。このようなことを、英語で書かれた文献を読みながら考えます。

ひとまずは、Phillip B. Zarrilli ed., *Acting (Re)Considered A Theoretical and Practical Guide*, 2nd ed., (London: Routledge, 2002). Theatre is an art form whose central component is the acting of actors, but what exactly is acting? Where is the boundary between acting and non-acting? What are the frameworks and criteria for classifying, examining, and evaluating acting? We will explore these questions as we read the literature written in English.

The current plan is to read several articles from the anthology, *Acting (Re)Considered: A Theoretical and Practical Guide*, 2nd ed., edited by Phillip B. Zarrilli (London; New York: Routledge, 2002), but other literature may be included depending on the interests of the participants and the progress of the class.

The class will be conducted as follows (subject to adjustment depending on number of students):

1. Each week we will read about five or six pages of the English text.
2. Students will be required to make presentations. Presenter(s) will prepare a summary or Japanese translation of their assigned section.
3. After each presentation, following the instructor's supplementary explanation, the whole class will discuss it.
4. Students (presenters and others) should prepare their opinions and questions in advance of the discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：参加者による発表とディスカッション
- 3回：参加者による発表とディスカッション
- 4回：参加者による発表とディスカッション
- 5回：参加者による発表とディスカッション
- 6回：参加者による発表とディスカッション
- 7回：参加者による発表とディスカッション
- 8回：参加者による発表とディスカッション
- 9回：参加者による発表とディスカッション
- 10回：参加者による発表とディスカッション
- 11回：参加者による発表とディスカッション
- 12回：参加者による発表とディスカッション
- 13回：参加者による発表とディスカッション
- 14回：参加者による発表とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された範囲をあらかじめよく読み、ディスカッションの際に発言できるよう意見や疑問点を整理しておく。

毎回、事前に文献講読票を提出していただきます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表および授業への取り組み：65% 最終レポート割合：35%

欠席回数が5回に達した場合、成績は不可となります。

テキスト / Textbooks

Phillip B. Zarrilli *Acting (Re)Considered: A Theoretical and Practical Guide*, 2nd ed. Routledge 2002
9780415263009 -

上記講読文献はコピーを配布するので、入手は必須ではありません。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示します。

その他 / Others

Google Classroom を使用する予定です。

身体学文献講読 2

Reading in Body and Theories 2

『老子』を読む

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN372

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

『老子』の代表的な章を講読し、理解を深める。

Students read and promote their understanding of the representative chapters from Tao Te Ching.

授業の内容 / Course Contents

『老子』は、著者も成立年代もはっきりしない、たった五千字という短い文章なのに、中国古典のなかで最も多くの注釈書が作られてきた名著であり、戦術家、為政者、庶民、不死を目指す者、だれが覗いても、その人に応じて進むべき道を映し出してくれる鏡のようなところのある、じつに不思議な書である。この『老子』のなかから代表的な章を選んで講読し、「水」のごとく、「雌」のごとく、「嬰兒」のごとくあれ、というその内容から、中国人がいかに世界や歴史、そして身体をとらえようとしていたのかを、他の思想と比較しながら考察する。

授業

Tao Te Ching is a text of only 5,000 characters, with its authorship and date of composition debated, but it is the most commented masterpiece of Chinese literature, a mysterious work that reflects, like a mirror, a path which

any person, be it a warrior, a politician, a commoner, anyone aiming to achieve immortality, should follow. Students read the representative chapters from Tao Te Ching, and learn how Chinese people perceived the world, history and body through the contents of "like water, like females, like babies", while also comparing it to other ideas.

The class consists of the report from the person in charge of the day and whole class exchange opinions. The person in charge carefully reads their part, does research if needed, and gives an oral explanation in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：『老子』講読 道とは
- 3回：『老子』講読 最高の善は水のよう
- 4回：『老子』講読 玄牝一根源のメス
- 5回：『老子』講読 無用の用
- 6回：『老子』講読 嬰兒への復帰
- 7回：『老子』講読 美や善は絶対か
- 8回：『老子』講読 学を絶てば憂い無し
- 9回：『老子』講読 無為の政治
- 10回：『老子』講読 大器晩成
- 11回：『老子』講読 理想郷
- 12回：『老子』講読 足るを知る
- 13回：『老子』講読 柔弱は剛強に勝つ
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回指定した章を精読してくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容および授業参加への積極的な態度:70% 授業最終日に提出する小レポート:30%

テキスト / Textbooks

金谷治 『老子』 講談社 1997 4061592785 ○

参考文献 / Readings

初回に紹介する。

身体学文献講読3

Reading in Body and Theories 3

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN373
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2220
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「美的経験」という概念の理解を深めることでポピュラー芸術について理論的に論じられるようになる。
The goal of this course is to understand the concept of aesthetic experience and to criticize the works of popular art with the concept.

授業の内容 / Course Contents

美的経験についての美学的論考を読みながらポピュラー芸術を批判的に理解する仕方について議論する。
Reading the texts about the theories of asthetic expeirences in this course, we discuss about the critical understanding of popular art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
- 3 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
- 4 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
- 5 回：コース『コミュニケーションの美学』を読む

- 6回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
 7回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
 8回：コース『コミュニケーションの美学』を読む
 9回：シュスターマンを読む
 10回：シュスターマンを読む
 11回：シュスターマンを読む
 12回：シュスターマンを読む
 13回：シュスターマンを読む
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	○
ディスカッション・ディベート	:	○		:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教材には予め目を通しておくこと。また、関連する音楽作品などに触れておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回提出する感想:70% 授業への取り組み:15% 最終レポート割合 :15%

テキスト / Textbooks

テキスト (ジャン・コース『コミュニケーションの美学』文庫クセジュおよびリチャード・シュスターマンの論文等の抜粋) は Google classroom などを通じて配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業中に指示する。

映像学文献講読 2

Reading in Image and Theories 2

写真を見ることの深さへ

調 文明 (SHIRABE BUNMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN375

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、写真の本質について書かれた文献を扱い、写真の分野において映像と身体の学びへの理解を深めること、並びに、写真映像に関する英語文献の読解力を涵養しながら、写真映像を批評する目を獲得することを目標とする。

By dealing with the literature on the nature of photography, the goals of this course are to

- (1) deepen the understanding of the studies of the image and embodiment in the field of photography, and
- (2) obtain a critical eye on photographic images while cu

授業の内容 / Course Contents

ロラン・バルトの『明るい部屋』は、写真論の古典のひとつである。写真に関する基礎知識を教員の説明で補ってのち、この書物を英語版を中心に、オリジナルのフランス語版と邦訳を参照しつつ精読していく。本書の理解が深まるように、適宜、関連する写真家や写真集なども紹介する。一枚の写真を見ることの深さ、豊かさを学ぶことを通して、日常に潜在する〈見る〉という知覚の営為の創造性について、詳細に見定めていく。

Camera Lucida by Roland Barthes is one of the classics of the theory of photography. After being supplemented

of the basic knowledge of photography by the professor in charge, students will carefully read this book (English edition) along with the original French edition and Japanese translation. In order to deepen the understanding of this book, related photographers and photo books will be also introduced. Through gaining the rich and deep experience of looking at a photograph, they will have a detailed insight into the creativity that is latent in their own ordinary days in the perception of looking.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——ロラン・バルト『明るい部屋』について
- 2回：文献講読
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：中間まとめと質疑応答
- 8回：文献講読
- 9回：文献講読
- 10回：文献講読
- 11回：文献講読
- 12回：文献講読
- 13回：文献講読
- 14回：まとめ——写真を読むということ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（出席と訳担当）：60% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

その他 / Others

英語のテキストで読みます。原書はフランス語で書かれていますが、フランス語は読めなくても構いません。

映像学文献講読 3

Reading in Image and Theories 3

篠儀 直子 (SHINOGI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN376
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画分析の入門書的な英語文献を読みます。英文読解力の向上と、映画の分析的な見方、映画について書く方法の体系的取得が目的です。

Students will read introductory texts to the anatomy of movies. The goal is to improve comprehensive English skills and acquire an analytical view of movies, as well as methods for writing about movies.

授業の内容 / Course Contents

Ed Sikov, *Film Studies: An Introduction*, 2nd ed. (New York: Columbia University Press, 2020) を読みます。映画研究について、学生向けの教科書として書かれた入門書的な本です。1本の映画を分析するにあたっては、スタイル面、主題面、映画史的な位置づけなど、さまざまな面からアプローチできますが、それらのアプローチ方法について簡潔に説明されています。

授業時には、必要に応じて映像資料も参照し、参考文献（日本語・英語）のコピー

Students will read *Film Studies: An Introduction*, 2nd ed., (New York: Columbia University Press, 2020). The book is an introductory student textbook on film studies. To analyze a movie, it is possible to focus on such aspects as style, themes, characters, and the place of the film in movie history. The textbook concisely explains

each approach, demonstrates how the student can articulate their ideas, and how to express those ideas clearly and precisely.

During classes, as necessary, students will watch video materials, or consider printed copies of related texts (in Japanese or English).

Students will be asked either to translate the textbook sentence-by-sentence, or to present summaries in Japanese with reference to related videos.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による発表
- 3回：参加者による発表
- 4回：参加者による発表
- 5回：参加者による発表
- 6回：参加者による発表
- 7回：参加者による発表
- 8回：参加者による発表
- 9回：参加者による発表
- 10回：参加者による発表
- 11回：参加者による発表
- 12回：参加者による発表
- 13回：参加者による発表
- 14回：参加者による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲は、前の回の授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献・取組み:20% 発表:40% 最終レポート割合：:40%

レポート提出と発表のいずれかを怠った場合、単位取得不可。

テキスト / Textbooks

テキストのPDFをCanvas LMSで配付します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示・配付します。

その他 / Others

授業では学生への質問も活発に行なう予定なので、積極的な受講態度が期待されます。

連絡事項の伝達、テキスト配付などで、Canvas LMSを使用する予定。

現代演劇論 1

Contemporary Drama 1

演劇の創作現場からの考察

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN403
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

劇とは何か。劇的な出来事はどのように形作られているのか。それを、時間と空間、そして経験という観点から考察する。

What is dramatic? How is that dramatic event formed? Consider from a theatrical perspective of time, space, and experience.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、主に演劇作品の創作の現場からの経験をふまえて、演劇とは何かという問いを考察する。特に、ノマド的身体と空間について考えてみたい。

In this class, we will consider the question of what theater is, mainly through experience from the field of theatrical production. In particular, the theme of this class is the nomadic body and space.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演劇の空間と時間について

- 3回：演劇の空間と時間について
 4回：演劇の空間と時間について
 5回：演劇の身体について
 6回：演劇の身体について
 7回：演劇の身体について
 8回：演劇を経験すること
 9回：演劇を経験すること
 10回：演劇を経験すること
 11回：現代演劇の創作現場から
 12回：現代演劇の創作現場から
 13回：現代演劇の創作現場から
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱った映像や演劇作品を鑑賞してもらう場合がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の課題の提出など、授業時の取り組み:100%

テキスト / Textbooks

レジュメを配布する

参考文献 / Readings

現代演劇論 2

Contemporary Drama 2

横堀 応彦 (YOKOBORI MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN404

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

国内外で上演されている現代演劇の多様性を知る。

演劇を仕事にすることについて考える。

Students learn the diversity of the modern plays on stages within and outside of Japan. They consider what it means to make theater a profession.

授業の内容 / Course Contents

国内外で上演されている舞台芸術作品（劇場外での上演も含まれる）の記録映像を見ながら、現代演劇の多様性を知る。前半の授業（日本編 1～3・海外編 1～3）では主に 1990 年代以降に上演された作品および関連文献を取り上げ、現代演劇を見るための枠組（フレーム）について考える。後半の授業（日本編 4～6・海外編 4～6）ではここ数年間に国際的な舞台芸術フェスティバルで上演された作品および関連文献を取り上げ、現代演劇の可能性について考える。その上で「演劇を仕事にする」ことについて、受講生と議論しながら考えていきたい。演劇に

Students learn about the diversity of modern theater by watching recorded videos of performed theatrical artworks (including those not done in the theater) from in and outside Japan. In the first half of this class

(Japanese parts 1-3, foreign parts 1-3) it is mainly the plays staged after the year 1990 and the related literature, so that students can think about the framework needed to watch modern plays. The second half of the class (Japanese parts 4-6, foreign parts 4-6) features the plays appearing on international performing art festivals in recent years and the related literature, so that the students can think about the possibilities for modern theater. The students are also expected to think about and discuss the topic of making theater a profession. This course also welcomes students who have no preliminary knowledge about theater.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：日本編 1
- 3回：日本編 2
- 4回：日本編 3
- 5回：海外編 1
- 6回：海外編 2
- 7回：海外編 3
- 8回：インターミッション
- 9回：日本編 4
- 10回：日本編 5
- 11回：日本編 6 (ゲストスピーカーの可能性あり)
- 12回：海外編 4
- 13回：海外編 5
- 14回：海外編 6 (ゲストスピーカーの可能性あり)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

比較的長めの文献を読み、予め内容や疑問点を整理した上で毎週の授業に臨むことが求められる。その他、随時授業時に指示する。

演劇に関する予備知識は必要ないが、(ほぼ) 毎週の授業で何かしらの提出物が課されるので、履修の際には注意すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内に行う小レポートおよび授業内に指示した提出物:50%

欠席回数が5回を超えたものについては成績評価の対象としない。なお授業内に指示する提出物には、授業内に指示する提出物には実際の観劇が必要となるものが含まれ、そのチケット代 (1作品あたり 3000円~目安) は自己負担となる。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

参考文献 / Readings

随時授業時に指示する。

その他/ Others

講師の都合でやむを得ず休講にする可能性があります。休講分の講義の代替方法については初回のオリエンテーション時に受講生と相談の上決定します。

映像技術論 1

Technique of Cinema & Video 1

映像作品における音響基礎

川口 陽一 (KAWAGUCHI YOICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN420

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品における音響に関して、機材に関する基礎的な知識と技術の習得ならびに、その役割について学ぶ。映像作品について、特に音について深く読み取れるようになる。

Students learn the basic knowledge and role of the equipment used for the sound in video works, and acquire skills.

Becoming able to read video works about a sound in particular.

授業の内容 / Course Contents

映像において音響の果たす役割について実践的に考える。

この授業では、実際に音を収録し、その音を確かめながら仕上げていくまでの基礎を学習する。

具体的にはマイク、レコーダーなどの基本的な知識と技術、ならびに映像編集ソフトを用いての仕上げの基礎の習得を目標とする。

もちろん音響のみで映像作品は成立するものではない。そこで、数人のグループを作り、ごく短い映像作品の撮影と仕上げをするワークショップを行う。それを通して音響の視点から映像について考えることとなる。

したがって、授業への受け身ではない積極的な参加が必要

They think of the role of sound in the video in practice.

In this class students record the sound, and learn the basics of finalizing that sound while checking it.

In particular, the goal is to obtain basic knowledge about equipment like microphones and recorders, as well as basics of finalizing the sound using video editing software.

Of course, a video work does not consist only of sound. So, this class is a workshop where students shoot and finalize a really short video in small groups. By this, they learn to think about the video from the point of view of sound.

Therefore, they should actively participate in class activities.

In addition, lectures will be held in parallel with a workshop. While introducing specific works, cultivate literacy and analytical ability for video and sound based on the experience gained in the practical training. Impose interim and final reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：座学1：Introduction / 映画の音について考える

実習1-1：班分け / 機材の紹介(ガンマイク、ZOOM F4)

2回：実習1-2：撮影 ガンマイク1本で会話を録る

3回：実習1-2：撮影 ガンマイク1本で会話を録る 続き

4回：実習1-3：編集1 音と映像との同期

5回：実習1-4：実習1 プレビュー

座学2：映画のダイアログ 空気を録る／誰に聞こえているか 1

中間レポート課題提示

6回：座学3：映画と音楽／誰に聞こえているか 2

7回：実習2-1：ワイヤレスマイク、ガンマイクの屋外仕様と ZOOM F4 のマルチトラックの紹介

中間レポート提出締め切り

8回：実習2-2：撮影 ガンマイク1本とワイヤレス2波のミックス

9回：実習2-2：撮影 ガンマイク1本とワイヤレス2波のミックス 続き

10回：実習2-3：収録 フィールドレコーディング ZOOM H5 のステレオマイクとガンマイク

11回：実習2-4：編集2 音と映像との同期

12回：実習2-5：実習2 プレビュー

座学4：ダイアログだけが音ではない / 「ノイズ」とは何か

最終レポート課題提示

13回：座学5：「ソニマージュ(sonimage)」 再び総合的に映像と音について考える

14回：座学6：まとめ

最終レポート提出締め切り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に指示する。

授業時間内で学べることは限られている。課題やレポートを適宜課す。

各自自主的な取り組みをすることが前提となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席及び授業への取り組み、課題・レポート:70%

最終レポート割

合 :30%

テキスト / Textbooks

授業で扱う機材のマニュアルが、各メーカーのサイトから pdf ファイルをダウンロードできる。

ダウンロードしてスマートフォン、タブレットなどで見れるようにしておくこと。

参考文献 / Readings

映像技術論 2

Technique of Cinema & Video 2

映像編集の理解と実践

横山 昌吾 (YOKOYAMA SHOGO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN421
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 講義形式とグループによる制作実習
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2120
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像編集の基礎知識と理論、実践スキルの習得。

To acquire basic knowledge, theory and practical skills in video editing.

授業の内容 / Course Contents

編集とは、映像の物語を作る作業である。映像編集は、物語の時間や空間をコントロールしながら、映像作品が何をどのように観客に伝えるかを決定する極めて重要なパートを担っている。本科目では、映画などを参照しながら、編集の歴史、編集理論、編集の基礎技術などを講義する。講義後半では、それらの知識を用いて制作実習（短編映像）を行い、実践により編集の理解を深める。制作実習のグループ分けは教員が行う。

Editing is the process of creating a visual narrative. Video editing plays an extremely important part in determining what and how a videowork conveys to the audience while controlling the time and space of the story. This course will give lectures on the history of editing, editing theory, and basic editing techniques, referring to films and other media. In the latter half of the course, students will use the knowledge earned in production practice (short films) in groups set by the instructor to further develop an understanding of editing through

practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：授業ガイダンス 映像編集とは？

2回：映像編集の基礎知識(1) 映像の認知とストーリーテリング

主なトピックは下記の通り

映像の単位について

観客が映像をどのように理解をしているのか

映像の認知プロセスについて

3回：映像編集の基礎知識(2) 映像と認知とストーリーテリング

主なトピックは下記の通り

映像をどのように処理をしているか

観客は物語をどの様に理解するのか

4回：映像編集の基礎知識 (3) 編集技術史

主なトピックは下記の通り

編集がどのように生まれたのか？

編集技術の発展の歴史

5回：映像編集理論(1) クレショフ効果

主なトピックは下記の通り

クレショフ効果とは何か？

どのように使われているのかを考える

6回：映像編集理論(2) Rule of Three

主なトピックは下記の通り

映像を認知する順番と認識の関係

観客は映像のどこをみているのか？

7回：映像編集理論(3)映像制作のための基礎知識 (授業内で30分程度の間テストを行う)

8回：制作実習ガイダンス

脚本制作 (講師が用意した脚本をもとに、各自で脚本を完成させる)

9回：制作実習プリプロダクション

脚本制作 (講師が用意した脚本をもとに、各自で脚本を完成させる)

ロケハンなどの準備

10回：制作実習 (撮影)

11回：制作実習 (撮影・ポストプロダクション)

12回：制作実習 (撮影・ポストプロダクション)

13回：制作実習 (撮影・ポストプロダクション)

14回：制作実習作品の講評 (提出作品を最終テストとする)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:			
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で制作実習を行う時間は限られている。グループの進行状況によっては、授業時間外の準備や撮影、編集などをする必要がある。

制作実習で使用する機材類は、学校が所有している機材を使用する。

制作実習で使用する編集ソフトは、Adobe Premiere Pro を使用する。ソフトの使用は、各自で書籍やインターネットなどを参照して学習し、ソフトの扱いに慣れておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間確認テスト:35% 最終レポート割合 :35%最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

Norman Hollyn The Lean Forward Moment New Riders 2008

ウォルターマーチ 映画の瞬き フィルムアート社 2018

スティーヴ・ハルフィッシュ 映像編集の技法 傑作を生み出す編集技師たちの仕事術 フィルムアート社
2021

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

協調性、責任感（グループワークため遅刻・欠席は他のメンバーに迷惑をかける）、コミュニケーション能力（積極性）

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

制作実習で使用する編集ソフトは、Adobe Premiere Pro を使用する。ソフトの使用は、各自で書籍やインターネットなどを参照して学習し、ソフトの扱いに慣れておくこと。

映像人類学

Visual Anthropology

映像にみる民族と文化の諸相

村尾 静二 (MURAO SEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN424

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 集中講義 授業実施日は以下の通り

8月5日(月)・6日(火)・7日(水)2-5限、8日(木)2-3限

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、映像作品を文化人類学の視点を交えて読み解くことにより、文化の多様性を知り、異文化理解に果たす映像の役割について理解し、それを受講者が自身の関心に応用できるようになることを目標とします。

Thinking images from the point of view of cultural anthropology, students learn about the diversity of cultures, understand the role of images in comprehending different cultures, and aim to apply it to their own interests.

授業の内容 / Course Contents

映画と文化人類学はともに 19 世紀後半に体系化が始まり、その後も多くの問題を共有してきました。その交点にあるのが映像人類学です。本講義では、様々な時代、地域、視点により制作されてきた映像作品を取り上げながら、映像人類学について体系的に講義します。映像を通して異文化を理解することが日常的に求められている現在において、映像人類学の視点はますます重要になっています。

Both film and cultural anthropology began to be systematized in the second half of the 19th century, and ever since then they have had a lot of common research projects. Their common point is visual anthropology. This

class brings up images created in various times, countries, views, and lectures on representative topics on visual anthropology. At present, as we understand cultures in the world through images, the perspective of visual anthropology is becoming increasingly important.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション - 人類とイメージの起源
- 2回：人類と映像のファーストコンタクト
- 3回：世界の周縁の劇化と植民地主義
- 4回：ドキュメンタリー映画の形成 - 映画による社会の視覚的構成
- 5回：映像人類学の確立（1）映像に捉えられた文化の規範
- 6回：映像人類学の確立（2）映像に捉えられた民族の心性
- 7回：ジャン・ルーシュ（1）科学に宿る詩的なもの
- 8回：ジャン・ルーシュ（2）現実に宿る演劇性
- 9回：戦争の記録、民族の記憶
- 10回：映像人類学のポスト構造主義的展開（1）旅・移動
- 11回：映像人類学のポスト構造主義的展開（2）ジェンダー
- 12回：グローバル化する世界と先住民メディアの現在
- 13回：撮ること、撮られること - 世界で描かれてきた日本の諸相
- 14回：まとめ - 映像と文化の倫理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文化人類学の基本的問題について準備学習し、映像人類学について関心を明らかにすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での提出物(複数回):60% レポート:40%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配付します。

参考文献 / Readings

村尾静二・箭内匡・久保正敏（編） 映像人類学（シネ・アンソロポロジー） - 人類学の新たな実践へ - せりか書房 2014 9784796703338

綾部恒雄・桑山敬己（編） よくわかる文化人類学 ミネルヴァ書房 2010年 9784623056965

その他は授業内で紹介します。

ジェンダー文化論

Gender Studies

ジェントリフィケーションとジェンダー・セクシュアリティ

堀 真悟 (HORI SHINGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN425

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

都市空間における物質的編成、身体的経験、文化的表象など多元的に作用するジェントリフィケーションの機制を捉え、とりわけジェンダー・セクシュアリティの視点から批判的に分析できるようになる。

Students learn to grasp the plural mechanism of gentrification that enacts material transformation, physical experiments, and cultural representation in urban space, and to analyze it critically from the point of gender and sexuality.

授業の内容 / Course Contents

フェミニスト地理学者として知られるレスリー・カーンは著書『Gentrification is Inevitable and Other Lies』において、今日のジェントリフィケーションについてジェンダー・セクシュアリティの視点から論じ、そこからの解放はジェンダー・セクシュアリティ、階級、人種、エスニシティ、障害などをめぐる交差的な分析と実践を要することを明らかにしている。本講義では、その際に参照されている理論の紹介を交えつつ同書を読み解き、さらに発展的ないくつかの論点を示す。これにより、ジェントリフィケ

In her "Gentrification is Inevitable and Other Lies", a feminist geographer Leslie Kern argues today's

gentrification from the point of gender and sexuality, and articulates that the liberation from gentrification needs intersectional analysis and practice about gender, sexuality, class, race, ethnicity, disability, and so on. In this lecture, we comprehend her discussion with the review of theories she refers, and present some developmental issues. Through this lecture, we promote to learn that gentrification is especially a problem of gender and sexuality, and to train a critical attitude to the urban space we live in.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（用語説明）
- 2回：レスリー・カーン『フェミニスト・シティ』とフェミニスト地理学
- 3回：ジェントリフィケーションとは何か？
- 4回：ジェントリフィケーションは自然な過程か？
- 5回：ジェントリフィケーションと文化／消費？
- 6回：ジェントリフィケーションと貨幣？
- 7回：ジェントリフィケーションと階級？
- 8回：ジェントリフィケーションと身体的な移動？
- 9回：ジェントリフィケーションとはメタファーか？
- 10回：ジェントリフィケーションは回避不能？
- 11回：支配的な物語を変える
- 12回：反ジェントリフィケーションの霊性①ーヒップホップとジェントリフィケーション
- 13回：反ジェントリフィケーションの霊性②ーシモーヌ・ヴェイユ「脱創造」と「脱構成」
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

都市空間やそれを構成するインフラのなかで起きていることに注意を注いでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回課すリアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

レスリー・カーン フェミニスト・シティ 晶文社 2022 9784794973290 ○

Leslie Lern Gentrification is Inevitable and Other Lies verso 2022 ○

教科書の購入は必須ではありません

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語のテキストが指定されていますが、英語読解能力は問いません。

ポストコロニアル論

Postcolonial Studies

脱植民地化とはどういうことか？

佐喜真 彩 (SAKIMA AYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN426

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

沖縄の文学作品を読むことを通じて、植民地主義によって生み出される社会的・政治的・心理的問題を理解する。その知見を元に（内なる）植民地主義を批判的に問う力を身につける。

This course aims to help students explore social, political and psychological issues brought about by colonialism by reading a number of Okinawa literary works and to gain understanding that allows them to think critically about (internal) colonialism.

授業の内容 / Course Contents

ポストコロニアリズム（post-colonialism）とは、字義的には植民地主義（colonialism）の後（post）を意味するが、脱植民地主義と訳される。それは、かつての帝国主義の時代が終わったということではなく、現在でも形を変えながら継続する植民地主義を批判的に検証し、脱植民地化に向けて取り組む思想や態度を意味する。

この授業では、最初にパレスチナおよび沖縄が抱える問題をポストコロニアリズムの視点から概括する。その後、沖縄文学の代表的な作品を読みながら、脱植民地化とは何かを学ぶ。

Post-colonialism does not mean the end of imperialism but an attitude or stance toward decolonization; it critically examines today's colonialism, which has persisted in different forms.

In the course's first part, students contemplate issues with which Palestinians and Okinawans have struggled through postcolonial perspectives. Next, students read a number of prominent Okinawa literary works and discuss the question of what is meant by "decolonization."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション——ポストコロニアリズムとは？
- 2回：文化と帝国主義
- 3回：パレスチナ／イスラエル問題
- 4回：沖縄の近現代史
- 5回：冷戦期アメリカ文化と沖縄
- 6回：映画『八月十五夜の茶屋』を観る
- 7回：大城立裕「カクテル・パーティー」(1967)を読む
- 8回：目取真俊「水滴」(1997)を読む
- 9回：ポストコロニアリズム／フェミニズム／インターセクショナルリティ
- 10回：「在日」朝鮮人文学①
- 11回：「在日」朝鮮人文学②
- 12回：沖縄におけるインターセクショナルな抵抗運動
- 13回：崎山多美「月や、あらん」(2012)を読む
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業では文学作品を扱いますので、対象となる作品を授業前に読んできてもらいます（小課題全5回程度）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内に指示したリアクションペーパー（全14回分）等の提出物：70% 小課題：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

本橋哲哉 ポストコロニアリズム 岩波書店 2005

姜尚中 オリエンタリズムの彼方へ——近代文化批判 岩波書店 1996

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

初めてこの分野に触れる方にも理解していただけるような説明を心がけていますので、お気軽にいらしてください。

その他 / Others

みなさん一人一人が、平等に教育を受ける権利があります。全ての人が他の全ての学生さんと同じように学ぶ

ことができるよう環境を整えることは、大学や私の義務だと思います。ですので、授業を受ける上で、何か心配事や困ったことがあればお気軽に相談してください。

(例)

- ・斜視のため配布資料を拡大して印刷してほしい
- ・大学に登録している名前とは別の名前で読んでほしい
- ・(性)暴力が描かれる映像や作品を観たり読んだりすることに困難がある

言語芸術論

Language and Art

江澤 健一郎 (EZAWA KENICHIROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN429
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

言語芸術の可能性と多様性について考察しながら、さまざまな作家の試みについて理解する。フランスを中心とした近現代文学についての知識を獲得する。

We understand the potential and diversity of language arts and understand various writers' attempts. We acquire knowledge about modern and contemporary literature mainly in France.

授業の内容 / Course Contents

フランスを中心とした文学を考察する。20世紀最大の芸術運動であるシュルレアリスムを中心として検討する。それと関連するさまざまな作家たちの言語芸術についても考察する。取り上げる作家は、ボードレー、ランボー、ロートレアモン、ツァラ、ブルトン、バタイユ、レリス、アルトーなどである。授業は講義形式で行うが、受講生が少ない場合は演習形式で行う場合もある。

We consider literature centered on France. The study focuses on Surrealism, the largest art movement in the 20th century. It also considers the linguistic arts of various writers associated with it. The authors include Baudelaire, Tzara, Breton, Bataille, Leiris and Artaud. I conduct classes in a lecture format. Exercises may be conducted in the event that the number of students is small.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ボードレールの近代性。万物照応の詩学と批評。
- 3回：ランボーやロートレアモンの詩と19世紀文学。
- 4回：ダダ
- 5回：ダダの展開
- 6回：ダダからシュルレアリスムへ
- 7回：シュルレアリスム宣言
- 8回：シュルレアリスムの文学と芸術
- 9回：アンドレ・ブルトンの『ナジャ』
- 10回：雑誌『ドキュマン』とシュルレアリスム
- 11回：バタイユの文学と思想
- 12回：レリスの自己の民族誌
- 13回：フランス演劇とアルトー
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布する資料を読むだけでなく、紹介する文献を自分でも読んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

プリントを配布する。

その他 / Others

特になし。

認知科学

Cognitive Sciences

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN431
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

認知科学の基本枠組みとその研究内容を理解する。

This class teaches the basic framework and research contents of cognitive sciences.

授業の内容 / Course Contents

認知科学はコンピューターの発展とともに登場してきた学問で、人の心の働きを情報処理モデルによって解明しようとしてきました。その後、身体性や進化論的な視点を取り入れるなど、学際的に展開してきた学問でもあります。また、認知科学は実証的な科学として研究を進めてきましたが、その一方で心の働きへの問い、モデル化は哲学において伝統的になされてきたトピックであり、認知科学の枠組みは西洋哲学の枠組みを部分的に引き継いでいると考えられます。この授業では、認知科学で扱われる様々な心の働きをトピックごとに紹介していくとともに、哲

Cognitive sciences is a discipline that appeared with the development of computers, and tried to describe the works of human mind with data processing models. Then, it also developed academically as a discipline that included the points of view from theories of embodiment and evolution. Also, cognitive sciences proceeded with the research as an empirical science, but as the questions about the work of mind and modelling it are traditional

topics of philosophy, the framework of cognitive sciences is partially developed from the framework of Western philosophy. This class introduces topics related to various works of mind in cognitive sciences and studies the connection to the traditional philosophical debate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：認知科学の歴史
- 3回：感覚・知覚
- 4回：注意
- 5回：カテゴリー・表象
- 6回：言語
- 7回：ワーキングメモリ
- 8回：長期記憶
- 9回：日常認知
- 10回：問題解決と推論
- 11回：判断と意思決定
- 12回：認知と感情
- 13回：認知と文化
- 14回：認知の進化と脳

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習は特に必要としないが、講義内容をしっかりとノートに取り、復習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席及び授業への取り組み:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

箱田裕司など 認知心理学 有斐閣 2010 9784641053748

その他 / Others

授業の内容は若干変更する可能性がある。

アートの心理学

Psychology of Art

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN432
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

知覚に関わる心理学の知見と造形表現の関わりを学ぶ。

Students learn about the connection between the knowledge in perceptual psychology and modelled expression.

授業の内容 / Course Contents

主には知覚に関わる心理学的知見がどのように造形表現に関連しているか、講義を行う（感情や欲求に関する心理学的な知見、精神医学的な知見は扱わない）。

心理学の現在の動向や学問的な妥当性よりも、それらの知見がどのように造形活動のヒントに繋がるか、ということに力点を置くつもりである。

また、視覚的な表現を行う際に必須となる、色彩についての基礎的な理解が得られるよう、途中何コマか集中して講義を行う。なお、授業内容は進行の度合いに応じて下記の計画から若干変更する可能性がある。

Students mainly receive lectures on the ways the knowledge in psychology of perception is related to modelled expression (it doesn't include the information about emotions and desires, or anything from psychiatry).

From the current trends in psychology and scientific appropriateness, the idea is to lay emphasis on the ways this knowledge connects to the hints for modelling activities.

Also, several time blocks would be devoted to an intensive course needed to obtain basic understanding of the color essential for visual expression. Therefore, the contents of the course might deviate slightly from the plan below, depending on the progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：形の知覚
- 3回：奥行き知覚
- 4回：運動知覚
- 5回：錯視
- 6回：ダイアグラム：パラメータの図像化
- 7回：色彩の基礎1
- 8回：色彩の基礎2
- 9回：色彩と照明
- 10回：造形と発達
- 11回：身体行為とアート
- 12回：創造性？：表現行為の分析事例1
- 13回：創造性？：表現行為の分析事例2
- 14回：アニメーションに関する補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

特に必要ないが、講義の内容が身の回りのデザインやアートとどのように関わるか、普段から注意して見て欲しい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席及び授業への取り組み:30%

テキスト / Textbooks

必要な場合は授業内で配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業内で指示する。

身体思想

Issues in Understanding Body

新たな見方、感じ方、考え方に向けて

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN434

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋哲学の歴史におけるいくつかの問題を通して、映像身体学にとって基本となるような概念を批判的に学ぶことを目指します。

The goal is to study critically the basic concepts of Body Expression and Cinematic Arts through several problems in the history of Western philosophy

授業の内容 / Course Contents

この講義では、感性や知性、二元論、形而上学、認識論、遠近法主義、表現や解釈、言語や記号、などの哲学的な諸問題をわかり易く説明することを通して、これらの意義を改めて別の仕方で創造的に考えていく。これは、映像身体学において欠くことのできない身体存在についての、あるいは精神の意味についての理解へとつながっていく。

By explaining various problems of philosophy, like sensitivity and intelligence, dualism, metaphysics, epistemology, perspectivism, expression and interpretation, language and sign, in a simple manner, this class prompts creative thinking about the meaning of these with another method. This leads to understanding the

existence of body, essential to Body Expression and Cinematic Arts, and even the meaning of mind.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の概要
- 2 回：批判と創造、あるいは表現の可能性について
- 3 回：感性と知性について----何故、長い思想史のなかで身体は無視され続けてきたのか
- 4 回：精神と身体について
- 5 回：二元論 (1)
- 6 回：二元論 (2)
- 7 回：まとめ
- 8 回：存在の形而上学
- 9 回：主体の形而上学
- 10 回：言語／記号／構造
- 11 回：言葉と身体の遠近法的空間
- 12 回：認識と解釈
- 13 回：身体をめぐる----道徳と倫理の差異
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習は必要ありません。講義の際にノートをしっかりと取り、各テーマについて現在の自分なりの考えを少しでもまとめることが重要です。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への取り組み:40% 中間レポート(2回):20% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜、コピーを配布する。

参考文献 / Readings

適宜、資料を配布する。

身体人類学

Anthropology of Body

現代の身体を探索するための多様な方法を身につける

杉本 隆久 (SUGIMOTO TAKAHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN437

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化研究、文化人類学、同時代の思想の知見から、芸術、スポーツ、アニメ、映画などを横断的に分析し、現代における身体と自己のありようを探求するための多様な方法を習得する。

Students do a cross-section analysis of art, sports, animation and movies from the point of view of cultural research, cultural anthropology, and contemporary thought, in order to learn the various methods for exploring the state of body and self in moder

授業の内容 / Course Contents

私たちの身体や自己は社会と遊離しているのではなく、社会におけるさまざまな「装置」によって形づくられている。さらに、現代における監視社会の文脈においては、身体それ自体が新たに注目され、新しいメディアテクノロジーはますます身体との融合を果たそうとしている。本講義では既存の議論といくつかのメディア芸術を参照しながら、こうした身体をめぐる新しい文脈を読み解いていく。

Our bodies and selves are inseparable from the society and are shaped by various "devices" existing in it.

Furthermore, the context of modern surveillance society focuses even more on the body itself, and new media

technologies are increasingly being merged with the body. This class reads and understands this new context of the body by referring to preceding discussions and several types of media art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：身体と同時代の思想
- 3回：身体の文化人類学
- 4回：身体を取り囲む諸力① 身体技法
- 5回：身体を取り囲む諸力②フーコーによる「生権力」概念について (1)
- 6回：身体を取り囲む諸力③フーコーによる「生権力」概念について (2)
- 7回：ジェンダーと視線の政治学
- 8回：性的客体化と身体表象
- 9回：SNS と身体①
- 10回：SNS と身体②
- 11回：テクノロジーの発達と身体①
- 12回：テクノロジーの発達と身体②
- 13回：キャラ性と世界観と身体
- 14回：まとめ-第三の道としての身体

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨むこと。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業の課題:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

ミシェル・フーコー 性の歴史 I 知への意志 新潮社 1986 9784105067045

ジュディス・バトラー ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱 青土社 1999
4791757033

芸術人類学

Anthropology of Art

江澤 健一郎 (EZAWA KENICHIROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN438
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

芸術人類学について学びながら、芸術と人間の関係について多角的に考える力を獲得する。

Studying about anthropology of art, acquire the ability to think about art from multiple angles.

授業の内容 / Course Contents

まず、先史時代における芸術の誕生について考察して、人類と芸術の関係を考究する。続いて、ジョルジュ・ディディ＝ユベルマンのイメージ人類学について考察する。彼は、多様な学問領域を横断しながら、古代から現代にいたる無数のイメージを分析している。この授業では、彼のイメージ論の内容と可能性を検討する。それと関連して、マイケル・フリード、ロザリンド・クラウス、イヴ＝アラン・ボワ、等々といった人々のイメージ論についても検討する。

First, we will consider the birth of art in prehistoric times and examine the relationship between humanity and art. Next, we will consider Georges Didi-Huberman's anthropology of images. He analyzes a myriad of images from ancient times to the present day, traversing a variety of academic disciplines. In this class, we will examine the content and possibilities of his theory of images. In connection with this, we will also examine the image theories of people such as Michael Fried, Rosalind Krauss, Yves-Alain Bois, and others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：芸術人類学について
 2回：洞窟絵画論1
 3回：洞窟絵画論2
 4回：洞窟絵画論3
 5回：ディディ＝ユベルマンのイメージ人類学
 6回：『イメージの前で』をめぐって1
 7回：『イメージの前で』をめぐって2
 8回：『イメージの前で』をめぐって3
 9回：マイケル・フリードの「芸術と客体性」とミニマル・アート
 10回：『われわれが見るもの、われわれを見つめるもの』をめぐって1
 11回：『われわれが見るもの、われわれを見つめるもの』をめぐって2
 12回：ジョルジュ・バタイユと「アンフォルム」をめぐって
 13回：『不定形の類似』と『アンフォルム』をめぐって1
 14回：『不定形の類似』と『アンフォルム』をめぐって2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する文献を自分で読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン 『イメージの前で』 法政大学出版局 2018 4588140493

Georges Didi-Huberman Ce que nous voyons, ce qui nous regarde Minit

ロザリンド・クラウス、イヴ＝アラン・ボワ 『アンフォルム』 月曜社 2011 4901477781

ジョルジュ・バタイユ 『ドキュマン』 河出文庫 2014 4309464033

Georges Didi-Huberman La ressemblance informe Macula

ジョルジュ・バタイユ ラスコアの壁画 二見書房 1975 9784576000121

アンドレ・ルロワ＝グーラン 世界の根源 ちくま学芸文庫 2019 9784480099310

ファッションの思想

Issues in Understanding Fashion

われわれは何を着てきたのか われわれは何を着ているのか われわれは何を着るのか

高平 未来 (TAKAHIRA MIKU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN441
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ファッションとは一過性のものである。しかし、同時に、最も時代を反映した芸術作品でもある。この授業では、そのスタイルが生まれた歴史・文化的背景を理解し、表象としてのファッションを学び、「着る」ということの意味、そして私たちは一体何を身に纏っているのかということ考察していく。

Fashion is a transient thing. But at the same time, it is also an art form that reflects the times most greatly. In this class, we will explore the history and cultural background in which specific styles were born, while studying fashion as representatio

授業の内容 / Course Contents

授業の前半では、衣服の源泉である古代ギリシャ・ローマ時代から出発し、西洋近代服の誕生（14世紀）を経て、現代まで続くモードの創造と形成を、歴史・芸術・文学・音楽・哲学・ジェンダーと様々な要素から捉えていく。後半は、その知識を基に、19世紀末から現代までのめまぐるしいファッションの変遷を考察する。

The first half of the class begins with the ancient Greek and Roman era where we find the origin of fashion, through to the birth of modern Western clothing (14th century) to the creation and formation of fashions leading

to the present, examining various factors such as history, art, literature, music, philosophy, and gender. In the second half, based on this knowledge, we will consider the transition of changing fashions from the end of the 19th century to the present.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：ファッションとは？

紀元前～13世紀：ファッションの変遷

2回：14世紀～16世紀：ルネッサンス美術とファッション

3回：17世紀～18世紀：バロックとロココ：モードの形成

4回：18世紀後期～19世紀後期：ロマンチズムと近代男性ファッションの形成

5回：1889年～1914年：世紀末・ベルエポック・万博とファッション

6回：1910年代～1930年代～1940年代

アートとモード：ふたつの大戦間のファッション：第二次世界大戦とファッション

7回：1947年～1960年代

ニュールック——モードの復興——：第二次世界大戦後のファッション

映画の中のモード：ハリウッドの隆盛：アメリカンファッション、アイヴィールック

8回：1960年代

スウィングロンドン！：ストリートファッションの台頭：ロッカーズ／テッズ／モッズそしてビートルズ：ミニスカートの時代：ティーンエイジカルチャー：ストリートからハイエンドへ

9回：1970年代

宇宙時代と音楽とファッション：コスモコール、サイケデリック、ファンク、グラム

10回：1970年代～1980年代

音楽とファッション：パンク：DIYとファッション

11回：ボディコンシャスの時代

ファッションの演劇性とタブーへの挑戦：ジャン・ポール・ゴルチェ

12回：1980年代～

デコンストラクション：脱構築

川久保玲と山本耀司：ベルギー6、マルタン・マルジェラ

13回：1980年代～1990年代

音楽とファッション：ヒップホップファッションの隆盛：グランジ

14回：1990年代～2000年代そしていま

老舗メゾンとデザイナー：カール・ラガー・フェルド、トム・フォード、ジョン・ガリアーノ

ファッションへの挑戦：テクノロジーとファッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予備知識として、指定のテキスト「カラー版世界服飾史」を読んでおくこと（特に、20世紀までは必須）。各講義ごとに資料として指示された映画及び映像や文献に目を通しておくことを勧める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席率、リアクションペーパー等（複数回）:60%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

深井晃子 カラー版世界服飾史 美術出版社 2014 ○

参考文献 / Readings

徳井 淑子 図説ヨーロッパ服飾史 河出書房新社

その他 / Others

- ① PowerPoint を使用した講義形式で映像資料なども適宜活用する。
- ② 板書は行わない。
- ③ 各授業 2 日前までにシラバスと資料を Canvas LMS にアップする。
- ④ 講義形式が中心のため、リアクションペーパーで授業に対する見解や意見を書いてもらい、それについて講師からフィードバックを行う。
- ⑤ 資料の配布、リアクションペーパー、課題の提出は Canvas LMS を使用する。

広告論

Studies on Advertisement

徳永 朗 (TOKUNAGA AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN442
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・企業等によるマーケティング活動に占める広告の位置づけと、その重要性を理解する。
- ・消費者の意識・行動にもとづいて、広告計画がどのように立案されるかを理解する。
- ・デジタルの時代に、広告の枠を超えて拡張するマーケティング・コミュニケーションについて理解する。
- ・文化としての広告、社会における広告の意義についての知識も得る。

The objectives of this course is to help students acquire following understandings:

- Functions and significance of advertising in marketing activities by organizations, mainly companies.
- Planning methods of advertising and the contribution of consumers i

授業の内容 / Course Contents

- ・まず広告とは何かについて、分類や定義を通して理解を促す。また、広告の機能について概括する。
- ・次にこの講義の中核的議論として、広告計画立案の考え方や手続きについて、消費者の意識・行動の変容を促すマーケティングの文脈に沿って論じる。
- ・また、今日のデジタル化する環境において広告と同様の目的をもって行われる諸活動や、基本的な広告の概念、広告計画、広告会社の事業内容等に対するそのインパクトについても議論する。

・最後に、広告の文化的・社会的な意義についても考察を加える。

-Firstly, enhance the basic knowledge on advertising through its definition and various types, as well as its functions.

-Secondly, as the core delivery of this course, discuss the planning procedure of advertising designed to change consumers perception/behavior, along the context of marketing strategy.

-Discuss the impact of digitalization on advertising from various viewpoints such as its function, planning strategies, management by ad agencies, as well as on diverse marketing communication methods.

-As further studies, explain ideas on social and cultural values of advertising.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：■オリエンテーション／この講義の議論の対象

- ・授業の進め方と留意点を説明する。
- ・この講義の議論の対象(「広告」が指すもの)を、具体的な施策を通して明確にする。

2 回：■広告の基本 ～定義と機能～

- ・広告の定義や、様々なタイプの広告について学ぶ。
- ・経済的側面と社会・文化的な側面から、広告の機能や意義について考察する。

3 回：■マーケティング計画の中での広告／広告計画の全体像

- ・「売り」の仕組みづくりであるマーケティングの計画の流れと、その中でのコミュニケーション、広告の位置づけを理解する。
- ・「広告目標に即した表現制作と媒体選定」という広告計画の骨子を理解する。

4 回：■広告目標 ～広告計画の考え方と実践<1>～

- ・広告目標の設定の重要性と、消費者の態度・行動変容に即したその考え方を理解する。
- ・目標設定とは表裏一体をなす、効果指標の設定の考え方を学ぶ。

5 回：■表現計画 ～広告計画の考え方と実践<2>～

- ・広告目標に沿った広告表現策定のアプローチについて理解する。
- ・表現制作における「表現コンセプト」の意義と、その重要性を学ぶ。

6 回：■媒体計画 ～広告計画の考え方と実践<3>～

- ・広告目標に沿った媒体計画立案のアプローチについて理解する。
- ・様々な広告媒体の特徴と、「オーディエンス概念」に沿った媒体計画の考え方を学ぶ。

7 回：■統合的な広告計画 ～広告計画の考え方と実践<4>～

- ・(媒体計画の続き)
- ・表現計画と媒体計画の調和の重要性を理解する。
- ・マーケティング計画における、統合的で整合性のとれた広告計画の重要性とその勘所について理解する。

8 回：■インターネット広告の特性

- ・インターネットを活用したコミュニケーションの実情について理解する。
- ・様々な面でのインターネット広告と伝統的な広告の差異を学ぶ。

9 回：■マーケティング・コミュニケーションの多様な手法 ～広告を超えて<1>～

- ・広告と同様の目的をもって行われる、様々なコミュニケーションの手法群とその特徴を学ぶ。
- ・統合型マーケティング・コミュニケーション(IMC)の考え方を学ぶ。
- ・現代の消費者を理解するための留意点、アプローチについて学ぶ。

10 回：■つながる時代のマーケティング・コミュニケーション ～広告を超えて<2>～

- ・『マーケティング 3.0/4.0』の議論に沿って、デジタルの時代のマーケティングのあり方について考える。
- ・それに即したコミュニケーション、ひいては情報・経験の設計について学ぶ。

11 回：■ 広告の実務

- ・ 広告主、広告会社をはじめとする様々な組織の関与と、それぞれの役割を理解する。
- ・ 広告ビジネスの実際を、総合広告会社の場合を中心に学ぶ。

12 回：■ 広告会社の役割・業務の変化

- ・ 広告会社の誕生から、その業務の拡張までについて学ぶ。
- ・ マーケティング・コミュニケーションの拡張に伴う、総合広告会社の事業の変容を学ぶ。

13 回：■ 広告と文化

- ・ 文化が反映されたマーケティングや広告の実情について理解する。
- ・ 文化としての広告の一側面について理解する。

14 回：■ コーポレート・コミュニケーション／広告と社会

- ・ “売ること”以外を目的とするコミュニケーションがどのようなものかを理解する。
- ・ 社会を意識したマーケティングと、その課題に沿った広告について考える。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習内容は、復習レポート (= 宿題) の取り組みを通して指示する。

授業内容の振り返り、定着を意図したこの復習レポートは、基本、毎回課せられる。

この授業では、理解を積み重ねることが求められるので、そのレポートは予習の位置づけももつ。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 中間レポート:20% 毎回の復習レポート:20%

3分の2以上の回数の出席が確認できない場合、単位修得は不可となる。

テキスト / Textbooks

岸志津江、田中洋、嶋村和恵著 『現代広告論<第3版>』 有斐閣 2017 9784641220799 ○

講師が作成したパワーポイントに沿って授業を進める予定で、その大部分を配布資料として展開する。だが、復習に取り組む際のその支援資料として、またより深い理解を得るための教材として、上記テキストの購入を強く推奨する。

参考文献 / Readings

岸志津江、田中洋、嶋村和恵編 『現代広告全書』 有斐閣 2021 9784641165885

その他 / Others

- ・ パワーポイントを使用した講義形式を中心に行う。随時、広告素材を参照しながら授業を進める。
- ・ 補足事項や各自のメモ・気づきを書き込むための資料として、パワーポイントのほとんどの部分を出席者に展開する。
- ・ 毎回の復習レポートの内容について、受講者の取り組みをもとに全体に対するフィードバックを行う。それにより、授業内容のさらなる理解を促す。

芸術の思想

Issues in Understanding Arts

江口 正登 (EGUCHI MASATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN446
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- （1）美学の基礎的な概念や、主要な問題についての初歩的な知識を身につける。
- （2）現代芸術の基本的な流れについて、初歩的な知識を身につける。
- （3）現代芸術に関わる、特に今日的な諸問題について概観する。
- （4）以上を通して、現代芸術について自分なりに思考していくための基礎を身につける。

Students will acquire the following:

1. An understanding of the basic concepts and major issues in aesthetics.
2. A basic knowledge of the history of contemporary art.
3. A basic understanding of issues related to contemporary art today.
4. A foundation f

授業の内容 / Course Contents

授業は講義形式で行います。

最初の数回では、芸術や美的なものについて考えるための学問である、美学の考え方について、導入的な講義を行います。それ以降は、20 世紀初頭頃から今日にいたる現代芸術の流れを概ね時系列順に概観していきま

す。それとともに、現代芸術に関わる、特に今日的な諸問題を随時取り上げて検討します。

The course will be conducted in lecture format.

The first few sessions will provide an introduction to aesthetics. We will then survey the development of contemporary art from the early 20th century to the present in roughly chronological order, discussing current issues in contemporary art as needed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：美学の基礎概念と諸問題（1）
- 3 回：美学の基礎概念と諸問題（2）
- 4 回：デュシャンとアヴァンギャルド
- 5 回：抽象の展開
- 6 回：ポップアート
- 7 回：ミニマルアート
- 8 回：コンセプチュアルアート
- 9 回：ランドアート
- 10 回：パフォーマンスアート
- 11 回：写真と映像
- 12 回：デジタル化とインターネット以降の芸術
- 13 回：ソーシャリーエンゲージドアート
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献をあらかじめ読んだり、資料に目を通したりしておく。直接授業時に扱うもの以外も含めて、リーディングの課題を出すことがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :75%

平常点割合 :25% リアクションペーパー:25%

欠席回数が5回に達した場合、成績は不可となります。遅刻および早退は2回で欠席1回、出席の不正は1回で欠席3回とみなします。

テキスト / Textbooks

都度、プリントもしくはPDFファイルによる資料を配布します。

参考文献 / Readings

佐々木健一 『美学辞典』 東京大学出版会 1995 9784130802000

井口壽乃、田中正之、村上博哉 『西洋美術の歴史 20世紀：越境する現代美術』 中央公論新社 2017
9784124035988

ハル・フォスター [他] 著；尾崎信一郎 [他] 編 『Art since 1900：図鑑 1900年以後の芸術』 東京書籍

2019 9784487810352

Jean Robertson, Craig McDaniel Themes of Contemporary Art: Visual Art After 1980 Oxford University Press 2021 9780190078331

Jens Hoffmann Show Time: The Most Influential Exhibitions of Contemporary Art Thames & Hudson Ltd 2017 9780500292624

Amelia Jones (ed.) A Companion to Contemporary Art Since 1945 Wiley-Blackwell 2006 9781405135429

ほか、必要に応じて指示します。

アメリカ映画論

Studies on American Cinema

アメリカ映画を聴く

山本 祐輝 (YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN447

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカにおける数多くの豊かな映画実践について、とりわけ音響という観点から理解を深めるとともに、映像や音声を分析的に観て／聴いて思考するための基礎的なスキルの習得を目指します。

This class promotes understanding of numerous cinematic practices in America, particularly from the perspective of sound. At the same time, students aim to build foundational cognitive skills for viewing images and listening to sound analytically.

授業の内容 / Course Contents

映画にとって音は決して副次的なものではなく、ときにそれは映像以上に大きなインパクトをもたらすことがあります。この授業ではアメリカの映画作品のなかからそのような事例の数々を取り上げ、音が映像とどのように関係し、その結果どのような効果が生み出されるのかを検討していきます。アメリカ映画の歴史をたどっていくなかで、音響について考える上で重要な映画作家や技法、テクノロジーや理論を紹介します。

Sound is by no means a subordinate element in cinema, and will often make a greater impact on us than images.

This class considers a number of such examples from American films, examining how sound relates to image and

consequently what kind of effects are produced. Tracing the history of American cinema, this class also introduces important filmmakers, techniques, technology, and theories in thinking about sound.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——映画音響の分類
- 2回：トーキーへの移行と初期のホラー映画の音
- 3回：古典的ハリウッド映画①——スタジオ・システムとプロダクション・コード
- 4回：古典的ハリウッド映画②——「B級映画」、映像的スタイル
- 5回：古典的ハリウッド映画③——音響的スタイル
- 6回：アルフレッド・ヒッチコックの音①
- 7回：アルフレッド・ヒッチコックの音②——『サイコ』における声と身体
- 8回：ニュー・ハリウッド①——概要と社会的・文化的背景
- 9回：ニュー・ハリウッド②——マスキュリニティ（男らしさ）の変容
- 10回：ロバート・アルトマンの音
- 11回：フランシス・フォード・コッポラ／ウォルター・マーチの音
- 12回：ブロックバスター（商業的大作映画）とドルビー・ステレオ
- 13回：80年代のアメリカ映画
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

■受講される方は全員、第7回までに『サイコ』（アルフレッド・ヒッチコック、1960）を見ておいてください（配信、ソフトなどで簡単に見ることができます）。結末も含めて全編を分析します。日本語吹替ではなく、オリジナル音声（字幕版）で見ることを。

■映画について理解を深める・視野を広げるためには、授業内で上映する抜粋だけでなく、作品全体を見る必要不可欠です。まずは関心を持ったものからで良いので、授業内で取り上げられた作品については各自で積極的に全編を見るよう努めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクション・ペーパー（複数回）:50%

リアクション・ペーパーは内容に応じて採点します。授業を踏まえて考えたことや気づいたこと、疑問点などが積極的に言語化されているコメントを高く評価します。一方で、短文やいい加減な感想文、授業内容とは関連性の薄いコメントは低評価とします。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。必要な場合はPDFをダウンロードできるようにします。

参考文献 / Readings

デイヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンプソン フィルム・アート——映画芸術入門 名古屋大学出版会 2007 9784815805678

ミシェル・シオン 映画にとって音とはなにか 勁草書房 1993 9784326851263

北野圭介 ハリウッド100年史講義——夢の工場から夢の王国へ 平凡社新書 2001 9784582851083

その他の文献は授業時に紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

■映画に関する知識の有無は問いませんが、「ストーリーの展開を楽しむ」、「主人公に感情移入して没入する」といった一般的な見方とはまったく異なる観点から映画にアプローチするという点を理解した上で履修してください（「映画を楽しむ」ということを目的とした授業ではありません）。

■この授業では、私たちが普段見逃したり、聞き逃したりしてしまうような映像と音の細部に注目し、その意味を学術的に読み解いていく能動的な姿勢が求められます。映画を分析的・批評的に観る／聴くということに関心のある方に向いています。

また、思考した

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

■リアクション・ペーパーは授業中に提示する QR コードおよび URL（Google フォーム）から提出していただくので、毎回スマートフォンや PC などを準備してください。

■運営には Canvas LMS を使用します。

その他/ Others

■授業の進め方や評価方法、欠席の扱い、映画音響の基礎的な知識などについて詳しく説明するので、初回授業には必ず出席してください。

■授業内ではなるべく受講者全員が安心して見ることのできる作品を取り上げるよう努めますが、暴力的な表現や残酷な表現など、人によっては強いストレスや不安、恐怖を感じてしまうようなシーンを扱う可能性もあります。そういった場合は事前に周知するなどの配慮を行いますが、限界もあるため、そのような表現が極端に苦手だという方は履修にあたって留意してください。

ヨーロッパ映画論

Studies on European Cinema

メディア批判としてのトランスナショナル・ヨーロッパ現代映画史

赤坂 太輔 (AKASAKA DAISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN448

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主に 60 年代から現代に至るヨーロッパ映画史を学ぶ。

We will study modern European film history mainly from the 1960s.

授業の内容 / Course Contents

1960 年代から現代にいたるヨーロッパ映画史はそれまでのツールとして娯楽・情報伝達に奉仕する映像メディアを批判する現代映画の発展過程である。公開当時とは異なり映像環境が飛躍的に変化した現在からの視点から見て、新たに重要とみなされるようになった作品に注目・映像を分析しながら各国の映画史のグローバルな流れを追っていく。

The history of European film from the 1960s is of a development process in contemporary film, that was critical of the visual media that had until then served as a tool for entertainment and information. From the present perspective of a film environment that has changed dramatically from that at the time of release, we will focus on works that have become recognized as important, and while analyzing films, we will follow the global flow of film history from various countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：現代映画史へのイントロ ブレックソン ロッセリーニ その他
- 2 回：イタリアン・ネオレアリズモ 1 と前史 ルノワール その他
- 3 回：イタリアン・ネオレアリズモ 2
- 4 回：ブレックソンと現代映画
- 5 回：フランス・ヌーヴェルヴァーグと同時代の欧米映画 1
- 6 回：フランス・ヌーヴェルヴァーグと同時代の欧米映画 2
- 7 回：1960～70 年代の現代映画（上演の映画、非決定性の映画、自己言及／分析の映画）1
- 8 回：1960～70 年代の現代映画（上演の映画、非決定性の映画、自己言及／分析の映画）2
- 9 回：1980～90 年代の現代映画（上演の映画、非決定性の映画、自己言及／分析の映画）1
- 10 回：1980～90 年代の現代映画（上演の映画、非決定性の映画、自己言及／分析の映画）2
- 11 回：2000～2010 年代の現代映画（上演の映画、非決定性の映画、自己言及／分析の映画）
- 12 回：現在の映画（グローバル化、デジタル化）、多様化した映像時代における映画 1
- 13 回：現在の映画（グローバル化、デジタル化）、多様化した映像時代における映画 2
- 14 回：総論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本年度は見せる作品をできるだけ選択して、場合によっては全編映写する予定ですので、出席鑑賞できない学生は学習が難しい授業になることを承知して履修選択してください。原則、本学図書館にある作品を使う予定です。時間や権利等の理由で作品映像を援用システムに添付することはありません。期末レポートでも授業の流れを把握しているかどうかが大変なポイントになりますので、講義のノートをとって復習して下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

赤坂太輔 フレームの外へ——現代映画のメディア批判 森話社 2019 9784864051439

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業中に映写する映像を集中して見聞きすること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

映画・映像作品名や監督・作家その他の名前をチェックするための機器

その他 / Others

new century new cinema

<http://www.ncncine.com/>

日本映画論

Studies on Japanese Cinema

非日本語圏の映画における《日本》表象

鷺谷 花 (WASHITANI HANA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN449

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- この授業では、19世紀末から現代に至るまでに、日本の外部で製作された映画（実写及びアニメーション）における、《日本》、《日本文化》、及び《日本人》の表象について考察する。
- 映画における《日本》、《日本文化》、及び《日本人》表象に対して、「正しい／正しくない」という価値判断にとどまらず、《日本らしさ》をめぐるコードとルールの生成と変形のプロセスについて、政治・社会・文化的文脈を踏まえつつ学ぶ。
- ナショナリズム、ジャポニズム、オリエンタリズム、《文化盗用》（cultural appropriation）
- In this class, we will examine representations of "Japan," "Japanese culture", or "Japanese" in films (including live action and animation) made in regions outside Japan from the end of the 19 century to 2010s.
- In this class, we learn not only about the

授業の内容 / Course Contents

今日のグローバル化とデジタルコミュニケーションの時代、非日本語圏で製作された映画やドラマに《日本》及び《日本人》が登場することは珍しくなくなっている。しかし、「映画」が商用化された19世紀末

の時点で、すでに西洋映画は《日本》及び《日本人》を映しはじめていた。1910年代～20年代の無声映画の盛期には、青木鶴子、早川雪洲ら、ハリウッド～ヨーロッパ映画界で国際的に活躍する日本人映画スターもすでに出現していた。

しかし、最初に西洋映画に日本人スターが登場した20世紀前半と、21世紀の現在では、《日本》及
In this age of globalization and digital communication, it is not unusual for us to see representations of "Japan" or "Japanese" in films and dramas produced in non-Japanese speaking countries. However, by the end of the 19th century when "motion picture" was first commercialized, Western movies had already started showing "Japan" or "Japanese" on screen. During the golden age of silent films in the 1910s and 1920s, Japanese actors such as Tsuru AOKI and Sessue HAYAKAWA became international star both in the Hollywood and European film industries. However, conventions and rules of representing "Japan" or "Japanese" has undergone great transformation since the silent film era to 2010s. For example, white actors performing "Japanese" in makeup was common in Hollywood in the first half of the 20 century, but if they took the same approach in the 21 century, they would inevitably be severely criticized as being discriminatory.

Also, the way of representing "Japan" and "Japanese" differs greatly depending on the historical and political relationship between each country that produced films related "Japan" and Japan.

In this class, we will examine non-Japanese (or multilingual) films from early cinema to contemporary Hollywood films, studying several previous scholarly or critical works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション～今後の授業の進め方について～
- 2回：「サムライ」との遭遇
- 3回：「ゲイシャ」と「ムスメ」(1)
- 4回：「ゲイシャ」と「ムスメ」(2)
- 5回：多言語空間・日本(1)
- 6回：多言語空間・日本(2)
- 7回：映画の中の《日本的空間》(1)：廊下と座敷
- 8回：映画の中の《日本的空間》(2)：格と対面
- 9回：映画の中の《日本的空間》(3)：日本の風呂
- 10回：人力車の映画史
- 11回：《日本的》アクション(1)：乱闘の美学
- 12回：《日本的》アクション(2)：座頭市世界をゆく
- 13回：アニメーションにおける《日本的なもの》(1)
- 14回：アニメーションにおける《日本的なもの》(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業は複数の映画作品を参考映写しつつ進めるが、授業時間内に1本の映画を全編通して上映することは不可能であるため、授業時間外に自分で映画作品を全編通して観る時間及び環境を確保して受講することが

望ましい。

授業では下記の映像作品に言及することを予定している。

『ヨシワラ』（マックス・オフェルス監督）

『無法松の一生』（稲垣浩監督）

『羅生門』『七人の侍』『天国と地獄』（黒澤明監督）

『浪花の恋の物語』（内田吐夢監督）

『雨月物語』『祇園の姉妹』（溝口健二監督）

『SAYURI』（ロブ・マーシャル監督）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小課題:40%

授業への参加及び理解状況のチェックのため、LMS 上で定期的に小課題を実施する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

村上由見子 イエロー・フェイス：ハリウッド映画にみるアジア人の肖像 朝日選書 1993 9784022595690

中村秀之 敗者の身ぶりーポスト占領期の日本映画ー 岩波書店 2014 9784000244770

馬淵明子 舞台の上のジャポニスムー演じられた幻想の〈日本女性〉ー NHK 出版 2017 9784140912478

ジョン・ダワー 容赦なき戦争 平凡社ライブラリー 2001 9784582764192

その他、参考文献については必要に応じて授業時もしくは LMS を通じて紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語の学術的文献を読みこなせること。

授業時間外に映画作品を視聴する手段と時間を確保できること。

その他 / Others

講義資料配布、参考文献紹介、小課題提示等は LMS を通じて行う。

アジア映画論

Studies on Asian Cinema

アジア映画の歴史と現在

暉峻 創三 (TERUOKA SOZO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN450

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 集中講義 授業実施日は以下の通り

8月1日(木)4-5限、2日(金)・5日(月)・6日(火)・8日(木)3-5限

授業の目標 / Course Objectives

アジア映画への理解を深める。

To learn more about Asian cinema.

授業の内容 / Course Contents

日本映画を除くアジア映画の歴史および現在について講義する。アジアの重要な監督の紹介を重視する。

Lecture on Asian cinema (Except on Japanese cinema). Brief look at Asian great directors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

2回：中国語圏映画概観

3回：香港映画の現在

4回：台湾映画の現在

5回：中国映画の現在

- 6回：韓国映画概観
 7回：韓国映画の現在
 8回：東南アジア映画概観
 9回：フィリピン映画の現在
 10回：マレーシア映画の現在
 11回：タイ映画、その他東南アジア映画の現在
 12回：インド映画概観
 13回：インド映画、その他アジア映画の現在
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予め100本以上のアジア映画を見ていること。

日本語字幕なし（英語字幕付き）でアジア映画を見る語学力を付けておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中提出物（複数回）：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語（またはアジア現地語）で字幕や参考資料を読み、理解する能力があることを前提とする。

その他 / Others

受講生の知識、関心に応じて、授業計画を変更することがある。

有料の映画配信サイト、DVDレンタル、映画館等を利用しての作品鑑賞が必要となる場合がある。

ドキュメンタリー映画論

Studies on Documentary Cinema

入門・ドキュメンタリー映画

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN451

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ドキュメンタリー映画の歴史や理論についての基本的な知識を習得し、様々な時代や地域における映像表現の特色について理解を深めること。

In this course, students will gather basic knowledge on the history and theory of documentary film and also deepen their understanding of the characteristics of cinematographic expression throughout various periods of time and regions.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、ドキュメンタリーと呼ばれる映画ジャンルにアプローチするための方法を学ぶ。フィクションとドキュメンタリーの境界に関する基礎的な考察を踏まえたうえで、映画の誕生から現代に至るまで、ドキュメンタリー映画の歴史をたどりつつ、様々な「世界の見方」を読み解く力を身につけていく。

Students will study the methodology for approaching the genre of documentary film. After examining the basic elements that separate fiction and documentaries, the course will subsequently trace the history of documentary film from the birth of film to the present and cultivate students' abilities to interpret various views of the world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：フィクション／ドキュメンタリーの境界を考える
- 3回：1920年代
- 4回：ドキュメンタリー運動
- 5回：第二次世界大戦とプロパガンダ
- 6回：観察と構築①
- 7回：観察と構築②
- 8回：対象とどう向き合うか①
- 9回：対象とどう向き合うか②
- 10回：日常を見つめる眼①
- 11回：日常を見つめる眼②
- 12回：現代へのアプローチ①
- 13回：現代へのアプローチ②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特定の映画作品の観覧や、文献の熟読を課す場合がある。作品の観覧にあたっては、図書館やレンタルショップ、動画配信サイトなどを活用すること。それらの活用方法に関しては、授業内で詳しく説明する。なお、授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

- ・レポート試験の提出が単位修得の前提となる。
- ・単位修得のためには平常点とレポート試験の点数の合計が合格点を上回る必要がある（＝レポート試験を提出しても、平常点との合計が合格点を上回っていない場合、単位を修得できない）。
- ・出席していれば自動的に平常点が加算されるわけではない（＝出席自体は平常点とならない）。平常点はリアクションペーパーの内容に応じて、毎回0～5点で採点し加算していく。
- ・すなわち、一定の出席回数を満たしていれば単位が自ずと修得できるタイプの授業ではない。出席の回数よりもリアクションペーパー

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

その他 / Others

- レジュメまたは PowerPoint を用いた講義形式で、映像資料も適宜使用する。
- 上記「授業計画」はあくまで暫定的なものであり、受講者の意向や関心に応じて臨機応変に調整することがある。
- 《※注意》暴力的・性的にやや過激な描写を含む作品を取り扱う場合がある。そうした場合は上映前にアナウンスをする等、一定の配慮をするが、そのような描写が極端に苦手な方は受講の際に注意すること。
- 専門や学年を問わず、映画に関心を持つ者を歓迎する。ただし、「好き／嫌い」や「共感できる／できない」などといったアマチュア的

写真映像論

Studies on Photography

〈日本写真〉の基礎を築いた四人の写真家たち

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN452

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、日本写真の基礎を築いた四人の写真家の仕事について基礎的知識を修得すること、並びに、機械の知覚としての写真の本質に向かった彼らの探究とその意義について理解することを目標とする。

The goals of this course are to (1) obtain basic knowledge about the achievements of the four founders of Japanese photography; and (2) understand their pursuit of the nature of photography as mechanical perception and the meaning of pursuit.

授業の内容 / Course Contents

写真は、機械文明を推し進めるヨーロッパの近代において発明された機械の知覚像である。では、西洋で出現した写真は、いかに日本にもたらされ、日本にインパクトを与えたのか。さらに、日本の写真の基礎を築いた日本の写真家の先駆者たちは、いかに外来の写真を摂取し、新たな自身の表現として、機械映像という潜在するその性質を用いたのか。こうした問いかけをしながら、この授業は、人間の知覚と機械の知覚の協働の観点から日本写真の歴史を紹介し、映像と身体の学の範例として、基礎を築いた写真家たちの作品のありようを探る。

Photography is the image of mechanical perception which had been invented in the modern period of Europe forwarding machine civilization. How has photography, which had appeared in the West, been brought into Japan, and impacted upon it? Then, how the Japanese pioneer photographers, who laid the foundations of photography in Japan, absorbed foreign-made photography and made use of its latent nature of mechanical image as new and their own expressions? By asking these issues, this course introduces the history of Japanese photography from the viewpoint of cooperation between human and mechanical perceptions and explore the conditions of the founders' photographic works as the examples of the studies of image and embodiment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：写真術の到来
- 3 回：木村伊兵衛の知覚 1
- 4 回：木村伊兵衛の知覚 2
- 5 回：木村伊兵衛の知覚 3
- 6 回：土門拳の知覚 1
- 7 回：土門拳の知覚 2
- 8 回：土門拳の知覚 3
- 9 回：日本写真の歩み
- 10 回：濱谷浩の知覚 1
- 11 回：濱谷浩の知覚 2
- 12 回：入江泰吉の知覚 1
- 13 回：入江泰吉の知覚 2
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時にも作品は紹介するが、予習・復習として、該当写真家の作品、並びに〈日本写真〉の初期の写真家たちの作品を観ることがのぞましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:30% コメントペーパー:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

日本写真協会編『日本写真史—1840-1945』（1971年）（品切れのため、古書で入手するか、図書館等で当たってください）。そのほかは授業時に適宜、紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を通じて授業に関する連絡等をおこなうことがある。PC やタブレット等、Canvas LMS にアクセ

スできる機器を授業時に持参する必要がある場合は、事前に授業内等で告知する。

音の思想 1

Issues in Sound 1

南アジア音楽文化概論

(Introduction to music culture in South Asia)

村山 和之 (MURAYAMA KAZUYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN454

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アジア州の中でも南アジア地域で広く行われている音楽芸能文化を通して、当該地域に住む人々の特徴を理解すること。同時に日本で行なわれてきた芸能理解に関しても検証する。

The purpose of this lecture is to understand the characteristics of people living in the region through the music culture that is widely practiced in the region of South Asia. At the same time, we will examine the understanding of performing arts that has

授業の内容 / Course Contents

南アジア地域、特にインドとパキスタンを対象とし、広い意味でのパフォーマンスアーツを成立させているその地の歴史・宗教・慣習等と関連させながら、音楽資料や映像資料を用いて考察を進める。

The study focuses on the South Asian region, especially India and Pakistan, and uses music and video materials in connection with the history, religion, and customs of the region, which has established performing arts in a broad sense.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：南アジア地域に関する概論
- 2回：古代インドの祭儀と歌唱　：　ヴェーダ讃歌とその担い手たち
- 3回：祈りの歌の諸形態①　：　ヒンドゥー教とその文化
- 4回：祈りの歌の諸形態②　：　イスラーム教徒とその文化
- 5回：祈りの歌の諸形態③　：　シク教とその他の文化
- 6回：北インド古典音楽の成立とその旋律理論（ラーガの世界）
- 7回：北インド古典音楽の成立とそのリズム理論（ターラの世界）
- 8回：北インド古典音楽の味わい方　：　ゲストスピーカーによる楽器実演
- 9回：他民族・多言語の民謡世界
- 10回：民話と民謡の表象　：　あらゆる音楽の母体として
- 11回：イスラームなのに歌舞音曲は許されるのか？「カウワーリー Qawwali」の世界
- 12回：民衆の好む現代音楽　：　映画音楽の世界
- 13回：民衆の好む現代音楽　：　ロック、フュージョン、ヒップホップ等
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義時に扱った主題については、必ず復習しておくこと。インド系言語による聞きなれない専門用語が使用されるので、そのたびごとに確認して忘れないようにすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験　:60%

平常点割合　:40%　　　　　　　　　最終レポート割合　:40%

最終レポートは必須である。出席カード裏面には毎回コメントを記すこと。

テキスト / Textbooks

可能であれば学外から音楽家のゲスト講師（シタール奏者、音楽評論家等）を招き、村山の知識では及ばない実践の世界の教えを乞いたい。

参考文献 / Readings

松川恭子/寺田吉孝　世界を環流する<インド>　青弓社　2021　9784787274373

音の思想 2

Issues in Sound 2

<音楽する身体>について考えてみよう

恩地 元子 (ONCHI MOTOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN455

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

音/音響は物理現象であるが、それは同時に「音楽」と呼ばれ、あたかも生きているような印象を与えることがある。音/音響はどのようにして「音楽になる」のだろうか。

音楽史、音楽の文法（楽典）の基礎を押さえながら、<音楽する身体>の多様な局面から<音楽>（音/音響/音楽）についてさらに理解を深め、様々な音楽事象を体感できるようになる。

<音楽>がさまざまな文化的・社会的・歴史的コンテキストのなかで、どのような意味をもつかを理解する。自らの<音楽する身体>を認識し、聴くことのリテラシーを身につける。

Sound or acoustics is a physical phenomenon, but may also be termed “music” and can convey a sense of being alive. How does sound or acoustics become music?

Referring to multiple aspects of musical performance, participants are expected to gain a deeper u

授業の内容 / Course Contents

<音楽>の基本的な要素から、旋律、和声、リズムを採り上げ、さらに総合的な局面を扱う。

<音楽>を、現在と過去を行き来しながら、芸術諸領域（文学、美術、演劇、映画、舞踊など）、環境世界との

関わりから考える。

また＜音楽＞が異なる文化的・社会的・歴史的コンテキストのなかで意味することについて考える。多彩な事例を採りあげる予定だが、事例の詳細、授業の進行は受講者の顔ぶれなどによって調整する。講義で具体的に採りあげにくい地域やジャンルについてゲストスピーカーを招聘する予定である。

This course will deal with such basic elements as melody, harmony and rhythm, and will address more comprehensive aspects.

The course will also enhance the development of participants' skill in appreciating music as it interacts with artistic domains (e.g. literature, fine art, theater, film, dance,) and world environments, enabling them to consider what music means in various cultural, social and historical contexts.

Specific musical examples and class progression will depend on participants.

Guest speakers will be invited to speak on specific, more difficult to tackle regions and genres.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ～ 音楽体験の諸要素
- 2回：私の物語を聴いて！ ～ モーツァルト、シューベルト、シューマンなど
- 3回：音楽におけるハッピーエンドとは ～ モーツァルト、ベートーヴェン（古典派）など
- 4回：民族/民俗の物語を共有しよう ～ グreek、スメタナ、ボロディンなど
- 5回：原曲を知って驚くなかれ ～ 古典派、ロマン派の音楽、広義のJポップ（演歌、歌謡曲も含む）など
- 6回：音楽は風景を映せるのか？ ～ フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、アイヴスなど
- 7回：音楽は弾む ～ ヴィヴァルディ、バッハ、ショパンなど
- 8回：想いは拍子から溢れる ～ ベートーヴェン（ロマン派）、ショパンなど
- 9回：反復すると退屈する？ ～ 舞曲、練習曲、変奏曲 広義のJポップなど
- 10回：リズムは伸びたり縮んだり ～ ジャズのグルーヴ、即興など
- 11回：この響きを聴くと不安になる ～ サスペンスドラマの音・音響・音楽
- 12回：この曲はいつ終わったのか ～ シェーンベルク、ストラヴィンスキーなど
- 13回：＜音楽する身体＞について考える
- 14回：この音の主は誰？ ～ ミニマル・ミュージック、ケージ、映画の中の音・音響

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外学習用コンテンツを授業支援システムに掲載する。学習方法は授業で指示する。

授業中に紹介する催しやタイムリーな催しを、体験するように努める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席＋リアクションペーパー、小テスト、ワーク参加など：60%

最終レポート

割合：40%

テキスト / Textbooks

特になし。資料を用意する。

参考文献 / Readings

G.ドゥルーズ, F.ガタリ『千のプラトーン - 資本主義と分裂症』(宇野邦一ほか訳、河出書房新社、1994年)など。授業中に指示する。

イメージとメディア

Image and Media

洞窟壁画からスクリーンショットまで

(From the Cave Painting to the Screenshot)

調 文明 (SHIRABE BUNMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN456

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人類はこれまでイメージとメディアをとおして、目に見えるもの、目に見えないもの、そしてはかなく消え去るものを表象として残してきた。本授業では古今東西の文化実践を観察し、イメージとメディアの関係を的確に説明することを学ぶ。

Human beings have always represented the visible, the invisible, and the ephemeral through image and media. Students learn to observe various cultural activities in all times and places and to explain precisely the relationship between image and media.

授業の内容 / Course Contents

原始時代から現代のグローバルな高度資本主義時代まで、人類は知覚と表象にかかわる様々な機械装置の技術革新を行ってきた。そのなかには、カメラ・オブスクラや写真、印刷メディア、広告そしてデジタル装置が含まれる。それらの歴史的、文化的、技術的背景にも十分留意しながら、イメージとメディアがもたらす（再）生産物を考察する。

From primitive times to age of global and developed capitalism, human beings have innovated technologies for various mechanical devices of perception and representation, which contain camera obscura, photography, printed media, advertising publicity and digital device. While giving much thought to the historical, cultural and technological backgrounds, we will examine the (re)production of Image and Medium.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

[準備] 初回は準備不要。以降は各回、以下に記載した語句や事項を辞典や関係図書、ウェブ等で事前に調査し、まとめておくこと。

2回：イメージの根源：接触と似姿

[準備] ネガティブ・ハンド／影の輪郭／聖骸布

3回：古代ギリシャのイメージ論：プラトンとアリストテレス

[準備] 『国家』と『詩学』／イデア論／ミーメーシス

4回：光学機械によるイメージ・メイキング

[準備] 小穴投影／カメラ・オブスクラ／マジック・ランタン

5回：写真術の発明

[準備] ダゲールとタルボット／ダイレクトプロセス／ネガポジ法

6回：記録としての写真

[準備] ロジャー・フェントンと戦争写真／ルイス・ハインと児童労働／参与観察から当事者の視点へ

7回：写真を「読む」——グーグル・ストリートビューを併用したワークショップ

[準備] 特になし

8回：写真と造形芸術の関係1：ピクトリアリズムからモダニズムまで

[準備] シャルル・ボードレー「1859年のサロン」／ピグメント印画法／『カメラ・ワーク』

9回：写真と造形芸術の関係2：ピクトリアリズムからモダニズムまで

[準備] フォト・アウゲ（写真眼）／メディウム・スペシフィシティ／フォト・モンタージュとフォトグラム

10回：大量消費社会におけるイメージとメディアの関係

[準備] マルセル・デュシャンの《泉》／写真のヴァナキュラー／シミュレーション

11回：ファッション写真における女性表象

[準備] 『VOGUE』と『Harper's BAZAAR』／ストリートファッションとスナップ／SNSのセルフイー

12回：肖像と生=性

[準備] nude と naked／LGBTQ と身体／主体化するセルフヌード

13回：DeskTop Photographing：光学に依らない写真史の可能性

[準備] 光学と化学／ヨハン・ハインリヒ・シュルツェ／リッターによる紫外線の発見

14回：まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、授業計画で各回に挙げられている語句や事項を事前に調査することがのぞましい。復習として

は、配布資料に目を通しながら講義の振り返りをし、さらに参考文献やインターネット等を用いてより理解を深めることを求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:20% 授業内で問うた質問への回答等:10%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

各回、Canvas LMS を通じてプリントを配布する予定。

参考文献 / Readings

講義の展開に応じて適宜、参考文献を紹介する。

その他 / Others

リアクションペーパーのフィードバックにかんしては、匿名状態にしたうえで Canvas LMS（もしくは Discord）にリアクションペーパーの回答（の一部）を載せ、それにコメントする場合があります。ご理解のほどよろしく願いいたします。

比較舞踊論

Comparative Studies on Dance

舞踊の諸相

武藤 大祐 (MUTO DAISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN458

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ダンス（舞踊）の歴史的・理論的な広がり学ぶこと。異なるジャンルや文化の比較考察ができるようになること。

Students learn the diversity of dance from historical and theoretical viewpoints. They are also invited to sophisticate their comparative understanding of different dance genres or cultures.

授業の内容 / Course Contents

「踊る」とはどのような行為なのでしょう。

時代やジャンル、また芸術・祭儀・娯楽などといった文脈の違いを超えて、「振付」「音楽」「身体」「衣装」「空間」「表現」「文化」の7つの観点から、その多様な広がりをもとに考察します。

What is dancing?

In this class, across different contexts such as theatre art, ritual, entertainment, the diversity of dance will be examined with many historical and contemporary examples collected from around the globe, from seven angles; choreography, music, body, costume, space, expression and culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：授業の内容と進め方の説明

2回：振付（1）

：あらゆるダンスにおいて「振付」は不可欠な要素であると同時に、最も見過ごされやすい要素でもある。「振付」にはどのような様式や技術があるのか。また「振付」をめぐる多様な考え方についても検討する。

3回：振付（2）

：前回の続き。

4回：音楽（1）

：ダンスと「音楽」の関係を様々に見ていく。ダンスから（ダンスとともに）発展した音楽や、踊る行為がそのまま音楽の演奏でもある（あるいはその逆）ような芸能、あるいはEDMのように踊る身体とは別の仕組みから発達したダンス音楽など。

5回：音楽（2）

：前回の続き。

6回：身体（1）

：「振付」と同様、「身体」がなければダンスは成り立たないと考えられる。しかしダンスと身体はどんな関係にあるのか。身体的な条件はたしかにダンスの質を左右するが、ダンスの美しさと身体の美しさは別である。そして踊る人、あるいは踊りを見る人は、身体レベルでどんな経験をしているのかも考える。

7回：身体（2）

：前回の続き。

8回：衣装（1）

：どんなダンスにおいても「衣装」は多かれ少なかれ一定の役割を担う。またダンスにおいて衣装は「身体」の延長ともいえる。踊り手にとっての衣装、観客にとっての衣装、その双方の観点から見えていく。

9回：衣装（2）

：前回の続き。

10回：空間（1）

：踊るためには身体が動くための「空間」が必要だが、むしろ身体の側が空間を定義することもある。ダンスにおいては客観的（あるいは物理的）な空間だけでなく、主観的（あるいは感覚的）な空間も重要な意味を持つ。また社会的な意味での空間すなわち「場所」についても考察する。

11回：空間（2）

：前回の続き。

12回：表現

：踊る人は、見る人に向けて何かを「表現」する。具体的な意味内容の場合もあれば、抽象的な世界観や価値観の場合もある。また他の踊り手への働きかけ、すなわちコミュニケーションの側面もある。そこにはどのような仕組みがあるのか。

13回：文化

：ダンスが社会の中で営まれる限り、そこにはダンスを包み込み、支えている「文化」がある。ダンスを単なる形態として切り出すのではなく、諸要素が複合した文化としての総体を見ていく。

14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワポ等）の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、講義に関連するイベントを紹介したり、動画のリンクを提示します。各自で見て、講義の内容を確認すると同時に、自分なりの理解を深め、関心を広げてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席時に配布するレビューシート:30%

テキスト / Textbooks

ジェラルド・ジョナス 世界のダンス——民族の踊り、その歴史と文化 大修館書店 2000 9784469264364

参考文献 / Readings**その他 / Others**

この講義では極めて多様な事柄を扱います。もし映像などで自分には刺激が強すぎると感じた場合には、自己判断で途中退出などしてください。ただし授業後に必ず申告し、抜けた部分についての補足説明を受けてください。

パフォーマンスと身体

Performance and the Body

ダンスと政治

宮川 麻理子 (MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN459
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ダンスを中心とするパフォーマンス・アーツを、特に身体やその政治性に注目しながら、いくつかのキータームに基づいて分析しより深く理解する。そのプロセスを通して、舞踊研究やパフォーマンス研究の理論や手法を身につける。

Key terms will be the basis for analyzing performing arts, with particular focus on the body, corporeality, and its politics to deepen understanding. Students will learn the theories and methods of dance and performance studies.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、政治性をキーワードとして、昨今のダンスを分析する。政治性（politics）とは、ダンス作品の政治的テーマのみならず、他者の身体、人と人・人と社会との関係性を「振り付ける」という行為そのもの、ダンスをめぐる展開されてきた過去の言説に見られるパワーバランスなど、非常に多様な領域を指す。いくつかの具体例やダンスについての理論を参照しながら、身体とダンスをめぐる政治性について考える。

基本的には講義形式で進める予定であるが、議論には積極的な参加が求められる。

In this class we will analyze examples of dance by applying concept 'politics'. 'Politics' in Dance Studies means

not only political themes represented in each performance, but also a huge range of aspects (e.g. choreography itself as choreographing movements/ bodies of others, choreography as composing relationships between someone and others, someone and the society, political power that are shown in discourses about dance). Students will deepen their thinking about the elements that constitute the dancing body through some examples and theories about dance.

The class will primarily be in lecture format, but students will be asked to participate in discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：「舞踊史」の問題
- 3回：ダンスと政治をめぐる諸議論
- 4回：舞台を見る目ー観客・劇場をめぐる
- 5回：「政治とダンス」① ドイツの身体文化とダンス
- 6回：「政治とダンス」② 日本における洋舞の発展と戦時下のダンス
- 7回：「政治とダンス」③ 文化政策とダンス
- 8回：「ダンスにおける政治性」① テーマとしての政治性
- 9回：「ダンスにおける政治性」② 「ダンサー」の変遷（1）
- 10回：「ダンスにおける政治性」③ 「ダンサー」の変遷（2）
- 11回：「ダンスにおける政治性」④ 舞踏とその受容
- 12回：「ダンスにおける政治性」⑤ 振付
- 13回：ゲストスピーカーとの対話
- 14回：全体のまとめとフィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介した文献に目を通しておくこと。また必修とはしませんが、できる限り様々な公演や展覧会に足を運ぶことを勧めます。授業内でも適宜公演情報等を紹介する予定です。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への取り組み（出席状況およびリアクションペーパー）:40%

テキスト / Textbooks

適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

Jens Richard Giersdorf and Utian Wong The Routledge Dance Studies Reader (Third Edition) Routledge 2019 9781138088719

エリカ・フィッシャー＝リヒテ パフォーマンスの美学 論創社 2009 9784846003289

Rebekah J. Kowal, Gerald Siegmund, Randy Martin The Oxford Handbook of Dance and Politics Oxford University Press 2017 9780190052966

Alexandra Kolb Dance and Politics Peter Lang 2011 9783039118489

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・資料の配布は、Canvas LMS を通して行います。
- ・出席確認には Google Form を使用する予定です。QR コードが読み取れる機器（スマホなど）を持参してください。

その他/ Others

ゲストスピーカーのスケジュールにより、各回の内容が前後することがあります。

芸能の理論と歴史

Theory and History of Performing Arts

日本芸能における身体観の変容

Changing View of the Body in Japanese Performing Arts

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN460

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本芸能史の基礎知識と身体文化研究の基礎概念を修得する。

To acquire basic knowledge of the history of Japanese performing arts and the basic concepts relating to cultural studies of the body.

授業の内容 / Course Contents

ひとが芸能を披露するとき、たとえば踊るとき、その身体はなぜそのように動くのでしょうか。身体は生理的なレベルでは人類共通ですが、かつてマルセル・モースがその身体技法論において指摘したように、身体の用い方は、時代や文化によって大きく異なります。たとえばバレエと能では立ち方や歩き方が全く違いますし、昔のバレエと今のバレエもずいぶん違います。そうした身体表現のヴァリエティには、その身体が属している時代や文化に特有の身体観——「身体とはこのようなものであり、このようにして動くのである」という、身体についての理論的な

When people perform, why does their body move the way it does? Although the body is physiologically common

メディア論

Media Studies

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN461
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2320
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、主に近代以降の広義の技術を取り上げながら、技術と身体や視覚のあり方などとの関係を考える。これを通じて、自らの時代における技術的環境や支配的な価値観、世界の見方を歴史的、相対的に思考する視座を獲得する。

The course will focus mainly on broad technologies since the modern era and consider the relationship between the technologies and human embodiment and the conditions of human vision. According to this examination, students will acquire historical and rel

授業の内容 / Course Contents

人と人が認識する世界の間は、様々な物や道具、技術によって媒介されており、これらによって個人の行動や認識は条件付けられてもいる。しかし、その媒介性は日常においてあまり意識されない。この授業では、主に近代以降の広義の技術を取り上げながら、①個人の身体や身振り、視覚などがいかに技術や技術的な環境、またそれらを含む社会的な編成によって条件付けられてきたか、②個人の身体が、いかに技術や技術的環境と関係しながら社会的な編成の中に配置されるか、③ある「メディウム」の様態が、いかに特定の条件下において成立するかを、「統治

We humans and the world we perceive are mediated by various objects, instruments, and technologies that also condition individual actions and perceptions. However, this mediation is often not recognized in everyday life. The course will focus on broad technologies since the modern era and will examine 1. how human embodiment, gestures, and sense of vision have been conditioned by the technologies, the technological environment, and the social formation that include them, 2. how human embodiment is related to the technologies and the environment that are assembled in the social formation, and 3. how a "medium" is formed under a particular technological, industrial, and political condition, touching on the concept of "governmentality" and "control". The film and animation content that are helpful to this investigation will also be presented.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：印刷技術と国民国家
- 3回：塔型のメディアと規律訓練
- 4回：鉄道とムーヴィング・パノラマ
- 5回：ステレオスコープと立体視
- 6回：映画と映画館
- 7回：音声メディア
- 8回：テレビジョン
- 9回：スクリーン・メディア
- 10回：ビデオと映像視聴のモード
- 11回：憑依「メディウム」とJホラー
- 12回：コンピュータとインターフェース
- 13回：インターネットとプラットフォーム資本主義
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容を復習する。各レポートのための調査、文献の講読、まとめ。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（各回の提出物など）：10% 小レポート①：25% 小レポート②：25%
最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介する。

その他 / Others

各回の内容には変更が生じる可能性がある。

初回授業において授業の運営方法や注意点について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。

映像身体学特講 2

Special Topics on Expression Studies 2

動きを記述する／記述された動きを再生する

神村 恵 (KAMIMURA MEGUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN502

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像によって動きを記録することが容易になった現在でも、言葉や図などでそれを記録しようとするのは、動きを見る視点を詳細にするために、なお有効な方法だと考えられます。

舞踊譜（ダンススコア）の過去の実例を知り、動きを記述することで、動きを自分の身体から引き離して見る視点を獲得します。また、自分で動きのスコアを作成し、読解・実演することで、記述から動きに変換する視点・方法を学びます。

Today any bodily movements are easily recorded by video devices. However the attempt to record them by words or figures can still be beneficial to attain alternative viewpoints and deeper understanding on bodily movements.

In this course, through the lect

授業の内容 / Course Contents

以下に大まかな授業計画を示すが、集まったメンバーに応じ授業内容や進め方は変更する可能性がある。

舞踊や人間の動きを記述するこれまでの試みや歴史を知る。

いくつかのダンススコアを読解し、実演する。

グループごとに動きをスコアとして記述し、交換する。

他グループの作成したスコアを読解し、実演する。

Below is a rough syllabus for this course, but there is a possibility that the contents and speed will be changed depending on participants.

- Learn the history of dance notation, and score.

- Read and perform some scores.

- Make own scores in groups.

- Read and perform another group's score.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

ノーテーションについての講義

バロックダンス舞踏譜、ラバノーテーションなど

2回：インストラクションについての講義

土方巽、ジョージ・ブレクト、アナ・ハルプリンなどのスコア

3回：舞踊譜の実演1

いくつかの舞踊譜を読解し、実演する

4回：舞踊譜の実演2

いくつかの舞踊譜を読解し、実演する

5回：記述と読解の実践

動きを自分なりの方法で記述する

他の人の記述を読解して動いてみる

6回：グループごとの実習

動き・振付を作りそれをスコアとして記述する

7回：グループごとの実習

動き・振付を作りそれをスコアとして記述する

8回：グループごとの実習

動き・振付を作りそれをスコアとして記述する

スコアを発表し、グループ間で交換する

9回：グループごとの実習

自分の担当するスコアを読解し、その実演の仕方を考える

10回：グループごとの実習

練習

11回：グループごとの実習

練習

12回：発表

前半のグループの発表

13回：発表

後半のグループの発表

14回：まとめ

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考映像の視聴

グループ発表のために必要な準備・練習

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:50% 課題への取組み:40% 振り返りレポート:10%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

授業内で必要に応じて指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

グループで協力して、スコア及び上演作品を制作し、発表すること。

映像身体学特講3

Special Topics on Expression Studies 3

中国伝統演劇「京劇」に触れる

石山 雄太 (ISHIYAMA YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中国伝統演劇「京劇」に触れ、異文化、伝統文化などについての理解を深める。

京劇の演技術の訓練を通じて、表現の域を広げ、他の芸術分野にも役立つ創造方法を模索する。

Examining traditional Chinese theater "Beijing opera" to deepen understanding of traditional Chinese culture and customs.

Through the training of Beijing opera, we will broaden our range of expression, while also seeking out creative methods in other field

授業の内容 / Course Contents

実技を伴う授業。

中国伝統演劇「京劇」の各要素について説明するほか、

京劇独自の演技術の基礎を実際に全身を動かして体感し、理解を深める。

持参：運動着、体育館用運動靴、タオル、棒

Practical classes.

In addition to explaining each element of "Beijing opera", traditional theater from China, we will deepen understanding, and awaken the whole body by actually experiencing performance art.

Bring exercise clothes, gym shoes, towels, and cudgel.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：映像鑑賞 中国伝統演劇の歴史、要素と特徴
 2回：映像鑑賞 中国伝統演劇の歴史、要素と特徴
 基本練習
 3回：基本練習
 4回：基本練習、演目紹介
 5回：基本練習、演技術
 6回：基本練習、演技術
 7回：基本練習、演技術
 8回：基本練習、演技術
 9回：基本練習、演技術
 10回：基本練習、演技術
 11回：基本練習、衣装・化粧紹介
 12回：基本練習、総合復習
 13回：総合復習、実技テスト
 14回：総合復習、実技テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

中国の歴史や伝統文化・芸術、また舞台芸術全般について広く関心を持つ。

中国語を学んでおくと役立つ。

実技については、講義内容を復習しながら柔軟性や足腰を鍛錬する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平時授業への取り組みおよび課題、リアクションペーパーの提出状況等:60%

最終レポート割合：20%最終テスト割合：20%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可

テキスト / Textbooks

プリント等必要時に配布

参考文献 / Readings

櫻井澄夫 人見豊 森田憲司 編著 北京を知るための52章 明石書店 2017 9784750346014

加藤徹 京劇「政治の国」の俳優群像 中央公論新社 2004 9784120032240

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

運動着、体育館用運動靴、タオル、棒（必要時に通知）

映像身体学特講4

Special Topics on Expression Studies 4

写真表現の研究と実践

小平 雅尋 (KODAIRA MASAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN504

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間の視覚とカメラ/写真の映像の差異を知る。

写真独自の表現世界を知る。

基本的な撮影技術を学んだ上で、既成の映像言語に囚われずに現実を観察することを学び独自の視点を写真作品として成立させる。

Understanding the disparity between human sight and camera / photographic images.

Understanding the unique photographic world of expression.

Having learned the basic photography techniques, students will learn how to observe reality without being trapped

授業の内容 / Course Contents

カメラ/写真の基本的な仕組みや撮影方法、映像の読み方を学びながら、技術的な課題から徐々に高度な表現課題へと移行してゆく。著名な写真作品を通して様々な写真表現を知る。

※受講条件：一眼レフ又はミラーレスなどレンズ交換ができるレベルのカメラを持っていること。コンパクト

カメラ不可。スマホカメラの使用禁止。

カメラの扱いは初心者でも構わないが撮影技術の指導が授業の主眼ではないので、取説を見ながらでも自身でカメラを操作する意欲があること。初回カメラチェックを行う。

※毎回必ず撮影課題を出し、翌週提出、講評というサイ

Gradually shifting from technical issues to advanced expressive tasks, while learning the basic mechanism of the camera and photography, as well as shooting methods, and ways of reading images. We will introduce various photographic expressions through famous works of photography.

* Course requirements: Student should have a camera capable of switching lenses, such as a SLR or mirrorless.

Compact cameras cannot be used. Use of smartphone cameras is strictly prohibited.

Students need not have experience handling cameras, and since the focus of the class is not photography techniques, a desire to operate the camera by yourself while observing instruction is sufficient. Performing initial camera check.

* Each time the format will repeat the cycle as follows: student shooting task, submission the following week, with comments. 12 tasks planned. Students will be required to use individual time for shooting tasks. They will be thinking continually for several months about photographic expression.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業内容説明 解説：カメラの仕組み

カメラチェック、カメラ相談

課題1 出題

2 回：解説：カメラの発明、黎明期の写真（予定）

写真家・写真集の紹介

課題2 出題

3 回：解説：写真表現の技術的要素（カメラ）

写真家・写真集の紹介

課題3 出題・講評

4 回：解説：写真表現の技術的要素（レンズ）

写真家・写真集の紹介

課題4 出題・講評

5 回：解説：写真表現の技術的要素（ライティング）

写真家・写真集の紹介

課題5 出題・講評

6 回：解説：視覚の特殊性（予定）

写真家・写真集の紹介

課題6 出題・講評

7 回：解説：主題と背景（予定）

写真家・写真集の紹介

課題7、8 出題・講評

8 回：解説：スナップショット、キャンデイド・フォト（予定）

本学図書館にある写真集の紹介

講評

9 回：解説：オブジェとシュルレアリスム（予定）

写真家・写真集の紹介

課題9 出題・講評

10回：解説：現代アートとしての写真（予定）

写真家・写真集の紹介

課題10 出題・講評

11回：解説：ファッションフォトの訴求（予定）

写真家・写真集の紹介

課題11 出題・講評

12回：解説：プライベート・フォト（予定）

写真家・写真集の紹介

課題12 出題・講評

13回：解説：セルフポートレート（予定）

写真家・写真集の紹介

講評

14回：解説：写真表現とは

写真家・写真集の紹介

総評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の課題の撮影をする時間が必要。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題提出:42% 課題評価付加点:18% 授業への取り組み:40%

2/3以上の出席がない場合は成績評価の対象としない。遅刻は減点とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

大辻清司 『大辻清司実験室』 東方出版/リブラ出版 2023 9784862494443

小平雅尋 『杉浦荘A号室』 アルファ企画 2023 9784910949260

日高優 『映像と文化 知覚の問いに向かって』 幻冬舎 2016 9784344953024

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

レポート課題はないが、撮影課題は毎回出るので撮影時間の確保が必要。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

一眼レフ又はミラーレスなどレンズ交換ができるレベルのカメラを各自が用意する。カメラのメーカーは問わない。レンズの種類は標準レンズや標準ズームなど持っているもので始めればよい。これから買う学生は単焦点の標準レンズが学びやすい（高価な標準レンズは重いので薦めない。）ボディとセットで販売している標準ズームでも構わない。コンパクトカメラは不可。スマホカメラ不可。

その他/ Others

小平雅尋 HP <https://www.kodairam.com/>

YouTube <https://www.youtube.com/channel/UCdveoZdJqYyWKiumXrRPxEg>

所属ギャラリーHP <https://www.takaishiigallery.com/jp/archives/14385/>

映像身体学特講 5

Special Topics on Expression Studies 5

映像・身体・運動をめぐる思考

平賀 裕貴 (HIRAGA HIROTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN505

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間の身体および身体による運動が、視覚芸術、写真、創成期の映画において、どのように写し／映し出され、どのように観られてきたのかを分析し、映像・身体・運動について論じるための思考を学ぶ。

The aim of this course is help students acquire the skills of discussing the images, bodies, and movements with analyzing how the human body and body movements were projected and viewed in visual arts, photography, and early films.

授業の内容 / Course Contents

映画を誕生させた諸々の技術は、人体の運動を記録するために作られたものが多かった。そうした背景を踏まえ、映画の揺籃期に、身体の運動を注視したいという欲望と人間の知覚はどのような関係をむすんでいたのかを、転換点となったそれぞれの人物の活動を通じて考える。その後、映画によって再構成される運動について批判した哲学者アンリ・ベルクソンの知覚理論を経由し、映像に映し出された身体について考えるための手段を学ぶ。

Many of the techniques that gave birth to the film were made to record the movements of the human body. Based

on this background, we will consider the relationship between the desire to witness physical movements and human perception in the early days of the movie's birth through the activities of each person who became a turning point. After that, through the perceptual theory of philosopher Henri Bergson who criticized the movement reconstructed by the movie, we learn to discuss the body projected in the image.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：視覚芸術小史
- 3回：病と身体：ジャン＝マルタン・シャルコー
- 4回：写された身体によるアトラス：アルベール・ロンド
- 5回：運動の連続としての写真：エティエンヌ＝ジュール・マレー、ジョルジュ・ドゥメニー
- 6回：映画をめぐる諸発明：ルイ・ル・プランク、トーマス・エジソン
- 7回：動く絵：エミール・レイノー
- 8回：「エチケット・ブルー」からシネマトグラフへ：リュミエール兄弟 (1)
- 9回：水をかけられた散水夫：リュミエール兄弟 (2)
- 10回：収縮する身体、膨張する頭部：ジョルジュ・メリエス
- 11回：女性監督とゴーモン社：アリス・ギィ
- 12回：思考の映画のメカニズム批判：アンリ・ベルクソン (1)
- 13回：知覚とイメージ：アンリ・ベルクソン (2)
- 14回：授業まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で言及された映像、映画、著作について調べ、可能なかぎり閲覧・鑑賞する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 最終レポートを含む各種提出物:40%

テキスト / Textbooks

教材は授業時に配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業時に随時提示する。

映像身体学特講 7

Special Topics on Expression Studies 7

近現代美術とは何か

中尾 拓哉 (NAKAO TAKUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN507

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の到達目標は、近現代美術の知識を獲得し、現代の表現について考えられるようになることである。

The aim of this course is to obtain the knowledge of modern art and to be able to understand contemporary expressions.

授業の内容 / Course Contents

近現代美術の作品を鑑賞しながら、概念や理論について講義をおこなう。

特に、芸術について語るための言葉をそれぞれが身につけ、現代の表現について自身の考えを深めていけるように、現代美術に多大な影響を与えたマルセル・デュシャンの制作を中心に取り上げる。

By appreciating major works of modern and contemporary art, the students will explore their concepts and theories through lectures. In particular, we will focus on the creative practice of Marcel Duchamp, who had an immense influence on contemporary art so that students can express their own sensory impressions in words and develop their understanding of expressions of the present day.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスー近現代美術とは何か
- 2 回：アヴァンギャルドと美術批評
- 3 回：印象主義とポスト印象主義
- 4 回：キュビズム
- 5 回：抽象画
- 6 回：マルセル・デュシャン (1) レディメイド
- 7 回：マルセル・デュシャン (2) 四次元
- 8 回：マルセル・デュシャン (3) 芸術とゲーム
- 9 回：ダダとシュルレアリスム
- 10 回：抽象表現主義
- 11 回：ミニマル・アート
- 12 回：ポップ・アート
- 13 回：コンセプチュアル・アート
- 14 回：現代の表現

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

20 世紀美術に関する入門書を読み、全体の流れを自分なりに把握しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

中尾拓哉 マルセル・デュシャンとチェス 平凡社 2017 9784582284485

映像身体学特講 1

Special Topics on Expression Studies 1

映画における空間設計と身体

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN513
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2320
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

映画における様々な表現技法、とりわけ空間や身体の表現について理解を深め、映画作品に対して分析的にアプローチするための知識やスキルの習得を目指す。

Students learn various means of expression in film, especially the representation of space and body. At the same time, students aim to acquire the knowledge and skills to approach films analytically.

授業の内容 / Course Contents

当たり前のことのように、ほとんどの物語映画は「人間の身体」を中心に構成されている。映画特有の空間とともに描かれる身体の在りようは、美学的・歴史的・技術的な観点からみて、実に多様である。この授業では、古今東西の映画作品の画面や音を分析し、映画特有の空間や身体を生み出す様々な表現技法、およびそれらを読み解くための方法を学ぶ。

Although it may seem obvious, most narrative films are composed mainly of "human bodies". The way bodies are represented along with spaces peculiar to film is quite various from aesthetic, historical, and technical viewpoints. In this class, we will analyze the images and sounds of films from all over the world, both ancient and modern, to

learn the various means of expression that create spaces and bodies peculiar to film, as well as methods for reading and understanding them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：視線とアクション①
- 3回：視線とアクション②
- 4回：距離と高低差①
- 5回：距離と高低差②
- 6回：連続性と断片化①
- 7回：連続性と断片化②
- 8回：動線①
- 9回：動線②
- 10回：主題論①
- 11回：主題論②
- 12回：顔、身ぶり①
- 13回：顔、身ぶり②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

特定の映画作品の観覧や、文献の熟読を課す場合がある。作品の観覧にあたっては、図書館やレンタルショップ、動画配信サイトなどを活用すること。それらの活用方法に関しては、授業内で詳しく説明する。なお、授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

- ・レポート試験の提出が単位修得の前提となる。
- ・単位修得のためには平常点とレポート試験の点数の合計が合格点を上回る必要がある(=レポート試験を提出しても、平常点との合計が合格点を上回っていない場合、単位を修得できない)。
- ・出席していれば自動的に平常点が加算されるわけではない(=出席自体は平常点とならない)。平常点はリアクションペーパーの内容に応じて、毎回0~5点で採点し加算していく。
- ・すなわち、一定の出席回数を満たしていれば単位が自ずと修得できるタイプの授業ではない。出席の回数よりもリアクションペーパー

テキスト/Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

その他/ Others

- レジュメまたは PowerPoint を用いた講義形式で、映像資料も適宜使用する。
- 上記「授業計画」はあくまで暫定的なものであり、受講者の意向や関心に応じて臨機応変に調整することがある。
- 《※注意》暴力的・性的にやや過激な描写を含む作品を取り扱う場合がある。そうした場合は上映前にアナウンスをする等、一定の配慮をするが、そのような描写が極端に苦手な方は受講の際に注意すること。
- 専門や学年を問わず、映画に関心を持つ者を歓迎する。ただし、「好き／嫌い」や「共感できる／できない」などといったアマチュア的

映像身体学特講 6

Special Topics on Expression Studies 6

能の身体／音・ことば／空間

森 瑞枝 (MORI MIZUE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN514

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

能を軸にして、日本における芸能の展開を踏まえながら、芸能的思考（自身の身体に基づく知的な探求）を身につける契機とする。

伝統芸能は長期にわたり、その芸能の来歴を時々の環境のもとで重層的、再帰的にとらえなおし、その集積体として今現在にある。能の「伝統／経験」は、身体表現、映像身体について考察・実践する上での様々なヒントをもたらすであろう。

Besides an overview of the development of the performing arts in Japan, this course focuses on Noh-Theater and offers opportunities to rethink our corporeal consciousness.

We will introduce the idea that words and body expressions are recaptured reflexive

授業の内容 / Course Contents

能が中世後半に、様々な既存の芸能（呪文、物語、文字、記号、音、声、歌、語り）を編集し、仮面を用いる演劇として展開した足跡を、作品に即して捉え返す。

伝承芸能（制度としての能）の蔵する、「芸能的思考／考える身体」への手がかりを探り出す。

Noh is located at the heart of the Japanese performing arts history and cultural history. Noh is a theater composed of various performing arts of the Middle Ages. The formation of Noh comes from the meeting of words with body expressions, where incantations, stories, characters, symbols, sounds, voices, songs, narrations, and dance intersect.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
「藝能的思考」について
- 2回：《翁》の詞章
- 3回：能による能の来歴（『風姿花伝』四「神儀日」）①
- 4回：能による能の来歴（『風姿花伝』四「神儀日」）②
- 5回：能による能の来歴（『風姿花伝』四「神儀日」）③
- 6回：能による能の来歴（『風姿花伝』四「神儀日」）④
- 7回：能面と身体
- 8回：ワークショップ
- 9回：能の「うたい」
- 10回：能の場（能舞台）
- 11回：スペキュラティブ 能 ①
- 12回：スペキュラティブ 能 ②
- 13回：スペキュラティブ 能 ③
- 14回：スペキュラティブ 能 ④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業でとりあげる／とりあげた演目や作品（能以外）、文献、事例をフォローする。

千駄ヶ谷の国立能楽堂の地下一階の資料室の書籍、雑誌、実演映像資料（国立能楽堂主催公演）は誰でも閲覧できる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加への積極的態・リアクションペーパー（複数回）：70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

世阿弥著、竹本幹夫訳 角川ソフィア文庫『風姿花伝・三道』 角川書店 2009 4044055017 ○

伊藤正義校注 新潮日本古典集成『謡曲集』上・中・下 新潮社 1986 41062037310392 ○

佐藤喜久雄・佐藤健一郎訳 新編日本古典文学全集『謡曲集』1・2 小学館 1997 4096580589 -

『風姿花伝』は入手しやすい代表的なものを例示したが、他の文庫や文学全集収録のテキストでもかまわない。授業で取り上げた能の演目を詳しく知るには、2、3とも詞章の他に役者の動きを注記してあり、映像や実演の視聴にも便利。

The 能ドットコム

<https://www.the-noh.com/jp/>

参考文献 / Readings

石井公成 『〈ものまね〉の歴史 仏教・笑・芸能』 歴史文化ライブラリー 吉川弘文館 2017

沖本幸子 『乱舞の中世 白拍子・乱拍子・猿楽』 歴史文化ライブラリー 吉川弘文館 2016

9784642058209

植木朝子 『梁塵秘抄の世界 中世を映す歌謡』 角川書店 2009 9784047034594

フリードリヒ・ペルツィンスキー 『日本の仮面 能と狂言』 法政大学出版局 2007 9784588420092

野上豊一郎 岩波文庫『謡曲選集 一読む能の本』 岩波書店

毛利三彌・天野文雄 アジア遊学『東アジア古典演劇の伝統と近代』 勉誠出版 2019 9784585226978

押井守・最上和子 身体のリアル KADOKAWA 2017

その他、随時紹介する

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義様式で、映像資料なども適宜活用する。

必要に応じて、実際に動き声を発して、能の所作や謡を実習する。

映像身体学特講 8

Special Topics on Expression Studies 8

映像と音による一般メディア研究とその批判

赤坂 太輔 (AKASAKA DAISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN515

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2320

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちが日常的に影響されている映像メディアとはどのようなものか？どのように作用するのか？を学習すること、またそれらを批判する現代映画の新しい試みを紹介し、イメージを解体したり分析する視線を習得する。

What kind of visual media are we influenced by on a daily basis? In what ways does it work? From this study, and introducing new attempts to critique modern cinema, students will acquire an analytical eye, to deconstruct images.

授業の内容 / Course Contents

一般的なメディア映像の断片を取り上げて情報や非情報について分析し、聴講者とともにその特質や視聴者への影響について考える。また、現代の世界で制作されているさまざまな映像作品を見ることを通じて、映像の諸要素や機能を疑い批判する思考について学ぶ。

Taking general media video fragments, we will analyze information and non-information, while considering the influence of those characteristics on the audience. Also, by watching various film works produced in the modern

world, we will examine critical thinking on various elements and functions of film.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：現代映画と古典映画、テレビCM、ドラマ、バラエティー等の映像の成り立ちの比較分析(1)
- 3回：現代映画と古典映画、テレビCM、ドラマ、バラエティー等の映像の成り立ちの比較分析(2)
- 4回：現代映画と古典映画、テレビCM、ドラマ、バラエティー等の映像の成り立ちの比較分析(3)
- 5回：主に非欧米映画圏(日本、旧ソ連、ラテンアメリカ、アジア等)の現代映画の映像によるメディア批判(1)
- 6回：主に非欧米映画圏(日本、旧ソ連、ラテンアメリカ、アジア等)の現代映画の映像によるメディア批判(2)
- 7回：主に非欧米映画圏(日本、旧ソ連、ラテンアメリカ、アジア等)の現代映画の映像によるメディア批判(3)
- 8回：主に非欧米映画圏(日本、旧ソ連、ラテンアメリカ、アジア等)の現代映画の映像によるメディア批判(4)
- 9回：自然さとは何かードキュメンタリーとフィクション、映像の多様性(1)
- 10回：自然さとは何かードキュメンタリーとフィクション、映像の多様性(2)
- 11回：自然さとは何かードキュメンタリーとフィクション、映像の多様性(3)
- 12回：映像と社会(1) イメージ操作と批判の歴史
- 13回：映像と社会(2) イメージ操作と批判の現在
- 14回：総論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本年度は見せる作品をできるだけ選択して、場合によっては全編映写する予定ですので、出席鑑賞できない学生は学習が難しい授業になることを承知して履修選択してください。原則、本学図書館にある作品を使う予定です。時間や権利等の理由で作品映像を援用システムに添付することはありません。期末レポートでも授業の流れを把握しているかどうかが大事なポイントになりますので、講義のノートをとって復習して下さい。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

授業中に小テストを行う回があります。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

赤坂太輔 フレームの外へ——現代映画のメディア批判 森話社 2019 9784864051439

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

映写する映像を集中して見聞きする能力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

映像のタイトルや作者名などをチェックするための機器

その他/ Others

new century new cinema

<http://www.ncncine.com/>

生命システム論

Living=System

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

広義の生命論や生命現象の研究を傍観し、システム論的な視点を身につける。

Observing the study of life theory and life phenomena in a broad sense, students will acquire a systems theory perspective.

授業の内容 / Course Contents

システム論は様々な科学領域で見られる理論的観点で、生命をどう捉えるか、という問題と密接に関わりながら 20 世紀に発展してきました。ただ、生命に関する問いは古くからあり、そこにもシステム論的な観点を見出すことが出来ます。この授業は、システム論とは反対に位置する機械論、要素還元主義と対比をしながら古くからあるシステム論的な視点や生命現象に関する知見を概説していきます。

Systems theory is a theoretical point of view seen in various scientific fields and was developed in the 20th century, concerned with the issue of how to capture life. However, the question of life has long been examined from a system theory point of view. This lecture outlines an old system theory perspective, along with findings on life phenomena, contrasting with the theory of mechanics and elements of reductionism, which oppose systems theory.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：20世紀システム論についての概説
- 2回：古代ギリシャの生命論1
- 3回：古代ギリシャの生命論2
- 4回：宇宙の図像：全体性と同型性
- 5回：身体観の移り変わり：全体性から要素への分解へ
- 6回：機械論的世界像と生命論的世界像の対立1
- 7回：機械論的世界像と生命論的世界像の対立2
- 8回：複雑系と自己組織化1
- 9回：複雑系と自己組織化2
- 10回：自ら動くものの研究1
- 11回：自ら動くものの研究2
- 12回：メタモルフォーゼと進化1
- 13回：メタモルフォーゼと進化2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習は特に必要としないが、講義内容をしっかりとノートに取り、復習すること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席及び授業への取り組み:30%

テキスト/ Textbooks

必要であればプリントを配布する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他/ Others

授業の進行順序は若干変更する可能性がある。

現代思想概説

Introduction to the Contemporary Thought

イメージ論

江澤 健一郎 (EZAWA KENICHIROU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN704
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC2320
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

イメージ論について学び、自分自身でイメージについて考える力を形成する。

Learn about image theory and form the power to think about images for yourself.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀のイメージ論を取り上げて、写真という複製技術以後の芸術と芸術論について考察する。おもに写真論を取り上げるが、映画論も取り上げる。複製技術以後の芸術の変化について論じたヴァルター・ベンヤミン、写真の記号性や時間性について論じたロラン・バルト、写真の極限へ向かいながら独自の映像論を構築した中平卓馬、表象不可能性という難問を乗り越えようとしたディディ＝ユベルマンを取り上げる。

Taking up the image theory of the 20th century, we will consider the art and art theory after the reproduction technology of photography. I mainly focus on photography, but I also focus on film theory. Walter Benjamin discusses the changes in art after reproduction technology, Rolan Barthes discusses the symbolism and temporality of photography, Takuma Nakahira who built his own image theory while moving to the limit of photography. Didi-Huberman tried to overcome the difficult problem of unrepresentability.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概要説明
- 2回：ベンヤミンの「写真小史」
- 3回：ベンヤミンの創造的写真と構成的写真について
- 4回：ロラン・バルトの「写真のメッセージ」
- 5回：ロラン・バルトの「イメージの修辞学」
- 6回：ロラン・バルトの『明るい部屋』
- 7回：写真の時間について
- 8回：『プロヴォーク』という事件
- 9回：中平卓馬の記録論
- 10回：中平卓馬の「植物図鑑」
- 11回：その後の中平卓馬
- 12回：『ショア』と表象不可能性という問題
- 13回：ディディ＝ユベルマンの『イメージ、それでもなお』
- 14回：ディディ＝ユベルマンの『イメージ、それでもなお』以後の思考

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する文献を読んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

ヴァルター・ベンヤミン ベンヤミン・コレクション1——近代の意味 ちくま学芸文庫 1995

ロラン・バルト 第三の意味 みすず書房 1984

ロラン・バルト 明るい部屋——写真についての覚書 みすず書房 1997

中平卓馬 なぜ、植物図鑑か——中平卓馬映像論集 ちくま学芸文庫 2007

江澤健一郎 中平卓馬論——来たるべき写真の極限を求めて 水声社 2021

ディディ＝ユベルマン イメージ、それでもなお 平凡社 2006 4582702627

ディディ＝ユベルマン 場所、それでもなお 月曜社 2023 9784865031591

他者の現象学

Phenomenology of Otherness

黒木 秀房 (KUROKI HIDEFUSA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN705
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現象学の概念を習得しながら、「他者」の問題の広さと深さを理解し、議論を組み立てる力をつけることを目的とする。

By acquiring the basic concept of phenomenology, students will understand the breadth and depth of the question of the "Other", and develop the ability to construct an argument.

授業の内容 / Course Contents

「他者」は、現代哲学の最も重要な問題のひとつであるだけでなく、「映像」や「身体」にも密接に関わっている。しかし、その「他者」とはいったい何か。20 世紀後半フランスの哲学者ジャン＝ポール・サルトル、モーリス・メルロ＝ポンティ、エマニュエル・レヴィナスを中心に取り上げ、彼らの代表的な概念を学びながら、現象学的手法を用いて具体的経験についても検証することで、「他者」の問題を多角的に考える。

The "other" is not only one of the most important issues in contemporary philosophy, but is also closely related to the "image" and the "body". In this course, we will focus on the French philosophers of the second half of the 20th century, Jean-Paul Sartre, Maurice Merleau-Ponty and Emmanuel Lévinas, and while studying their representative concepts, we will consider the problem of "the other" from various perspectives by examining our

concrete experiences using phenomenological methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 「他者」というトポス
- 2回：サルトル1 現象学
- 3回：サルトル2 対他存在
- 4回：サルトル3 アンガジュマン
- 5回：サルトル4 植民地の問題
- 6回：メルロ＝ポンティ1 ゲシュタルト
- 7回：メルロ＝ポンティ2 子ども
- 8回：メルロ＝ポンティ3 間身体性
- 9回：メルロ＝ポンティ4 肉
- 10回：レヴィナス1 ショアの経験
- 11回：レヴィナス2 イリヤ
- 12回：レヴィナス3 顔
- 13回：レヴィナス4 可傷性
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた作品を中心にできるだけ多く触れること。予習・復習ができているかどうか、毎回書いてもらう予定のリアクション・ペーパーで確認する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度、毎回のリアクション・ペーパー:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

スライドを使用する。

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

アフォーダンス

Theory of Affordance

山本 尚樹 (YAMAMOTO NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN706
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人を含む生き物の振る舞いと知覚、環境の複雑な関係について理解する。

Understanding the complex relationships between the behavior and perception of living things, including humans, and the environment.

授業の内容 / Course Contents

アメリカの知覚心理学者、J.J. ギブソンは、生態心理学という独自の心理学を提唱しましたが、その際に「アフォーダンス」という概念もつくり出しました。このアフォーダンス概念は、デザインやアート、リハビリテーションなど様々な領域で取り上げられ、今では基本的用語の一つとして定着していますが、時として非常に単純化されて理解されることもあります。しかし、実際にはこの概念は人を含む生き物の振る舞いと知覚、環境の非常に複雑な関係に踏み込むものです。この授業ではアフォーダンスを軸に、生き物の振る舞いと知覚、環境の非常に

American perceptual psychologist, J.J. Gibson advocated a unique psychology called Ecological Psychology, and created a concept called the “Theory of Affordance”. This Theory of Affordance has been promulgated in various fields such as design, art and rehabilitation, and has now become established as one of the fundamental terms,

albeit sometimes understood in a radically simplified manner. However, the concept does in fact explore extremely complex relationships between the behavior, perceptions and environment of living things, including humans. This class focuses on the Theory of Affordance, examining the extremely complex relationships between the behavior, perception and environment of living things.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：アフォーダンス前史
- 3回：アフォーダンスの基礎 1
- 4回：アフォーダンスの基礎 2
- 5回：アフォーダンスの基礎 3
- 6回：生き物を取り囲む環境 1
- 7回：生き物を取り囲む環境 2
- 8回：アフォーダンスと発達 1
- 9回：アフォーダンスと発達 2
- 10回：アフォーダンスと発達 3
- 11回：アフォーダンスとデザイン・アート 1
- 12回：アフォーダンスとデザイン・アート 2
- 13回：アフォーダンスとデザイン・アート 3
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習は必要ないが、毎回復習すること。また授業の進行や理解度に応じて小課題を課すことがある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席及び授業への取り組み:30%

テキスト / Textbooks

適宜配布する。

参考文献 / Readings

佐々木正人 アフォーダンス入門——知性はどこに生まれるか 講談社 2008

山本尚樹 個のダイナミクス 金子書房 2016

その他 / Others

授業内容は進行や受講者の関心に応じて多少変更する可能性がある。

養生論の思想

Asian Discourse on the Care of Self

古代中国の不老長生思想

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN707

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中国に脈脈と受け継がれてきた「知」がいったいどのようなものであるのかを、長生思想という観点から考察し、その根底にある生命観や身体観について理解を深めることを目標とする。不死願望というと荒唐無稽に聞こえるかもしれないが、それを目指した人々の身体観は、古代の医療や健康法などと共通の基盤をもち、理想とする不死の身体は、驚くほど自然をよく観察し把握したうえで考え出されたものである。意識の持ちようによっては、生と死、食と性の意味を深く考え直し、ひいては老いや健康志向などの現代的テーマについて自分なりの考えを確立する

This course considers ancient Chinese knowledge on long life and students understand that view of life and of the body, related to ancient medical care and methods of promoting health. The ancient Chinese thought out the ideal body by observing and unders

授業の内容 / Course Contents

紀元前から現代に至るまでの、不老長生術に関する文献や図像を読み解くことを通して、中国人の生命観・身体観・宇宙観について考える。神仙への憧れ、「壺中天」の概念、修行者の食・性・呼吸、宗教と科学の関

係、薬に対する観念、体内における煉丹術等の小テーマに分けて述べた後、それらがどのように総合されて、不老不死の思想が形成されているのかを考察する。

Students read Chinese literature on the art of living long, learn Chinese views of life and death, body, and the universe. First, students study some parts of Chinese ancient knowledge, such as longing for Immortals, the idea of another universe in gourds (壺中天), food, sex, and breath in the novitiate, the relationship between religion and science, views of medicine, and inner alchemy. Next, students examine how these views construct the idea of eternal youth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：神仙への憧れ1—二千年前のタイムカプセル
- 2回：神仙への憧れ2—始皇帝の墓と神仙幻想
- 3回：神仙への憧れ3—仙人とは
- 4回：仙人のいる場所1—山と天
- 5回：仙人のいる場所2—棺に穿たれた異界への入口
- 6回：仙人のいる場所3—ひょうたん型の宇宙
- 7回：仙人のいる場所4—人体小宇宙
- 8回：仙人になる方法1—『抱朴子』の仙道
- 9回：仙人になる方法2—煉丹術と薬害と火薬の発明
- 10回：仙人になる方法3—煉丹術の原理
- 11回：仙人になる方法4—天地を盗む
- 12回：仙人になる方法5—陰陽の交合
- 13回：仙人になる方法6—不死の自己を養う
- 14回：まとめ—不老不死をめぐる

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを最後まで読んでおくのが望ましい。少なくとも前の時間に指定した箇所は必ず予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

秋岡英行, 垣内智之, 加藤千恵 煉丹術の世界—不老不死への道 大修館書店 2018年 9784469233209 ○

参考文献 / Readings

加藤千恵 不老不死の身体—道教と「胎」の思想 大修館書店 2002

大形徹 不老不死—仙人の誕生と神仙術 講談社 1992

石田秀実 気のコスモロジー—内部観測する身体 岩波書店 2004

三浦國雄 不老不死という欲望—中国人の夢と実践 人文書院 2000

吉川忠夫 古代中国人の夢と死 平凡社 1985

武田雅哉 桃源郷の機械学 作品社 1995

山田慶児 本草と夢と錬金術と一物質的想像力の現象学 朝日新聞社 1997

石田秀実『死のレッスン』、同『からだのなかのタオ』、三浦國雄『中国人のトポス』、曾布川寛『崑崙山への昇仙』、武田雅哉『星への筏』、大室幹雄『困碁の民話学』、三木成夫『胎児の世界』、杉浦康平『宇宙を呑む』、神塚淑子『道教思想 10 講』

オートポイエーシス

Autopoiesis

システム論的な生命の理解

(Living Systems Theory)

原島 大輔 (HARASHIMA DAISUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN708

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2220

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

システム論的な生命論としてのオートポイエーシスの観点から、生命とは何かという問いの理解、そして生物と機械の関係についての理解を深める。

This course introduces autopoiesis, a systems theory for understanding life and the relationship between living systems and mechanical systems.

授業の内容 / Course Contents

今日、科学技術の発展や生態系の破壊など、さまざまな方向から生命観が問い直されている。この授業は、こうした背景を説明しながら、システム論的な生命論としてのオートポイエーシスの考え方について解説する。

What is life? Our understanding of life is being differently questioned today especially by technology and ecology. Explaining these problematics, this course develops the notion of autopoiesis as a perspective from within the living system.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：生命とは何か？
- 2回：生物と機械
- 3回：有機構成
- 4回：第一世代システム（ホメオスタシス）
- 5回：第二世代システム（自己組織化）
- 6回：第三世代システム（オートポイエーシス）
- 7回：自律系と他律系
- 8回：プロセスとしての知識と行為（身体化とエナクション）
- 9回：心的システム
- 10回：社会システム
- 11回：階層的自律コミュニケーション・システム
- 12回：技術システム
- 13回：機械論的世界観と生命論的世界観
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で予習・復習のための文献を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

河本英夫 オートポイエーシス 青土社 1995

西垣通 生命と機械をつなぐ知：基礎情報学入門 京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎 2022

フィルム・スタディーズの基礎

Introduction to Film Studies

映画の黄金期

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN709

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀前半という黄金期において映画が果たした美学的達成と社会的役割を検証することで、フィルム・スタディーズの基礎を習得する。こうした歴史的検証を通じて、理論的で分析的な手法も学ぶ。

The course examines the aesthetic accomplishments and social functions of cinema in its Golden Age in the first half of the 20th century to enable acquisition of a foundation in film studies. Students will learn theoretical and analytical methods from thi

授業の内容 / Course Contents

黄金期における映画を歴史的に考察するために、サイレント映画を中心に、アメリカ、ヨーロッパ、日本の文脈で映画が持っていた意味を考える。その後、トーキー時代に関して、ハリウッド映画を中心に検証する。さらに 1960 年代のニューウェイブに至るまでの映画を検証する。

In the context of historical examination of cinema in its Golden Age, the course will consider the meanings that silent cinema had in the U.S., European and Japanese contexts. The course will then examine the cinema after talkies, particularly focusing on Hollywood cinema. The course will also trace the history of cinema to the new

wave in the 1960s.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1 (20世紀と映画史)
- 2回：初期映画
- 3回：アメリカのサイレント映画1 (物語映画へ1)
- 4回：アメリカのサイレント映画2 (物語映画へ2)
- 5回：ヨーロッパのサイレント映画1 (前衛映画1)
- 6回：ヨーロッパのサイレント映画2 (前衛映画2)
- 7回：アメリカのサイレント映画3 (コメディ)
- 8回：日本のサイレント映画
- 9回：初期トーキー映画1
- 10回：初期トーキー映画2
- 11回：1940年代のハリウッド映画1
- 12回：1940年代のハリウッド映画2
- 13回：ニューウェイヴへ
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示された作品について視聴し、テキストなどを参考にしながら、それぞれの考察をおこなう。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% 授業への取り組み:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

映像技術入門(A)

Fundamentals of Video Technique

「映像作品を作ってみる」入門編

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN755

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC1120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 授業は班ごとに以下の日程で行う（①・・・第1班、②・・・第2班）。

第1回：①4/13、②6/1（3・4時限）

第2回：①4/20、②6/8（3～5時限）

第3回：①4/27、②6/15（3～5時限）

第4回：①5/11、②6/22（3～5時限）

第5回：①5/18、②6/29（3～5時限）

履修許可者確定後、履修者を2班に分ける。

班編成は初回授業前までに現代心理学部 Web 掲示板で発表する。

授業の目標 / Course Objectives

映像制作のための撮影技術入門講座。

撮影機材の基本的な取扱い方を習得し個人及びグループで課題作品を制作する事で映像表現の基礎を身につける。

An introductory course on photography techniques for video production.

Students will acquire the basics of visual expression by learning the basic handling of photographic equipment and creating assigned works individually and in groups.

授業の内容 / Course Contents

学科保有の機材を用い2コマまたは3コマ連続して行う5回の集中授業とする。

実際に機材を用いて取扱いを指導し、2回の課題撮影により実践する。

これまでに本格的な撮影機材を取り扱ったことがなくても（初心者でも）問題ない。

The course will consist of five intensive classes held in two or three consecutive periods using equipment owned by the department.

We will teach you how to use the equipment and put it into practice by taking photos twice.

There is no problem even if you have never used full-scale photographic equipment (even if you are a beginner).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス／撮影課題①提示

2回：撮影機材取り扱い指導

3回：課題撮影

4回：課題撮影

5回：課題撮影

6回：撮影課題①上映講評

7回：撮影課題②提示

8回：撮影機材取り扱い指導

9回：課題撮影

10回：課題撮影

11回：課題撮影

12回：編集

13回：編集

14回：撮影課題②上映講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題撮影と提出:70% 授業への取り組み:30%

出席を重視し課題提出は必須です。

テキスト / Textbooks

必要に応じてテキストと参考資料を配布します。

参考文献 / Readings

デニス・シェファー＋ラリー・サルヴァート マスターズオブライト フィルムアート社 1988年初版
必要に応じて授業時に指示します。

映像技術入門(B)

Fundamentals of Video Technique

「映像作品を作ってみる」入門編

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN756

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC1120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 授業は班ごとに以下の日程で行う（①・・・第1班、②・・・第2班）。

第1回：①9/21、②11/9（3・4時限）

第2回：①9/28、②11/16（3～5時限）

第3回：①10/5、②11/23（3～5時限）

第4回：①10/12、②12/7（3～5時限）

第5回：①10/19、②12/14（3～5時限）

履修許可者確定後、履修者を2班に分ける。

班編成は初回授業前までに現代心理学部 Web 掲示板で発表する。

授業の目標 / Course Objectives

映像制作のための撮影技術入門講座。

撮影機材の基本的な取扱い方を習得し個人及びグループで課題作品を制作する事で映像表現の基礎を身につける。

An introductory course on photography techniques for video production.

Students will acquire the basics of visual expression by learning the basic handling of photographic equipment

and creating assigned works individually and in groups.

授業の内容 / Course Contents

学科保有の機材を用い2コマまたは3コマ連続して行う5回の集中授業とする。

実際に機材を用いて取扱いを指導し、2回の課題撮影により実践する。

これまでに本格的な撮影機材を取り扱ったことがなくても（初心者でも）問題ない。

The course will consist of five intensive classes held in two or three consecutive periods using equipment owned by the department.

We will teach you how to use the equipment and put it into practice by taking photos twice.

There is no problem even if you have never used full-scale photographic equipment (even if you are a beginner).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス／撮影課題①提示

2回：撮影機材取り扱い指導

3回：課題撮影

4回：課題撮影

5回：課題撮影

6回：撮影課題①上映講評

7回：撮影課題②提示

8回：撮影機材取り扱い指導

9回：課題撮影

10回：課題撮影

11回：課題撮影

12回：編集

13回：編集

14回：撮影課題②上映講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題撮影と提出:70% 授業への取り組み:30%

出席を重視し課題提出は必須です。

テキスト / Textbooks

必要に応じてテキストと参考資料を配布します。

参考文献 / Readings

デニス・シェファー＋ラリー・サルヴァート マスターズオブライト フィルムアート社 1988年初版

必要に応じて授業時に指示します。

映像技術中級 1

Intermediate Video Technique 1

映像撮影の技法 ①「光と陰翳」

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN757

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

より豊かな映像表現のための撮影照明技術を作品制作を通し身につける。

特に被写体や空間を平面であるスクリーンで、いかにして立体としてまた奥行をもって表現していけるのかを「光と陰翳」をテーマに実践しながら習得する。

Learn photography and lighting techniques for richer visual expression.

In particular, students will learn how to express subjects and spaces as three-dimensional objects and with depth on a flat screen while practicing the theme of "light and shadow."

授業の内容 / Course Contents

2 コマ連続授業。

学科保有の撮影照明機材を用いてスタジオ棟などを使用し撮影技術と照明技術のさらなる習得。

グループでの課題制作。適宜参考試写あり。

授業内容は受講学生の技術習得に応じて下記の計画から変更する可能性がある。

Two consecutive classes.

Students will further acquire photography and lighting techniques by using the department's own photography and lighting equipment in the studio building.

Creating assignments in groups. There are reference previews as appropriate.

The content of the lessons may change from the plan below depending on the skill acquisition of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス／課題提示
- 2 回：撮影技術
- 3 回：照明技術／参考試写
- 4 回：照明技術／参考試写
- 5 回：照明技術／参考試写
- 6 回：照明技術／参考試写
- 7 回：撮影技術
- 8 回：企画
- 9 回：課題制作
- 10 回：課題制作
- 11 回：課題制作
- 12 回：課題制作／編集
- 13 回：編集／上映講評
- 14 回：上映講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題撮影と提出:70% 授業への取り組み:30%

出席を重視し課題提出は必須です。

テキスト / Textbooks

必要に応じてテキストと参考資料を配布します。

参考文献 / Readings

谷崎潤一郎 陰翳礼讃 中公文庫/角川文庫

千足伸行（監修） フェルメール原寸美術館 100% VERMEER! 小学館

クリストファー・ケンワージー（著）吉田俊太郎（翻訳） マスターショット 100,2,3 フィルムアート社

グスタボ・メルカード（著）平谷早苗（編集） Filmmaker's Eye ボーンデジタル

その他必要に応じて指示します。

映像技術中級 2

Intermediate Video Technique 2

映像撮影の技法②「光の色」

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN758

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： BEC2120

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「映像技術中級 1」から発展して更に豊かな映像表現のための撮影照明技術を作品制作を通し身につける。特に同じ被写体や空間であっても「光の色」をテーマにどのように印象や表現が変わるのか実践しながら習得する。

Developing from "Video Technology Intermediate 1", students will acquire photography and lighting techniques for richer video expression through production.

In particular, students will practice and learn how the impression and expression of the same subj

授業の内容 / Course Contents

2 コマ連続授業。

学科保有の撮影照明機材を用いてスタジオ棟などを使用し撮影技術と照明技術のさらなる習得。

グループでの課題制作。適宜参考試写あり。

授業内容は受講学生の技術習得に応じて下記の計画から変更する可能性がある。

Two consecutive classes.

Students will further acquire photography and lighting techniques by using the department's own photography and lighting equipment in the studio building.

Creating assignments in groups. There are reference previews as appropriate.

The content of the lessons may change from the plan below depending on the skill acquisition of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／課題提示
- 2回：撮影技術
- 3回：照明技術／参考試写
- 4回：照明技術／参考試写
- 5回：照明技術／参考試写
- 6回：照明技術／参考試写
- 7回：撮影技術
- 8回：企画
- 9回：課題制作
- 10回：課題制作
- 11回：課題制作
- 12回：課題制作／編集
- 13回：編集／上映講評
- 14回：上映講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題撮影と提出:70% 授業への取り組み:30%

出席を重視し課題提出は必須です。

テキスト / Textbooks

必要に応じてテキストと参考資料を配布します。

参考文献 / Readings

谷崎潤一郎 陰翳礼讃 中公文庫/角川文庫

千足伸行（監修） フェルメール原寸美術館 100% VERMEER! 小学館

クリストファー・ケンワージー（著）吉田俊太郎（翻訳） マスターショット 100,2,3 フィルムアート社

グスタボ・メルカード（著）平谷早苗（編集） Filmmaker's Eye ボーンデジタル

その他必要に応じて指示します。

舞台技術演習

Senography Seminar

牛川 紀政/杉山 至/木藤 歩 (USHIKAWA NORIMASA/ SUGIYAMA ITARU/ KITO AYUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN761
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： BEC2220
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 集中講義 授業実施日は以下の通り
8月5日(月)2-5限、6日(火)3-5限、7日(水)2-5限、8日(木)3-5限

授業の目標 / Course Objectives

映像身体学科の実習・試演会で使用されるロフトの空間を生かし、舞台芸術の基礎的な技術知識にいたる前の多角的な視点/イメージを養い、各々のセクションで空間と関わりながらその技術の方法を思考する。

Using the loft space used in practical training and demonstrations by the Department of Body Expression and Cinematic Arts, students will cultivate multi-faceted viewpoints and images, before reaching basic technical knowledge of the performing arts, while

授業の内容 / Course Contents

実際にロフトの空間や機材を使用し、ロフト空間にアプローチする各講師のワークショップ形式。舞台芸術における「空間」「光」「音」「衣装」が演者と共にあるだけでなく、演者も含め最終的には「観客と共にある」状態を、各講師においてグループワークで思考/試行する。また舞台上演におけるスタッフワークや本番までの進行、安全面の説明など、舞台監督の具体的な動きについてのレクチャーも行なう。

Workshops will use loft space and equipment, following the format of each instructor's approach to the space. That the elements of "space", "light", "sound", and "costume" in the performing arts concern not only

performers, but are ultimately states of “sharing with the audience”, will be considered and applied in group work with each instructor. In addition, lectures will be given on the specific movements of the stage director, such as staff work in the stage performances, progress up to production, and explanation of safety aspects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：舞台監督レクチャー
- 2回：舞台監督ワークショップ
- 3回：照明ワークショップ①
- 4回：照明ワークショップ②
- 5回：照明ワークショップ③
- 6回：音響ワークショップ①
- 7回：音響ワークショップ②
- 8回：音響ワークショップ③
- 9回：音響ワークショップ④
- 10回：衣装ワークショップ①
- 11回：衣装ワークショップ②
- 12回：空間ワークショップ①
- 13回：空間ワークショップ②
- 14回：空間ワークショップ③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

高所作業、照明、音響機器等の取り扱いをする場合があるので、動きやすい服装を用意し体調を整えて出席のこと。ワークショップによっては、サンダル、ヒール、スカートやショートパンツでは参加できない場合があるので、事前の連絡等を確認のこと。資料収集等、他準備する必要がある場合は履修者に対して指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業参加度：100%

著しい遅刻は欠席とみなし、2/3以上の出席をしていない場合は単位修得不可となります。

テキスト / Textbooks

必要な資料がある場合はプリントなどで配布します。

参考文献 / Readings

講義の中で各講師から紹介があります。

その他 / Others

ワークショップの順序は全体の進め方や内容により変更あり。講義初日に予定をお知らせします。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN811
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が自身のテーマのもとに、独自の卒業論文あるいは卒業制作を完成させる。

In this course, all students will complete senior projects based on their own themes.

授業の内容 / Course Contents

各自がテーマと問いを立て、卒業論文・卒業制作に取り組む。学生は定期的に発表や進捗の報告を行う。グループ・ディスカッションと教員の個別の指導により、論文・制作に対して適宜フィードバックを行う。

Each student is required to develop theme and question for senior project. Students will regularly present their work and submit progress reports. Appropriate feedback on each student's thesis and work will be provided through group discussions and under the guidance of the lecturer.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：卒業論文・制作の指導
- 3 回：卒業論文・制作の指導
- 4 回：卒業論文・制作の指導

- 5回：卒業論文・制作の指導
 6回：卒業論文・制作の指導
 7回：卒業論文・制作の指導
 8回：卒業論文・制作の指導
 9回：卒業論文・制作の指導
 10回：卒業論文・制作の指導
 11回：卒業論文・制作の指導
 12回：卒業論文・制作の指導
 13回：卒業論文・制作の指導
 14回：卒業論文・制作の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN812

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質の高い卒業論文ないし卒業制作を完成させることを目標とする。

The goal of this course is to complete a good paper or production.

授業の内容 / Course Contents

各自の論文・制作テーマにそって、演習形式および個別による卒業論文や卒業制作にかかわる指導をおこなう。

The course will provide advices for papers and productions through the seminar and comments according to the interests of each projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：卒業論文・卒業制作の指導

3 回：卒業論文・卒業制作の指導

4 回：卒業論文・卒業制作の指導

5 回：卒業論文・卒業制作の指導

- 6回：卒業論文・卒業制作の指導
 7回：卒業論文・卒業制作の指導
 8回：卒業論文・卒業制作の指導
 9回：卒業論文・卒業制作の指導
 10回：卒業論文・卒業制作の指導
 11回：卒業論文・卒業制作の指導
 12回：卒業論文・卒業制作の指導
 13回：卒業論文・卒業制作の指導
 14回：卒業論文・卒業制作の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN813
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC4320
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文作成に向けて各人の問題関心・主題・方法等の理解を深め、論文としての完成度を高める。

Looking towards their graduation thesis, students will deepen understanding of their issues of interest, themes and methods, advancing toward completion.

授業の内容 / Course Contents

個別指導や演習形式の指導等を通じて各人の問題関心を深め、研究方法への自覚を高めて、卒業論文の完成を目指す。

Through individual instruction and seminar, we aim to deepen each student's interest in their topics and improve awareness of research methods for completion of the graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：学生の報告と指導
- 2 回：学生の報告と指導
- 3 回：学生の報告と指導
- 4 回：学生の報告と指導

- 5回：学生の報告と指導
- 6回：学生の報告と指導
- 7回：学生の報告と指導
- 8回：学生の報告と指導
- 9回：学生の報告と指導
- 10回：学生の報告と指導
- 11回：学生の報告と指導
- 12回：学生の報告と指導
- 13回：学生の報告と指導
- 14回：学生の報告と指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

各人の卒業論文テーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HN814
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	BEC4320
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文作成に向けて各人の問題関心・主題・方法等の理解を深め、論文としての完成度を高める。

Looking towards their graduation thesis, students will deepen understanding of their issues of interest, themes and methods, advancing toward completion.

授業の内容 / Course Contents

個別指導や演習形式の指導等を通じて各人の問題関心を深め、研究方法への自覚を高めて、卒業論文の完成を目指す。

Through individual instruction and seminar, we aim to deepen each student's interest in their topics and improve awareness of research methods for completion of the graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：参加者による報告 (1)
- 3 回：参加者による報告 (2)
- 4 回：参加者による報告 (3)

- 5回：参加者による報告（4）
- 6回：参加者による報告（5）
- 7回：参加者による報告（6）
- 8回：参加者による報告（7）
- 9回：参加者による報告（8）
- 10回：参加者による報告（9）
- 11回：参加者による報告（10）
- 12回：参加者による報告（11）
- 13回：参加者による報告（12）
- 14回：参加者による報告（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				○

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業論文作成過程における各人の主題の立て方の深まり、取り組み等を評価・判定する:100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

各人の卒業論文テーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

卒業論文の執筆

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN815

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて、具体的な執筆の方法を学習しながら、テーマや構成を決め、テーマに沿った調査・研究を進める。

Looking toward the completion of the graduation thesis, while learning concrete writing methods, students will determine themes and structure, and proceed their researches and surveys in-line with themes.

授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。

Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：指導 1 卒業論文執筆の心得

2 回：指導 2 調査方法

3 回：指導 3 テーマについて討論

4 回：指導 4 テーマについて討論

- 5回：指導5 テーマについて討論
6回：指導6 アウトラインを文章化する
7回：指導7 アウトラインの検討と修正
8回：指導8 論文の書き方
9回：指導9 内容検討
10回：指導10 内容検討
11回：指導11 内容検討
12回：指導12 内容検討
13回：指導13 内容検討
14回：指導14 内容検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文への取り組み:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

黒木 秀房 (KUROKI HIDEFUSA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN816

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文、卒業制作が各自で完成できるようにする。

To ensure that each student can complete their graduation thesis and graduation productions.

授業の内容 / Course Contents

各自のテーマに応じて個別に論文作成等の指導を行いません。

Providing individual instruction on thesis preparation according to each student's theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：指導の進め方について

2 回：卒業論文等の個別指導

3 回：卒業論文等の個別指導

4 回：卒業論文等の個別指導

5 回：卒業論文等の個別指導

6 回：卒業論文等の個別指導

7 回：卒業論文等の個別指導

- 8回：卒業論文等の個別指導
 9回：卒業論文等の個別指導
 10回：卒業論文等の個別指導
 11回：卒業論文等の個別指導
 12回：卒業論文等の個別指導
 13回：卒業論文等の個別指導
 14回：卒業論文等の個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文、卒業制作についての具体的なプランを文書にして作成しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

具体的な進め方についてはガイダンスにて伝達する。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN817
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品を卒業制作として制作する事を目標に授業ではそのための指導を行う。

The goal is to produce a video work as a graduation project, and the class will provide guidance on how to do so.

授業の内容 / Course Contents

劇映画、ドキュメンタリー、写真などの映像作品を映像全体を包み込む「光と翳」の表現に重点をおいた制作指導を行う。制作にあたっては事前のテスト撮影や参考試写を行う。

We provide production guidance for feature films, documentaries, photographs, and other video works with an emphasis on expressing the "light and shadow" that envelops the entire image. Before production, we conduct test shooting and reference screenings in advance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業制作のための指導
- 2 回：卒業制作のための指導
- 3 回：卒業制作のための指導
- 4 回：卒業制作のための指導

- 5回：卒業制作のための指導
 6回：卒業制作のための指導
 7回：卒業制作のための指導
 8回：卒業制作のための指導
 9回：卒業制作のための指導
 10回：卒業制作のための指導
 11回：卒業制作のための指導
 12回：卒業制作のための指導
 13回：卒業制作のための指導
 14回：卒業制作のための指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業制作を通し映像表現をどれだけ積極的に実践出来たかの度合い:100%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて配布します。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜授業時に指示します。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN818
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれが設定したテーマに応じた卒業制作としての演劇作品の上演の構想と発表。

The conception and presentation of theatrical work as a graduation production.

授業の内容 / Course Contents

人間がなにかを「演じる」こととこの世界において「劇」であることとの間にはどのようなつながりがあるのだろうか。

演劇的な心理描写でもなく、物語の要素でもなく、この社会の枠組みから逸脱したところにドラマ（劇的であること）が発見されるのかもしれない。

卒業制作の授業は、主に上演に向けての稽古や合評の場になるだろう。以下の授業計画は、一つの指針である。詳細は授業で受講者と話し合う。

What is the connection between "playing" and "theatre" ?

The graduation production will be mainly a rehearsal for the performance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：話し合いとリハーサル。

- 2回：話し合いとリハーサル。
 3回：話し合いとリハーサル。
 4回：話し合いとリハーサル。
 5回：話し合いとリハーサル。
 6回：話し合いとリハーサル。
 7回：リハーサル。
 8回：リハーサル。
 9回：リハーサル。
 10回：リハーサル。
 11回：リハーサル。
 12回：リハーサル。
 13回：リハーサル。
 14回：卒業制作のための中間発表。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

別途、授業時に提示するが、授業時以外にもリハーサルが必要となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表および積極性:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN819
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれが設定したテーマ、コンセプトに応じたダンス作品・パフォーマンス作品上演の構想と発表。
Presentation of dance works and performances according to the themes and concepts set by each student.

授業の内容 / Course Contents

卒業制作の授業は、各受講者の上演に向けた作品の創作過程における演出面のサポートや論文指導。また個別指導とグループ・ディスカッションを往復し各自の方法論を探り深める。春学期は主にそのコンセプト設定と発表方法の確定、そこに向けた試行錯誤を繰り返しワーク・イン・プロGRESS上演を目指す。パフォーマンスアーツのみならず社会全体に於いてパラダイムチェンジが起きている現状を踏まえ、発表形態は舞台上演だけに限らず、ワークショップ、展覧会など多様に展開することや新たな発表形態を生み出すことに積極的に取り組んでもらいたい。尚

In the class for graduation production, support will be directed to each student's creative process, with guidance given for both direction and writing papers. In addition, we will alternate between individual instruction and group discussions, with each student finding their own methodology. The spring semester will mainly focus on setting the concept and presentation methods, and aims to use trial-and-error work-in-progress performances to

this end. Based on the present paradigm shift, not only in the performing arts but also in society as a whole, students will tackle presentation formats not limited to stage performance, but also actively develop various presentations, such as workshops and exhibitions, as well as creating new forms. Note, the following lesson plan is provisional, and the final details will be decided following discussion with students in the first class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：話し合いとリハーサル
- 2回：リハーサル
- 3回：リハーサル
- 4回：リハーサル
- 5回：リハーサル
- 6回：リハーサル
- 7回：中間発表
- 8回：リハーサル
- 9回：リハーサル
- 10回：リハーサル
- 11回：リハーサル
- 12回：リハーサル
- 13回：各自のワーク・イン・プログレス上演
- 14回：ワーク・イン・プログレスの合評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○
上記いずれも用いない予定	：				
				校外実習・フィールドワーク	：○

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に提示する。また、舞台公演のみならず美術、音楽の展覧会、コンサートに触れてもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業の参加：60% 成果発表：40%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する。

その他 / Others

HP：<https://www.jareo-osamu.com/>

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

映画製作

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN820

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業制作の撮影準備，撮影を具体的にすすめていく。

Specifically progressing toward graduation production shoot preparation and shooting.

授業の内容 / Course Contents

卒業制作のためのワークショップである。3年次のワークショップで練りあげたシナリオを基に撮影準備（ロケ場所の決定，キャスティング，衣装，小道具の準備）を具体的に決めていく。基本的に準備から実際の撮影にいたるまでの様々な局面に対して，アドバイスをする。

Workshop for graduation production. Based on a scenario prepared in the 3rd year workshop, students will decide specific aspects of the shoot preparation (determining location, casting, costume and prop preparation). Advice will basically be provided on various aspects from preparation to actual shooting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：卒業制作指導①

2 回：卒業制作指導②

- 3回：卒業制作指導③
 4回：卒業制作指導④
 5回：卒業制作指導⑤
 6回：卒業制作指導⑥
 7回：卒業制作指導⑦
 8回：卒業制作指導⑧
 9回：卒業制作指導⑨
 10回：卒業制作指導⑩
 11回：卒業制作指導⑪
 12回：卒業制作指導⑫
 13回：卒業制作指導⑬
 14回：卒業制作指導⑭

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

春期休みに必ず脚本またはプロットを完成されておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席率ではなく、卒業制作の進行具合による評価:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN821

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質の高い映像による、卒業制作の完成・上映（公開）を目指します。

The aim of this course is to complete and screen (release) high-quality works that students create for graduation projects.

授業の内容 / Course Contents

学生の作品内容・制作状況に合わせて、構想からシナリオ、撮影、編集、録音の全てのプロセスに渡って、個別指導を行います。

劇映画、ドキュメンタリー、アートや音楽とのコラボレーション等、様々なジャンルの映像の可能性を追求します。

Each student will receive individual guidance for all production processes, from planning, screenwriting, and filming to editing and recording, based on the content of and production environment for their work.

The course will pursue the possibilities inherent in the various genres of moving images, including fictional film, documentaries, and collaborations with art and music.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：卒業制作の指導
 3回：卒業制作の指導
 4回：卒業制作の指導
 5回：卒業制作の指導
 6回：卒業制作の指導
 7回：卒業制作の指導
 8回：卒業制作の指導
 9回：卒業制作の指導
 10回：卒業制作の指導
 11回：卒業制作の指導
 12回：卒業制作の指導
 13回：卒業制作の指導
 14回：卒業制作の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に臨む姿勢:100%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN822
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学術的な意義をもつ卒業論文を執筆することができる。

The aim of this course is for students to be able to write a graduation thesis with an academic significance.

授業の内容 / Course Contents

演習と個別指導を通じて、(1) 研究計画書作成、(2) 先行研究のレビュー、(3) 資料の調査、(4) 論文のアウトライン作成をおこなう。

Through seminar and individual instruction, students are expected to do the following:

- (1) create a research plan,
- (2) review previous studies,
- (3) investigate research materials, and (4) outline the dissertation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文指導
- 2 回：論文指導
- 3 回：論文指導

- 4回：論文指導
- 5回：論文指導
- 6回：論文指導
- 7回：論文指導
- 8回：論文指導
- 9回：論文指導
- 10回：論文指導
- 11回：論文指導
- 12回：論文指導
- 13回：論文指導
- 14回：論文指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の論文のための調査。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究報告:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

佐藤守弘「学術論文を書くために」<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/b-monkey/howto.html>

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN823

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

各人が映像身体学の観点から問題関心を深め、主題・方法等について具体的に教員とやりとりして学びながら、卒業論文・卒業制作を完成できるようにする。指導を仰ぎながらも、独力でひとつの論文、あるいはひとつの制作物を完成するために、総合的に学ぶ。

Each student will be able to complete a graduation thesis, graduation production, while learning more about issues from the viewpoint of theory of image and embodiment and interacting with the teachers regarding specific subjects and methods. Guidance will

授業の内容 / Course Contents

各自のテーマに応じた学生による報告をもとに、個別ないしはグループで論文作成等の指導をおこなう。各人のテーマを具体的に展開しながら、映像身体学の学びを根底に据えて思考するための指導をおこなう。

Based on student reports on themes of their interest, instruction will be provided individually or in groups on thesis writing etc. While each student concretely develops their theme, we will provide guidance on the foundation of learning the theory of image and embodiment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導の進め方について
 2回：イントロダクション1—卒業論文・卒業制作を通しての学びとは
 3回：イントロダクション2—スケジューリングについて
 4回：学生の報告と指導
 5回：学生の報告と指導
 6回：学生の報告と指導
 7回：学生の報告と指導
 8回：学生の報告と指導
 9回：学生の報告と指導
 10回：学生の報告と指導
 11回：学生の報告と指導
 12回：学生の報告と指導
 13回：学生の報告と指導
 14回：学生の報告と指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途おこなう。卒業論文、卒業制作についてのプランを事前に文書にして作成しておくことが望ましい。分量は問わない。また、自分の卒業論文・卒業制作およびその副論文の構成メモや本文など、進捗状況に応じてその都度書いておくこと（指導時には、毎回それを印刷して持参すること）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 取り組み及び出席：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN824
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて、各々の履修者の問題関心・テーマ・方法などに関する理解を深め、完成度の高い論文を目指す。

Each student will understand their own issues, themes, and methods in order to complete their graduation thesis, which is expected to be highly polished.

授業の内容 / Course Contents

個別での指導および演習形式の指導などを通じて、履修者それぞれのテーマや進度に応じた研究指導を進めていく。

Research guidance will be provided according to each student's theme and progress through individual instruction and seminar-style instruction.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業論文の指導
- 2 回：卒業論文の指導
- 3 回：卒業論文の指導

- 4回：卒業論文の指導
 5回：卒業論文の指導
 6回：卒業論文の指導
 7回：卒業論文の指導
 8回：卒業論文の指導
 9回：卒業論文の指導
 10回：卒業論文の指導
 11回：卒業論文の指導
 12回：卒業論文の指導
 13回：卒業論文の指導
 14回：卒業論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、適宜指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業、および卒業論文への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

各自のテーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 1

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 1

宮川 麻理子 (MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN826
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆に向けて、各自の関心や問題意識を深める。論文の主題・方法を設定し、論文としての完成度を高める。

With a view to their graduation thesis, students will deepen their understanding of issues of interest, and establish themes and methods as they progress to completion of their graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

個別指導や演習形式の授業を通じ、各自の卒業論文完成に向けた指導を行う。

Through individual instruction and seminar discussions, students will deepen their understanding of issues of interest, themes and methods required for completion of their graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：卒業論文の指導
- 3 回：卒業論文の指導
- 4 回：卒業論文の指導

- 5回：卒業論文の指導
- 6回：卒業論文の指導
- 7回：卒業論文の指導
- 8回：卒業論文の指導
- 9回：卒業論文の指導
- 10回：卒業論文の指導
- 11回：卒業論文の指導
- 12回：卒業論文の指導
- 13回：卒業論文の指導
- 14回：卒業論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各自の論文テーマに従い、調査・文献講読・執筆を行う時間が必要となる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業および論文への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

各自の卒業論文のテーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

宮本 裕子 (MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN861
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が自身のテーマのもとに、独自の卒業論文あるいは卒業制作を完成させる。

In this course, all students will complete senior projects based on their own themes.

授業の内容 / Course Contents

各自がテーマと問いを立て、卒業論文・卒業制作に取り組む。学生は定期的に発表や進捗の報告を行う。グループ・ディスカッションと教員の個別の指導により、論文・制作に対して適宜フィードバックを行う。

Each student is required to develop theme and question for the senior project. Students will regularly present their work and submit progress reports. Appropriate feedback on each student's thesis and work will be provided through group discussions and under the guidance of the lecturer.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業論文・制作の指導
- 2 回：卒業論文・制作の指導
- 3 回：卒業論文・制作の指導
- 4 回：卒業論文・制作の指導

- 5回：卒業論文・制作の指導
 6回：卒業論文・制作の指導
 7回：卒業論文・制作の指導
 8回：卒業論文・制作の指導
 9回：卒業論文・制作の指導
 10回：卒業論文・制作の指導
 11回：卒業論文・制作の指導
 12回：卒業論文・制作の指導
 13回：卒業論文・制作の指導
 14回：卒業論文・制作の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN862

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質の高い卒業論文ないし卒業制作を完成させることを目標とする。

The goal of this course is to complete a good paper or production.

授業の内容 / Course Contents

各自の論文・制作テーマにそって、演習形式および個別による卒業論文や卒業制作にかかわる指導をおこなう。

The course will provide advices for papers and productions through the seminar and comments according to the interests of each projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：卒業論文・卒業制作の指導

3 回：卒業論文・卒業制作の指導

4 回：卒業論文・卒業制作の指導

5 回：卒業論文・卒業制作の指導

- 6回：卒業論文・卒業制作の指導
 7回：卒業論文・卒業制作の指導
 8回：卒業論文・卒業制作の指導
 9回：卒業論文・卒業制作の指導
 10回：卒業論文・卒業制作の指導
 11回：卒業論文・卒業制作の指導
 12回：卒業論文・卒業制作の指導
 13回：卒業論文・卒業制作の指導
 14回：卒業論文・卒業制作の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN863
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文作成に向けて各人の問題関心・主題・方法等の理解を深め、論文としての完成度を高める。

Looking towards their graduation thesis, students will deepen understanding of their issues of interest, themes and methods, advancing toward completion.

授業の内容 / Course Contents

個別指導や演習形式の指導等を通じて各人の問題関心を深め、研究方法への自覚を高めて、卒業論文の完成を目指す。

Through individual instruction and seminar, we aim to deepen each student's interest in their topics and improve awareness of research methods for completion of the graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：学生の報告と指導
- 2 回：学生の報告と指導
- 3 回：学生の報告と指導
- 4 回：学生の報告と指導

- 5回：学生の報告と指導
 6回：学生の報告と指導
 7回：学生の報告と指導
 8回：学生の報告と指導
 9回：学生の報告と指導
 10回：学生の報告と指導
 11回：学生の報告と指導
 12回：学生の報告と指導
 13回：学生の報告と指導
 14回：学生の報告と指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

各人の卒業論文テーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

江川 隆男 (EGAWA TAKAO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN864
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文作成に向けて各人の問題関心・主題・方法等の理解を深め、論文としての完成度を高める。

Looking towards their graduation thesis, students will deepen understanding of their issues of interest, themes and methods, advancing toward completion.

授業の内容 / Course Contents

個別指導や演習形式の指導等を通じて各人の問題関心を深め、研究方法への自覚を高めて、卒業論文の完成を目指す。

Through individual instruction and seminar, we aim to deepen each student's interest in their topics and improve awareness of research methods for completion of the graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：参加者による報告 (1)
- 3 回：参加者による報告 (2)
- 4 回：参加者による報告 (3)

- 5回：参加者による報告（4）
 6回：参加者による報告（5）
 7回：参加者による報告（6）
 8回：参加者による報告（7）
 9回：参加者による報告（8）
 10回：参加者による報告（9）
 11回：参加者による報告（10）
 12回：参加者による報告（11）
 13回：参加者による報告（12）
 14回：参加者による報告（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業論文作成過程における各人の主題の立て方の深まり、取り組み等を評価・判定する：100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

各人の卒業論文テーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

卒業論文の執筆

加藤 千恵 (KATO CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN865

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて、テーマに沿った調査・研究を進める。

Looking toward the completion of the graduation thesis, students will proceed their researches and surveys in-line with their themes.

授業の内容 / Course Contents

必要に応じて個別ないしグループで教員の助言を受ける。

Students will also receive advice from faculty members individually or in groups, as necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：指導 1

2 回：指導 2

3 回：指導 3

4 回：指導 4

5 回：指導 5

6回：指導 6
7回：指導 7
8回：指導 8
9回：指導 9
10回：指導 10
11回：指導 11
12回：指導 12
13回：指導 13
14回：指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員の指示に従う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 卒業論文への取り組み:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN866
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文、卒業制作を各自で完成させる。

Student will complete their graduation thesis and graduation productions on their own.

授業の内容 / Course Contents

各自のテーマに応じ、個別で論文作成等の指導を行いません。

Providing individual instruction on thesis preparation according to each student's theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業論文等の個別指導
- 2 回：卒業論文等の個別指導
- 3 回：卒業論文等の個別指導
- 4 回：卒業論文等の個別指導
- 5 回：卒業論文等の個別指導
- 6 回：卒業論文等の個別指導
- 7 回：卒業論文等の個別指導

- 8回：卒業論文等の個別指導
9回：卒業論文等の個別指導
10回：卒業論文等の個別指導
11回：卒業論文等の個別指導
12回：卒業論文等の個別指導
13回：卒業論文等の個別指導
14回：卒業論文等の個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

卒業論文、卒業制作についての具体的プランを絶えずメモしていくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

山田 達也 (YAMADA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN867
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品を卒業制作として制作する事を目標に授業ではそのための指導を行う。

The goal is to produce a video work as a graduation project, and the class will provide guidance on how to do so.

授業の内容 / Course Contents

劇映画、ドキュメンタリー、写真などの映像作品を映像全体を包み込む「光と翳」の表現に重点をおいた制作指導を行う。制作にあたっては事前のテスト撮影や参考試写を行う。

We provide production guidance for feature films, documentaries, photographs, and other video works with an emphasis on expressing the "light and shadow" that envelops the entire image. Before production, we conduct test shooting and reference screenings in advance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業制作のための指導
- 2 回：卒業制作のための指導
- 3 回：卒業制作のための指導
- 4 回：卒業制作のための指導

- 5回：卒業制作のための指導
 6回：卒業制作のための指導
 7回：卒業制作のための指導
 8回：卒業制作のための指導
 9回：卒業制作のための指導
 10回：卒業制作のための指導
 11回：卒業制作のための指導
 12回：卒業制作のための指導
 13回：卒業制作のための指導
 14回：卒業制作のための指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて適宜授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 卒業制作を通し映像表現をどれだけ積極的に実践出来たかの度合い:100%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて配布します。

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜授業時に指示します。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

松田 正隆 (MATSUDA MASATAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN868
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれが設定したテーマに応じた卒業制作としての演劇作品の上演の構想と発表。

The conception and presentation of theatrical work as a graduation production.

授業の内容 / Course Contents

人間がなにかを「演じる」こととこの世界において「劇」であることとの間にはどのようなつながりがあるのだろうか。

演劇的な心理描写でもなく、物語の要素でもなく、この社会の枠組みから逸脱したところにドラマ（劇的であること）が発見されるのかもしれない。

秋学期の卒業制作の授業は、主に上演に向けての稽古や合評の場になるだろう。以下の授業計画は、一つの指針である。詳細は授業で受講者と話し合う。

What is the connection between "playing" and "theatre" ?

The graduation production will be mainly a rehearsal for the performance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：話し合いとリハーサル。

- 2回：話し合いとリハーサル。
 3回：話し合いとリハーサル。
 4回：話し合いとリハーサル。
 5回：話し合いとリハーサル。
 6回：話し合いとリハーサル。
 7回：リハーサル。
 8回：リハーサル。
 9回：リハーサル。
 10回：リハーサル。
 11回：リハーサル。
 12回：上演
 13回：上演
 14回：上演

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

別途、授業時に提示するが、授業時以外にもリハーサルが必要となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および積極性:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN869
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれが設定したテーマ、コンセプトに応じたダンス作品・パフォーマンス作品上演の構想と発表。
Presentation of dance works and performances according to the themes and concepts set by each student.

授業の内容 / Course Contents

春学期のワーク・イン・プロGRESSを経て、各自の作品上演に向けた個別のサポート、アドバイスに重点を置く。パフォーマンスアートのみならず社会全体に於いてパラダイムチェンジが起きている現状を踏まえ、発表形態は舞台上演だけに限らず、ワークショップ、展覧会など多様に展開することや新たな発表形態を生み出すことに積極的に取り組んでもらいたい。尚、以下の授業計画は、大まかな目安であり、詳しくは最初の授業で受講者と話し合いながら決めていきたい。

Through work-in-progress in the spring semester, a greater emphasis will be placed on individual support and advice toward students' own performance productions. Based on the present paradigm shift, not only in the performing arts but also in society as a whole, students will tackle presentation formats not limited to stage performance, but also actively develop various presentations, such as workshops and exhibitions, as well as

creating new forms. Note, the following lesson plan is provisional, and the final details will be decided following discussion with students in the first class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：話し合いとリハーサル
- 2回：話し合いとリハーサル
- 3回：話し合いとリハーサル
- 4回：話し合いとリハーサル
- 5回：話し合いとリハーサル
- 6回：リハーサルと個別指導
- 7回：リハーサルと個別指導
- 8回：リハーサルと個別指導
- 9回：リハーサルと個別指導
- 10回：リハーサルと個別指導
- 11回：リハーサルと個別指導
- 12回：個別指導
- 13回：成果発表
- 14回：上演及び合評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に提示する。また、舞台公演のみならず美術、音楽の展覧会、コンサートに触れてもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の参加:50% 成果発表:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて提示する。

その他 / Others

HP : <https://www.jareo-osamu.com/>

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

篠崎 誠 (SHINOZAKI MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN870
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業制作作品を完成させる。

To complete graduation film

授業の内容 / Course Contents

それぞれの卒業制作で撮った映像素材を各自が編集。シーンごとに具体的にアドバイスを与え、卒業制作作品を完成させる。

Students have to edit footages of their own graduation film, the professor gives them advices scene by scene.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業制作指導①
- 2 回：卒業制作指導②
- 3 回：卒業制作指導③
- 4 回：卒業制作指導④
- 5 回：卒業制作指導⑤
- 6 回：卒業制作指導⑥

- 7回：卒業制作指導⑦
 8回：卒業制作指導⑧
 9回：卒業制作指導⑨
 10回：卒業制作指導⑩
 11回：卒業制作指導⑪
 12回：卒業制作指導⑫
 13回：卒業制作指導⑬
 14回：卒業制作指導⑭

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

夏期休暇中に撮影だけは終わっていることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席率ではなく、作品の進行過程、そのものを評価する:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HN871

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： BEC4320

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質の高い映像による、卒業制作の完成・上映（公開）を目指します。

The aim of this course is to complete and screen (release) high-quality works that students create for graduation projects.

授業の内容 / Course Contents

学生の作品内容・制作状況に合わせて、構想からシナリオ、撮影、編集、録音の全てのプロセスに渡って、個別指導を行います。

劇映画、ドキュメンタリー、アートや音楽とのコラボレーション等、様々なジャンルの映像の可能性を追求します。

Each student will receive individual guidance for all production processes, from planning, screenwriting, and filming to editing and recording, based on the content of and production environment for their work.

The course will pursue the possibilities inherent in the various genres of moving images, including fictional film, documentaries, and collaborations with art and music.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：卒業制作の指導
 3回：卒業制作の指導
 4回：卒業制作の指導
 5回：卒業制作の指導
 6回：卒業制作の指導
 7回：卒業制作の指導
 8回：卒業制作の指導
 9回：卒業制作の指導
 10回：卒業制作の指導
 11回：卒業制作の指導
 12回：卒業制作の指導
 13回：卒業制作の指導
 14回：卒業制作の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に臨む姿勢:100%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN872
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学術的な意義をもつ卒業論文を執筆することができる。

The aim of this course is for students to be able to write a graduation thesis with an academic significance.

授業の内容 / Course Contents

演習と個別指導を通じて、研究内容を報告し、論文の書き方を学ぶ。

Through seminars and individual tutoring, students are expected to report the contents of their research and learn how to write a dissertation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文指導
- 2 回：論文指導
- 3 回：論文指導
- 4 回：論文指導
- 5 回：論文指導
- 6 回：論文指導

- 7回：論文指導
- 8回：論文指導
- 9回：論文指導
- 10回：論文指導
- 11回：論文指導
- 12回：論文指導
- 13回：論文指導
- 14回：論文指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の論文のための調査。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

佐藤守弘「学術論文を書くために」<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/b-monkey/howto.html>

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

日高 優 (HIDAKA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN873
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各人が映像身体学の観点から問題関心を深め、主題・方法等について具体的に教員とやりとりして学びながら、卒業論文・卒業制作を完成できるようにする。指導を仰ぎながらも、独力でひとつの論文、あるいはひとつの制作物を完成するために、総合的に学ぶ。

Each student will be able to complete a graduation thesis, graduation production, while learning more about issues from the viewpoint of theory of image and embodiment and interacting with the teachers regarding specific subjects and methods. Guidance will

授業の内容 / Course Contents

各自のテーマに応じた学生による報告をもとに、個別ないしはグループで論文作成等の指導をおこなう。各人のテーマを具体的に展開しながら、映像身体学の学びを根底に据えて思考するための指導をおこなう。論文執筆、卒業制作完成のための、最終的な指導までをおこなう。

Based on student reports on themes of their interest, instruction will be provided individually or in groups on thesis writing etc. While each student concretely develops their theme, we will provide guidance on the foundation of learning the theory of image and embodiment. A final tutorial will be provided for completion of

the graduation thesis writing, and graduation productions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：指導の進め方について
- 2回：学生の報告と指導
- 3回：学生の報告と指導
- 4回：学生の報告と指導
- 5回：学生の報告と指導
- 6回：学生の報告と指導
- 7回：学生の報告と指導
- 8回：学生の報告と指導
- 9回：学生の報告と指導
- 10回：学生の報告と指導
- 11回：学生の報告と指導
- 12回：学生の報告と指導
- 13回：学生の報告と指導
- 14回：学生の報告と指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途おこなう。卒業論文、卒業制作についてのプランを事前に文書にして作成しておくことが望ましい。分量は問わない。また、自分の卒業論文・卒業制作およびその副論文の構成メモや本文など、進捗状況に応じてその都度書いておくこと（指導時には、毎回それを印刷して持参すること）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 取り組み及び出席：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN874
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文の完成に向けて、各々の履修者の問題関心・テーマ・方法などに関する理解を深め、完成度の高い論文を目指す。

Each student will understand their own issues, themes, and methods in order to complete their graduation thesis, which is expected to be highly polished.

授業の内容 / Course Contents

個別での指導および演習形式の指導などを通じて、履修者それぞれのテーマや進度に応じた研究指導を進めていく。

Research guidance will be provided according to each student's theme and progress through individual instruction and seminar-style instruction.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業論文の指導
- 2 回：卒業論文の指導
- 3 回：卒業論文の指導

- 4回：卒業論文の指導
 5回：卒業論文の指導
 6回：卒業論文の指導
 7回：卒業論文の指導
 8回：卒業論文の指導
 9回：卒業論文の指導
 10回：卒業論文の指導
 11回：卒業論文の指導
 12回：卒業論文の指導
 13回：卒業論文の指導
 14回：卒業論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、適宜指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業、および卒業論文への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

各自のテーマに沿って適宜指示する。

卒業論文・卒業制作指導演習 2

Seminar on Graduation Thesis/Graduation Production 2

宮川 麻理子 (MIYAGAWA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HN876
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： BEC4320
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卒業論文執筆に向けて、各自の関心や問題意識を深める。論文の主題・方法を設定し、論文としての完成度を高める。

With a view to their graduation thesis, students will deepen their understanding of issues of interest, and establish themes and methods as they progress to completion of their graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

個別指導や演習形式の授業を通じ、各自の卒業論文完成に向けた指導を行う。

Through individual instruction and seminar discussions, students will deepen their understanding of issues of interest, themes and methods required for completion of their graduation thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：卒業論文の指導
- 2 回：卒業論文の指導
- 3 回：卒業論文の指導
- 4 回：卒業論文の指導

- 5回：卒業論文の指導
- 6回：卒業論文の指導
- 7回：卒業論文の指導
- 8回：卒業論文の指導
- 9回：卒業論文の指導
- 10回：卒業論文の指導
- 11回：卒業論文の指導
- 12回：卒業論文の指導
- 13回：卒業論文の指導
- 14回：卒業論文の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各自の論文テーマに従い、調査・文献講読・執筆を行う時間が必要となる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業および論文への取り組み:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

各自の卒業論文のテーマに沿って適宜指示する。

現代心理学入門

Introduction to Contemporary Psychology

樋本 淳／滝浪 佑紀／横山 太郎／篠崎 誠／宮川 麻理子／砂連尾 理／石黒 格／温 文／白井 述／金子 彩子／岡島 純子 (HIMOTO JUN/ TAKINAMI YUKI/ YOKOYAMA TARO/ SHINOZAKI MAKOTO/ MIYAGAWA MARIKO/ JAREO OSAMU/ ISHIGURO ITARU/ WEN WEN/ SHIRAI NOBU/ KANEKO AYAKO/ OKAJIMA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HT101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CPX1110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

初年次導入科目として、現代心理学部の理念を体現する本授業科目を設置している。
心・身体・映像の知たる新たな「人間学」の構築をめざして、各授業担当教員が多様な発題をおこなう。受講者には、この多様な発題を受けて、自ら考え、その見解を、自らの言葉で表現することが求められる。
As an introductory course for the first year, this class has been established to embody the philosophy of the College of Contemporary Psychology.

The instructors for each class present a variety of topics with the aim of constructing a new "human science"

授業の内容 / Course Contents

担当教員は、新たな「人間学」の構築という現代心理学部の理念に鑑みつつ、自らの専門領域より発題をおこなう。受講者に、現代心理学のひろがり面白さを自分なりに捉えていく契機を与える。毎回 1 時間程度の講義のあと、コーディネーターが司会をして質疑応答、残り時間で受講者はコメントペーパーを作成・提出す

る。

学期末には、学生が全授業回から2回分のテーマを選んで自分なりに考察したことを発表するグループワークをおこない、さらにそのうちいずれか1回のテーマを選択して、最終レポートを提出する。

In view of the concepts of the College of Contemporary Psychology to construct a new "human science" of mind, body and image, instructors for each class present topics from their own specialty and field, so that students may organically connect with their subsequent university learning, providing the opportunity to form one's own knowledge.

Students summarize these findings in response sheet every week, make an oral presentation In the final two class sessions, and submit a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：初回ガイダンス 授業の目標、運営方法等の説明 (樋本)
- 2回：映画を観る(聴く)ことは簡単ではない? (篠崎)
- 3回：行動と身体心理学 (温)
- 4回：20世紀と映画 (滝浪)
- 5回：人工現実・拡張現実技術と子ども (白井)
- 6回：ポストモダンダンス以降のダンスから身体表現の多様性に触れてみる (砂連尾)
- 7回：知らない誰かと話すこと (石黒)
- 8回：記憶を踊る (宮川)
- 9回：コミュニケーションと知覚 (金子)
- 10回：パフォーマンスの心身問題 (横山)
- 11回：認知行動療法の視点から人を理解する (岡島)
- 12回：学生発表 (樋本)
- 13回：学生発表 (樋本)
- 14回：まとめ：レポート作成法と留意点の説明 (樋本)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各授業担当教員は、必要に応じて参照すべき文献や資料(映像などを含む)を紹介する。

関心を抱いた発題内容や最終レポートとして設定したテーマに関連する文献や資料については、時間外に図書館やデータベースなどを活用して調べ、内容を理解することが求められる。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席, リアクションペーパーの内容:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

各授業担当教員が、適宜配布する。

参考文献 / Readings

各授業担当教員が、適宜指示する。

学部統合科目 1

College Integrated Course 1

ケアと表現

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	現代心理学部
科目コード等：	HT201
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CPX2120
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

「ケア（セラピー）」と「表現」という異分野が接するさまざまな可能性を示し、これらが融合することで心身に何が起きているのかについて考える。社会の様々な現場で困難を抱える人たちや障害を持った人たちが、音楽やダンスなどの芸術活動を実践することで、どのように回復し、生きていく力を取り戻していくのかを、芸術的視点と心理学的視点の双方から考察する。また、どのようにすれば、ケアをする、されるといった一方通行の関係を超え、双方向の豊かな関係を構築することにつながっていくのかを話し合う。

In this course, we will show how the two different fields of "care (therapy)" and "expression" can contact each other and consider what happens to the body and mind when they fuse together. From both artistic and psychological perspectives, we will ask ho

授業の内容 / Course Contents

セラピスト（音楽療法士）と表現者の二つの面を併せもつ二俣泉先生と、高齢者や身体障害者や認知症患者等とダンスを通して交流してきた砂連尾理先生による講義。東日本大震災時をきっかけにスタートしたアート活動や、日雇い労働者の街である大阪市西成区釜ヶ崎、また奈良市内にある障害者施設に長年通いながらアート

活動を行っている映像作家、画家、文筆家、詩人、舞踊家、そして障害を抱えながら創作活動を行う当事者をゲストに招き、現場でのアートの実践を語ってもらいながら、そこで起こっていることを分析し、人間とは何か、心とは何か、そし

The lecture will be given by a therapist (music therapist) and performer and a dance performer having interacted with the elderly, physically disabled, and dementia patients through dance. Various guest speakers will be invited to talk about their experiences as a video artist and a painter who started their art activities after the Great East Japan Earthquake, a poet who has been working in Kamagasaki, Nishinari-ku, Osaka City, a town of day laborers, a dancer who has been engaged in art activities while attending a facility for the disabled in Nara City for many years, and a person who is engaged in creative activities while living with a disability. We will analyze what is happening there and explore what the human is, what the mind is, and what a life is.

Below is a rough syllabus for this class, but there is a possibility that the class contents and speed will be changed depending on participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ケアと表現－担当教員による実践報告①
- 2回：ケアと表現－担当教員による実践報告②
- 3回：ゲスト①の方の活動紹介。
- 4回：ゲスト①の方の研究・分析。
- 5回：ゲスト②の方の活動紹介。
- 6回：ゲスト②の方の研究・分析。
- 7回：ゲスト③の方の活動紹介。
- 8回：ゲスト③の方の研究・分析。
- 9回：ゲスト④の方の活動紹介。
- 10回：ゲスト④の方の研究・分析。
- 11回：ゲスト⑤の方の活動紹介。
- 12回：ゲスト⑤の方の研究・分析。
- 13回：12回までを踏まえて、テーマについての受講生からの発表。
- 14回：まとめ。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員及びゲスト講師の活動を授業前に調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:50% リアクションペーパー:20% 発表:30%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

注意事項（検索結果画面）

2016～2021 年度入学者対象

学部統合科目 2

College Integrated Course 2

感情の仕組み、感情障害を学ぶ

中島 実穂 (NAKAJIMA MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 現代心理学部

科目コード等： HT202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CPX2120

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

感情および感情障害のメカニズムを理解し、学術的知見に基づき自身のアイデアを表現する能力を、授業内課題を通じて身に着ける。

This class has two goals: to understand the mechanism of emotion and affective disorders and to obtain skills to express own idea based on academic knowledge through class tasks.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、感情及び感情障害のメカニズムに関する心理学的知見を学習する。またこれらのトピックに関連する映画を鑑賞し、学んだ知識を踏まえての考察を行ってもらう。

In this course, students will learn about psychological findings related to the mechanism of emotion and affective disorders. After that, students will watch movies that relate to these topics and consider them based on the academic knowledges.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：感情を生み出すしくみ1
- 3回：感情を生み出すしくみ2
- 4回：感情と推論のしくみ1
- 5回：感情と推論のしくみ2
- 6回：感情と推論のしくみ3
- 7回：映画鑑賞1
- 8回：課題1
- 9回：感情障害のしくみ1
- 10回：感情障害のしくみ2
- 11回：感情障害のしくみ3
- 12回：映画鑑賞2
- 13回：映画鑑賞3
- 14回：課題2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題では、学術的知識に基づいて映画の考察を行ってもらうため、課題回までに学術的知識を適宜復習しておくのが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席、リアクションペーパー:40% 授業内課題1:30% 授業内課題2:30%

テキスト / Textbooks

pdf 資料を配布する。

参考文献 / Readings

乾敏郎 感情とはそもそも何なのか ミネルヴァ出版 2018 9784623083725

丹野義彦他 臨床心理学 有斐閣 2015 4641053790

その他 / Others

映画鑑賞の回で視聴予定の映画はいずれも心理的負荷を伴うものではないと思われるが、もし視聴前や視聴中に不安や不快感を感じた場合には、受講者が不利にならないように対応するため、申し出ること。

注意事項（検索結果画面）

2016～2021 年度入学者対象

学部統合科目 3

College Integrated Course 3

聴覚文化を考える

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HT203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CPX2120
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

身体や感性をめぐる諸問題を聴覚の枠組みから考える。音は、たとえば視覚情報に比べてしばしば「感覚的」で「思考しにくい」ものであるとされる。本授業ではそういった音／聴覚に関連するさまざまなトピックを、美学、メディア論、文化研究、歴史、技術といった複数の観点からとらえ、聴覚文化なるものに言語的な輪郭を与えることを目指す。

Students will examine issues related to the body and sensing from the framework of hearing. Sound is often considered to be sensory and conceptually difficult compared to, for example, visual information. In this class we will provide a linguistic outline

授業の内容 / Course Contents

音や聴覚にまつわる文化は、いわゆる「音楽」に限定されない多様な広がりをもつ。本授業では、具体的な事例ないし作品に触れ、講師によるレクチャーや他学生の意見を聞かなかで、そういった聴覚文化の諸側面に関する理解を深める。扱われる対象にはもちろん狭義の音楽も含まれるが、目指されるのはその作品分析ではなく「作品」という概念それ自体の再検討である。われわれの耳が如何に制度や技術によって構築されてきたの

かという点に関して、双方向的な議論を通じて理解を深めたい。

The culture of sound and hearing has great diversity; not limited to commonly-termed music. In this class, students will deepen their understanding of various aspects of auditory culture, touching on specific examples or works, listening to lectures and other student's opinions. Research topics will include music in the narrow sense, but the aim is not to analyze works, but to re-examine the concept of work itself. Through interactive discussion we will deepen our understanding of how systems and technologies have structured our ears.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：コンサートホール
- 3回：近代的聴取
- 4回：作品と作者
- 5回：現代音楽の黎明
- 6回：複製技術
- 7回：テープと編集
- 8回：拾得物としての音楽
- 9回：雑音の美学①——電気
- 10回：雑音の美学②——即興
- 11回：音とアート
- 12回：サウンドスケープ
- 13回：聴覚性の現在
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料には必ず目を通すこと。また、音楽／音響／視聴覚資料等の鑑賞が課された場合は視聴しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内小レポート:20% 毎回提出する授業感想:50% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

本授業では、一般に「ノイジー」とされる音源も相応の比重で扱われる。もちろん配慮のうえで授業を進めるが、たとえば不協和な響きに過度の不安・ストレスを感じる方や、聴覚刺激に対して過敏な方は注意されたい。

Google Classroom を活用するので随時確認ください。

注意事項（検索結果画面）

2016～2021 年度入学者対象

学部統合科目 4

College Integrated Course 4

「動きをみる」ことの心理・映像身体学

白井 述／宮本 裕子 (SHIRAI NOBU/ MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HT204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CPX2120
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2016～2021 年度入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

「動き」を視覚的に捉えることは、一生物種たる「ヒト」として生きる上で重要な心的機能であるばかりでなく、文化・社会的多様性を持った「人間」としての生活を営む上でも重要な行為である。

この授業では、「動きを見る」という行為を、心理・身体・映像をキーワードとして統合的かつ多面的に理解することを目標とする。「動きを見る」ことの生物学的、心理学的仕組みや意義を学び、映画、アニメーションに代表される視覚メディアとの関係を探索することを通して、人間にとって「動き見る」という行為がどのような意味を持つのか／持ちうるの

'Seeing movement' is not only an important psychological function for us (Homo Sapience) as one animal species, but also an important action for us (human beings) living with cultural and social diversity.

The aim of this course is to understand the actio

授業の内容 / Course Contents

・まず、一動物種としての人間（ヒト）において、「動き見る」という行為がどのような機能や構造、適応的意義を持つのかを、科学としての心理学の立場から解説する（全6回）。

・その後、「動きを見る」という行為が人間の社会・文化的営みとどのように関連し得るのかを、実写映画、アニメーションといったメディアを題材に、映像の動きの種類、機能、効果、それらにまつわる言説の検討を通して考える。(全6回)。

・各回の授業は、担当教員の話題提供と、その後に行われる履修者によるグループディスカッション、および発表によって構成される

・ In the earlier half (6 weeks) of the class, we will introduce scientific findings about the biological and psychological structures, functions, and significance of 'seeing movement' in humans as one of animal species.

・ In the later half (6 weeks) of the class, we will discuss the relationship between 'seeing movement' and human social/cultural activities by showing examples in live-action films and animations with several topics (such as variations, functions, and effects of movement in the visual media) and related discussions.

・ Every-week course session will be composed of a short lecture by a lecturer and group discussions/short presentations made by students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：視覚心理学入門
- 3回：動きの視覚的定義
- 4回：動きを見ることの原理的限界とその補償的知覚
- 5回：視覚的動きは何を伝えるのか (1) 物理的世界の知覚
- 6回：視覚的動きは何を伝えるのか (2) 他者性の知覚
- 7回：動きを見ることの個体発生
- 8回：動く映像：「実写」と「アニメーション」
- 9回：異質な動き
- 10回：アニメーションと動きのスタイル (1)
- 11回：アニメーションと動きのスタイル (2)
- 12回：「移動撮影」(1)
- 13回：「移動撮影」(2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業中に、次回授業へ向けての予習・復習事項を指示するので、それにしたがって授業時間外の学習を実施すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% コメントペーパー（複数回）：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

必要があれば、授業時に適宜伝達する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

グループワークを必須とする授業であるので、他の履修者と協調して積極的に学ぶ態度を持って授業に臨むこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他/ Others

特になし。

注意事項 (検索結果画面)

2016～2021 年度入学者対象

学部コラボレーション科目 1

College Collaboration Course 1

ケアと表現

砂連尾 理 (JAREO OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HT211
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CPX1120
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2022 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

「ケア（セラピー）」と「表現」という異分野が接するさまざまな可能性を示し、これらが融合することで心身に何が起きているのかについて考える。社会の様々な現場で困難を抱える人たちや障害を持った人たちが、音楽やダンスなどの芸術活動を実践することで、どのように回復し、生きていく力を取り戻していくのかを、芸術的視点と心理学的視点の双方から考察する。また、どのようにすれば、ケアをする、されるといった一方通行の関係を超え、双方向の豊かな関係を構築することにつながっていくのかを話し合う。

In this course, we will show how the two different fields of "care (therapy)" and "expression" can contact each other and consider what happens to the body and mind when they fuse together. From both artistic and psychological perspectives, we will ask ho

授業の内容 / Course Contents

セラピスト（音楽療法士）と表現者の二つの面を併せもつ二俣泉先生と、高齢者や身体障害者や認知症患者等とダンスを通して交流してきた砂連尾理先生による講義。東日本大震災時をきっかけにスタートしたアート活動や、日雇い労働者の街である大阪市西成区釜ヶ崎、また奈良市内にある障害者施設に長年通いながらアート

活動を行っている映像作家、画家、文筆家、詩人、舞踊家、そして障害を抱えながら創作活動を行う当事者をゲストに招き、現場でのアートの実践を語ってもらいながら、そこで起こっていることを分析し、人間とは何か、心とは何か、そし

The lecture will be given by a therapist (music therapist) and performer and a dance performer having interacted with the elderly, physically disabled, and dementia patients through dance. Various guest speakers will be invited to talk about their experiences as a video artist and a painter who started their art activities after the Great East Japan Earthquake, a poet who has been working in Kamagasaki, Nishinari-ku, Osaka City, a town of day laborers, a dancer who has been engaged in art activities while attending a facility for the disabled in Nara City for many years, and a person who is engaged in creative activities while living with a disability. We will analyze what is happening there and explore what the human is, what the mind is, and what a life is.

Below is a rough syllabus for this class, but there is a possibility that the class contents and speed will be changed depending on participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ケアと表現－担当教員による実践報告①
- 2 回：ケアと表現－担当教員による実践報告②
- 3 回：ゲスト①の方の活動紹介。
- 4 回：ゲスト①の方の研究・分析。
- 5 回：ゲスト②の方の活動紹介。
- 6 回：ゲスト②の方の研究・分析。
- 7 回：ゲスト③の方の活動紹介。
- 8 回：ゲスト③の方の研究・分析。
- 9 回：ゲスト④の方の活動紹介。
- 10 回：ゲスト④の方の研究・分析。
- 11 回：ゲスト⑤の方の活動紹介。
- 12 回：ゲスト⑤の方の研究・分析。
- 13 回：12 回までを踏まえて、テーマについての受講生からの発表。
- 14 回：まとめ。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当教員及びゲスト講師の活動を授業前に調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:50% リアクションペーパー:20% 発表:30%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者対象

学部コラボレーション科目 2

College Collaboration Course 2

「動きをみる」ことの心理・映像身体学

白井 述／宮本 裕子 (SHIRAI NOBU/ MIYAMOTO YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 現代心理学部
科目コード等： HT212
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CPX1120
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2022 年度以降入学者対象

授業の目標 / Course Objectives

「動き」を視覚的に捉えることは、一生物種たる「ヒト」として生きる上で重要な心的機能であるばかりでなく、文化・社会的多様性を持った「人間」としての生活を営む上でも重要な行為である。

この授業では、「動きを見る」という行為を、心理・身体・映像をキーワードとして統合的かつ多面的に理解することを目標とする。「動きを見る」ことの生物学的、心理学的仕組みや意義を学び、映画、アニメーションに代表される視覚メディアとの関係を探索することを通して、人間にとって「動き見る」という行為がどのような意味を持つのか／持ちうるの

'Seeing movement' is not only an important psychological function for us (Homo Sapience) as one animal species, but also an important action for us (human beings) living with cultural and social diversity.

The aim of this course is to understand the actio

授業の内容 / Course Contents

・まず、一動物種としての人間（ヒト）において、「動き見る」という行為がどのような機能や構造、適応的意義を持つのかを、科学としての心理学の立場から解説する（全6回）。

・その後、「動きを見る」という行為が人間の社会・文化的営みとどのように関連し得るのかを、実写映画、アニメーションといったメディアを題材に、映像の動きの種類、機能、効果、それらにまつわる言説の検討を通して考える。(全6回)。

・各回の授業は、担当教員の話題提供と、その後に行われる履修者によるグループディスカッション、および発表によって構成される

・ In the earlier half (6 weeks) of the class, we will introduce scientific findings about the biological and psychological structures, functions, and significance of 'seeing movement' in humans as one of animal species.

・ In the later half (6 weeks) of the class, we will discuss the relationship between 'seeing movement' and human social/cultural activities by showing examples in live-action films and animations with several topics (such as variations, functions, and effects of movement in the visual media) and related discussions.

・ Every-week course session will be composed of a short lecture by a lecturer and group discussions/short presentations made by students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：視覚心理学入門
- 3回：動きの視覚的定義
- 4回：動きを見ることの原理的限界とその補償的知覚
- 5回：視覚的動きは何を伝えるのか (1) 物理的世界の知覚
- 6回：視覚的動きは何を伝えるのか (2) 他者性の知覚
- 7回：動きを見ることの個体発生
- 8回：動く映像：「実写」と「アニメーション」
- 9回：異質な動き
- 10回：アニメーションと動きのスタイル (1)
- 11回：アニメーションと動きのスタイル (2)
- 12回：「移動撮影」(1)
- 13回：「移動撮影」(2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業中に、次回授業へ向けての予習・復習事項を指示するので、それにしたがって授業時間外の学習を実施すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントペーパー（複数回）:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

必要があれば、授業時に適宜伝達する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

グループワークを必須とする授業であるので、他の履修者と協調して積極的に学ぶ態度を持って授業に臨むこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他/ Others

特になし。

注意事項（検索結果画面）

2022 年度以降入学者対象